

# 事業報告書

平成28年度

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

学校法人 慈恵大学

# 目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 平成28年度事業報告	5
1) 平成28年度の事業概要	5
2) 主な建設工事	14
6. 平成28年度決算	16
7. 関連当事者等との取引等の状況	23
8. 学校法人慈恵大学の体制	25
1) 学校法人慈恵大学	25
2) 東京慈恵会医科大学	25
3) 看護専門学校	25
9. 学校法人慈恵大学組織図	26
10. 理事会	27
11. 評議員会	32
12. 監査室	32
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	36
1) 平成29年3月31日退任教授	36
2) 新任教授	36
3) 名誉教授	37
4) 客員教授	37
5) 特任教授	37
6) 叙位・叙勲	37
7) 訃報	37
2. 教職員数	38
1) 教員数（医学科・看護学科）	38
2) 初期臨床研修医数	38
3) 職員数（看護師を含む）	38
4) 看護師数	38
3. 教 育	39
1) 医学部医学科学生数など	39
2) 医学部看護学科学生数など	39
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	40
4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）	40
5) 大学および大学院など	40
(1) 医 学 科	40
(2) 看護学科	44
(3) 大 学 院	46

6)	慈恵看護専門学校	47
	看護専門学校学生数	47
(1)	慈恵看護専門学校	48
(2)	慈恵第三看護専門学校	48
(3)	慈恵柏看護専門学校	49
7)	卒後臨床研修	50
8)	生涯学習センター	51
4.	研 究	53
1)	教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会	53
2)	総合医科学研究センター	54
5.	診 療	56
1)	病院概況	56
(1)	本 院	56
(2)	葛飾医療センター	62
(3)	第三病院	67
(4)	柏 病 院	71
(5)	総合健診・予防医学センター	75
(6)	病床数および外来患者数	76
2)	派遣・関連病院関係	76
(1)	大学協力病院	76
(2)	教室等関連病院	77
(3)	特殊派遣機関	79
(4)	特殊派遣機関（海外派遣機関）	79
6.	学術情報センター	80
7.	教育センター	84
8.	臨床研究支援センター	89
9.	その他	91
1)	成 医 会	91
2)	各種行事	92
3)	印刷物等の発行	92

[付]

1.	平成28年度 事業計画に対する実施結果一覧	94
2.	中期目標・中期計画・平成29年度事業計画	120

# I . 学校法人慈惠大学

# 1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

# 2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口に提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

---

## 【建学の精神】

「病気を診ずして病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

## 【病院の理念】

「病気を診ずして病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

## 【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

### 3. 学校法人慈恵大学の沿革

年月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年5月	成医会講習所を開設した
明治23年1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年2月	東京病院（開設：明治24年2月）を附属病院とした
大正14年3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：葛飾医療センター）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年3月	大学予科を閉校した
昭和26年3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成4年4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成4年4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年4月	慈恵医大晴海トリートメントクリニックを開設した
平成19年4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した
平成22年3月	慈恵青戸看護専門学校を閉校した
平成23年4月	医学科の入学定員を110名とした
平成24年1月	附属青戸病院を葛飾医療センターと改称した
平成25年4月	看護学科の入学定員を60名とした

### 4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
東京慈恵会医科大学	昭和31年4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程	
	昭和27年4月	医学部医学科	
	平成4年4月	医学部看護学科	
慈恵青戸看護専門学校	昭和50年4月	3年課程	平成22年3月閉校
慈恵第三看護専門学校	昭和46年4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年4月	3年課程	

## 5. 平成28年度 事業報告

理事長 栗原 敏

### 1) 平成 28 年度の事業概要

#### 1. 教育に関する重点施策

(1) 卒前・卒後教育の中で、医療人・研究者としての高い倫理観を涵養する。

医学科・医学総論、看護学科・医療総論演習などにおいて、倫理教育を行っている。また、医学科・看護学科共修で医療倫理演習の授業を行った。

(2) 医学科達成指針とカリキュラムおよび評価法の整合を図る。

教育理念、到達目標、医学科達成指針を踏まえてディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを7月に改定した。また、カリキュラム委員会内にマイルストーン作成ワーキンググループを発足させ、ディプロマポリシーに沿ったマイルストーンの作成に向けた検討を開始した。

(3) 新専門医制度に対応する専門研修プログラムを整備する。

新専門医制度が1年延期の平成30年度から開始となったため、19領域の診療科別専門研修プログラムの内容変更が生じた。状況をみながら、専門研修プログラムの整備を進めた。

(4) 海外研修、外国留学生との交流等、国際交流活動を推進して国際的に活躍できる人材を育成する。

・医学科では、海外選択実習体験報告会、学術・研究的な内容を含めた海外選択実習成果報告会を実施した。5年生の海外実習を選択する学生や低学年の希望者を対象に、英語医療面接を実施し、選択カリキュラム化に向けて検討を開始した。また、海外へ留学する学生支援を目的に、海外留学生保険（海外旅行保険企業包括契約）に加入した。

・看護学科では、KCL（キングスコレッジロンドン）と交換留学を開始し、学生1名がセントトーマス病院、KCL学生1名が附属病院および第三病院で選択実習を行った。また、ディプロマポリシーに国際的視野を明記した。

(5) 看護学科の課題解決能力・地域医療連携能力強化型新カリキュラムを準備する。

ディプロマポリシーに課題解決能力と地域医療連携能力の育成を明記の上、カリキュラム改定を申請し、認可された。

(6) 卒業時看護技術到達基準を検討する。

慈恵、第三、柏の3看護専門学校では、次年度から技術到達基準に基づく臨地実習を実施するため、今年度は学習機会、実施頻度についての検討を行った。

(7) 看護教員と臨地実習指導者の定期的な事例検討を行う。

附属病院（本院）看護部では、看護専門学校と臨床の指導過程検討会を4回実施し、学生の成長を促進するため、教員と臨床指導者の関わり方について事例検討を行った。

(8) 看護学の大学院教育の充実に向けた体制整備を行う。

看護学専攻博士課程設置準備委員会において、博士課程の3つのポリシーを策定し、授業科目概要の策定などを行った。また、高度実践看護師教育課程（がん看護専攻（38単位課程））の申請を行い認可された。

#### 2. 研究に関する重点施策

(1) 研究ブランディング事業の採択に向けて本学の特色ある研究領域を探索する。

今年度は文部科学省私立大学研究ブランディング事業への申請を見送ったが、次年度の申請に向けてワーキンググループの活動を再開し、検討を行った。

(2) 学内共同研究および学外機関との協力・連携を推進し、研究の活性化に努める。

萌芽的共同研究推進費による、学内共同研究の促進および東京理科大学との合同シンポジウム、国立がん研究センターとの連携推進協議会を通じて研究活動の活性化を図った。

- (3) **附属4病院の研究機能を促進するために、疾患レジストリを構築する。**  
葛飾医療センター、第三病院、柏病院のデータ取得を開始すべくSS-MIXを用いた疾患レジストリ構築に向けた準備を行った。
- (4) **各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。**  
・東京理科大学との合同シンポジウム、総合医科学研究センター内リトリート、学内再生医学・iPS細胞研究会で研究成果を発表し、学内外の共同研究の推進を図った。  
・文部科学省科学研究費への申請件数は298件と対前年度比13件増加した。また、文部科学省大学教育再生戦略推進費のGP事業「慢性の痛みに関する教育プログラムの構築」の連携大学として競争的資金を獲得した。
- (5) **学内研究費を活用し競争的資金を獲得する。**  
萌芽的共同研究推進費、戦略的重点配分研究費、医学研究科研究推進費、研究奨励費などの学内研究費によって競争的資金獲得のためのシーズ育成を行った。競争的資金獲得のために、学内研究費採択者の文部科学省科学研究費への応募状況を調査・分析した。
- (6) **大学が行う公開講座をホームページで発信する。**  
公開講座のホームページをリニューアルし、広く一般に見やすいデザインとなるよう配慮した。また、開催予定を発信し、計画された公開講座を実施した。
- (7) **研究成果の社会還元を努めアウトリーチ活動を行う。**  
日本学術振興会による「ひらめき☆ときめきサイエンス」に応募し、本学からは2件が採択され、小・中・高校生を対象とした公開プログラムを開催した。アウトリーチ委員会による学校説明会、公開講座を開催して研究成果を社会へ還元した。
- (8) **平成29年度の専門医制度施行に向けて、総合診療医のための研究体制を構築する。**  
新専門医制度の開始は1年延期となったが、総合診療医の養成プログラムを実施し、総合診療部と臨床疫学研究部が連携して、研究体制の整備を行った。
- (9) **学長直下の研究マネジメント部門を構築し、研究支援の強化を図る。**  
学長直下の研究マネジメント部門構築に向けて、研究推進系URA、産学連携・知財系URA採用の公募を行い、候補者を選考した。1名は2月より勤務を開始し、第13回「慈恵医大臨床試験セミナー」において、「医療研究者に必要な知財の基礎知識」をテーマとした講演を行った。

### 3. 医療に関する重点施策 本院

- (1) **救急体制の充実**  
・**ストローク、心血管系の救急患者を積極的に受入れる。**  
救急当番責任医師を配置したが、救急搬送件数の増加にはつながらなかった。脳卒中ケアユニット（SCU）に関しては、病床利用率94%と高水準で推移しており順調であった。8月に急性大動脈スーパーネットワーク協力病院となり、救急患者を積極的に受入れる体制を整備した。
- (2) **がん診療の推進**  
・**本院のがん診療体制を再構築する。**  
・**国立がん研究センターとの包括連携を強化し、医療・教育・研究活動の充実と質向上を図る。**  
・がん診療体制の充実に向けて、国立がん研究センターとの包括連携を強化した。  
・国立がん研究センターと連携推進協議会を定期開催し、診療連携、医師教育、看護教育、大学院、研究の5つのテーマで連携を強化し、医療・教育・研究活動の充実と質向上を図った。また、医療従事者向けの研究をテーマとした講演会を開催した。
- (3) **ゆるやかなセンター化構想の推進**  
・**消化器センターの具現化を目指す。**  
患者・家族の利便性と効率的・効果的な診療体制を構築するために、ゆるやかなセンター化構想の一環となる消化器センター具現化に向けた検討を行った。

**(4) 大型連休における診療体制の拡充**

整形外科では、大型連休中の予定手術を試験的に実施することで、診療体制の拡充を図った。その結果、病床利用率の低下防止に一定の効果があつた。

**(5) 患者サービスの推進**

・ **EBM (Etiquette-Based Medicine) を実践する。**

- ・ 患者サービス推進・向上活動の一環として、フロント部門に勤務するスタッフを対象とした接遇研修を実施した。
- ・ 年4回「あいさつ週間」を設け、毎朝外来棟入口において、副院長と患者サービスワーキングメンバーによる挨拶と教職員の身だしなみチェックを行い、マナー向上と接遇意識の涵養に努めた。

**(6) 医療連携の推進**

・ **紹介医、産業医との連携を強化する。**

・ **循環型医療を推進する。**

- ・ 幹部職員が紹介医を訪問し、意見交換を行った。返書管理に関しては、管理ツールを作成した。web予約は施設数が140施設と対前年度比80施設増加となり、専門外来と医師個人枠の新設により利便性の向上を図ったこと、ファックス予約は月曜日から金曜日の対応時間を延長したことにより件数が増加した。
- ・ 「働く人の健康支援研究会」を2回開催し、多くの産業医・行政・地域医師会からの参加があり、連携強化につながった。

**(7) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援**

災害拠点病院として、消防署や保健所などと連携し、大規模災害対策訓練を実施した。また、災害時における地域への迅速な支援をめざしDMAT隊が訓練に参加した。

**(8) 効率的な医療の推進**

・ **ICT技術を活用し、医療の効率化とモバイル環境の整備を推進する。**

第三病院で「患者モバイル呼出システム」の稼働を開始した。今後は本院への導入を検討する。

**(9) 職種間の協力体制の強化・推進**

・ **チーム医療を実践するための人材育成を推進する。**

チーム医療を実践するためにメディカルの積極的な参加を促すとともに、人材育成の一環として認定看護師、専門看護師の資格取得を推進した。

**(10) 予防医学の推進**

・ **疾病の予防と健康増進に関する新たな診療体制を検討する。**

- ・ 女性特有の疾病を早期に予防するため、子宮体がん検査を導入した。また、経過観察を目的とした婦人科検診および乳腺検診の受入れを開始した。
- ・ 西新橋キャンパス再整備計画統括会議において、健康増進施設「メディカルコンディショニングラボ」の設置に関する提案を行ったが、経営形態や関連法令の確認を含めて継続して検討することとなった。

**(11) 適正な保険診療の推進**

・ **「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。**

適正な保険診療推進のため、保険診療適正化ワーキンググループにおいて、保険診療講習会開催(6回)、診療録監査(定期監査・抜き打ち監査)および病棟カルテ責任者(病棟長・師長・事務員)による自主点検を行った。診療録監査結果は、診療部長へフィードバックし改善報告書提出を義務付けた。自主点検結果は、改善項目の多い13診療科の病棟長・医局長などに医療保険指導室から直接個別指導を行うことで、意識改革を図った。

**(12) 経営の質の改善**

・ **各診療部の数値目標を設定し達成する。**

なお、各科の損益分岐点を示し進捗状況を管理する。

- ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発医薬品の数量シェア目標を達成する。
- ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院医材・物流の効率的運用を強化する。
  - ・院長・診療部長面談において、6月および11月から12月に目標値・実績値の差異分析を行った。病床が配分されている32診療科中19診療科は目標未達成であった。要因は、患者数によるものが8割、診療単価によるものが2割であった。そのため、手術・入院目的の紹介患者および救急搬送患者を増加させて、患者数・診療単価を上げる必要性を診療部長と情報共有し、改善案を立案した。
  - ・附属4病院のSPD業者統一化が決定し、次年度から柏病院、10月から本院の業者が変更となり、附属4病院のSPD業者が統一される。この結果により、次年度下半期で約1億円の経費削減を見込む。

#### 4. 医療に関する重点施策 葛飾医療センター

##### (1) 総合内科体制の再構築

病院運営会議および内科診療部長会議を中心に、総合内科体制のあり方について継続検討した。

##### (2) 救急体制の充実

###### ・断らない救急受入れ体制を構築する。

救急ストップ管理を救急部にて行い、平日日中帯の専門外来との連携強化を図り、原則断らない救急体制を整備した。また、救急入院受入れ強化のために、2日前退院オーダーを徹底し、実施率目標65%を達成した。

##### (3) がん医療の推進

###### ・がん診療に関する専門職者の育成に努め「東京都がん診療連携協力病院」としての機能強化を図る。

###### ・放射線治療を推進し、手術・化学療法を組み合わせたがんの集学的治療体制の拡充を図る。

・東京都がん診療連携協力病院指定の申請を行ったが、常勤の放射線治療医不在により見送られた。がん診療体制は維持し、引続き東京都がん診療連携協力病院の指定を目指している。

・放射線治療は、予測患者数を上回って実施した。

##### (4) 病院機能評価の受審・認定

病院機能評価準備委員会を発足させ、問題点の改善に取り組み、2月に病院機能評価を受審した。3月に送付された中間報告書では、認定保留となる項目（C評価）はなかった。

##### (5) 患者サービスの推進

###### ・患者のニーズに適切したサービスを提供する。

###### ・病院のコンセプトを全教職員に周知徹底する。

・案内表示をわかりやすく改善した。また、会計窓口を拡大の上、待ち時間の短縮を図るなど、患者サービス向上を推進した。

・病院のコンセプトを診療部会議で周知した他、全教職員に対して病院長名で配布し、周知徹底を図った。

##### (6) 地域貢献（医療連携の推進）

###### ・地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図り地域医療に貢献する。

・訪問看護ステーションとの相互研修を実施し、受入れ12名、出向20名であった。また、地域の訪問看護ステーション所長による講習会を開催し97名が参加した。

・オープン講座を4回実施し、188名（院外83名）が参加した。

・認定看護師への電話相談は、がん看護（がん性疼痛）1件、WOC（皮膚・排泄ケア）20件であった。

(7) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援

大規模地震時医療活動訓練に、DMATチームが参加した。また、東京都、葛飾区、墨田区合同総合防災訓練に参加し、衛星電話の通信訓練を実施した。備蓄品についても継続的に拡充を行った。

(8) 職種間の協力体制の構築

- ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。

認定・専門看護師については、新たに4名が所定のカリキュラムを受講し、チーム医療が実践できる人材育成を推進した。

(9) 適正な保険診療の推進

- ・診療報酬改定の内容を詳細に分析し、DPC算定を含めた適正な保険診療の推進について教育・研修により周知徹底する。

保険診療講習会や健保・DPCコーディング適正化委員会において、保険診療の適正化に向けた改善検討を行った。また、突合点検査定の対策を検討し実施した。

(10) 適正な収支構造の確立

- ・每期設定される医業利益目標を達成する。
- ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発医薬品の採用を推進する。
  - ・期末における医療収支は86.9億円、予算に対して2.3億円超過であった。(達成率102.7%)
  - ・手術キットの使用状況調査およびキット内容の精査を実施した。また、不動産庫の回収を行い経費削減に努めた。医薬品については、46品目を後発医薬品へ切替え、抗生剤の適正使用についても取組み、経費削減を図った。

5. 医療に関する重点施策 第三病院

(1) 救急医療体制の充実

- ・救急隊との連携を密に、断らない救急応需の体制を整備する。
  - ・狛江市救急連絡協議会に参画し、救急隊との連携強化に努めた。断らない救急応需の体制整備に向けて、院内各委員会・会議などを通じて協力要請を行った。
  - ・救急応需率は月平均70.3%、救急車搬送数は月平均299件（対前年度比27件増）であった。

(2) がん診療の推進

- ・がん診療センターの整備、がんの集学的治療の実践を通して「東京都がん診療連携拠点病院」の指定を目指す。

東京都がん診療連携拠点病院として、施設要件に従い緩和ケア研修会のほか、各種研修や講演会、患者向けサロンなど、機能強化を図った。また、10月には東京都による国指定の地域がん診療連携拠点病院としてのヒアリング調査が行われた。

(3) 認知症疾患医療センターの取り組み

- ・東京都地域連携型認知症医療センターとして、他の医療機関と連携し医療相談、鑑別診断、身体合併症を伴う認知症の治療に取り組む。
  - ・第2回認知症研究会において脳神経外科医師および看護学科教員が講師となり、地域の医療従事者に対して認知症知識向上に向けた取組みを行った。
  - ・狛江市と共同して、コメディカル、事務職員を対象とした認知症サポーター養成講座を実施し、認知症患者への理解促進を行った。
  - ・7月に認知症ケアチームを発足させ、院内ラウンドを毎週実施した。また、院内看護師向けに認知症ケアチームによる認知症看護能力研修会とビデオ講習会を開催した。

(4) 地域医療連携の推進

- ・地域包括ケアシステム構築に向けて、機能の異なる他の医療機関、診療所（在宅療養支援診療所含む）、病院や行政とのアライアンスを構築する。
- ・web予約システムの運用を拡大し病診連携を強化する。
  - ・前方後方連携医療機関、近隣新規開業医療機関に標榜科医師とともに訪問し、良好な連

携関係が構築された。年2回開催の医療連携フォーラムに加え、今年度は世田谷区医師会・玉川医師会との連携強化に努めた。病病連携・病診連携の会に参加することで「顔の見える関係づくり」を実践し、各医師会所属医師より評価を得た。

・web予約件数は、前年度を上回り病診連携は強化された。

**(5) 新しい専門医制度に対応した総合診療研修センターの整備**

・新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療」の基幹病院として、平成29年4月の専門研修プログラム実施に向け連携施設との調整や専攻医の公募・試験・採用を実施する。

・総合診療研修プログラムの新規作成、特任指導医講習会を申請したが、専門医制度が平成30年度開始へと延期された。専門医認定支援事業補助金については、12月以降の経費が補助対象として交付決定した。

・基幹病院としてEBM（共感と思いやりに基づく医療）講演会の企画や、総合診療専門医シンポジウムを共催運営し、新規開設した総合診療研修センターホームページより情報発信を開始した。

・専門医制度延期のため、例年通り内科レジデント採用試験を行った。

**(6) 共感と思いやりに基づく医療（Empathy Based Medicine）の実践**

・各部署が患者のニーズに沿った改善案を策定・実施し、満足度の高い医療サービスを実現する。

・教職員教育をより浸透させるために院内教育図書委員会を再編成し、共感と思いやりに基づく医療について教職員セミナーを2回、診療部長・医局長クラスに対するハラスメント防止研修を実施した。また、研修医に対しては院長より「共感と思いやりに基づく医療」をテーマとした講話会を実施し、満足度の高い医療サービスを実践するよう努めた。

・患者モバイル呼出システムの運用を開始し、外来待合でずっと待ち続ける必要がなくなり、利便性が向上した。待ち時間の有効活用が図れた、おおよその診察順番がわかり安心した、待たされる苦痛から解放されたなどの評価を得た。

・ご意見箱への投書、患者待ち時間調査、患者満足度調査結果からもブロック会計の導入により、待ち時間が大幅に短縮されたとの意見が多く寄せられた。

**(7) 適正な収支構造の確立**

・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発医薬品の採用を推進する。

・高額な新規抗がん剤やがん患者数の増加、生物学的製剤の適応拡大、血友病患者の成長に伴う血液凝固因子製剤の使用量増加により薬品費は増額となった。後発医薬品使用量は、49品目の切替えにより80%超を達成し、次年度のDPC機能評価係数を増加することができた。

・今年度の特殊材料費は、整形外科(脊椎、股関節)、循環器内科PTCA(経皮的冠動脈形成術)材料、内視鏡手術関連、内視鏡ステント材料の増加に伴い、対前年度比約7%増となった。また、医療用消耗品費は眼科、耳鼻咽喉科の手術減少に伴い、減少となった。

**(8) 病院リニューアルに向けた地固め**

・新病院の基本計画・基本構想を策定する。

・診療部門のセンター化を見据え病床再編を実施する。

・9回のリニューアルタスクフォース会議と、2月に2日間の集中検討会を実施し、病院構想を総括して次年度に向けた課題を整理した。

・救急患者のスムーズな受入れを行うため、救急支援床の設置と診療部門センター化（消化器センターなど）を見据えた病床再編を実施した。

**6. 医療に関する重点施策 柏病院**

**(1) 救急体制の充実**

・積極的な救急患者の受入れ可能なER診療体制を充実する。

・救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。

救急搬送数は4,808件で対前年度比221件増、3次救急搬送件数は942件で対前年度比119件増であり、救急患者の受入れは前年度より大幅に増加した。

## (2) がん医療の推進

- ・ 国立がん研究センター東病院との連携を強化し、がん診療、研究、人材育成の充実化を図る。

本学と国立がん研究センターとの連携について、患者向けのリーフレットを作成し、広報活動を行った。また、産婦人科、泌尿器科における手術の相互支援・見学、内視鏡部における共同臨床研究などを相互協力体制のもとに実施した。更なる連携体制の強化のため、各診療科に対しアンケート調査を行い、現状確認を行った。調査結果をもとに当院の受入不可能な患者状態を相互共有し、紹介および逆紹介患者のデータ分析を行い、連携強化に向けた検討を進めた。

## (3) 周産期医療の整備と推進

- ・ 地域から求められている妊娠、出産から新生児に至る高度専門的な「周産期医療」が提供できる診療体制を検討する。

- ・ 周産期センター検討ワーキンググループを開催し具体的な検討に入った。
- ・ 8月5日開催の夏季常任理事会にて、周産期センター開設を視野に4C病棟へのNICU(3床)およびGCU(9床)の設置計画を提案した。
- ・ 周産期医療に向けた推進策の一環として、未熟児室と重症室の電源改修工事を3月に実施し、安全性を高める環境整備を図った。

## (4) 患者サービスの推進

- ・ 患者のニーズに適応した医療を推進する。

患者満足度調査および投書などの意見をもとに、患者サービスを推進した。また、エントランスホールにて、フロアコンサートを実施した。施設面では、構内道路の舗装などの改善を行なった。感染症患者に対応するため、5A・5C・6A・6C病棟各1室、合計4室を陰圧病室に改修し、院内感染対策の向上を図った。診療機器では、3テスラMRI装置を設置し、検査精度を高めるとともに診療の質向上につなげた。なお、教職員のマナー向上を図るため、Etiquette-Based Medicine (EBM) の実践について教職員研修委員会で検討を開始し、2ヵ月毎に身だしなみなどの重点項目を決め、画像を活用して視覚に訴えるポスターを作成し、推進した。

## (5) 地域貢献（医療連携の推進）

- ・ 前方および後方連携を強化する。
- ・ 地域医療ニーズに応えられるように医療連携および診療体制の改善充実を図る。
- ・ 地域包括医療を推進する。

医療連携予約件数(FAX・web予約件数)は、今年度は9,592件で対前年度比459件減であったが、紹介率は対前年度比6.0ポイント増の74.1%、逆紹介率は対前年度比5.2ポイント増の54.9%とともに前年度を上回った。また、今年度は、医療機関訪問の実施(119件)、web予約登録医療機関の拡大、医科と歯科の連携推進、糖尿病・代謝・内分泌内科と眼科の連携推進、転院調整の改善、地域の多職種を交えた勉強会の開催など、医療連携の強化・推進を図った。

## (6) 災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援

災害拠点病院として、災害対策マニュアルを全面的に改定し、より現状に即した内容にするとともに、必要な備品の拡充と整備を行った。また、備品、備蓄品が増加しているため、備蓄倉庫の設置場所を検討したが、確保には至らなかった。日本DMATおよび千葉県限定DMATの隊員増員については、計画的に進めており、千葉県および関連医療機関とも連携して取り組んだ。

## (7) 職種間の協力体制の構築

- ・ チーム医療を構築するための人材育成を推進する。

TeamSTEPPSの研修を実施し、医療の質と安全性を高めるためにチームで取り組む方

法を実践する活動を継続し、感染制御（ICT）、褥瘡対策、緩和ケア、栄養サポート（NST）、家族支援（虐待）などによるチーム医療を推進し、専門教育も継続的に実施した。また、今年度は新たに認知症ケアチームを発足させ活動を開始した。チーム医療を推進するために、認定看護師・専門看護師の養成を行い19名となった。他職種連携による積極的な関与は、患者の早期退院やQOLの向上に効果を上げている。

#### (8) 適正な保険医療の推進

- ・特に適正な保険診療推進のため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。  
保険診療講習会を3回開催し、保険診療の基本的ルール、DPCコーディングガイド、保険請求上の誤り防止などについて、周知・徹底を図った。合計3回開催し、参加者は延べ244名（研修医93名、医師51名、職員100名）であった。

#### (9) 経営の質の改善

- ・每期設定される医業利益目標を達成する。
- ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発医薬品の採用を推進する。
- ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院医材・物流の効率的運用を強化する。

医療収支目標については、医療経費の増加を要因として、予算に対して0.92億円未達となった。今年度は、38品目を後発医薬品に切替え、10月からの数量シェアは80%を越えた。医療材料については、附属4病院医材・物流ワーキンググループによる取り組みで共同購入品への切替え、価格低減を行った。定数見直し、不動在庫削減に取り組み、医療材料配置状況の改善に努めた。また、コストマネージメント・プロジェクトでは、他病院との価格ベンチマーク、SPD業者の附属4病院統一を実現することとなった。

### 7. 法人運営に関する重点施策

#### (1) 内部統制の強化

- ・研究倫理教育の充実と情報セキュリティの強化を継続的に進める。
- ・寄附行為の検証を行う。
  - ・研究倫理の教育、啓発活動を促進するため、剽窃・盗用チェックツールを導入した。
  - ・医学科2年生から5年生、研修医1年目のオリエンテーション、さらに医学科1年生情報リテラシー授業において、SNS利用の留意点、情報セキュリティについての説明を行った。
  - ・研究活動充実に向けて、疾患レジストリシステムの導入を行い、附属病院を除く葛飾医療センター、第三病院、柏病院で準備を行った。また、情報漏洩防止、および拠点間（病院間）通信の速度向上を主眼として、通信回線の変更を実施した。
  - ・文部科学省が提言する大学のガバナンス体制構築に向け、他大学の状況など情報収集を行うとともに、本学の寄附行為および関連規程の検証を開始した。
  - ・従前同様にサイバー攻撃に備えて、セキュリティパッチの適用、ならびにウイルス定義ファイルの更新など、全教職員に対して使用端末の環境整備を推進するよう注意喚起した。
  - ・情報セキュリティ強化に向けて、院外向けファイヤーウォール設定の見直し・変更を行った。また、不使用となった通信経路（ポート）の遮断を行った。

#### (2) 安定した財政基盤の構築

- ・法人における収支構造の点検を行う。
- ・機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。
- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤の構築を図る。
- ・ICT関連経費の適正化を図る。
  - ・平成27年度決算を分析し、評価できる点、改善を要する点を教職員に説明した。さらに、他大学決算との比較を行い、本学の強み・弱みを理事会で説明した。また、平成43年までの長期資金計画を作成し、現在計画中の投資計画の妥当性を検証した。
  - ・私立大学等経常費補助金増額を目指して、改革総合支援事業のタイプ1・2を獲得した。

- ・各機関の患者疾病構造からの視点による入院医療収入予算の設定手法をDPC分析をもとに考案した。
  - ・葛飾医療センターの保守費について、本院・第三病院・柏病院での稼働状況（故障率など）を踏まえ、不要部分を算出し、その金額を除外して契約を締結した。また、各部門システムについては、附属4病院のシステム導入・更新計画立案時に同一メーカーとなるよう調整し、導入経費などの圧縮に努めた。
- (3) **大学基準協会による認証評価の「適合」を取得**  
大学基準協会による認証評価の「適合」を取得した。
- (4) **西新橋キャンパス再整備計画の策定と実行**
- ・新大学2号館（仮称）、新病院（小児・周産期センター）（仮称）の施工を遅滞なく進める。
  - ・新外来棟および既存棟改修の施工会社を決定し、実施設計・施工計画を策定する。
    - ・新大学2号館（仮称）は平成29年6月竣工に向けて順調に施工が進んでいる。平成29年7月からの引越に向けて移転委託業者と廃棄委託業者が決定した。移転に関しては、年度内に対象部署の現場調査（物量）を終え、対象部署ごとの具体的な移転スケジュールの策定に入った。なお、新病院（仮称）は平成29年3月に予定通り着工した。
    - ・新外来棟・中央棟機能拡充整備工事は実施設計を進めている。地下駐車場の設置・リハビリテーション科を6階に設置するなど、基本設計から変更した。既存棟のうちF棟は平成29年1月より耐震補強工事を開始し、その他解体する建物部分の必要な調査では、遺跡調査・アスベスト調査・土壌汚染調査などを終えて対策を講じており、全体の再整備計画に影響しないよう対応している。
- (5) **大学マスタープランの策定**
- ・新外来棟における次世代医療の具現化に向けて検討する。  
新外来棟開院時における差別化戦略として、プレジジョン・メディシン（テーラーメイド医療）に対応すべく、医療コンシェルジュ機能を充実するためのプランをマスタープラン懇談会に提案した。
- (6) **教職員の満足度向上**  
教職員の満足度を向上させるため、人事考課における「適正な評価」を実践すべく、面接の実施について徹底を図った。その結果、目標面接と中間面接とも実施率100%を達成した。また、育成面接では人事考課ハンドブックに基づき、考課結果をフィードバックするよう徹底した。
- (7) **人材育成制度の強化**  
階層別研修において行動憲章・行動規範の理解、および接遇・マナー・身だしなみに関する指導を取り入れた。また、附属病院フロント部門に勤務するスタッフを対象として、患者の視点から自らの接遇を振り返り、患者満足度の高い接遇の本質に迫る研修を特別に開催した。
- (8) **業務改善および部署間の有機的連携**
- ・労働生産性向上に向けた取り組みを推進する。
  - ・事務組織の改編を行う。
    - ・労働生産性向上活動において、看護師・医療技術職の計3名を事務局に加え、報告会に先立ち各部署を訪問してアドバイスをを行った。本活動は3年目となるが、各部署の報告内容は着実に充実しつつある。
    - ・事務組織改編については、事務組織改編ワーキンググループからの答申に基づき、平成29年度より教員・医師人事室と臨床研修センターの事務所を同一にし、関連業務を効率的にできる体制を整備することとした。
- (9) **戦略的広報の推進**
- ・「医療連携」、患者向けの「診療実績」、受験生向けの「学部案内、受験情報」の情報発信を推進する。

医療連携の強化を目的に附属病院ホームページの更新を提案したが達成できなかった。法人誌「The JIKEI」に医療連携窓口に関する記事を掲載し、同窓や医療機関に対してPRした。診療実績は附属4病院においてDPCデータの全国統一病院指標を公開した。「学部案内、受験情報」の冊子を継続して発行し、看護学科受験生応援サイトの開設支援、看護専門学校ホームページの更新など、情報発信を推進した。

#### (10) 大規模災害対策の再整備とBCP（事業継続計画）の保守・点検

- ・災害対策訓練を通じ、必要と認めた備蓄品および資器材の拡充を行った。東京都災害拠点病院に対するNBC災害対策設備整備費補助金を用いて、簡易型全身カウンタ（ホールボディカウンタ）を購入・設置した。BCPの保守・点検については、実施を見送った。また、学生版災害対策マニュアルを整備した。
- ・大規模災害対策として、今年度複数回発生しているエレベーター停止時の対応について見直しを図った。

## 2) 28年度の主な建設工事

### 1. 法人事務局

- |                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| ① 学内電話交換機無停電電源装置蓄電池交換工事       | 平成28年9月完了 |
| ② 大学管理棟地下1階揚水ポンプ更新工事          | 平成28年9月完了 |
| ③ 大学管理棟エレベーター3号機（荷物用）リニューアル工事 | 平成29年2月完了 |
| ④ 大学管理棟東側外壁漏水補修工事             | 平成29年2月完了 |
| ⑤ 高木2号館院内寮ガス給湯器更新工事（第3期／全3期）  | 平成29年2月完了 |
| ⑥ 大学管理棟6階事務室ピーマック空調機更新工事      | 平成29年2月完了 |
| ⑦ 大学管理棟熱源水ポンプ更新並びに増設工事        | 平成29年3月完了 |
| ⑧ 大学管理棟機械式駐車場漏水防止工事           | 平成29年3月完了 |
| ⑨ 大学管理棟屋上及び9階外装パネル塗装他補修工事     | 平成29年3月完了 |
| ⑩ 大学管理棟全熱交換器更新工事              | 平成29年3月完了 |

### 2. 西新橋校

- |  |            |
|--|------------|
| ① F棟臨床講堂整備工事                               | 平成28年7月完了  |
| ② 自動ドア装置保守点検における不具合箇所整備工事（大学部門）            | 平成28年9月完了  |
| ③ ボイラおよび第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事（大学部門）         | 平成28年10月完了 |
| ④ 大学1号館実験動物研究施設空調用HEPAフィルター取替工事            | 平成28年11月完了 |
| ⑤ 大学1号館GMP対応細胞産生施設炭酸ガス培養器用温度及びCO2濃度変換器取替工事 | 平成28年11月完了 |
| ⑥ 消防設備等点検に伴う是正工事（大学部門）                     | 平成28年12月完了 |
| ⑦ 大学1号館外壁タイル補修工事                           | 平成29年3月完了  |
| ⑧ 大学2号館横教職員用立体駐車場整備工事                      | 平成29年3月完了  |
| ⑨ 大学1号館冷温水機用冷却水ポンプ分解整備工事                   | 平成29年3月完了  |

### 3. 本院

- |                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| ① 中央棟患者用立体駐車場部品交換工事           | 平成28年4月完了 |
| ② 病棟ナースコール設備更新工事              | 平成28年5月完了 |
| ③ 監視システム用録画サーバー更新工事           | 平成28年5月完了 |
| ④ 消防用設備等法定点検（機器点検）            | 平成28年5月完了 |
| ⑤ 防火対象物定期点検及び防災管理対象物定期点検      | 平成28年5月完了 |
| ⑥ 外来棟搭屋1階水槽室高架水槽装置修理工事        | 平成28年6月完了 |
| ⑦ 中央棟屋上クーリングタワー冷却水バイパス二方弁修繕工事 | 平成28年6月完了 |

⑧ E棟エレベーター4号機（非常用）リニューアル工事	平成28年8月完了
⑨ 中央棟6階無菌病棟各所無菌水フィルターユニット交換工事	平成28年8月完了
⑩ 自動ドア装置保守点検における不具合箇所整備工事（病院部門）	平成28年9月完了
⑪ 外来棟電気室高圧ケーブル更新工事	平成28年10月完了
⑫ 特別高圧受変電設備整備工事	平成28年10月完了
⑬ 外来棟ボイラー室内吸収冷温水機整備工事	平成28年10月完了
⑭ 医療ガス供給設備保守点検是正工事	平成28年10月完了
⑮ ボイラおよび第一種圧力容器性能検査受検に伴う整備工事 （病院部門）	平成28年10月完了
⑯ 外来棟屋上階冷却塔整備工事	平成28年11月完了
⑰ 外来階旧ボイラー室雑排水槽排水ポンプ更新工事	平成28年11月完了
⑱ E棟機械室熱交換器蒸気設備修理工事	平成28年11月完了
⑲ 特別高圧受変電設備監視システム設備更新工事	平成28年12月完了
⑳ 病棟採風窓・非常扉管理システム整備工事	平成28年12月完了
㉑ 消防設備等点検に伴う是正工事【病院部門】	平成28年12月完了
㉒ E棟共用廊下タイルカーペット貼替作業	平成28年12月完了
㉓ 中央棟無菌病棟トイレウォシュレット改修工事	平成29年1月完了
㉔ 中央棟2～4階無線LAN（Wi-Fi）環境整備工事	平成29年1月完了
㉕ E棟4階～地下3階業務用空調機更新工事	平成29年1月完了
㉖ 中央棟エレベーター11号機（非常用エレベーター） 長周期地震対策工事	平成29年1月完了
㉗ 中央棟8階通路天井内外気取入ダクト保湿工事	平成29年1月完了
㉘ 中央棟20・21階天井耐震改修工事	平成29年2月完了
㉙ 中央棟20・21階特別個室リニューアル工事	平成29年2月完了
㉚ 病棟個室内ファンコイル空調機交換工事	平成29年2月完了
㉛ 中央棟地下3階熱源機械室ターボ冷凍機整備工事	平成29年2月完了
㉜ E棟入口部止水板新設工事（都市型水害対策）	平成29年2月完了
㉝ 中央業務用空調機更新工事（第1期／全4期）	平成29年2月完了
㉞ 中央棟ゴンドラ設備保守点検における不具合箇所整備工事	平成29年2月完了
㉟ 消防用設備等法定点検（総合点検）	平成29年5月完了
㊱ 中央棟自動火災報知設備更新工事	平成29年3月完了
㊲ E棟外壁補修その他付帯工事	平成29年3月完了
㊳ 中央棟空調設備ポンプ交換工事	平成29年3月完了
㊴ E棟地下3階ボイラ設備更新工事（第1期／全2期）	平成29年3月完了
㊵ 中央棟7階～6階病棟系統排気ファン整備工事	平成29年3月完了
㊶ 中央棟エレベーター9号機（寝台用）耐震改修工事	平成29年3月完了
㊷ 中央棟3階CVCF電気室医療用無停電電源装置（UPS）整備工事	平成29年3月完了
㊸ 平成28年度医療ガス供給設備整備点検	平成29年3月完了
㊹ 中央棟外壁タイル補修工事	平成29年3月完了
㊺ 病棟各所出入管理システム整備工事	平成29年3月完了

#### 4. 西新橋キャンパス再整備計画

① 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事	平成28年5月完了
② 中央棟2階3 Tesla MRI更新工事	平成29年2月完了
③ F棟耐震改修工事	次年度継続

## 6. 平成28年度決算

### 1、はじめに

平成28年度は、既存建物並びに医療機器等の経常的な修繕と更新に加えて、西新橋キャンパス再整備に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額（利益）は予算を上回る結果となりました。

### 2、資金収支計算書

施設・設備関係支出は56億円でした。主な内容は、医療器械16億円、建物13億円、建設仮勘定11億円、ソフトウェア9億円、教具・一般備品6億円でした。

前年度繰越金は536億円でしたが次年度繰越金は621億円となり、繰越金は85億円増加しました。

### 3、事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加により前年度比15億円増加の1,013億円となりました。

支出の部は、光熱水費・諸経費等の経費は抑えられたものの、医療経費・人件費・委託費等が増加したため、前年度比では18億円増加の963億円となりました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額（利益）は50億円となり、前期比では減益となったものの、予算は達成することができました。

### 4、貸借対照表

純資産の部の増加50億円と長期借入金の増加137億円を主要因に190億円の資金が出来ましたが、現金・預金として+85億円が、有価証券として+108億円が内部留保されました。

純資産の部の合計は1,440億円で、自己資金比率は68%となりました。

### 5、決算開示方法について

平成16年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

以上

平成28年度資金収支計算書

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

(単位：円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	40,699,992,403	学生生徒納付金収入	3,151,940,000
教育研究経費支出	45,616,729,948	手数料収入	157,076,700
教育研究費支出	11,872,256,392	寄付金収入	851,159,221
医療経費支出	33,744,473,556	補助金収入	3,817,278,272
管理経費支出	3,431,351,095	国庫補助金	3,507,359,303
		地方公共団体補助金	309,918,969
		その他の補助金	0
		事業収入	91,950,286,296
		医療収入	91,361,625,711
		受託事業収入	588,660,585
借入金等支払利息支出	195,614,327	受取利息・配当金収入	227,138,354
		資産売却収入	5,600,000
借入金等返済支出	3,241,800,000	雑収入	1,155,752,507
施設関係支出	2,441,132,489	借入金収入	16,900,000,000
設備関係支出	3,146,964,530	前受金収入	647,690,714
資産運用支出	15,804,965,000		
その他支出	16,662,563,338	その他の収入	21,339,747,005
資金支出調整勘定	△ 16,062,820,993	資金収入調整勘定	△ 16,537,914,144
期末未払金	△ 16,062,820,993	期末未収入金	△ 15,877,973,430
		前期末前受金	△ 659,940,714
次年度繰越支払資金	62,050,345,879	前年度繰越支払資金	53,562,883,091
<b>支出の部合計</b>	<b>177,228,638,016</b>	<b>収入の部合計</b>	<b>177,228,638,016</b>

平成29年6月文部科学省へ提出

平成28年度事業活動収支計算書

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

(単位 円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
<b>教育活動支出</b>		<b>教育活動収入</b>	
人件費	41,026,149,303	学生生徒納付金	3,151,940,000
教育研究経費	50,968,007,006	手数料	157,076,700
教育研究経費	15,619,418,401	寄付金	697,684,221
医療経費	35,348,588,605	経常費等補助金	3,800,924,272
管理経費	4,080,818,307	事業収入	91,950,286,296
		医療収入	91,361,625,711
		受託事業収入	588,660,585
徴収不能額	0	雑収入	1,042,214,914
徴収不能引当金繰入額	16,673,289	(徴収不能引当金戻入額)	913,060
<b>教育活動支出計</b>	<b>96,091,647,905</b>	<b>教育活動収入計</b>	<b>100,800,126,403</b>
		教育活動収支差額	4,708,478,498
<b>教育活動外支出</b>		<b>教育活動外収入</b>	
借入金等利息	195,614,327	その他の受取利息・配当金	227,138,354
<b>教育活動外支出計</b>	<b>195,614,327</b>	<b>教育活動外収入計</b>	<b>227,138,354</b>
		教育活動外収支差額	31,524,027
		経常収支差額	4,740,002,525
<b>特別支出</b>		<b>特別収入</b>	
資産処分差額	19,986,074	資産売却差額	0
その他の特別支出		その他の特別収入	305,499,488
過年度修正額	6,629,028	施設設備寄付金	174,694,835
		施設設備補助金	16,354,000
		過年度修正額	114,450,653
<b>特別支出計</b>	<b>26,615,102</b>	<b>特別収入計</b>	<b>305,499,488</b>
		特別収支差額	278,884,386
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>5,018,886,911</b>	<b>基本金組入額合計</b>	<b>△ 8,560,201,005</b>
		当年度収支差額	△ 3,541,314,094
		前年度繰越収支差額	△ 18,747,778,158
		基本金取崩額	382,252,587
		翌年度繰越収支差額	△ 21,906,839,665

(参考)

事業活動支出計	96,313,877,334	事業活動収入計	101,332,764,245
---------	----------------	---------	-----------------

平成29年6月文部科学省へ提出

## 平成28年度貸借対照表

平成29年3月31日

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	132,640,628,391	118,269,350,306	14,371,278,085
有形固定資産	100,463,255,509	101,383,867,024	△ 920,611,515
土地	6,731,341,407	6,731,341,407	0
建物	69,645,634,164	71,127,901,626	△ 1,482,267,462
構築物	293,953,443	317,813,879	△ 23,860,436
教育研究用機器備品	11,504,709,513	11,572,589,516	△ 67,880,003
管理用機器備品	2,560,312,111	2,767,452,927	△ 207,140,816
図書	2,926,275,512	2,904,628,594	21,646,918
車両	7,335,011	13,271,727	△ 5,936,716
建設仮勘定	6,770,532,440	5,925,705,440	844,827,000
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給与引当特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	30,577,372,882	15,285,483,282	15,291,889,600
施設利用権	415,832,460	421,382,460	△ 5,550,000
有価証券	28,125,677,220	13,321,227,220	14,804,450,000
長期貸付金	433,743,771	440,382,689	△ 6,638,918
ソフトウェア	1,602,119,431	1,102,490,913	499,628,518
流動資産	78,083,937,690	73,464,651,853	4,619,285,837
現金預金	62,050,345,879	53,562,883,091	8,487,462,788
未収入金	15,713,140,094	15,691,804,461	21,335,633
貯蔵品	94,214,613	91,324,134	2,890,479
有価証券	0	3,999,485,000	△ 3,999,485,000
仮払金	226,237,104	119,155,167	107,081,937
<b>資産の部合計</b>	<b>210,724,566,081</b>	<b>191,734,002,159</b>	<b>18,990,563,922</b>

負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	47,902,204,065	35,188,071,147	12,714,132,918
長期借入金	26,301,150,000	13,448,600,000	12,852,550,000
退職給与引当金	18,694,049,661	18,367,892,761	326,156,900
長期未払金	2,907,004,404	3,371,578,386	△ 464,573,982
流動負債	18,862,725,637	17,605,181,544	1,257,544,093
短期借入金	1,772,450,000	966,800,000	805,650,000
未払金	16,059,898,513	15,759,421,866	300,476,647
前受金	647,690,714	659,940,714	△ 12,250,000
預り金	381,531,410	217,822,464	163,708,946
保証金	1,155,000	1,196,500	△ 41,500
<b>負債の部 合計</b>	<b>66,764,929,702</b>	<b>52,793,252,691</b>	<b>13,971,677,011</b>

基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	158,663,760,481	150,103,559,476	8,560,201,005
第4号基本金	7,202,715,563	7,584,968,150	△ 382,252,587
<b>基本金の部 合計</b>	<b>165,866,476,044</b>	<b>157,688,527,626</b>	<b>8,177,948,418</b>

消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	21,906,839,665	18,747,778,158	3,159,061,507
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△ 21,906,839,665</b>	<b>△ 18,747,778,158</b>	<b>△ 3,159,061,507</b>
<b>純資産の部合計</b>	<b>143,959,636,379</b>	<b>138,940,749,468</b>	<b>5,018,886,911</b>

科 目	本年度末	前年度末	増減
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>210,724,566,081</b>	<b>191,734,002,159</b>	<b>18,990,563,922</b>

平成29年6月文部科学省へ提出

主要な財務指標の推移 (平成27年度より学校法人会計基準が改正されたため財務指標を変更しております)

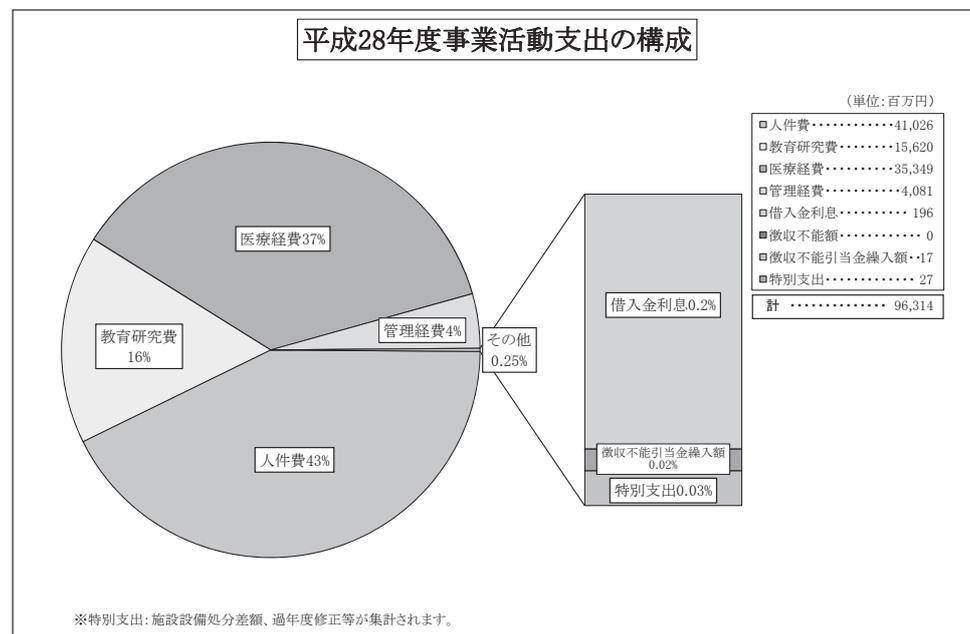
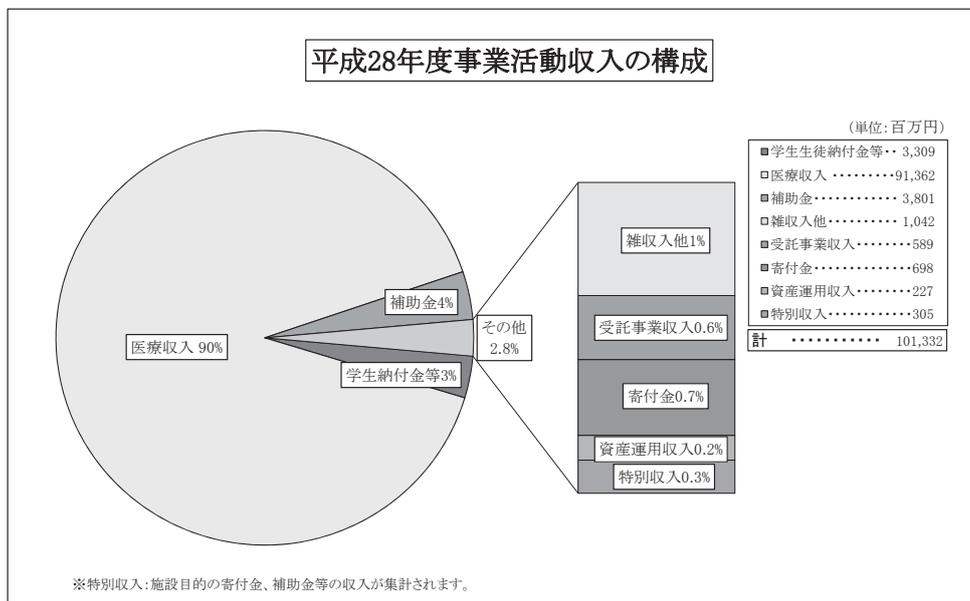
区 分	平成27年度	平成28年度
事業活動収支関係財務比率(単位:%)		
①事業活動支出比率 (事業活動支出/事業活動収入)	94.6%	95.0%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/経常収入)	3.1%	3.1%
③寄付金比率 (寄付金/事業活動収入)	0.9%	0.9%
④補助金比率 (補助金/事業活動収入)	3.8%	3.8%
⑤医療収入比率 (医療収入/経常収入)	90.2%	90.4%
⑥人件費比率 (人件費/経常収入)	40.4%	40.6%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/経常収入)	49.8%	50.4%
⑧事業活動収支差額比率 (100%-事業活動支出比率)	5.4%	5.0%

区 分	平成24年度	平成25年度	平成26年度
消費収支関係財務比率(単位:%)			
①消費支出比率 (消費支出/帰属収入)	95.7%	91.5%	95.2%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/帰属収入)	2.9%	3.1%	3.1%
③寄付金比率 (寄付金/帰属収入)	1.5%	1.2%	1.0%
④補助金比率 (補助金/帰属収入)	4.2%	4.2%	3.9%
⑤医療収入比率 (医療収入/帰属収入)	89.3%	89.5%	89.4%
⑥人件費比率 (人件費/帰属収入)	40.7%	39.6%	40.8%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/帰属収入)	47.6%	47.6%	49.1%
⑧帰属収支差額比率 (100%-消費支出比率)	4.3%	8.5%	4.8%

貸借対照表関係財務比率(単位:%)		
⑨流動比率 (流動資産/流動負債)	419.8%	414.0%
⑩固定比率 (固定資産/自己資金)	84.7%	92.1%
⑪固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	67.6%	69.1%
⑫負債比率 (総負債/自己資金)	38.0%	46.4%
⑬自己資金比率 (自己資金/総資産)	72.5%	68.3%

貸借対照表関係財務比率(単位:%)			
⑨流動比率 (流動資産/流動負債)	374.5%	393.1%	438.9%
⑩固定比率 (固定資産/自己資金)	89.1%	85.4%	81.4%
⑪固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	69.3%	68.2%	65.5%
⑫負債比率 (総負債/自己資金)	42.9%	38.8%	37.0%
⑬自己資金比率 (自己資金/総資産)	70.0%	72.0%	73.0%

\*自己資金=基本金+翌年度繰越収支差額、経常収入=教育活動収入+教育活動外収入



## 財 産 目 録

平成 29 年 3 月 31 日

I. 資産総額	210,724,566,081 円
内 基本財産	132,640,628,391 円
内 運用財産	78,083,937,690 円
内 収益事業用財産	0 円
II. 負債総額	66,764,929,702 円
III. 正味財産	143,959,636,379 円

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		132,640,628,391
1. 土地	152,429.21㎡	6,731,341,407
(1)校地	55,393.10㎡	3,534,677,050
(2)その他	97,036.11㎡	3,196,664,357
2. 建物	300,779.21㎡	69,645,634,164
(1)法人本部	484.78㎡	1,247,096,884
(2)一般校舎	80,215.43㎡	13,324,372,340
(3)図書館	3,882.20㎡	87,525,528
(4)講堂	1,168.99㎡	138,953,761
(5)その他	215,027.81㎡	54,847,685,651
3. 図書	355,458冊	2,926,275,512
4. 教具、校具、備品	8,551件	14,065,021,624
5. 有価証券		28,125,677,220
6. その他		11,146,678,464
二、運用財産		78,083,937,690
1. 現金、預金		62,050,345,879
2. 未収入金		15,713,140,094
3. その他		320,451,717
資産総額		210,724,566,081
三、固定負債		47,902,204,065
1. 長期借入金		26,301,150,000
2. 退職給与引当金		18,694,049,661
3. 長期未払金		2,907,004,404
四、流動負債		18,862,725,637
1. 短期借入金		1,772,450,000
2. 未払金		16,059,898,513
3. 前受金		647,690,714
4. 保証金		1,155,000
5. その他		381,531,410
負債総額		66,764,929,702
正味財産(資産総額-負債総額)		143,959,636,379

上記の通り相違ありません。

平成29年 5月25日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎



# 監査報告書

平成 29 年 5 月 25 日

学校法人 慈恵大学  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人 慈恵大学

監事 濱 邦久 

監事 岡島 進一郎 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人慈恵大学寄附行為第 15 条の定めに基づき、平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。その結果について以下の通り報告いたします。

## 1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。また、会計監査人から計算書類に関する説明及び報告を受け、検討を加えました。加えて、当学校法人の出資会社である株式会社慈恵実業の計算書類に対する監査の説明及び報告（子会社である慈恵ファシリティサービス株式会社並びに慈恵メディカルサービス株式会社の株式に対する評価、両社との取引及び両社に対する債権債務に関する報告を含む）を同社の監査人から受け、検討を加えました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。出資会社については、取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて当該出資会社から事業の報告を受け説明を求めました。

## 2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 29 年 3 月 31 日現在の財産状況及び同日を持って終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人（含む、出資会社）の業務及び財産の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

## 7. 関連当事者との取引状況

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

単位：円

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人	公益社団法人東京慈恵会(注1)	東京都港区	—	看護師養成事業、医学研究事業	—	4名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払(注2)	140,000,000	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当学校法人の役員及び教員が公益社団法人東京慈恵会の役員の36.4%を占めている。

(注2) 公益社団法人東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

名称	株式会社 慈恵実業
事業内容	物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理、保険代理業、リース業 労働者派遣・請負業務など
出資金	30,000,000円 60,000株
学校法人の出資状況	30,000,000円 60,000株 総出資金額に占める割合 100%
出資の状況	昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株

当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況	当該会社からの受入額 (単位：円)				
	寄附金	51,320,000			
	駐車場等賃借料	101,534,721			
	手数料他	27,980,712			
	出向者人件費受入分	104,534,254			
	合計	285,369,687			
	当該会社への支払額 (単位：円)				
	消耗雑品購入	15,649,941,068			
	医療機器等リース料	172,703,098			
	合計	15,822,644,166			
	(単位：円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等	30,000,000	0	0	30,000,000
	当該会社への未払金	3,424,610,642	3,424,610,642	3,241,055,817	3,241,055,817
当該会社からの未収入金	51,203	0	51,203	0	
保証債務	当該会社への保証債務は一切ない。				

(注1) 当該会社への期末における未払金のうち、145,202,246円はリース取引および割賦取引の長期未払金である。

関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
関係法人 (注3)	慈恵ファシリティサービス株式会社	東京都港区	3,000万円	建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務	—	1名	本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託	清掃、管理費等の支払(注4)	1,425,894,094	未払金	108,818,372
								出向者人件費等受入収入	175,990,167	未収入金	0

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

(単位:円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
関係法人 (注5)	慈恵メディカルサービス株式会社	東京都港区	2,500万円	医科器械及び附属品計量器の販売、医療材料・消耗品等の販売	—	—	医科器械・医療消耗品等を購入	医科器械・医療消耗品等の支払(注6)	682,962,509	未払金	16,906,280
								賃借料・寄付金等受入収入	12,551,228	未収入金	0

(注5) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注6) 慈恵メディカルサービス(株)への支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

## 8. 学校法人慈恵大学の体制（平28. 4. 1）

### 1) 学校法人慈恵大学

① 役員の概要	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	5人

理事 長：栗原 敏  
学 長：松藤 千弥  
専務理事 事：高木 敬三、谷口 郁夫  
理 事：丸毛 啓史、伊藤 洋、中村 敬、東條 克能  
宇都宮一典、井田 博幸、浅野 晃司、高橋 則子  
加藤 一人、高橋紀久雄、香川 草平、前田 新造  
監 事：濱 邦久、岡島 進一郎  
常勤顧問 問：梅澤 祐二  
顧 問：岡村 哲夫、小森 亮、佐々木 正峰、眞野 章

②評議員の概要 評議員の定員は40人以上42人以内であり、現員数は42人である。

評議員会議 長：村岡 伸一  
評 議 員：栗原 敏、松藤 千弥、丸毛 啓史、伊藤 洋、中村 敬  
東條 克能、谷 諭、本郷 賢一、安保 雅博、中野 匡  
浅野 晃司、山田 恭輔、猿田 雅之、岡部 正隆、竹森 重  
柳澤 裕之、岡野 孝、北 素子、上間ゆき子、小澤かおり  
五味 美春、玉上 淳子、加藤 一人、植松美知男、伊藤 敬夫  
相馬 陽一、菊地 譲、川久保 孝、高橋紀久雄、香川 草平  
須田 健夫、相澤 義則、鎌田 芳夫、穎川 一信、小田 治男  
村岡 伸一、赤羽 清彬、大政 良二、高木 公寛、徳川 恒孝  
梅溪 通明、高木 敬三

### 2) 東京慈恵会医科大学

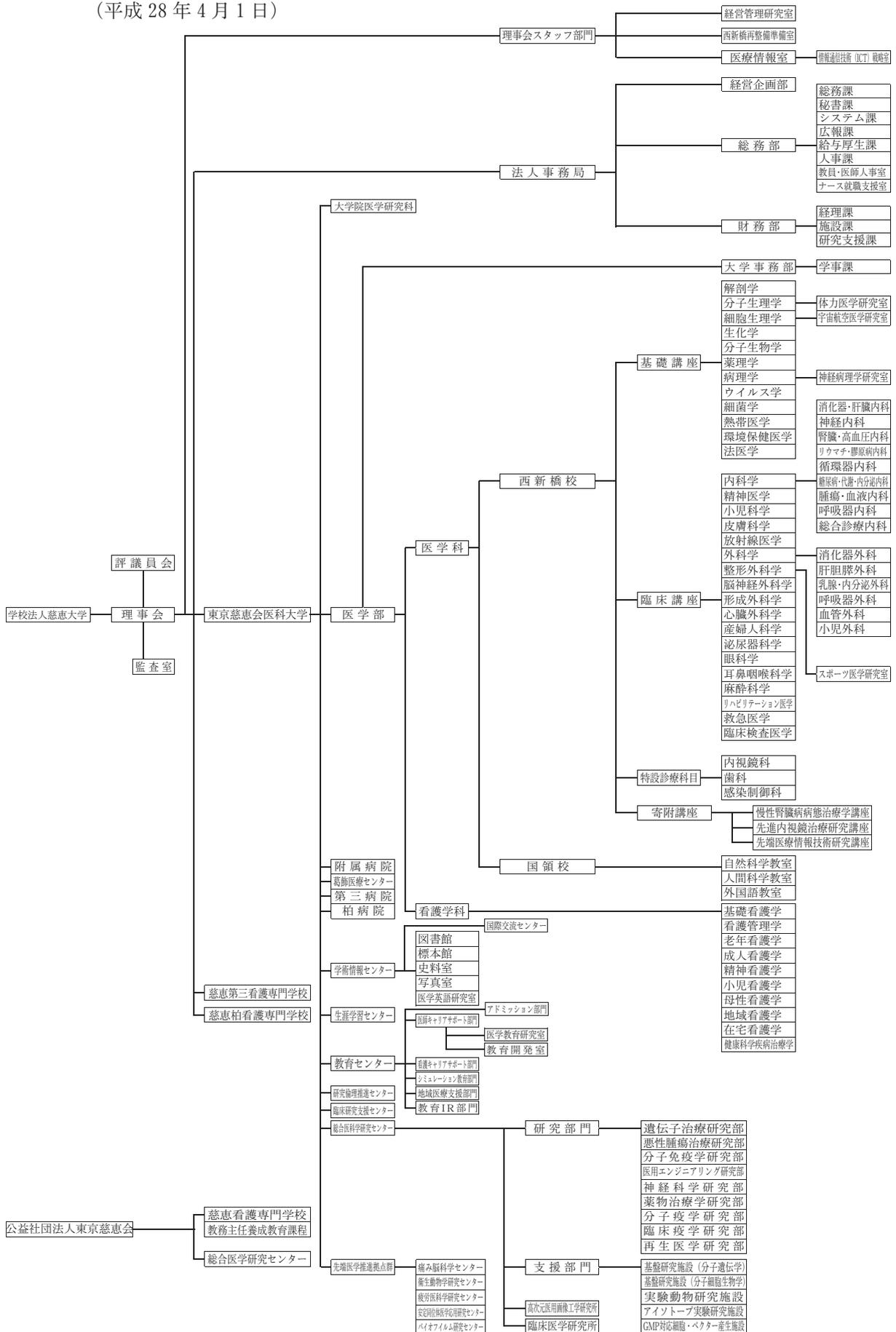
学 長：松藤 千弥  
医 学 科 長：宇都宮一典  
看護学 科 長：北 素子  
大学院医学研究科 長：松藤 千弥  
附属病院 長：丸毛 啓史 副院長：谷 諭、井田 博幸、浅野 晃司  
小島 博己、安保 雅博、小澤かおり  
葛飾医療センター病院 長：伊藤 洋 副院長：吉田 和彦、児島 章  
第三病院 長：中村 敬 副院長：古田 希、岡本 友好、平本 淳  
柏 病院 長：東條 克能 副院長：秋葉 直志、吉田 博、小倉 誠、長谷川 譲  
学術情報センター 長：福田 国彦  
生涯学習センター 長：常岡 寛  
教育センター 長：福島 統  
臨床研究支援センター 長：景山 茂  
総合医科学研究センター 長：大橋 十也

### 3) 看護専門学校

慈恵第三看護専門学校 長：中村 敬  
慈恵柏看護専門学校 長：吉田 博  
〔慈恵看護専門学校 長：羽野 寛〕

# 9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成 28 年 4 月 1 日)



## 10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

議 事 内 容	
<p>平成28年4月28日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(2) 幹部職員一覧</p> <p>(3) 職員数報告</p> <p>(4) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>(5) 平成27年度中に制定・改定された規程について</p> <p>(6) 資産運用状況報告</p> <p>(7) 創立130年記念募金状況報告(3月末日現在)</p> <p>(8) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>(9) 新年度常任理事の職務担当について</p> <p>(10) 懲戒規程について</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 阿部正和顧問を偲ぶ会について</p> <p>2) 熊本地震への対応と支援について</p> <p>3) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月26日（木）午後3時～</p> <p>議題：平成27年度決算、平成27年度事業報告、他</p>
<p>平成28年5月19日</p> <p><b>1. 議決事項</b></p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成27年度決算</p> <p>3) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p><b>2. 報告事項</b></p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成27年度事業報告</p> <p>(2) 阿部正和先生を偲ぶ会について</p> <p>(3) 西新橋キャンパス再整備計画について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p><b>3. 現況報告</b></p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 葛飾医療センターの現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p><b>4. その他</b></p> <p>1) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月26日（木）午後3時～</p> <p>議題：平成27年度決算報告、その他</p>

議 事 内 容

平成28年 6 月23日

1. 議決事項

- 1) 新役員報告
- 2) 教員人事

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 5月評議員会報告
  - (2) 労働組合との交渉結果について
  - (3) 宮崎県宮崎市穆佐小学校児童招待の件
  - (4) 宮崎県宮崎市特別大使受入れの件
  - (5) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
  - 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況
- 4. その他
  - 1) 平成27年度事業報告書
  - 2) 大学関連配布物
  - (1) 大学ガイド2017

平成28年 7 月28日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 実施設計・施工会社の決定について
- 3) 懲戒について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
  - (2) 第133回成医会総会プログラムについて
- 3) 病院関係報告
  - (1) 4病院長会議報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 大学関連配布物
  - (1) 受験に関するインフォメーション平成29年度医学科
  - (2) 受験に関するインフォメーション平成29年度看護学科
  - (3) 看護学専攻修士課程受験に関するインフォメーション大学院ガイド2017
  - (4) 大学院医学研究科（博士課程）大学院ガイド2017
  - (5) 大学院医学研究科（博士課程）学生募集要項 一次募集

平成28年 9 月29日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 懲戒について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 東京国税局による税務調査について
- 2) 夏季常任理事会報告
- 3) 第133回成医会の開催について

議 事 内 容

平成28年10月27日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 懲戒について

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 資産運用状況報告
  - (2) 創立130周年記念事業募金報告
  - (3) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告病院関係報告
  - (1) 医療安全について
    - ① 医療安全推進週間
    - ② 平成27年度医療安全管理部活動報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 平成29年採用初期臨床研修医マッチング結果について
- 2) 平成29年評議員会および理事会の開催日程について

平成28年11月24日

1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 懲戒について
- 3) 定年の特例に関する規程について
- 4) 冬期賞与資金借入れについて

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告
  - (1) レジデント採用状況について

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 文部科学省主催学校法人監事研修会の報告

平成28年12月22日

1. 議決事項

- 1) 教員人事(富士市立中央病院院長人事について)
- 2) 公益社団法人東京慈恵会と学校法人慈恵大学の覚書更新について
- 3) 学校法人慈恵大学資産運用規程改定の件

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
  - (2) 公益社団法人東京慈恵会教務主任養成講習会報告
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況柏病院の現況

4. その他

- 1) 評議員会の日程について
  - (1) 平成29年3月16日（木）午後4時  
平成28年度事業計画（案）、平成28年度予算（案）他
  - (2) 平成29年5月25日（木）午後5時  
平成28年度事業報告、平成28年度決算他
- 2) 平成29年度理事会開催日程
- 3) 学校法人慈恵大学職員雑誌について

議 事 内 容

平成29年 1 月26 日

1. 議決事項

- 1) 大学院医学研究科博士課程MD-PhDコースの予算について
- 2) 教員人事
- 3) 職員管理職人事（平成29年 4 月 1 日付）

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 平成27年度私立医科大学決算分析資料の概要について
  - (2) 株式会社慈恵実業第42期決算報告
  - (3) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
  - (2) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況柏病院の現況

4. その他

- 1) 成医会例会案内

平成29年 2 月23 日

1. 議決事項

- 1) 大学本館・大学 2 号館・旧図書館の取壊し並びに高木会館の減築について
- 2) 教員人事

2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 平成29年度予算（案）について＜説明＞
  - (2) 関連当事者との取引の調査依頼
  - (3) 学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成29年度事業計画（案）
  - (4) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
  - (2) 病院関係報告

3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況

4. その他

- 1) 評議員会の日程について
  - (1) 平成29年 3 月16日（木）午後 4 時  
平成29年度事業計画（案）、平成29年度予算（案） 他
  - (2) 平成29年 5 月25日（木）午後 5 時  
平成28年度事業報告、平成28年度決算 他

## 議 事 内 容

平成29年 3 月23日

### 1. 議決事項

- 1) 教員人事
- 2) 平成29年度基礎系講座定員について
- 3) 平成29年度附属 4 病院診療部・中央診療部定員について
- 4) 平成29年度事業計画（案）について
- 5) 平成29年度予算（案）について

### 2. 報告事項

- 1) 法人関係報告
  - (1) 西新橋キャンパス再整備計画について
- 2) 学事関係報告
  - (1) 学事報告
- 3) 病院関係報告
  - (1) 医療監視（本院）の件について

### 3. 現況報告

- 1) 附属病院（本院）の現況附属病院（本院）の現況
- 2) 晴海トリトンクリニックの現況晴海トリトンクリニックの現況
- 3) 葛飾医療センターの現況葛飾医療センターの現況
- 4) 第三病院の現況第三病院の現況
- 5) 柏病院の現況柏病院の現況

### 4. その他

- 1) 配布資料
  - (1) 教育・研究年報（2015）
  - (2) Research Activities（2015）
- 2) 評議員会の日程について
  - (1) 平成29年 5 月26日（木）午後 5 時  
平成28年度決算，平成28年度事業報告  
他
  - 3) 本院の活性化対策進捗状況について
  - 4) 診療情報共有改善検討委員会について
  - 5) 教職員の表彰について

## 11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

議 事 内 容	
<p>平成28年5月26日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成27年度事業報告</p> <p>2) 平成27年度決算</p> <p>3) 平成27年度監査報告</p>	<p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成27年度中に制定・改定となった規程類の件</p> <p>3) 西新橋キャンパス再整備について</p> <p>4) 同窓会選出大学役員報告</p> <p>3. その他</p> <p>1) 阿部正和先生を偲ぶ会について</p> <p>2) その他</p>
<p>平成29年3月16日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 中期目標・中期計画・平成29年度事業計画案の件</p> <p>2) 平成29年度予算案の件</p> <p>3) 大学本館・大学2号館・旧図書館の取壊し並びに高木会館の減築について</p> <p>4) 公益社団法人 東京慈恵会との覚書更改について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 病院報告</p> <p>3) 大学創立130年記念事業募金の中間報告</p> <p>4) 西新橋キャンパス再整備について</p>	<p>5) 薬事法（現医薬品医療機器法）違反（虚偽広告）に係る公判の件</p> <p>6) 一連の報道の件</p> <p>7) 診療情報共有改善検討委員会発足の件</p> <p>8) 本院の活性化対策について</p> <p>9) その他</p> <p>(1) 次回評議員会の開催について</p> <p>3. その他</p>

## 12. 監査室

### 1. 内部監査

平成28年度内部監査計画に基づき、以下の内部監査を計画通り実施した。

#### 1) 公的研究費

##### (1) 平成27年度分文部科学省関係

- ① 科学研究費助成事業
- ② 研究拠点形成事業（アジア・アフリカ学術基盤形成型）
- ③ ひらめき☆ときめきサイエンス
- ④ 橋渡し研究加速ネットワークプログラム
- ⑤ 研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）
- ⑥ 学術研究振興資金
- ⑦ 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
- ⑧ 間接経費

##### (2) 平成27年度分厚生労働省関係

- ① 厚生労働科学研究費補助金
- ② AMED 委託研究開発費
- ③ 循環器病研究開発費
- ④ 精神・神経疾患研究開発費

- ⑤ 子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金
- 2) 公的補助金
  - (1) 平成28年度分私立大学等経常費補助金（一般補助）
  - (2) 平成27年度分私立大学等経常費補助金（特別補助）
- 3) 公的研究費に関するモニタリング（期中監査）
  - (1) 平成28年度分公的研究費の執行・管理
    - ① 研究進捗状況について研究代表者へのインタビュー
    - ② 物品検収業務の立ち会い
    - ③ 換金性の高い物品の現物確認
    - ④ 非常勤雇用者の勤務状況確認
    - ⑤ 出張の事実確認
    - ⑥ 旅費の重複受給の有無確認（平成27年度分ならびに平成28年度分）
    - ⑦ 研究倫理に関する省令・倫理指針等の遵守状況
    - ⑧ GP事業会計手続きの適正性
  - (2) 平成29年度科研費応募要件の遵守状況（FD受講、申請書記載内容の確認〔業績・サイン等〕）
- 4) 業務監査
  - (1) 平成27年度担当業務年間報告書の点検
  - (2) 平成27年度学内研究費監査
  - (3) 監査法人トーマツの平成27年度監査覚書の指摘事項への対応確認
  - (4) 教室会計の管理状況の検証
  - (5) 平成27年度規程監査指摘事項のフォローアップ監査
  - (6) マイナンバー法施行に伴う特定個人情報等の運用・管理の適正性

## 2. その他

- 1) 監事ならびに監査法人に平成28年度内部監査結果を報告し、意見交換を行った。
- 2) 監事と共に監査法人から平成27年度決算の監査報告並びに平成27年度会計監査報告を受け、意見交換した。
- 3) 公益通報・相談窓口の対応
- 4) 研究適正化特別委員会の事務担当・委員会を4回開催
- 5) 学長アドバイザーのサポート業務・学内研究支援体制整備



## Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

# 1. 教授、その他の人事（平成28年4月～平成29年3月）

## 1) 平成29年3月31日付退任教授

氏名	旧所属	現在
中山和彦	精神医学	名誉教授
常岡寛	眼科学	名誉教授
福田国彦	放射線医学	名誉教授
相羽恵介	内科学講座(腫瘍・血液内科)	客員教授
山田尚	基盤研究施設(分子遺伝学)	
酒田昭彦	病理学	
横田邦信	大学直属	客員教授
落合和彦	産婦人科学	客員教授
大草敏史	内科学(消化器・肝臓内科)	客員教授
茅島江子	看護学科(母性看護学)	

## 2) 新任教授

氏名	所属	就任年月日	経歴	備考
猿田雅之	内科学講座担当 (消化器・肝臓内科)	平28.4.1	平成9年 本学卒	内科学講師より
武田聡	救急医学講座 担当	平28.4.1	平成3年 山梨医大卒	救急医学准教授より
高橋衣	看護学科 (小児看護学)	平28.4.1	平成24年 東京女子医大博士 後期課程満期退学	看護学科准教授より
鈴木正章	病理学	平28.4.1	昭和53年 本学卒	病理学教授(特任)より
下山恵美	麻酔科学	平28.4.1	昭和59年 千葉大医卒	麻酔科学准教授より
今津博雄	内視鏡科	平28.4.1	平成3年 旭川大医卒	内視鏡科准教授より
根本昌実	内科学(糖尿病・ 代謝・内分泌内科)	平28.5.1	昭和61年 本学卒	内科学准教授より
青木学	放射線医学	平28.8.1	昭和63年 本学卒	放射線医学准教授より
芦田ルリ	学術情報 センター	平28.8.1	昭和55年 聖心女子大卒	学術情報センター准教授 より
朝比奈昭彦	皮膚科学	平28.12.1	昭和62年 東京大医卒	皮膚科学准教授より
宮崎陽一	内科学(腎臓・ 高血圧内科)	平29.1.1	昭和62年 本学卒	内科学准教授より
内山眞幸	放射線医学	平29.1.1	昭和59年 本学卒	放射線医学准教授より
鈴木昭広	麻酔科学	平29.1.1	平成4年 旭川大医卒	麻酔科学准教授より
勝沼俊雄	小児科学	平29.2.1	昭和60年 本学卒	小児科学准教授より
橋本尚詞	解剖学	平29.3.1	昭和56年 東京医科歯科大	解剖学特任教授より

### 3) 名誉教授

氏名	所属	就任年月日	備考
小川 武希	大 学	平28.4.1	

### 4) 客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
西野 博一	大 学	平28.4.1	新宿住友クリニックセンター在任中
相澤 良夫	大 学	平28.4.1	医療法人誠高会おおたかの森病院在任中
亀岡 遵	国領校物理学研究室	平28.4.1	テキサスA&M大学在任中
濱中 喜代	大 学	平28.4.1	岩手保健医療大学在任中
高梨 秀一郎	心臓外科学	平28.5.1	榑原記念病院在任中
植田 真一郎	総合医科学研究センター 薬物治療学研究部	平28.10.1	琉球大学大学院医学研究科臨床薬理学在任中
坂本 優	産婦人科学	平29.1.1	杏雲堂病院在任中

### 5) 特任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
持尾 聡一郎	看護学科 (健康科学)	平28.4.1	特任期間：平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
内田 満	看護学科 (健康科学)	平28.4.1	特任期間：平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
杉本 健一	臨床検査医学	平28.8.1	特任期間：平成28年8月1日～ 平成31年3月31日
木下 智樹	外科学	平29.2.1	特任期間：平成29年2月1日～ 平成31年3月31日
石田 厚	外科学	平29.3.1	特任期間：平成29年3月1日～ 平成31年3月31日

### 6) 叙位・叙勲

佐々木 正峰 顧問 平成28年4月29日 瑞宝重光章

### 7) 訃 報

児島 忠雄 客員教授 平成28年6月24日 逝去  
 柳田 知司 客員教授 平成28年7月31日 逝去  
 伊丹 康人 客員教授 平成28年12月22日 逝去  
 丸毛 英二 名誉教授 平成29年1月27日 逝去  
 花岡 炳雄 元教授 平成29年2月27日 逝去

## 2. 教職員数

### 1) 教員数 平成28年5月1日現在

#### ① 医学科

専任教員 1,205名

(内訳) 本学を本務とする者 1,160名  
 日本クラブ診療所派遣中 3名  
 留学中 15名  
 休職中 27名

その他教員 1,592名

(内訳) 本学を本務とする者 299名  
 関連病院派遣中 670名  
 留学中 63名  
 休職中 169名  
 上記以外(名誉教授・客員教授・  
 講師(非常勤)) 391名

#### ② 看護学科

専任教員 37名

その他教員(名誉教授・客員教授・  
 講師(非常勤)) 27名

### 2) 初期臨床研修医数(平成28年4月1日現在)

1年 本 院 43名  
 " 歯科 3名  
 葛飾医療センター 8名  
 第三病院 20名  
 柏 病 院 31名  
 合 計 105名

2年 本 院 44名  
 " 歯科 2名  
 葛飾医療センター 6名  
 第三病院 19名  
 柏 病 院 24名  
 合 計 95名  
 総合計 200名

### 3) 職員数(看護師を含む)(平成28年5月1日現在)

大学 \* 238名  
 本院 \*\* 1,628名  
 葛飾医療センター 543名  
 第三病院 \*\*\* 777名  
 柏病院 \*\*\* 933名  
 計 4,119名

常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)

◆ 法人事務局、医学科国領校、看護  
 学科、慈恵看護専門学校を含む。

\*\* 晴海トリートメントクリニックを含む。

\*\*\* それぞれ看護専門学校を含む。

### 4) 看護師数(平成28年5月1日現在)

	正看	准看	その他*	計
法 人	3名	0名	0名	3名
大 学	1名	0名	0名	1名
本 院	1,092名	0名	44名	1,136名
葛飾医療センター	384名	1名	5名	390名
第三病院	524名	1名	7名	532名
柏 病 院	656名	0名	16名	672名
計	2,660名	2名	72名	2,734名

\* 事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

### 3. 教 育

#### 1) 医学部医学科学生数など（平成28年5月1日現在）

##### (1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
			男	女		
1	110	114	71	43	横井 勝弥 教授	委員長 石橋 由朗 准教授 副委員長 竹田 宏 講 師 <b>【委員】</b> 加地 正伸 教 授 (総合健診・予防医学センター・ 晴海トリトンクリニック) 秋山 政晴 講 師 (小児科学) 中澤 靖 講 師 (感染制御部) 長谷部恵子 看護師 (第三・感染制御室) 加藤順一郎 助教 (1年担当・内科) 館野 步 講 師 (1年担当・精神) 川井 真 准教授 (2年担当・内科) 横田 邦信 教 授 (3年担当・内科) 原 弘道 助 教 (4年担当・内科) 伊藤 周二 助 教 (5年担当・内科) 松尾 七重 助 教 (6年担当・内科) 宮田 久嗣 教 授 (2～6年担当・精神)
2	110	118	84	34	糸山 俊彦 教授	
3	110	110	67	43	池上 雅博 教授	
4	110	112	81	31	小島 博己 教授	
5	110	120	91	29	岡本 愛光 教授	
6	110	98	63	35	横尾 隆 教授	
計	660	672	457	215		

(国領校：114名 西新橋校：558名)

##### (2) 教学委員長 学生部長 大学事務部長

・教学委員長	宇都宮一典	教授
・副教学委員長	柳澤 裕之	教授
”	岡野 孝	教授
・学生部長	竹森 重	教授
・副学生部長	小島 博己	教授
”	横井 勝弥	教授
・大学事務部長	菊地 讓	

#### 2) 医学部看護学科学生数など（平成28年5月1日現在）

##### (1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学 年 担 当 学 生 委 員 等
			男	女	
1	60	61	0	61	委 員 内田 満 教 授 (保健指導担当)
2	60	60	2	58	” 清水由美子 講 師 (1年担当)
3	60	58	2	56	” 細坂 泰子 准教授 (2年担当)
4	60	61	1	60	” 佐竹 澄子 講 師 (3年担当)
計	240	240	5	235	” 草地 潤子 准教授 (4年担当)

##### (2) 教学委員長・学生部長・学事課

・教学委員長	田中 幸子	教授
・学生部長	高橋 衣	教授
・学 事 課	井出 晴夫	主事

### 3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成28年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会						
			男	女	委 員 長	副委員長	委 員	近藤 一博	大橋 十也	宇都宮一典	矢永 勝彦
1	66	48	34	14	松藤 千弥	中川 秀己	岡部 正隆	南沢 享	岡野(J)洋尚	井田 博幸	吉田 清嗣
2	66	27	16	11	学長	教授	教授	教授	教授	教授	教授
3	66	34	27	7							
4	66	35	26	9							
計	264	144	103	41							

### 4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成28年5月1日現在）

学年	定数	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会 （ 修 士 課 程 ）		
			男	女	委 員 長	委 員	専攻長
1	10	10	1	9	櫻井 尚子	佐藤 正美	茅島 江子
2	10	12	0	12	教授	教授	教授
計	20	22	1	21			

## 5) 大学および大学院など

### (1) 医 学 科

#### I. 教学関係

##### 1. 教学委員会

平成28年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員18名の計20名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成28年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：宇都宮一典（教学委員長）、柳澤裕之（副教学委員長）、岡野孝（副教学委員長）、竹森重（学生部長、学生担当委員長）、小島博己（副学生部長、学生担当副委員長、4学年担当）、横井勝弥（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、岡部正隆（カリキュラム委員長）、木村直史（試験委員長）、宮田久嗣（学生相談室委員長）、松浦知和（教育施設委員長）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、榎山俊彦（2学年担当）、池上雅博（3学年担当）、岡本愛光（5学年担当）、横尾隆（6学年担当）、南沢享（学術情報センター長・国際交流副センター長）、尾上尚志（チュートリアル委員長、4年次OSCE委員長）、福島統（カリキュラム自己点検・評価委員長、教育センター長）、中村真理子（教育センターIR部門）、石橋由朗（学生保健指導委員長）

##### 2. 平成29年度医学科の進級、卒業者

1年：進級	111人	留年	2人	休学	1人
2年： "	113人	"	3人	"	2人
3年： "	106人	"	2人	"	2人
4年： "	111人	"	1人		
5年： "	117人	"	2人	休学	1人
6年：卒業	97人	退学	1人		

以上の結果、平成29年度の学生数は1年-113人、2年-116人、3年-117人、4年-107人、5年-114人、6年-117人、合計684人

##### 3. カリキュラムの改訂と経過

平成27年度より、臨床実習拡充を目的に4年次以降のカリキュラムが大幅に改訂され、平成28年度は、新カリキュラム2年目として、平成28年9月より5年次の診療参加型臨床実習を開始した。診療参加型臨床実習は、医療チームの一員として、主体的に診療に参加し、その中で人と人とのふれあい、奉仕の心、医師の社会的使命等を学ぶ場としている。4週間単位で10診療科をロー

テートとし、内科、外科、小児科、産婦人科、精神神経科で実習する他、学生自身の自己計画により、いくつかの診療科の選択が可能となった。

#### 4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成28年7月5日（火）、平成28年11月21日（月）に開催された。学生会からのおもな報告は、前年度活動報告および会計報告、平成28年度東医体実行委員会報告、平成28年度学生会活動報告、学生による教員・教育評価活動報告、学生委員によるアンケート結果報告等であった。

#### 5. 第80回～第86回 Faculty Development

平成28年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

##### 第80回 Faculty Development

日 時：平成28年4月10日（日）、11日（月）

場 所：ホテルエバーグリーン富士

テーマ：スタートアップ宿泊研修

修了証受領者（30名、実行委員8名）

##### 第81回 Faculty Development

日 時：平成28年6月18日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（43名、実行委員6名）

##### 第82回 Faculty Development

日 時：平成28年6月26日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：地域医療者教育ワークショップ

修了証受領者（32名、実行委員3名）

##### 第83回 Faculty Development

日 時：平成28年7月16日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカルクラークシップ指導医養成

修了証受領者（40名、実行委員12名）

##### 第84回 Faculty Development

日 時：平成28年7月30日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：共用試験OSCE評価者トレーニング

修了証受領者（51名、実行委員11名）

##### 第85回 Faculty Development

日 時：平成28年11月12日（土）

場 所：国領校

テーマ：初年時教育に関するワークショップ

修了証受領者（37名、実行委員9名）

##### 第86回 Faculty Development

日 時：平成28年11月26日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：双方向性授業のためのスキルアップ

修了証受領者（38名、実行委員5名）

#### 6. 医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

##### 第60回医学教育セミナー

日 時：平成28年5月16日（月）

場 所：大学1号館6階講堂  
講 演：Transforming Medical Education  
講 師：Stuart Carney教授（KCL）  
参 加：51名

第61回医学教育セミナー

日 時：平成28年7月6日（水）  
場 所：大学1号館講堂（3階）  
講 演：① 新カリキュラムが目指すもの、② 教育病院での臨床実習の意義  
講 師：① 宇都宮一典 教学委員長、② 川村 哲也 臨床研修センター長  
参 加：151名

第62回医学教育セミナー

日 時：平成29年3月3日（金）  
場 所：大学1号館講堂（3階）  
講 演：① グローバルスタンダードが何を求めているか  
② 慈恵医大の新カリキュラムの概要  
③ 本学における診療参加型臨床実習  
④ 今後の展望—Post CC OSCEについて—  
講 師：① 福島 統 教育センター長、② 宇都宮一典 教学委員長  
③ 川村 哲也 臨床研修センター長、岡崎 史子 講師（教育センター）  
④ 川村 哲也 臨床研修センター長  
参 加：109名

第63回医学教育セミナー

日 時：平成29年3月24日（金）  
場 所：大学1号館講堂（3階）、第三病院ホールA・B、柏看護専門学校講堂、  
葛飾医療センター講堂A・B ※TV会議システムにて開催  
講 演：発達障害が疑われる学生への支援の方法  
講 師：小野 和哉 講師（精神医学講座）  
参 加：168名

7. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション・スタートアップ宿泊研修

平成28年4月8日（金）～11日（月）の期間で新1年生を対象としたオリエンテーションを実施した。8日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、カリキュラム、健康管理、学生生活の諸注意、学生生活アドバイザーとのグループ討論が行なわれた。10～11日は新入生全員を対象としてスタートアップ宿泊研修をエバーグリーン富士（富士吉田市）にて実施した。参加者は、学生170名（医学科110名・看護学科60名）、教職員41名の合計211名であった。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

平成28年度に首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づく特別科目等履修生の受入れを5名行ったが、単位認定には至らなかった。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成28年10月8日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ3～5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成28年8月27日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室および7階実習室で、CBTは平成28年8月19日（金）に西新橋校4階講堂で実施された。OSCE・CBTの受験者数は112名であった。CBTの再試験対象者は1名であった。

#### 6) 4 大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。今年度は、臨床実習の拡充を中心にカリキュラム全般に関する事、入学者選抜について、Post Clinical Clerkship OSCEに関する事、分野別認証評価受審後の対応について、3ポリシーについて、学生支援（留年時の対応等）等についての意見交換を行った。今後も継続して本交流会を開催する予定である。平成28年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第36回 平成28年6月1日（水）昭和大学

第37回 平成28年11月11日（金）東京慈恵会医科大学

#### 7) オープンキャンパス

医学科大学説明会は、8月の金・土曜日の連日と9月の土曜日の午後1時30分から開催した。終了後、大学1号館教育施設の見学と個別相談会の他、パネル展示や学生クラブ紹介ビデオの放映、模擬講義、英語による医療面接の見学を実施した。

1回目：平成28年8月12日（金） 中央講堂 参加者：約850名

2回目：平成28年8月13日（土） 中央講堂 参加者：約850名

3回目：平成28年9月24日（土） 中央講堂 参加者：約400名

#### 8) 教育施設

西新橋校では、大学1号館の各講堂、実習室のマイク設備と大学1号館講堂（3階）のビデオ録画システムを更新した。

#### 9) 大学設置基準認証評価受審

大学基準協会認証評価実地調査が平成28年10月3日（月）、4日（火）に行われ、大学基準に適合されていることが認定された。なお、認定期間は、平成29年4月1日～平成36年3月31日迄である。

## II. 入学試験

1. 入学試験は、平成29年2月5日（日）に五反田TOCビルで一次試験を、2月17日（金）・18日（土）・19日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月22日（水）午後3時に合格発表を行った。志願者数は2,035名、入学者数は110名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

① 男子70名、女子40名

② 現役52名、1浪45名、2浪10名、その他3名

③ 地域別入学者数

東京および関東地方	99名	甲信越・北陸地方	1名
東海・近畿地方	3名	山陽地方	2名
四国地方	2名	九州地方	3名

## III. 国家試験

### 1. 医師国家試験

第111回医師国家試験が平成29年2月11日（土）、12日（日）、13日（月）の3日間にわたって施行され、結果が3月17日（金）に発表され、本学は、99名中92名合格（92.9%）、新卒は97名中92名合格（94.8%）、既卒は2名とも不合格であった。

国・公・私立大学の全国総合順位では、第23位（前年は第4位）、私立大学だけでは第7位（前年は第3位）であった。他の私立大学の状況は、自治医科大学（100.0% 1位）、順天堂大学医学部（96.0% 2位）、慶応義塾大学医学部（95.6% 3位）、東邦大学医学部（94.7% 4位）、東京医科大学（94.4% 5位）、北里大学医学部（93.0% 6位）であった。

全国受験者総数は、9,618名、うち合格者8,533名で、合格率は88.7%（前年は91.5%）であった。

#### IV. 退任記念式典

平成29年1月31日（火）午後2時から大学1号館講堂において開催した。

常岡 寛 教授（眼科学講座）演題：「慈恵医大での47年一経験から伝えたい事」

中山 和彦 教授（精神医学講座）演題：「『自律と連続』の融合—その軌跡をたどる—」

福田 国彦 教授（放射線医学講座）演題：「放射線医学講座での出会いと学び」

相羽 恵介 教授（内科学講座（腫瘍・血液））演題：「記憶に残った言葉」

各分野で活躍された4名の教授の含蓄ある講義に学生及び教職員一同が大変感銘を受けた。次いで宇都宮一典教学委員長から同じく定年退任される5名の山田尚教授（基盤研究施設）、酒田昭彦教授（病理学講座）、横田邦信教授（医療保険指導室）、落合和彦教授（産婦人科学講座）、大草敏史教授（内科学講座（消化器・肝臓））の略歴が紹介され、松藤千弥学長より長年の大学への貢献に謝辞が述べられ記念品を贈呈した。また、同窓会、父兄会、医学科学生会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される教授を囲んで退任記念パーティーを「ホテルオークラ東京アスコットホール」にて開催した。会場には、教職員、同窓、学生など200名を超える参加があり、盛大なうちに会は終了した。

#### (2) 看護学科

##### I. 教学関係

##### 1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成28年4月～平成29年3月

教学委員長 田中 幸子

教学委員 高橋 衣、嶋澤 順子、梶井 文子、茅島 江子

##### 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成28年度は、1年生61名、2年生60名、3年生58名、4年生61名で新学期をむかえ、全学年が初めて定員60名で揃うこととなった。
- ② 平成28度オリエンテーションは、平成28年4月1日（金）から15日（金）にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、キャリア支援に関するシンポジウム、健康診断やカルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。また、医学科新入生と合同で、スタートアップ宿泊研修（4月10日、11日、山梨県富士吉田市）や救急蘇生実習を行った。
- ③ 平成28年4月9日（土）、学生が自身の知識獲得状況を確認し、今後の学習課題を明確にすることを目的に、2年、3年、4年生を対象に科目横断総合試験を実施した。
- ④ 平成28年5月7日（土）、看護学科4年生と医学科5年生による、医療倫理に関する共修演習を実施した。
- ⑤ 平成28年6月11日（土）、全学年の保護者を対象に、学生に関する情報交換会を実施した。
- ⑥ 平成28年7月13日（水）、学生・教学委員・学生委員・カリキュラム委員合同会議を開催した。
- ⑦ 次の期間に定期試験を実施した。
  - ・前期 平成28年6月25日（土）、平成28年8月19日（金）～25日（木）、  
9月12日（月）～15日（木）
  - ・後期 平成28年12月12日（月）、平成29年1月26日（木）～2月3日（金）
- ⑧ 平成28年8月27日（土）、24期生の「看護への思いを新たにする式」を、ご父母をお招きし、挙行した。
- ⑨ 平成28年10月8日（土）には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。

- ⑩ 英国キングスコレッジロンドンと慈恵の間で、交換留学が開始された。平成28年9月26日（月）～10月7日（金）に4年生1名がセントトーマス病院で、10月31日（月）～11月25日（金）にKCLの2年生1名が第三病院と本院で臨地実習を行った。
- ⑪ 平成28年10月28日（金）には解剖諸霊位供養法会が行われ、4年生が参加した。
- ⑫ 平成28年11月12日（土）、4年生の看護研究発表会が行われた。
- ⑬ 平成28年12月14日（水）、川田龍平氏（参議院議員）の講演会を開催した。
- ⑭ 平成29年3月4日（土）には医学科と合同の卒業式が西新橋で行われ、22期生59名、21期生1名の計60名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。
- ⑮ 平成29年3月1日（水）、兼任教員、非常勤講師を交え、講師会を開催した。
- ⑯ 平成29年3月5日（日）～3月13日（月）、3年生16名が米国オレゴン州ポートランドの看護研修に参加した。

## II. 入学試験

1. 平成29年度入学試験は、平成29年2月10日（金）に一次試験を、2月13日（月）に二次試験を実施した。志願者数は、520名、入学者は60名、その内訳は次のとおりである。
  - ① 女子 59名、男子 1名
  - ② 現役 56名、1浪 4名
  - ③ 地域別入学者数
 

北海道・東北地方	1名	東京および関東地方	56名
信越地方	1名	東海地方	0名
近畿地方	0名	中国・四国地方	0名
九州・沖縄地方	2名		
2. 平成28年度オープンキャンパスは、平成28年7月16日（土）と17日（日）の2日間実施し、参加者数は930名（前年比－189名）であった。また、11月6日（日）にミニオープンキャンパスも開催し、参加者は194名（前年比－44名）であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された大学ガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。
4. 高等学校2校（田園調布学園高等部、都立府中高校）へ訪問した他、新宿セミナー生が本校に來学し、模擬講義を行った。
5. 受験生獲得のため、受験生応援サイトを立ち上げ、プロモーションビデオを作成した。

## III. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験
 

第106回看護師国家試験は、平成29年2月19日（日）に、第103回保健師国家試験は、平成29年2月17日（金）に実施され、その結果が3月27日（月）に発表された。看護師国家試験は22期生59名、21期生1名が受験、60名全員が合格（100.0%）し、保健師は22期生19名が受験し、全員が合格した（100.0%）。

なお、全国の看護師国家試験合格率は88.5%、保健師国家試験合格率は90.8%であった。

## IV. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を実り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が5～6名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行った。学生アンケートの結果は好評であった。

## V. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかに対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成29年3月卒業生60名の進路の内訳は、次のとおりであった。

本学附属病院への就職	40名
進学	5名

保健師として就職	1名
他病院就職	14名
その他	0名

### (3) 大学院

#### 1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成28年度は以下のとおり実施した。

##### 1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成28年度は以下のとおりとなった。

###### ① 大学院研究助成金

- ・平成28年度採択件数：18件

###### ② 医学研究科研究推進費

- ・平成28年度採択件数：新規2件、継続2件

###### ③ 萌芽的共同研究推進費

- ・平成28年度採択件数：新規5件

##### 2) がん治療医療人養成コース

高度ながん医療を実施できる国際的な視野をもったがん専門医を養成するため、社会人大学院生を対象とした「がん治療医療人養成コース」を既存の悪性腫瘍治療学の授業細目に組み入れて募集を行った。志願者：0名

##### 3) カリキュラム内容の検証

- ・大学院にMD-PhDコースを導入するため、目的、コース名称、単位互換、入学資格、授業料、奨学金、研究費、広報等の検討が行われ、平成30年度より導入することとなった。
- ・大学院医学研究科博士課程の3ポリシーに、「国立がん研究センターとの連携大学院」と「MD-PhDコース」を追記し、ホームページに情報公開した。
- ・大学院（博士課程）共通カリキュラムの検証を行い、以下の内容を平成29年度に導入することとなった。

① 「医の倫理」のコマ数を7コマから8コマに増やし、研究費の取扱い等の講義を取り入れる。また、講義は倫理委員会講習会との合同開催であることから、出席状況の整合性を図るため、授業開始から30分以降の遅刻は欠席とすることとした。加えて、大学院生の理解力を図るため、テストまたはリアクションペーパー等を実施する。

② 「英語論文の書き方」を選択科目に新設し、慶応義塾大学の三宅力先生を招聘して講義することとなり、平成29年度共通カリキュラムのシラバスを作成した。

##### 4) 大学基準協会認証評価受審

- ・大学基準協会認証評価実地調査が平成28年10月3日（月）、4日（火）に行われ、大学基準に適合されていることが認定された。なお、認定期間は、平成29年4月1日～平成36年3月31日迄である。

##### 5) 国立がん研究センターとの連携大学院設置

- ・東京慈恵会医科大学大学院医学研究科における連携大学院に関する規程を制定し、平成28年4月1日より施行した。
- ・連携大学院教授として、分子腫瘍学4名、包括がん医学3名、計7名を任用した。

平成29年度の大学院（博士課程）入試は2回実施し、1回目は平成28年10月1日（土）に、2回目は平成29年1月28日（土）に実施した。その結果、42名（うち社会人8名）が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国立がん研究センター、国立成育医療センター、日本医科大学、東海大学、早稲田大学、横浜市立大学、

千葉大医学など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

## 2. 看護学専攻修士課程

平成28年度も継続して安定的な運営と各委員会との連携を密にして効率的運営に努めた。

### 1) 大学院教員・学生へFaculty Developmentの実施

平成28年度FDは、看護研究上の倫理的な課題を再考し、個々の看護研究の質の向上のために、看護計画・実施、論文執筆、投稿において研究者がもつべき倫理について理解を深めることをねらいとして開催した。本FD講演会は、公開FDとした。

講師：東京有明医療大学 看護学部 前田 樹海 教授

講演テーマ：看護における研究、論文執筆ならびに投稿における研究者の倫理

日時：平成28年9月24日（土）13：00—16：00

場所：大学管理棟9階カンファレンスA・B

### 2) 研究助成制度について

学生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度によるものと研究指導費からの助成により、研究活動の範囲や内容を高めることを図った。平成28年度大学院研究助成制度による研究助成採択者は10名。

### 3) 入学試験について

入学説明会を平成28年7月5日（火）に実施した。参加者は8名。

入学試験出願期間：平成28年8月1日（月）から8月31日（水）

出願資格認定試験：平成28年9月13日（火）に、口頭試問、課題レポートおよび書類審査を実施した。その結果、志願者は1名であり、合格した。

入学試験：平成28年9月18日（日）午前に専門科目および外国語（英語）、午後に面接を実施した。その結果、9名の応募があり、9名が合格した。

### 4) 修了生について

平成24年度入学生1名、平成26年度入学生1名、平成27年度入学生7名の合計9名の修了式を平成29年3月21日（火）に挙行了。

### 5) 教育課程の評価と改善

学生による授業評価は、講義終了後に科目責任者と履修生が講義内容について話し合いを持つ方式に改めて5年目を迎え、評価を踏まえ次年度担当教員を変更する等の着実な改善が速やかにできている。さらに、今年度から学生が記載する授業評価アンケート用紙に自由記載に加えて、量的評価5項目を設けて数量的にも目に見えるように改善を図った。

### 6) 専門看護師教育課程の改訂

がん看護学専攻の26単位課程は、高度実践看護師教育の質の向上を目指して38単位化（フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学、実習時間の450時間化）への移行を日本看護系大学協議会に申請し、承認された。

専門看護師教育課程を受講した6名が専門看護師認定試験を受験した。合格者は、急性・重症患者看護専門看護師1名、がん看護専門看護師2名の合計3名である。

### 7) 科目履修生

科目履修制度を利用した履修生は1名。がん看護学実習（6単位）を履修し、単位を取得した。

## 6) 慈恵看護専門学校の状況

### 看護専門学校学生数（平成28年5月1日現在）

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	94	101	108	303
慈恵第三看護専門学校	150	50	51	52	59	162
慈恵柏看護専門学校	240	80	84	81	79	244
計	690	230	229	234	246	709

## (1) 慈恵看護専門学校

### I. 教学関係

#### 1. 学校運営に関する会議

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長の4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任とカリキュラム委員6人で構成され月2回開催されている。
- ③ その他の会議は、教職員会議は定例月1回開催、教員会議が隔週で開催されている。

#### 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成28年度1年生(67期生)94名、2年生(66期生)101名、3年生(65期生)108名、合計303名で新学期をむかえた。
- ② 平成28年度オリエンテーションは4月6日から4月28日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防犯対策講習、防災訓練を実施した。
- ③ 授業・実習評価アンケート  
学生による授業・実習評価アンケートを基礎分野、専門基礎分野科目と、専門分野科目の講義及び臨地実習科目で実施し、結果について講師へ報告した。
- ④ 終講試験  
同時出題方式(本試験・再試験・追試験)の試験出題依頼を行い実施した。
- ⑤ 平成28年10月26～27日、3年生の学外セミナーを実施した。「ケアの本質」について話し合い、看護についての学びを深めた。
- ⑥ 平成29年3月8日(水)3年生の看護観発表会を開催した。
- ⑦ 平成29年3月11日(土)に東京慈恵会総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席の下に、65期生の卒業式が挙行され、100名が卒業した。

### II. 入学試験

#### 1. 平成29年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成28年10月19日(水)〔二次〕平成28年11月5日(土)  
一般選考〔一次〕平成29年1月18日(水)〔二次〕平成29年1月21日(土)  
志願者数は284名(推薦62名・大学卒41名・一般181名)で、昨年度より59名増加した。

#### 2. オープンキャンパスは、平成28年7月23日(土)・8月27日(土)の2回実施し、参加者数は367名(内訳は7月200名、8月167名)であった。

### III. 国家試験

第106回看護師国家試験は、平成29年2月19日(日)に実施され、その結果が3月27日(月)に発表された。65期生100名、既卒者1名が受験し、97名が合格、4名が不合格であった。

※既卒者は合格

## (2) 慈恵第三看護専門学校

### I. 教学関係

#### 1. 学校運営に関する会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

学校運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学生相談係、各学年主責任者、事務長で構成され、年間に6回定例で開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、教職員会議、卒業判定会議、単位認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム運営会議、臨床実習指導者会議等である。

#### 2. 教学関連の主な事項

- ① 平成28年4月5日(火)3校合同入学式を西新橋で挙行了。また当日併せて入学生の保護者会を開催した。平成28年度1年生(27期生)51名、2年生(26期生)52名、3年

生（25期生）59名計162名で新学期を迎えた。

- ② 平成28年6月8日（水）～10日（金）、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ③ 保護者会について、1年生対象を入学式当日の4月5日（火）および7月29日（金）、2年生対象を12月17日（土）、3年生対象を4月9日（土）および6月18日（土）に開催した。
- ④ 平成28年7月17日（日）、7月23日（土）、10月22日（土）（学校祭同時開催）の3回、オープンキャンパスを開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め570名であった。また、オープンキャンパスに参加できない者を対象とし、事務員が対応する個別面接を年間22回開催し、受験生および保護者を含め45名が参加した。
- ⑤ 平成28年7月8日（金）講師会を実施した。
- ⑥ 平成28年11月19日（土）、理事長同席のもと1年生51名の戴帽式を挙行了した。
- ⑦ 平成29年3月11日（土）2校合同の卒業式を西新橋で挙行了した。  
25期生52名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

## II. 入学試験

平成29年度入学試験は、推薦選考（指定校・公募）および大学卒選考を平成28年10月24日（月）・10月29日（土）、一般選考を平成29年1月15日（日）・1月17日（火）に実施した。

志願者数は推薦29名（内男子4名）、大学卒28名（内男子2名）、一般103名（内男子7名）、入学者は51名（内男子4名）であった。

なお、今年度より大学卒（含見込）を対象とした大学卒選考を開始した。

## III. 国家試験

第106回看護師国家試験は平成29年2月19日（日）に実施され、25期生52名が受験し全員が合格した。  
なお、全国の看護師国家試験合格率は88.5%であった。

### (3) 柏看護専門学校

#### I. 教学関係

##### 1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

##### 2. 教学関連の主な事項

- 1) 平成28年4月5日（火）、3校合同入学式を挙行了した（30期生：入学者84名）。
- 2) 平成28年度は1年生（30期生）84名、2年生（29期生）81名、3年生（28期生）79名の計244名で新学期を迎えた。
- 3) 平成28年4月2日（土）に、講師会を実施した。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 4) 平成28年4月6日（水）、平成28年度初めにあたり、全学生を対象に始業対面式を実施した。教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行ない、3年間の学習計画導入として行なっている。
- 5) 平成28年6月25日（土）に慈恵の看護専門学校3校の学生を対象に恵和会の特別講演が行われた。
- 6) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように1年次の5月と2年次の9月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施した。
- 7) 保護者の連携の充実を図るために国家試験に向けた学習支援の方針・理解と協力依頼を目的として、平成28年4月16日（土）に3年生の保護者を対象とした保護者会を開催、模擬試験の成績下位の保護者を中心とした保護者会を3回開催した。（4/16〔土〕、7/16〔土〕、11/12〔土〕）また、2年生の保護者を対象とした保護者会を平成28年11月5日（土）に開催した。

- 8) 平成28年11月26日(土)、1年生(30期生)の戴帽式を挙行了。(戴帽生83名)
- 9) 平成29年3月11日(土)、2校合同の卒業式を挙行了。28期生70名が卒業し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より、千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

## II. 入学試験

平成29年度入学試験は、推薦入試を平成28年10月14日(金)、10月22日(土)、一般入試を平成29年1月13日(金)、1月19日(月)に実施した。志願者数は、推薦75名(内男子3名)、一般154名(内男子19名)、入学者は90名(内男子3名)であった。

## III. 看護師国家試験

第106回看護師国家試験は平成29年2月19日(日)に実施され、28期生70名が受験し、69名が合格した(合格率98.6%)

なお、全国の看護師国家試験合格率は88.5%であった。

## 7) 卒後臨床研修

### 1. 臨床研修

- 1) 平成28年度臨床研修医として、医科102名(本学卒61名、他学卒41名)、歯科3名の計105名が採用され、平成28年4月1日より研修を開始した。

附属4病院の採用数の内訳は以下の通りである。

本院	46名	内訳：本学卒10名、他学卒36名(歯科3名を含む) 定員：一般45名、小児2名、産科2名、歯科3名(計52名)
葛飾医療センター	8名	内訳：本学卒6名、他学卒2名 定員：一般8名(計8名)
第三病院	20名	内訳：本学卒17名、他学卒3名 定員：一般18名、小児2名、産科2名(計22名)
柏病院	31名	内訳：本学卒28名、他学卒3名 定員：一般26名、小児2名、産科2名、総合2名(計31名)

- 2) 平成29年度臨床研修医(医科)の採用試験を平成28年7月30日(土)、8月20日(土)に本院にて実施した。平成29年度の募集定員は以下の通りである。

本院：51名(一般47名、小児2名、産科2名)、葛飾医療センター：11名、第三病院：23名(一般19名、小児2名、産科2名)、柏病院：32名(一般26名、小児2名、産科2名、総合2名)。附属4病院の定員である117名の採用を見込み381名のマッチング登録を行った結果、マッチ数は99名であった。柏病院の一般プログラムに6名の空定員が生じたため、追加募集を行い2名の応募があり、採用試験の結果1名を追加採用とした。

- 3) 平成29年度臨床研修歯科医の採用試験を平成28年8月27日(土)に本院にて実施した。定員3名のところ、8名のマッチング登録を行い、マッチ数は定員と同数の3名であった。

- 4) 採用予定者の大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果により、平成29年度臨床研修医採用数は、医科88名(本学卒41名、他学卒47名)、歯科3名となった。

附属4病院別の採用数は以下の通りである。

本院	42名	内訳：本学卒9名、他学卒33名(歯科3名を含む) 定員：一般47名、小児2名、産科2名、歯科3名(計54名)
葛飾医療センター	11名	内訳：本学卒8名、他学卒3名 定員：一般11名(計11名)
第三病院	18名	内訳：本学卒15名、他学卒3名 定員：一般19名、小児2名、産科2名(計23名)
柏病院	20名	内訳：本学卒9名、他学卒11名 定員：一般26名、小児2名、産科2名、総合2名(計32名)

- 5) 第13回研修指導医講習会を平成28年8月5日(金)、6日(土)の2日間にわたって開催し、

45名が受講を修了した。なお、本講習会は、厚生労働省の開催指針に基づき開催し、修了者には厚生労働大臣名および附属病院長名による修了証を授与した。

- 6) 他大学医学科生向けに病院説明会を2回開催し合計80名の参加者を集めた。  
第1回説明会 平成28年6月4日(土)  
第2回説明会 平成28年7月9日(土)
- 7) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する医学生のための臨床研修病院説明会に出展した。名称：レジナビフェア2016in東京 開催日：平成28年7月17日(日)  
※会場来場者数 2,676名(前年比-83) 本学ブース来場者149名(前年比-55)
- 8) 今年度のCPCを6月から11月にかけて計6回開催した。

開催回	開催日	担当科	臨床診断名
第738回	5月16日(月)	腫瘍・血液内科	MDS
第739回	6月6日(月)	循環器内科	急性肺塞栓症、ネフローゼ症候群
第740回	7月11日(月)	腎臓・高血圧内科	敗血症
第741回	9月5日(月)	外科	左乳癌
第742回	10月3日(月)	皮膚科	悪性黒色腫
第743回	11月7日(月)	消化器・肝臓内科	食道癌

## 2. 専門修得コース(レジデント)

- 1) 平成28年度は、レジデント143名〔本学初期臨床研修修了者82名、他施設初期臨床研修修了者61名(うち本学卒18名)]を採用し、各科にて専門修得コースの研修を開始した。
- 2) 平成28年4月30日付にてレジデント1名、5月31日付にて3名、9月30日付にて1名、11月30日付にて1名、12月31日付2名、平成29年1月31日付2名、2月28日付1名、3月31日付にてレジデント128名、リサーチレジデント3名の合計142名が専門修得コースを修了した。
- 3) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『初期研修医のための研修病院説明会・レジナビフェアfor RESIDENT 2016 in東京』(平成28年6月26日開催)に参加し、本学附属病院ブースの来場者は69名であった。
- 4) 平成29年度レジデントの採用試験を平成28年9月24日(土)に実施し、その後5回の追加試験を行った結果、141名(前年度-2)を採用した。採用者の内訳は次の通りである。  
本学初期臨床研修修了者75名、他施設初期臨床研修修了者66名(うち本学卒18名)

## 8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成29年3月現在193名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成28年度は200名である。
- 3) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
  - ① 第231回・平成28年4月9日(土)  
睡眠薬のアップデート 伊藤 洋(精神神経科)
  - ② 第232回・平成28年5月14日(土)  
片頭痛について 平井 利明(神経内科)
  - ③ 第233回・平成28年6月11日(土)

- |  |                  |
|--|------------------|
| B型・C型ウイルス性肝炎の病態と治療                             | 穂苺 厚史 (消化器・肝臓内科) |
| ④ 第234回・平成28年7月9日(土)<br>腰痛・肩こりと脊椎疾患            | 谷 諭 (脳神経外科)      |
| ⑤ 第235回・平成28年9月10日(土)<br>早期消化管癌に対する内視鏡診断治療の最前線 | 炭山 和毅 (内視鏡科)     |
| ⑥ 第236回・平成28年11月12日(土)<br>喘息とCOPDについて          | 中山 勝敏 (呼吸器内科)    |
| ⑦ 第237回・平成29年3月11日(土)<br>日常診療に役立つ認知症の基礎知識      | 忽滑谷和孝 (精神神経科)    |

4) 第37回夏季セミナー

「ここまで変わった痛みの治療」が平成28年8月6日(土)午後4時より中山和彦(精神神経科)の司会で行われ、参加者は72名であった。

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 最新脳科学でわかってきた痛みのメカニズム | 加藤 總夫 (神経科学研究部) |
| 2. 痛みの治療アップデート (漢方も含めて) | 廖 英和 (ペインクリニック) |
| 3. NSAIDsを中心とした薬物による腎障害 | 大野 岩男 (総合診療部)   |
| 4. 癌の痛みに対する緩和ケアの役割      | 下山 直人 (麻酔科)     |
| 5. がんの痛みのケアと看護の役割       | 角田真由美 (看護部)     |

## 4. 研究

### 1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および科学研究費補助金等公的研究費のほか各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会議に提案、報告している。また、研究倫理推進センターの指示に従い、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、適正な研究活動の管理と運用の徹底についての実務を担っている。
- ① 平成28年度の委員会は、委員長：靱山俊彦、委員：南沢享、松浦知和、高田耕司、横尾隆、吉田清嗣、梶井文子教授及び谷口郁夫専務理事で構成された。
  - ② 平成28年度文部科学省科学研究費助成事業（科研費）の採択件数及び総額は、合計145件、総額269,846千円（間接経費含む）であった。また、厚生労働科学研究費補助金・委託費の研究開発費等について採択後大学が経理事務を行った研究課題は、合計19件、総額にして43,142千円（間接経費含む）であった。国立研究開発法人日本医療研究開発機構の件数については、合計51件、総額にして267,861千円（間接経費含む）だった。その他各種民間財団等から公募があり大学を通じて応募、あるいは研究者個人が直接応募して報告を受けた助成金等は、22件（応募件数123件）、金額は25,500千円＋49,000ドルであった。（何れも平成28年度末時点でのデータ）
  - ③ 平成28年度科学研究費助成事業（科研費）に採択された研究者に対し学内説明会を開催した。
    - ・科学研究費助成事業使用説明会（平成28年6月7日（火）、6月18日（土）西新橋、6月13日（月）柏病院、6月10日（金）第三病院・国領校・看護学科）
  - ④ 公的研究費の適正な申請・使用に係るFDおよび科研費応募説明会（合同開催）を開催した。テレビ会議システム開催：平成28年9月13日（火）：（大学1号館、第三・国領校・看護学科、葛飾、柏病院）ビデオ開催（9月13日開催分の録画内容を使用）：①平成28年9月24日（土）（南講堂）、②平成28年10月4日（火）（大学1号館）
  - ⑤ 平成29年度研究経費関係予算の立案および研究機器等の選定を行った。
    - ・慈恵大学特別研究設備費
    - ・慈恵大学一般研究設備費
    - ・慈恵大学図書出版助成費
    - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
    - ・日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」
    - ・私立大学等経常費補助金（特別補助）
  - ⑥ 公募研究の学内選考を行った。
  - ⑦ 平成28年度「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」を平成28年9月29日（木）に文部科学省に提出した。「研究活動における不正行為への対応に関するガイドライン」に基づく取組状況に係るチェックリストを平成28年9月7日（水）に文部科学省に提出した。
  - ⑧ 研究費使用ガイド（第6版）を作成し、本学ホームページにも公開した。
  - ⑨ 研究倫理教育の一環として、公的研究費の申請・使用に係るFD（受講者総数724名）及び納品検収業務研修会（受講者数114名）を開催した。
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトへ申請選定等）を審議している。
- ① 平成28年度の委員会は、委員長：靱山俊彦教授、委員：丸毛啓史教授、桑野和義教授、井田博幸教授、水之江義充教授、嘉糠洋陸教授、加藤總夫教授、谷口郁夫専務理事で構

成された。

- ② 平成28年度は（公財）武田科学振興財団による「2017年度特定研究助成」の申請を当委員会で審査し、複数の申請希望者に対し、学内選考を実施し、申請者を決定した。
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
  - ① 平成28年度の委員会は、委員長：水之江義充教授、委員：加藤教授、桑野教授、丸毛教授、井田教授、嘉糠教授、岡部教授の各教授と谷口専務理事で構成された。
  - ② 平成28年度は3件の発明の届出があり、大学が承継することになった特許権等の権利は0件である。なお、出願している発明のうち、平成28年度国内特許登録となったものが、4件、海外特許登録となったものが2件あった。

## 2) 総合医科学研究センター

昭和40年（1965）以来、着々と整備され、研究成果をあげてきた共同利用研究施設は、平成7年（1995）に現在の総合医科学研究センター（以下センター）に改組された。その後、センターはいくつかの研究所の併設、新しい部ならびに施設の設立など、時代の要求に合わせて変遷を遂げた。平成26年（2014）にセンターは本学の研究を推進するために大きく改組され、これで組織的にも、また場所的にも混在していた様々な機能が研究支援部門と研究部、研究所の3つに明確に分かれ、大学一号館にほぼ集約された。現在5つの研究支援施設、10の研究部、2つの研究所よりなる。（詳細は以下のとおり）

本年度は総合医科学研究センターリトリートを平成28年9月24日（土）～25日（日）の両日に渡り和光純薬工業湯河原研修所にて開催した。当日は28名の参加者により17課題の発表が行われ盛況であった。

### ■支援部門

- 1) 基盤研究施設（分子細胞生物学）では基礎、臨床講座の教員などが登録して共用機器を使用したり、研究スペースを使用したりしている。また試料の形態観察、あるいは生化学的分析を中心とした受託サービスを行い、学内施設の研究を支援している。また利用者のニーズを把握するためユーザーを対象にアンケート調査を行った。本年度は目的を共有するためBSCにも参画した。
- 2) 基盤研究施設（分子遺伝学）は通常のDNAシーケンサーに加え、次世代シーケンサーを2機有し、今後発展が予測される学内ゲノム研究をバックアップしている。
- 3) 実験動物研究施設では、小動物、大動物の飼育に対応するとともに、本邦でも数台しかない小動物用9テスラーMRI装置、小動物用CT、エコー、発光・蛍光イメージングシステムなどを有し最新の画像的評価を可能にしている。また利用者のニーズを把握するためユーザーを対象にアンケート調査を行うと伴に使用料金を引き下げユーザーフレンドリーな施設を目指した。
- 4) アイソトープ実験研究施設は引き続き学内の研究をバックアップし、かつアイソトープを用いる研究が安全に行われるよう万全の体制で管理されており、安心して効率のよい正確な実験を行うことができるように配慮されている。
- 5) GMP対応細胞・ベクター産生施設はGMP準拠の細胞治療、遺伝子治療用の細胞、ベクターの産生が出来る施設であり、基礎研究より得られたシーズを臨床応用するための、トランスレーショナルリサーチを支えている。現在、細胞治療の臨床プロトコールが3つ行われており、今後益々需要が増える事が予測される。

### ■研究部門

- 1) 遺伝子治療研究部では遺伝性疾患、悪性腫瘍の遺伝子治療法の臨床応用を目指している。以前、本学で行われた私学としては初めての肺癌を対象とした遺伝子治療の臨床研究にも参画した。
- 2) 悪性腫瘍治療研究部は樹状細胞などを用いた癌の免疫療法の基礎ならびに臨床研究を行っており、膵臓癌、脳腫瘍の一部で著名な効果を上げている。
- 3) 分子免疫学研究部は基礎研究を続けてきたアレルギー緩和剤の開発が臨床研究の段階になり、

花粉症患者を対象にした臨床試験を行っている。

- 4) 医用エンジニアリング研究部は医療に用いられる次世代の工学技術を研究しており、現在はナノサイズのデバイスを用いたターゲティング画像診断・薬物治療の研究を行っている。
- 5) 神経科学研究部では、脳幹を中心とする神経伝達の分子メカニズムの解明とともに疼痛のメカニズムを解明するなど、本学の神経科学研究の中心的存在となっている。平成25年（2013）には文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援業事（課題名：痛みの苦痛緩和を目指した集学的脳医科学研究拠点の形成）を獲得し痛みを基礎、臨床両面より研究する学内の横断的研究基盤の中心的存在となっている。
- 6) 薬物治療学研究部は、ヒトを対象とした臨床薬理学的研究を行っており、GCPの運用と治験の倫理的、科学的な質の向上にも取り組んでいる。同時に部長は臨床研究支援センター・センター長を兼務しており学内の臨床研究を支援している。
- 7) 臨床疫学研究部では、臨床現場で働く医師の研究能力開発を目指しており、平成25年（2013）に採択された文科省の未来医療研究人材養成拠点形成事業（リサーチマインドを持った総合診療医の養成）で重要な役割を担っている。
- 8) 分子疫学研究部は臨床疫学と分子生物学手法を融合した研究を行っている。平成22年(2010)には、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（課題名：DNAマイクロアレイシステムを基盤としたエピゲノム臨床研究と分子標的薬リード創出）に採択され薬物治療研究部とともに推し進めていた。
- 9) 再生医学研究部は平成23年（2011）に新設された部ですが神経系の外傷や変性疾患に対する新規治療法の開発を目標にした研究を行っており、遺伝子改変による霊長類モデル動物の作成や体性幹細胞・iPS細胞などを利用した疾患の病態研究、臓器再建技術の開発に力を入れている。
- 10) 超音波応用開発研究部は、平成27年に超音波の脳梗塞治療への応用研究を担当する研究部として創設され、現在は非侵襲的超音波による脳梗塞再発予防法開発の研究や超音波を含む画像診断における人工知能を用いた診断支援の研究などを行っている。

#### ■ 研究所

- 1) 高次元医用画像工学研究所は国領キャンパス内にあり、種々の先端医療システムを開発し、人体動作の四次元解析や医用画像に関する研究開発を行っている。X線、CT、MRI、超音波などの二次元、三次元、あるいは四次元画像解析を行い、医学教育、外科手術、遠隔医療などに貢献しており、第三病院外科、整形外科、耳鼻科と共同で、新たな手術法の開発も行っている。
- 2) 臨床医学研究所は柏キャンパス内にあり、患者さん中心の医療が附属病院で実践できるように、臨床医学の研究を支援し、かつ、推進することを目的として柏病院に設置された。ここでは、隣接する柏病院の医師に研究の場を提供するとともに糖尿病のバイオマーカーに関する研究が行われている。東京大学、東京理科大学、癌センターなどの近隣施設との共同研究の発展も目指している。

## 5. 診 療

### 1) 病院概況

- (1) 本 院 (院 長：丸毛啓史  
副 院 長：谷 諭、井田博幸、浅野晃司、小島博己、安保雅博、小澤かおり  
事務部長：横山秀彦)
- (1) 患者数
- ① 外来1日平均患者数：2,747名（対前年度比－37名）
  - ② 入院1日平均患者数：866名（対前年度比－10名）
- (2) 病床利用状況  
平成28年度の病床利用率は稼働床1,050床に対して82.5%（昨年比－0.9P）、平均在院日数は、12.4日（昨年比－0.1日）であった。
- (3) 患者紹介率・患者逆紹介率  
平成28年度の紹介率は年間平均で医療法71.8%（昨年比＋0.1P）、保険法71.9%（昨年比±0P）であった。  
平成28年度の逆紹介率は年間平均で医療法51.5%（昨年比－1.2P）、保険法52.2%（昨年比－1.3P）であった。
- (4) 臨床研修
- ① 平成28年度初期臨床研修採用者は、医科43名（内訳：本学卒10名、他学卒33名）、歯科3名の計46名であった。
- (5) 行政監査・指導・検査
- ① 医療法第25条第1項による立入検査（東京都）（平成29年2月28日）
  - ② 医療法第25条第3項による特定機能病院立入検査（関東信越厚生局）（平成29年2月28日）
  - ③ 精神病院等実地指導（東京都）（平成29年2月28日）
- (6) 先進医療  
新規申請・承認（申請1件、承認1件）
- ① 十二種類の腫瘍抗原ペプチドによるテーラーメイドのがんワクチン療法（泌尿器科）承認【先進医療B】
- (7) 臨床研究、保険適用外診療（平成28年度審査状況）  
承認件数：新規申請150件、変更申請（期間延長など）126件
- (8) 病院改修について
- ・中央棟21階リニューアル（平成28年12月26日）
  - ・中央棟20階リニューアル（平成29年2月6日）
  - ・中央棟2階3 Tesla MRI新装置更新（平成29年2月12日）
  - ・ハイブリット手術室（中央棟手術室5室）更新（平成29年2月8日）
- (9) 地域がん診療連携拠点病院について（腫瘍センター事務局）  
腫瘍センター事務局として地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。緩和ケア外来診療可能日の追加、「生活のしやすさに関する質問票」を用いた苦痛のスクリーニング実施増加等、内外部の対象患者への対応について更なる改善が施された。その他、院内がん登録3,436件、がん相談741件、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会3回開催、市民公開講座2回開催、職員向けのがん就労支援院内研修会1回開催、腫瘍センターサロン交流会（がん患者とその家族の語らいの場（含むミニ講座））19回開催の実績を残した。5大がん＋前立腺がんのクリティカルパスの運用実績は76件であった。
- (10) 「東京慈恵会医科大学附属病院年報」の発刊について  
平成27年度版を平成28年10月に発刊した。配布部数約1,000部。（配布先：学内各部署、名誉教授、客員教授、学術連絡員、同窓会支部長、本学協力病院・関連病院、連携病院、全国医学部附属病院等）

(11) 院内感染対策

① 病棟ICT活動の深化

病棟ICT活動3年目の取り組みとなり、各病棟とICTによる年2回以上のミーティングを継続開催した。病棟ICT目標達成率は手指衛生:88.9%、医療関連感染:46.6%であった。その結果、下記の通りデータ改善が認められた。

- ・手指衛生指数:22.50(前年度比34.34%増)
- ・MRSA院内(不明含む)獲得率:0.17(前年度比32%減)
- ・MRSA菌血症:9件(前年度比2件減)

② 教職員への教育の強化

感染対策ベーシックレクチャーVer.7を計20回開催し、2,867名の出席があった。その他複数の教育を実施し、年間119回のべ受講者数8,075名であった。

③ 職業感染対策

針刺し・切創事例43件(前年度比19件減)、皮膚・粘膜汚染事例19件(前年度比2件減)であった。医師の事例は微増しているが、看護師の事例が前年度より21件減少しており、大幅な減少に繋がった。

④ ファシリティマネジメントの推進

耐性菌対策強化として、下記対策を実施した。

- ・UVC(環境紫外線照射器)の導入
- ・2病棟看護室手洗い場(4箇所)の手洗いシンクの変更
- ・清掃業者へ効果的な手洗いシンク清掃方法の再指導

⑤ 4病院感染対策の向上

4病院ICT会議を隔月実施し、各病院の問題点や事例の共有を図った。また、昨年度同様サイトビジットを継続実施した。

⑥ 私立医科大学感染対策協議会事務局・推進会議事務局としての責務を果たす。

総会、運営委員会、各専門職部会等の運営について中心となり活動を行った。

⑦ 感染防止対策加算病院との連携、支援

感染防止対策加算II病院と年4回のカンファレンスを開催するとともに、感染防止対策加算I病院(福岡大学病院、東京済生会中央病院、東急病院)と相互ラウンドを実施した。

(12) 保険関係承認・届出関係

- ① 医師事務作業補助体制加算1(100対1) (平成28年4月1日) ※新規届出
- ② 精神疾患診療体制加算 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ③ 地域連携診療計画加算 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ④ リンパ浮腫複合的治療料 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑤ 児童思春期精神科専門管理加算 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑥ 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑦ 乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑧ 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る) (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑨ 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る) (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑩ 腹腔鏡下仙骨脛固定術 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑪ 画像誘導密封小線源治療加算 (平成28年4月1日) ※新規届出
- ⑫ 精神リエゾンチーム加算 (平成28年6月1日) ※新規届出
- ⑬ 骨髄移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)) (平成28年6月1日) ※新規届出
- ⑭ 認知症ケア加算1 (平成28年7月1日) ※新規届出

- ⑮ 急性期看護補助体制加算25対1 (平成28年8月1日) ※変更届出(50対1から変更)
  - ⑯ 医師事務作業補助体制加算1(75対1)  
(平成28年9月1日) ※変更届出(100対1から変更)
  - ⑰ 特定機能病院一般病棟7対1(平成28年10月1日) ※変更届出(看護単位取り纏めRI・6Hと7H、20Hと21Hの取り纏め)
  - ⑱ 看護職員夜間配置加算 (平成28年10月1日) ※結果取り下げ
  - ⑲ 急性期看護補助体制加算50対1 (平成28年10月1日) ※変更届出(25対1から変更)
  - ⑳ 腹腔鏡下肝切除術(1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除、3区域切除以上のもの) (平成28年12月1日) ※新規届出
  - ㉑ 特別の療養環境の提供の実施(変更) 報告書※21H病棟リニューアルに伴う室料差額変更による変更 (平成29年1月6日)
  - ㉒ 特別の療養環境の提供の実施(変更) 報告書※20H病棟リニューアルに伴う室料差額変更による変更 (平成29年2月9日)
  - ㉓ 遺伝学的検査・遺伝カウンセリング加算 (平成29年3月1日) ※新規届出
- (13) 患者支援・医療連携センター
- ① 診療のご案内2016を発行した。 (平成28年6月)
  - ② 患者支援・医療連携センターだより「つなぐ つながる」を発行した。  
No.12(平成28年6月)、No.13(平成29年1月)
  - ③ 同窓開業医マップのバージョンアップを図った。 (平成28年6月)
  - ④ 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。  
・総会、作業部会(3回)、市民公開講座、医療従事者対象研修会を開催した。  
市民向け広報紙を発行した。 (平成28年6月～平成29年2月)
  - ⑤ 「働く人の健康支援研究会」を開催した。  
第5回 (平成28年9月、参加者130人)  
第6回 (平成29年3月、参加者302人)
  - ⑥ 教職員向け医療連携フォーラムを開催した。  
第1回 (平成29年1月、参加者150人)  
第2回 (平成29年2月、参加者130人)  
第3回 (平成29年3月、参加者120人)
  - ⑦ 「地域連携オープン講座」を4回開催した。(第7回～第10回)  
第7回「最新の褥瘡ケアについて」 (平成28年7月、参加者15人)  
第8回「最新の内科的肺癌治療と肺癌患者の在宅療養について」  
(平成28年9月、参加者18人)  
第9回「透析看護に関する知識の拡大と看護の実際」 (平成28年9月、参加者32人)  
第10回「がん末期患者の最新の栄養管理について」 (平成28年11月、参加者17人)
  - ⑧ 第4回看護スキルアップ講座「最新のストーマケア」を開催した。  
(平成28年10月、参加者23人)
  - ⑨ 子ども虐待対応チーム(CAPS)主催研修会を開催した。  
「医療機関における虐待対応の意義とは」 (平成28年12月、参加者42人)
  - ⑩ 「認知症看護の知識の拡大」とする研修会を開催した。 (平成29年1月、参加者11人)
  - ⑪ 経管栄養法の研修会を開催した。 (平成28年7月、12月)
- (14) 治験センター
- ① 治験の実施:前年度からの継続45件、新規承認29件(前年比+10件)、終了20件(-4件)であった。うち、医師主導治験は3件で過去最多となった。
  - ② 臨床試験への実施支援:4件  
臨床試験におけるCRC(Clinical Research Coordinator:臨床研究コーディネーター)の支援内容は、治験と同じく被験者対応、スケジュール管理や、データ収集と文書管理

等であった。

③ 臨床研究支援センターおよび倫理委員会事務局との連携

倫理委員会事務局業務等の支援を目的に、CRCおよび治験事務局スタッフが臨床研究支援センターと連携して、倫理委員会事務局業務に協力。治験および臨床試験の現状や両センターの役割拡大、協働について常に情報交換し支援体制を構築した。

④ 臨床試験に対するモニタリング実施体制の構築

臨床試験の実施支援とは別に、CRCがモニタリング担当者としてその業務を行うとともに、各試験のモニタリング担当者に対し、モニタリング計画の相談や指導、実施確認等を行い支援した。

- ・モニタリングの実施：4試験
- ・モニタリング計画の相談、確認業務等：16試験

(15) 診療体制の整備

① 文書カウンターにおける代行登録の実施

医師事務作業の軽減の一環として、平成23年5月18日外来棟1階外来会計内に設置して、診断書の代行登録を実施している。平成28年度は、生命保険診断書の84.8%を代行登録した。

② 病院救急車輛の運用

小児科を中心に患者搬送を12件（要請14件）行った。

(16) 患者サービス

① 外来待ち時間調査を実施した。

(平成28年11月17日)

② 外来患者満足度調査を実施した。

(平成29年2月20日～24日)

③ 入院患者満足度調査を実施した。

(平成29年2月1日～24日)

④ 入院患者向けフロアコンサート（高木会館1階ロビー）

- ・平成28年5月10日（火）一般財団法人ディレクト・フォースコーラス同好会
- ・平成28年10月18日（火）渡邊加奈さん、成田美紀さん、幟建友里さん
- ・平成28年12月10日（土）教職員等による有志

⑤ 中央棟20Hならびに21H病棟へのコンシェルジュ配置。

(平成29年2月6日)

⑥ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第47号（平成28年5月）第48号（平成28年7月）第49号（平成28年10月）第50号（平成29年1月）を発刊した。

⑦ 平成28年度「みんなの健康教室」を以下の日程で開催した。

※NHK放送博物館と共催（患者支援医療連携センター担当）

- ・第1回 日時：平成28年5月12日（木）（参加者合計：60名）
- ・第2回 日時：平成28年7月14日（木）（参加者合計：70名）
- ・第3回 日時：平成28年9月8日（木）（参加者合計：70名）
- ・第4回 日時：平成28年11月10日（木）（参加者合計：70名）
- ・第5回 日時：平成29年1月12日（木）（参加者合計：80名）
- ・第6回 日時：平成29年3月9日（木）（参加者合計：90名）

⑧ 不在者投票の実施

- ・平成28年6月12日の港区長選挙に対して、平成28年6月9日（木）に実施し、12件に対応した。
- ・平成28年7月10日の参議院選挙に対して、平成28年7月7日（木）に実施し、78件に対応した。
- ・平成28年7月31日の東京都知事選挙に対して、平成28年7月21日（木）に実施し、97件に対応した。

(17) 医療安全推進活動

① Team STEPPSの活用に向けた取り組み

Team STEPPSエッセンシャルコースを年間5回（年間参加者309名）開催し、概念の浸透を強化するとともに、Team STEPPSアドバンスコースを年間3回（年間参加

者74名)開催し、実践への連結強化をはかった。また、全病院を挙げた活動を目的としTeam STEPPS推進メンバーを主体とする取り組みを行い、年度末に全体発表会を行った。

② 安全文化の醸成を目指した研修会開催

職員対象のセーフティマネジメント基礎研修会を年間10回、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウムを年間3回行い、医療安全に関する総合的な知識の普及をはかった。また、職種や経験別に、管理者のための医療安全・感染対策研修会、初期臨床研修医対象研修会、レジデント対象研修会、新規採用教職員・転入職員対象研修会、派遣・委託職員対象研修会などを行った。

③ セーフティマネージャーを主体とした活動

医療安全推進活動の主体をセーフティマネージャー(SM)と位置づけ、SMが主体となり、院内全部署を一年間かけてラウンドすることで安全な医療体制の構築に努めた。またSMを中心に転倒転落・薬剤・中心静脈挿入・その他のワーキンググループを作り、それぞれに特化した集中的な安全推進活動を行った。

④ 個別対応の強化を目指した活動

個々の医療事故イベント防止を目指して、それぞれのイベントに特化した以下の研修会を行った。診療情報を確実に共有するための緊急研修会を4回、転倒・転落予防のための講習会を3回、窒息予防講習会を1回開催するとともに、画像診断読影結果未読対策検討会を26診療科で実施した。その他、褥瘡や栄養管理について、それぞれの担当部署と共同したセミナーを開催した。また、安全な中心静脈カテーテル挿入を目指して認定制度に向けた取り組みを行い、認定者の養成に努めた。

⑤ 他病院との連携強化に向けた取り組み

慈恵医大附属4病院間では定期的な4病院セーフティマネジメント会議を開催し、問題点の共有を図るとともに、相互ラウンドによる相互チェックを行った。慈恵医大附属4病院以外では、都内の私大病院間の連携強化を目的とした都内私大病院安全連絡会議(COMPASS)を、また、全国私大病院間の連携強化を目的に福岡大学病院との相互ラウンドを行った。

⑥ 特定機能病院承認要件見直しの対応

医療法施行規則の一部改正により特定機能病院承認要件の見直しが行われたため、関連部署と協力し、未承認薬新規医薬品等審査委員会、高難度新規医療技術審査委員会、医療安全監査委員会などを設置し新規承認要件を満たすための対応を行った。

(18) がんに関わる医師に対する緩和ケア研修会(年度3回)

- ① 第12回緩和ケア研修会 平成28年10月1日(土)～2日(日) 於:大学管理棟4階研修室  
修了者:医師26名(本学11名、他学15名)
- ② 第13回緩和ケア研修会 平成27年12月10日(土)～11日(日) 於:大学管理棟4階研修室  
修了者:医師25名(本学14名、他学11名)
- ③ 第14回緩和ケア研修会 平成28年3月18日(土)～19日(日) 於:大学1号館6階講堂  
修了者:医師38名(本学21名、他学17名)

(19) 慈恵ICLSコース, 慈恵BLSコース

① 慈恵ICLSコースを5回開催した。

日 時:	平成28年5月28日(土)午後1時30分～午後6時	葛飾	参加23名
日 時:	平成28年7月2日(土)午後1時30分～午後6時	本院	参加24名
日 時:	平成28年9月17日(土)午後1時30分～午後6時	第三	参加24名
日 時:	平成28年11月26日(土)午後1時30分～午後6時	柏	参加41名
日 時:	平成29年2月18日(土)午後1時30分～午後6時	本院	参加24名

- ② ICLS指導者ワークショップ（インストラクター更新要件）を1回開催した。  
 日 時：平成28年11月25日（金）午後6時～午後10時 柏 参加19名  
 平成28年11月26日（土）午前8時～午後0時
- ③ 慈恵BLSコースを年間5回開催した。  
 日 時：平成28年6月11日（土）午後3時～午後5時 参加9名  
 日 時：平成28年7月9日（土）午後3時～午後5時 参加10名  
 日 時：平成28年10月8日（土）午後3時～午後5時 参加20名  
 日 時：平成28年12月10日（土）午後3時～午後5時 参加11名  
 日 時：平成28年3月11日（土）午後3時～午後5時 参加13名
- ④ PBLコース（小児心肺蘇生コース）を3回開催した。  
 日 時：平成28年9月10日（土）午後1時～午後3時 参加16名  
 日 時：平成28年10月22日（土）午後1時～午後3時 参加17名  
 日 時：平成28年11月12日（土）午後1時～午後3時 参加18名
- ⑤ JAMPコース（緊急気道管理コース）を4回開催した。  
 日 時：平成28年6月18日（土）午後1時～午後7時 参加17名  
 日 時：平成28年8月13日（土）午後1時～午後7時 参加14名  
 日 時：平成28年10月1日（土）午後1時～午後7時 参加14名  
 日 時：平成28年12月3日（土）午後1時～午後7時 参加18名
- ⑥ 心肺蘇生に関する家族参加型市民公開講座を6回開催した。  
 日 時：平成28年4月23日（土）午後1時～午後3時 参加5名  
 日 時：平成28年6月4日（土）午後1時～午後3時 参加1名  
 日 時：平成28年8月6日（土）午後1時～午後3時 参加51名  
 日 時：平成28年10月8日（土）午後1時～午後3時 参加1名  
 日 時：平成28年12月17日（土）午後1時～午後3時 参加4名  
 日 時：平成29年2月4日（土）午後1時～午後3時 参加3名
- 20) 鏡視下手術トレーニングコース  
 鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験（STEP1計4回／受験者48名,STEP2計4回／受験者46名）及び技術判定審査（STEP3計2回／受験者27名※シルバー3名、ゴールド24名）を実施した。
- 21) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。  
 平成28年5月30日（月）献血者100名（申込者数118名）  
 平成28年11月24日（木）献血者94名（申込者数130名）
- 22) 慈恵医大晴海トリトンクリニック  
 慈恵医大晴海トリトンクリニック（所長：加地正伸）
- ① 外来1日平均患者数80人（対前年比－2人）  
 ② 健診1日平均健診者数26人（対前年比－1人）
- 23) 保険診療に関する講習会  
**【保険診療講習会】**
- |     |                                 |         |
|-----|---------------------------------|---------|
| 第1回 | 平成28年4月22日（金）基礎編「保険診療について」      | 大学1号館講堂 |
| 第2回 | 平成28年5月10日（火）診療録書き方講習会          | 大学1号館講堂 |
| 第3回 | 平成28年9月8日（木）内科系アドバンスコース講習会      | 中央講堂    |
| 第4回 | 平成28年10月28日（金）外科系アドバンスコース講習会    | 大学1号館講堂 |
| 第5回 | 平成28年12月13日（火）「保険診療の理解のために」     | 大学1号館講堂 |
| 第6回 | 平成28年12月16日（金）「査定状況及び診療録監査実施報告」 | 大学1号館講堂 |
| 第7回 | 平成29年2月6日（月）「指導の立場から」           | 大学1号館講堂 |

(2) 葛飾医療センター（院長：伊藤 洋、  
副院長：吉田和彦、児島 章、根本昌実、  
事務部長：伊藤敬夫）

(1) 患者数・病床利用状況

- ・ 1日平均患者数は外来1,156名（前年度比+3名）、入院324名（前年度比+13名）であった。
- ・ 病床利用率は稼働床359床に対して90.3%（前年度86.6%）、平均在院日数は11.7日（前年度11.7日）であった。

(2) 患者紹介率

- ・ 患者紹介率は医療法73.5%（前年度68.7%）、保険法68.8%（前年度63.4%）であった。

(3) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局他）

1) 施設基準届出

【新規】

- ① 退院支援加算 2 (平成28年4月1日)
- ② 精神疾患診療体制加算 (平成28年4月1日)
- ③ 乳房MRI撮影加算 (平成28年7月1日)
- ④ 看護職員夜間配置加算（看護職員夜間12対1配置加算1） (平成28年10月1日)

【変更】

- ① 超急性期脳卒中加算 (平成28年4月1日)
- ② 医師事務作業補助体制加算 2 (平成28年4月1日)
- ③ ハイリスク妊娠管理加算 (平成28年4月1日)
- ④ ハイリスク分娩管理加算 (平成28年4月1日)
- ⑤ 呼吸ケアチーム加算 (平成28年4月1日)
- ⑥ 小児入院医療管理料 2 (平成28年4月1日)
- ⑦ 高度難聴指導管理料 (平成28年4月1日)
- ⑧ 糖尿病合併症管理料 (平成28年4月1日)
- ⑨ 肝炎インターフェロン治療計画料 (平成28年4月1日)
- ⑩ 薬剤管理指導料 (平成28年4月1日)
- ⑪ 医療機器安全管理料 1 (平成28年4月1日)
- ⑫ 持続血糖測定器加算 (平成28年4月1日)
- ⑬ 検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅳ） (平成28年4月1日)
- ⑭ ヘッドアップティルト試験 (平成28年4月1日)
- ⑮ 皮下連続式グルコース測定 (平成28年4月1日)
- ⑯ 外来化学療法加算 1 (平成28年4月1日)
- ⑰ 無菌製剤処理料 (平成28年4月1日)
- ⑱ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） (平成28年4月1日)
- ⑲ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） (平成28年4月1日)
- ⑳ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） (平成28年4月1日)
- ㉑ 透析液水質確保加算 (平成28年4月1日)
- ㉒ 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術） (平成28年4月1日)
- ㉓ 網膜再建術 (平成28年4月1日)
- ㉔ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (平成28年4月1日)
- ㉕ 大動脈バルーンポンピング法（IABP法） (平成28年4月1日)
- ㉖ 体外衝撃波胆石破碎術 (平成28年4月1日)
- ㉗ 腹腔鏡下肝切除術 (平成28年4月1日)
- ㉘ 体外衝撃波膵石破碎術 (平成28年4月1日)
- ㉙ 腹腔鏡下膈体尾部腫瘍切除術 (平成28年4月1日)
- ㉚ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 (平成28年4月1日)

③①	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年4月1日）
③②	入院時食事療養（Ⅰ）	（平成28年4月1日）
③③	急性期看護補助体制加算 25対1（看護補助者5割以上）	（平成28年5月1日）
③④	組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合）	（平成28年5月1日）
③⑤	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	（平成28年5月1日）
③⑥	輸血管管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年5月1日）
③⑦	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年5月1日）
③⑧	エタノール局所注入（副甲状腺）	（平成28年7月1日）
③⑨	がん患者リハビリテーション料	（平成28年7月1日）
④⑩	運動器リハビリテーション（Ⅰ）	（平成28年7月1日）
④⑪	呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）	（平成28年7月1日）
④⑫	脳血管疾患リハビリテーション（Ⅰ）	（平成28年7月1日）
④⑬	乳房MRI撮影加算	（平成28年7月1日）
④⑭	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年7月1日）
④⑮	急性期看護補助体制加算 50対1	（平成28年8月1日）
④⑯	一般病棟入院基本料（7対1）	（平成28年8月1日）
④⑰	がん患者リハビリテーション料	（平成28年8月1日）
④⑱	運動器リハビリテーション（Ⅰ）	（平成28年8月1日）
④⑲	脳血管疾患リハビリテーション（Ⅰ）	（平成28年8月1日）
⑤⑰	呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）	（平成28年8月1日）
⑤⑱	急性期看護補助体制加算 25対1（看護補助者5割以上）	（平成28年9月1日）
⑤⑲	看護職員夜間配置加算（看護職員夜間12対1配置加算1）	（平成28年9月1日）
⑤⑳	医師事務作業補助体制加算1（40対1補助体制加算）	（平成28年9月1日）
⑤㉑	急性期看護補助体制加算 50対1	（平成28年10月1日）
⑤㉒	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年10月1日）
⑤㉓	ロービジョン検査	（平成28年11月1日）
⑤㉔	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年11月1日）
⑤㉕	乳房MRI撮影加算	（平成28年12月1日）
⑤㉖	心臓MRI撮影加算	（平成28年12月1日）
⑥⑰	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成28年12月1日）
⑥⑱	がん患者指導管理料	（平成29年2月1日）
⑥㉑	麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）	（平成29年2月1日）
⑥㉒	退院支援加算1	（平成29年3月1日）
⑥㉓	患者サポート体制加算	（平成29年3月1日）
⑥㉔	高エネルギー放射線治療	（平成29年3月1日）
⑥㉕	大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	（平成29年3月1日）
⑥㉖	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	（平成29年3月1日）
⑥㉗	がん性疼痛緩和指導管理料	（平成29年3月1日）

## 2) 報告関係

- ① 平成28年8月2日、関東信越厚生局へ「施設基準の届出状況等の報告」を提出した。
- ② 平成28年10月19日、関東信越厚生局へ医薬品取引価格の「妥結率に係る報告書」を提出した。

## 3) その他

- ① 平成28年10月11日、東京都福祉保健局へ地域医療指数（体制評価指数）の確認に係る「地域がん登録・救急医療等の参加状況について」の届出を行った。
- ② 平成28年10月24日、本館1階放射線部第2MRI撮影装置増設に伴い東京都福祉保健局（葛飾区保健所）へ病院開設許可事項一部変更許可申請書を提出し、10月28日付で許可となった。
- ③ 平成28年11月18日、関東信越厚生局へ地域医療指数（体制評価指数）の確認に係る「施

設基準の届出状況等に係る報告書」の届出を行った。

- ④ 平成28年12月8日、本館1階放射線部第2MRI撮影装置増設工事（その1）竣工に伴い東京都福祉保健局（葛飾区保健所）へ病院開設許可事項一部変更使用許可申請書（自主検査）を提出し、12月12日付で許可となった。
- ⑤ 平成28年12月8日、別館1階放射線治療放射化物保管設備の設置に伴い東京都福祉保健局（葛飾区保健所）へ病院開設許可事項一部変更使用許可申請書を提出、12月21日に使用前検査を実施し、12月27日付で許可となった。
- ⑥ 平成28年12月16日、本館1階放射線部第2MRI撮影装置増設工事に伴い高周波利用設備申請書を提出し、許可となった。
- ⑦ 平成28年12月28日、本館1階放射線部第2MRI撮影装置増設工事（その2）竣工に伴い東京都福祉保健局（葛飾区保健所）へ病院開設許可事項一部変更使用許可申請書を提出、平成29年1月19日に使用前検査を実施し、1月23日付で許可となった。
- ⑧ 平成29年1月31日、関東信越厚生局へ「酸素の購入価格に関する届出書」の届出を行った。

#### (4) 患者サービス

- ① 患者からの投書に対する回答（「患者さんの声」）の掲示場所を入退院・医療連携センター前から、本館1階正面玄関脇のご意見箱エリアに変更し、より多くの患者さんに見てもらえるよう改善した。
- ② 外来ブロック受付に並び順の患者導線を表示し、受付前の混雑や割り込みなどの患者相互のトラブルなど混乱の解消を図った。
- ③ 外来ブロックの主待合モニターに番号を付与し、患者さんへの案内をより明確にできるよう改善した。
- ④ 総合案内のパソコンの情報が患者さん等に見えないよう、目隠しフィルターを設置した。
- ⑤ 携帯電話の使用可能エリアについて、院内掲示並びに本館1階病院情報モニターと2階主待合モニターのテロップにて周知を図った。
- ⑥ セカンドオピニオンの概要について、本館1階病院情報モニターにて周知を図った。
- ⑦ 総合案内に、診療情報の開示、セカンドオピニオン、患者相談に関する対応窓口の表示を掲示した。
- ⑧ 各病棟ダイルームにご意見箱を設置した。

#### (5) 地域医療連携

- ① 平成28年11月12日、第7回医療連携フォーラム2016を当医療センター講堂にて開催した。
- ② 一般社団法人脳卒中地域医療連携パス協会に継続加入し、脳卒中患者のパスを運用した。
- ③ 葛飾医療連携センターニュースを3回発刊した。

#### (6) 工事関係

- ① 電子カルテシステム等更新に伴う付帯設備工事完了 平成28年8月6日
- ② 別館増築工事に伴う付帯工事完了 平成29年1月9日  
※建築基準法改正に伴う本館エスカレーター設備遡及対策工事
- ③ 第2MRI撮影装置設置に伴う付帯工事完了 平成29年1月12日

#### (7) 指導・監査

- ① 平成28年12月21日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第25条第1項の規定に基づく立入検査（放射線施設）が実施された。平成29年2月23日付にて結果が送付され、指摘・指導事項は特になかった。

#### (8) 防火・防災

- ① 平成28年6月17日、同月22日、新入職員・転入者を対象に、自衛消防マニュアル説明会を開催した。
- ② 平成28年7月28日、7階病棟において第1回自衛消防訓練を実施した。
- ③ 平成28年9月12日、本田消防署管内での自衛消防訓練審査会が開催され、葛飾医療センター自衛消防隊が1位となった。

④ 平成29年3月23日、8階病棟において第2回自衛消防訓練を実施した。

(9) 病床運用

特になし

(10) 医療安全・感染対策

<研修関係>

- ① 平成28年4月4日、1年目研修医を対象に医療安全の基本研修とオリエンテーションを実施した。
- ② 平成28年4月4日、1年目看護師を対象に安全管理の基本研修を実施した。
- ③ 平成28年4月18日、5月19日、6月1日、7月1日、9月5日、10月5日、11月7日、12月1日、平成29年1月11日、2月8日、3月3日新入・転入教職員を対象にセーフティマネジメント基本研修会を開催した。(6月以降はDVD研修会)
- ④ 平成28年4月26～28日、新採用者を対象に感染対策オリエンテーションを実施した。
- ⑤ 平成28年5月31日、6月15日、7月20日、8月19日、9月16日、10月11日、12月22日、平成29年1月19日、新入・転入教職員を対象に標準予防策と感染経路予防策研修会を実施した。
- ⑥ 平成28年6月4日、研修医を対象に超音波ガイド下CV挿入と管理研修会を実施した。
- ⑦ 平成28年6月8日、7月27日、8月8日、10月20日、看護部感染対策認定看護師スキルアップセミナーを開催した。
- ⑧ 平成28年6月20日、平成29年1月16日、感染対策基礎研修会「標準予防策 細菌学の基礎 正しい検体採取」を開催した。
- ⑨ 平成28年6月25日、研修医を対象にマキシマルバリアアプリケーション、PICCカテーテル挿入研修会を開催した。
- ⑩ 平成28年6月29日、第1回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「日常業務に潜むリスクの芽を安全の芽に」を開催した。7月22日、27日にDVD研修会を開催した。
- ⑪ 平成28年7月5日、感染対策セミナー「最近話題のウイルス感染症」を開催した。
- ⑫ 平成28年7月6日、平成29年3月6日MRI安全研修会を放射線部の協力のもと開催した。
- ⑬ 平成28年7月12日、感染対策部署別講習会「看護部看護補助員研修感染防止策・環境整備について」を開催した。
- ⑭ 平成28年7月12日、10月7日、感染対策基礎研修会「適切な抗菌薬治療について」を開催した。
- ⑮ 平成28年7月16日、感染対策部署別講習会「4機関栄養部新人研修 HACCPに基づく衛生管理について」を開催した。
- ⑯ 平成28年7月23日、研修医を対象にCVポート安全使用研修会を開催した。
- ⑰ 平成28年7月30日、10月7日、感染対策部署別講習会「看護部静脈注射研修 静脈注射に関する感染対策」を開催した。
- ⑱ 平成28年8月23日、感染対策部署別講習会「看護教員病院実習前オリエンテーション学校で流行る感染症と対策」を開催した。
- ⑲ 平成28年8月26日、感染対策部署別講習会「リハ科対象講習会 感染対策の基礎リハビリ室における感染対策」を開催した。
- ⑳ 平成28年9月7日医療ガスの基本と酸素ボンベの取り扱い研修会を開催した。
- ㉑ 平成28年8月29日、第1回薬剤安全セミナーを実施した。9月21日、27日DVD研修会を開催した。
- ㉒ 平成28年9月5日、感染対策部署別講習会「医学部病院業務実習前オリエンテーション 感染対策の基礎」を開催した。
- ㉓ 平成28年9月17日、11月26日、平成29年3月4日、葛飾医療センターチームステップス研修会を開催した。
- ㉔ 平成28年9月26日、感染対策基礎研修会「結核対策について」を開催した。

- ②⑤ 平成28年9月27日、NSTチームの協力のもと食の安全シンポジウムを開催した。
- ②⑥ 平成28年9月28日、緩和ケア研修会（DNARについて）を開催した。
- ②⑦ 平成28年9月29日、感染対策部署別講習会「中検対象講習会 感染対策の基礎 病棟採血シミュレーション」を開催した。
- ②⑧ 平成28年11月8日、感染対策部署別講習会「看護部看護補助員研修 ノロウイルス対策」を開催した。
- ②⑨ 平成28年11月10日、第2回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「医療安全をシステムで保証する～賢者の愚直～」を開催した。また、12月27日、平成29年1月13日にDVD研修会を開催した。
- ③⑩ 平成28年11月22・24・25日、感染対策部署別講習会「清掃委託業者対象講習会 院内清掃時の注意点・感染対策に関する院内規定（隔離、PPE等）」を開催した
- ③⑪ 平成28年11月24日、転倒・転落研修会を開催した。
- ③⑫ 平成28年12月6日、8日、9日、虐待・DVケースに関する講習会をAPチームの協力のもと開催した。
- ③⑬ 平成28年12月7日、感染対策基礎研修会「冬期流行性感染症対策」を開催した。
- ③⑭ 平成29年3月7日、感染対策セミナー「薬剤耐性菌のアウトブレイクとその後の対策」を開催した。
- ③⑮ 平成29年3月13日、第3回4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム「電子カルテだからこそそのインシデント・感染対策におけるTeam STEPPS」を開催した。3月22日、28日にDVD研修会を開催した。
- ③⑯ その他、臨床工学部等の協力のもと、医療機器安全講習会を13回開催した。内容は、人工呼吸器の適正使用（基礎編・応用編）、生体情報モニターの使用法、除細動器、チェストドレーンバック、超音波ネブライザー等である。

<院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係>

- ① 平成28年10月3日、4病院合同医療安全ラウンドで第三病院のラウンドを実施した。
- ② 平成28年11月1日～14日、医療安全推進週間中に病院幹部による各病棟、外来、中央診療部門、入退院医療連携センター等の医療安全ラウンドを実施した。
- ③ 平成28年11月30日、4病院合同医療安全ラウンドで柏病院のラウンドを実施した。
- ④ 平成28年12月5日、4病院合同医療安全ラウンドで各附属病院からのラウンドを受け入れた。
- ⑤ 平成28年12月8日、私立医科大学医療安全相互ラウンドで東京医科大学附属茨城医療センターを訪問した。
- ⑥ 平成28年12月19日、私立医科大学医療安全相互ラウンドで東京医科大学附属茨城医療センターが来院し、病棟、外来、中央診療部門等をラウンドした。
- ⑦ 平成29年3月16日、4病院合同医療安全ラウンドで附属病院のラウンドを実施した。
- ⑧ 上記以外に平成28年5月、6月、9月、10月、平成29年3月、セーフティマネジャーとともに院内安全ラウンドを実施した。

<その他>

- ① 術前合同カンファレンスを27症例開催した。
- ② 新治療実施検討部会を10症例実施し、病院運営会議に答申した。

(11) 成医会葛飾支部例会開催

- ① 平成28年6月18日、第115回成医会葛飾支部例会（メディカルカンファレンス、特別講演）
- ② 平成28年12月10日、第116回成医会葛飾支部例会（ポスター及び口頭発表、特別講演）

(12) 葛飾医療センター公開セミナー開催

- ① 第43回平成28年6月11日  
～見逃していませんか？～高齢者のてんかん  
(参加人数63名)
- ② 第44回平成28年9月10日

膵臓癌を語る～21世紀に残された難治性癌にどう立ち向かうか～  
糖尿病は万病の元なの??～毎日を元気に過ごすために～  
(参加人数119名)

- ③ 第45回平成29年2月18日  
加齢黄斑変性～放置すると失明につながる病気 あなたは大丈夫?～  
(参加人数153名)

(13) 症例検討会 (CPC) 開催

- ① 第53回平成28年9月13日 担当科:産婦人科  
「妊娠経過は順調であったが、40週4日目、突然の子宮内胎児死亡により、誘発分娩された女児の一例」
- ② 第54回平成29年1月12日 担当科:神経内科  
「Lambert-Eaton症候群の経過中、肺癌とその転移が出現、急速に進行し、肝不全、そして呼吸不全で死亡した一例」

(14) 病院運営

- ① 平成28年7月25日、葛飾医療センター納涼会を「テクノプラザかつしか」にて開催した。
- ② 平成28年9月28日、緩和ケア委員会の主催により「DNARについて」をテーマに、緩和ケア研修会を開催した。
- ③ 平成28年10月20日、平成29年度初期臨床研修医のマッチング結果が発表され、定員11名に対し11名のマッチングが決定した。(マッチング率100.0%)
- ④ 平成28年10月25日、「保険診療の基礎」「DPC制度の概要と注意点」をテーマに第1回の保険診療講習会を開催した。
- ⑤ 平成28年10月25日～28日、葛飾医療センター職員文化祭を開催した。
- ⑥ 平成28年12月20日、葛飾医療センター忘年会を「テクノプラザかつしか」にて開催した。
- ⑦ 平成29年1月30日より、第2MRI撮影装置が増設され運用が開始された。
- ⑧ 平成29年2月6日、7日に病院機能評価を初受審した。その後、平成29年3月15日に日本医療機能評価機構よりメールにて送信された中間報告では改善が必要となる項目(C評価)はなく、後日、正式な結果通知および報告書が届く予定である。
- ⑨ 平成29年3月14日、本院保険医療指導室より横田室長を招聘し「保険診療について」をテーマに第2回の保険診療講習会を開催した。
- ⑩ 平成28年度のBLS+AED講習会は、計8回開催した。

(3) 第三病院 (院長:中村 敬、  
副院長:古田 希、岡本友好、平本 淳、  
事務部長:峰 隆志、

(1) 患者数・病床利用状況

平成28年度1日平均患者数 入院467名(前年比-3名)、外来1,305名(前年比-27名)であった。紹介率 医療法61.7%(昨年度56.5%)・保険法61.7%(昨年度56.7%)、逆紹介率 保険法44.3%、平均在院日数14.0日(前年度14.1日)、病床利用率 許可床80.4%(前年度80.8)、稼働床81.3%(前年度81.7%)

(2) 医療連携

平成27年5月14日 第28回第三病院医療連携フォーラム  
「第三病院の脳卒中疾患に対する取り組み」  
「診療部紹介と診療トピックス①脳神経外科②病院病理部」

平成27年10月31日 第29回第三病院医療連携フォーラム  
「地域と連携した防災活動」

(3) 公開健康セミナー

平成28年6月4日 第76回公開健康セミナー「会話と食事を楽しもう」

- 平成28年10月1日 第77回公開健康セミナー「胃・大腸の内視鏡とがんの早期発見」  
 平成28年12月3日 第78回公開健康セミナー「こわくない！冬にはやる感染症」  
 平成29年3月11日 第79回公開健康セミナー「関節の痛みについて」
- (4) ちょうふ市内・近隣大学公開講座  
 平成28年7月6日 「気をつけたい中高年のお口の病気」  
 平成28年7月23日 「脱水・熱中症・大切なのは実は塩分。高齢者に必要な栄養とは」
- (5) こまえ市民大学医療講座  
 平成28年7月23日 「皮膚によくない日常生活の悪習慣」  
 平成28年9月10日 「耳から生じるめまい疾患」
- (6) 狛江市老人クラブ連合会健康セミナー  
 平成28年5月24日 「脳卒中ってどんな病気？」
- (7) 第三病院院内コンサート（入院患者向け）  
 平成28年7月9日 七夕ロビーコンサート「慈恵医大音楽部管弦楽団」  
 平成28年11月19日 クリスマスコンサート「慈恵医大音楽部管弦楽団及び看護学科学学生」
- (9) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局東京事務所）  
 平成28年4月15日 基本診療料の施設基準「退院支援加算Ⅰ」新規届出  
 平成28年4月15日 基本診療料の施設基準「精神疾患診療体制加算」新規届出  
 平成28年4月15日 特掲診療料の施設基準「心大血管疾患リハビリテーション料Ⅰ」新規届出  
 平成28年4月15日 特掲診療料の施設基準「乳腺悪性腫瘍手術」新規届出  
 平成28年5月31日 特掲診療料の施設基準「乳房MRI撮影加算」新規届出  
 平成28年6月30日 基本診療料の施設基準「認知症ケア加算Ⅰ」新規届出  
 平成28年7月31日 向精神薬多剤投与の状況報告（平成28年7月31日、10月31日、平成29年1月31日）  
 平成28年8月8日 施設基準の届出状況等の報告（定例報告）  
 平成28年8月8日 特掲診療料の施設基準「経口摂取回復促進加算」辞退届出  
 平成28年8月31日 特掲診療料の施設基準「1回線量増加加算」新規届出  
 平成28年10月31日 医薬品価格の妥結率に係る報告  
 平成28年11月30日 特掲診療料の施設基準「腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術」新規届出  
 平成28年11月30日 特掲診療料の施設基準「ロービジョン検査判断料」新規届出  
 平成28年12月29日 基本診療料の施設基準「精神疾患診療体制加算」辞退届出  
 平成28年12月29日 特掲診療料の施設基準「時間内歩行試験」辞退届出  
 平成29年2月15日 酸素の購入価格に関する届出  
 平成29年3月31日 地域歯科診療支援病院歯科初診料の報告  
 その他 施設基準に係る変更届出数44件
- (10) 工事関係  
 1) 第三病院  
 一高額施設計画 建物設備営繕費一  
 平成28年10月15日完了 本館4階及び本館屋上階防水工事  
 平成29年3月29日完了 第三病院本館4階医師当直室改修工事  
 平成29年3月31日完了 第三病院蒸気配管スチームトラップ修理工事  
 一高額施設計画 建物一  
 平成28年4月25日完了 第三病院電気設備更新工事  
 平成28年7月31日完了 第三病院9A病棟等空調設備更新工事について  
 平成28年7月31日完了 ナースコール設置工事（その2）（認可は前年度）  
 平成28年11月24日完了 栄養部食品冷蔵庫冷蔵設備更新工事  
 平成29年2月5日完了 第三病院本館手術棟電気室直流用電源装置用蓄電池更新工事



- 平成28年 5月 7日 輸血療法研修会 他 1月・2月 計 3回
- 平成28年 5月17日 医療機器安全講習会 年間計19回
- 平成28年 5月19日 医薬品安全管理セミナー 他 9月・11月 計 3回
- 平成28年 5月20日 人工呼吸器安全管理講習会 他 6月・7月・9月(2回)・11月・1月(2回) 計 8回
- 平成28年 5月28日 Team STEPPS講習会エッセンシャルコース他 5月・6月・8月・11月・2月 計 5回
- 平成28年 6月29日 第1回 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム
- 平成28年 7月 4日 中途採用・異動者への基礎講習会
- 平成28年 7月13日 虐待・DV症例講習会 他 7月19日 計 2回
- 平成28年 7月28日 褥瘡セミナー 他 9月・11月・12月・1月・3月 計 6回
- 平成28年 8月23日 CVCカテーテル挿入講習会 他 1月 計 2回
- 平成28年 8月29日 大腸内視鏡検査前処置勉強会 他 9月 2回 計 3回
- 平成28年 9月17日 二次心肺蘇生コール(慈恵ICLSコース)講習会
- 平成28年10月 1日 緊急気道管理コース(JAMPコース)講習会
- 平成28年10月14日 平成28年度第三病院医療安全シンポジウム
- 平成28年10月12日 第1回研修医裁判傍聴
- 平成28年11月11日 第2回研修医裁判傍聴
- 平成28年11月 1日 医療安全推進週間(11月1日～11月14日)
- 平成28年11月10日 第2回 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム
- 平成29年 1月17日 IPWG勉強会
- 平成29年 1月30日 私立大学医療安全相互ラウンド(昭和大学附属烏山病院より)
- 平成29年 3月13日 第3回 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム
- 平成28年 7月20日 BLS(一時救命処置)講習会 年間 計11回
- (16) 感染対策
- 平成28年 4月26日 DOTS会議 毎月1回開催し、年間12回開催
- 平成28年 5月30日 感染症・感染管理講習会 毎月2～3回開催し、年間38回開催 延べ1,108名が出席
- 平成28年 6月 7日 感染防止対策地域連携1-2カンファレンス 他 9月・11月・2月 計 4回
- (17) 救急・防災関係
- 平成28年 4月 1日 平成28年度の救急隊指導医として救急部大槻穰治他11名の医師が委任を受ける
- 平成28年 6月27日 消火・避難訓練 7A病棟(第1回目)
- 平成28年 9月14日 自衛消防訓練審査会出場 ユニディ屋上にて(3人操法・優秀賞)
- 平成28年11月 3日 平成28年度災害派遣医療チーム技能維持研修(DMAT)千葉(11月4日まで)
- 平成28年11月16日 粕江消防署依頼の救命救急士2名再教育実習受入れ(12月14日まで)
- 平成28年11月20日 粕江市・調布市災害時医療救護所設置訓練
- 平成29年 2月22日 粕江消防署消防査察(立入検査)
- 平成29年 3月 3日 消火・避難訓練 9A病棟(第2回目)
- (18) その他研修
- 平成28年 4月23日 防犯対策講習会
- 平成28年 5月16日 第1回メンタルヘルス研修会(新人向け)
- 平成28年 5月24日 第2回メンタルヘルス研修会(新人向け)
- 平成28年 7月 7日 4病院合同個人情報保護研修会
- 平成28年10月 6日 教職員研修①(クレーム対応力向上研修)

- 平成29年 1月21日 認知症サポーター養成講座
- 平成29年 2月 6日 院長説明会（研修医対象）
- 平成29年 2月13日 教職員研修②（コミュニケーション対応力向上研修）
- 平成29年 3月22日 個人情報保護研修会（H29／3／22,H29／3／23,H29／3／28）

(4) 柏病院（院長：東條克能、  
副院長：秋葉直志、吉田 博、小倉 誠、長谷川讓  
事務部長：相馬陽一）

(1) 患者数・病床稼働率・患者紹介率等

- ① 一日平均外来患者数：1,521名（前年度比－22名）
- ② 一日平均入院患者数：575名（前年度比＋13名）
- ③ 病床利用率：稼働床650床に対して88.4%（前年度稼働床650床に対して86.4%）
- ④ 平均在院日数：14.1日（前年度14.8日）
- ⑤ 患者紹介率：医療法74.0%、保険法74.1%
- ⑥ 逆紹介率：54.6%

(2) 保険関係承認・届出関係

1) 施設基準に係る届出（新規及び加算内容の変更等）については下記の通りである。

① 平成28年 4月 1日付

<基本診療料>

- ・変更 医師事務作業補助体制加算 1（75対 1）（区分 2 ⇒ 1 への変更）
- ・新規 精神疾患診療体制加算

<特掲診療料>

- ・辞退 がん患者指導管理料 2
- ・新規 乳房MRI撮影加算
- ・新規 乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）
- ・新規 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）

② 平成28年 5月 1日付

<基本診療料>

- ・変更 急性期看護補助体制加算（25対 1）（看護補助者 5割以上）（50対 1 ⇒ 25対 1）

③ 平成28年 6月 1日付

<特掲診療料>

- ・新規 がん患者指導管理料 3（新規）

④ 平成28年10月 1日付

- ・新規 認知症ケア加算（加算 1）（新規）
- ・変更 CT撮影及びMRI撮影（3テスラMRI機器の導入）

⑤ 平成28年11月 1日付

- ・新規 看護職員夜間配置加算（12対 1配置加算 1）

⑥ 平成29年 2月 1日付

- ・変更 急性期看護補助体制加算（50対 1）（25対 1 ⇒ 50対 1）
- ・新規 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術

2) 先進医療届出

平成28年度の届出は無し

3) 地域連携パス連携協力医療機関届出

平成28年度の届出施設は無し

(3) 診療体制

- ① 業務内容を明確にするため、平成28年 4月 1日付で「患者支援・医療連携センター」か

- ら「患者支援センター」に名称を変更した。
- ② 平成29年4月1日付で診療科に「救急科」を追加し、柏市保健所と関東信越厚生局に届け出を行った。
  - ③ 3テスラMRI装置を導入し、平成28年10月に運用を開始した。
  - ④ 認知症ケアチームを発足し、平成28年10月に運用を開始した。
  - ⑤ 4室（5 A514室、5 C546室、6 A614室、6 C643室）について一般個室から陰圧室へ変更した。（C棟：10月末に許可、A棟：12月に許可）
  - ⑥ 集中治療部の設置に向けて集中治療室運営WGを発足し、検討を開始した。
- (4) 患者サービス関連
- ① フロアコンサートについて  
平成28年11月26日（土）に合唱団みつばちによる、フロアコンサートを開催した。
  - ② 患者満足度調査について  
（外来分）平成29年2月20日～25日に外来患者を対象に実施した。  
（入院分）平成29年2月13日～28日に入院患者を対象に実施した。  
結果報告は平成29年度となるが、調査結果を基に患者サービス向上に努めたい。
- (5) 成医会柏支部例会
- ① 平成28年7月2日 第54成医会柏支部例会を開催した。
  - ② 平成28年12月3日 第55回成医会柏支部例会を開催した。
- (6) 症例検討会（CPC）
- ① 平成28年6月15日 第39回症例検討会（CPC）  
「肝障害に難渋した成人T細胞性白血病の一例」
  - ② 平成28年11月16日 第40回症例検討会（CPC）  
「原発性進行性失語症を呈した80歳男性剖検例」
- (7) 指導・監査
- ① 平成29年1月23日柏市保健所による医療法に基づく立入り検査（医療監視）が行われた。
  - ② 平成29年2月20日・22日・23日に監査法人トーマツによる会計監査が実施された。
- (8) 先進医療  
実施件数：3件
- (9) 個人情報保護関連
- ① 平成28年7月7日テレビ会議システムを利用した4機関合同研修会を開催した。  
講演テーマ：「医療現場における個人情報の取扱い」  
講師：東京海上日動メディカルサービス(株) 北川 明人氏  
同DVD研修会開催 平成28年8月30日、9月26日
  - ② 平成29年1月23日柏市保健所による医療監視が行われ、個人情報の保護、管理方法について確認が行われた。
  - ③ 各機関の統一を図るため、附属病院の規程に準じて一部が改訂され平成29年1月から施行された。
- (10) 地域がん診療連携拠点病院  
地域がん診療連携拠点病院の指定要件に沿った設備、機能の整備を図った。年2回の市民公開講座では地域の住民を対象に、のどのがん並びに乳がんについて医療知識を高める場を提供し、千葉県のがんに関する医療政策に貢献した。また、がん講演会ではがん患者やその家族に対し、院内のコメディカルスタッフにより社会保障制度や日常ケア等について知識を高める場を提供した。平成28年度の患者数および講演会等の開催回数は次のとおりである。
- ・外来患者延べ患者数：66,786名
  - ・入院患者実患者数：3,263名
  - ・地域がん登録件数：2,253名

- ・緩和ケアチーム介入件数124件
  - ・公開講座：2回
  - ・がん・緩和ケア交流会（患者交流会）：12回
  - ・がん講演会：6回
- (11) 東葛北部地域難病相談支援センター事業  
千葉県難病相談支援センター事業実施要綱に基づき県からの委託事業として、平成17年度より柏病院にて受託開始し、必須とされる7事業を運営している。平成20年度より難病患者・家族・関係機関を対象とした講演会を開催しており、平成28年度は第1回「炎症性腸疾患の食事療法～避けるべきもの、食べるべきもの～」、第2回「パーキンソン病関連疾患におけるリハビリテーション～セルフエクササイズと日常生活動作のポイント～」をテーマとして開催した。
- (12) 救命救急センター  
救急部と全診療科が連携し、救急患者の積極的な受け入れ体制を強化した。特に、救急室においては救急受入コールにトリアージナースが1次・2次救急を担当し、3次救急は救急医師による対応を継続した。
- ① 救急患者数推移
- 1次救急4,520名（前年度比－26名）
  - 2次救急2,738名（前年度比＋160名）
  - 3次救急941名（前年度比＋118名）
- ② 救急隊受入搬送件数  
4,808名（前年度比＋221名）
- (13)－1 医療安全管理  
インシデント・アクシデント報告件数は、2,291件で、Team STEPPSへの参加者数は206名であった。その他柏病院で開催した医療安全のための教育研修については以下の通りである。
- 1. セーフティマネジメント基礎研修会（医療安全・感染管理基礎研修会）：2回
  - 2. 4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム：3回
  - 3. Team STEPPS エssenシャルコース：6回
  - 4. 医療機器安全セミナー：13回
  - 5. MR安全講習会（放射線部）：6回
  - 6. 転倒・転落予防セミナー：2回
  - 7. 中心静脈カテーテル取扱いセミナー：1回
  - 8. 医療安全・感染対策セミナー：1回
  - 9. 医療安全推進週間  
平成28年11月1日～14日  
講演「医療安全をシステムで保証する一賢者の愚直一」
- (13)－2 感染対策
- 1. 新人教育：2回
  - 2. 委託業者教育：2回
  - 3. 感染対策セミナー
    - ① 毎月開催（計24回）感染対策セミナーベーシック 延べ1,271名参加
    - ② 各診療科における研修会（計21回）延べ210名参加
  - 4. 感染対策地域連携カンファレンス：4回
  - 5. 私立医科大学病院感染対策協議会総会
- (13)－3 医療安全・感染対策共催
- 1. 医療安全・感染管理基礎研修会：2回
  - 2. 医療安全・感染対策合同セミナー：1回

3. 附属4病院合同医療安全・感染対策相互ラウンド(柏病院受け入れ:平成28年11月30日)
  4. 私立医科大学附属病院間医療安全相互ラウンド  
組み合わせ病院:東京女子医科大学東医療センター
    - ① 平成28年12月19日(訪問)
    - ② 平成29年1月30日(受入)
  5. 委託業者・派遣職員教育 : 2回
- (14) 防火・防災
- ① DMATの活動
    - ・熊本地震における日本DMATロジスティックチーム派遣において、厚生労働省DMAT事務局より選出された隊員として、業務調整員1名を4月16日～20日まで熊本県庁DMAT調整本部へ派遣した。
    - ・8月6日に開催された政府主催合同防災訓練における大規模地震時医療活動訓練(三重・愛知・静岡・山梨)に1チーム4名と指定プレイヤーとして医師1名と看護師1名を静岡県藤枝市に派遣した。また訓練コントローラーとして医師1名を三重県、業務調整員を山梨県にそれぞれ派遣した。
  - ② DMATの整備(研修受講)
 

6月に開催された日本DMAT研修に業務調整員1名(薬剤師)が受講し、業務調整員が2名体制となった。また、11月に開催された千葉県限定災害派遣医療チーム(CLDMAT)研修に1チーム5名(医師1名、看護師2名、業務調整員2名)が受講し、組織の拡大と充実を図った。
  - ③ 防災訓練の実施
    - ・平成28年6月14日 6B病棟を中心とした6階フロアにて消防避難訓練を実施
    - ・平成28年12月13日 D棟4階フロアにて消防避難訓練を実施
  - ④ その他
    - ・平成28年9月2日 柏市自衛消防隊競技会に参加し、第3位となった。
    - ・平成29年2月25日 エマルゴ病院コースを開催した。
- (15) 工事関係
- ① 構内道路補修工事 (平成28年7月完了)
  - ② 3T-MRI装置設置に伴う附帯工事 (平成28年9月完了)
  - ③ 外気処理空調機5台更新工事 (平成28年11月完了)
  - ④ 病棟4室陰圧改修工事(5A514室、5C546室、6A614室、6C643室) (平成28年11月完了)
  - ⑤ 受水槽No.1・2及び消火ポンプ室更新工事 (平成28年11月完了)
  - ⑥ 設備棟(2) 2階第4電気室変圧器1台更新工事 (平成28年11月完了)
- (16) 初期臨床研修医関連  
平成28年度研修医は医師国家試験の結果、31名(一般プログラム25名、小児科医育成プログラム2名、産科医育成プログラム2名、総合診療能力重点研修プログラム2名)を採用した。よって、柏病院の研修医は平成27年度研修医24名と合わせて55名となった。
- (17) 行事・その他
- ① 平成28年7月 柏市地球温暖化対策条例に基づく削減計画実施状況報告書により、温室効果ガス排出量は基準年度の8,947t-CO<sub>2</sub>に対し、平成27年度9,105t-CO<sub>2</sub>で、1.8%増加を報告した。
  - ② 平成28年7月29日に納涼盆踊り大会を開催した。
  - ③ 平成28年10月19日に教職員の扶養児童を対象とした病児保育室ひまわりを開設した。
  - ④ 平成28年12月26日に病院忘年会を開催した。

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長		加地	正伸
新橋健診センター 診療部長（代行）		加藤	智弘
晴海健診センター 所長（兼務）		加地	正伸

1) 28年度実績（新橋健診センター）

年間受診者 17,529名

（内訳）

* 人間ドック	7,593名
* 入社健診	989名
* 定期健診	6,785名
* 特殊検診	1,662名
* 予防接種	194名
* その他	306名

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数（使用床）

（平成28年4月1日現在）

	本 院	葛 飾	第 三	柏	合 計
個 室	287	52	75	71	485
2 人 室	4	10	60	56	130
3 人 室 以 上	759	297	440	523	2,019
合 計	1,050	359	575	650	2,634
比率（内科系：外科系）	42:58	42:58	46:54	39:61	

(2) 病床数（届出床）

（平成28年4月1日現在）

	本 院	葛 飾	第 三	柏	合 計
個 室	293	52	75	71	491
2 人 室	4	12	60	56	132
3 人 室 以 上	778	301	446	537	2,062
合 計	1,075	365	581	664	2,685
比率（内科系：外科系）	42:58	42:58	46:54	39:61	

(3) 平成28年度診療実績

（平成28年度）

	本 院	葛 飾	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,747	1,156	1,305	1,521	106	6,835
一日平均入院患者数	866	324	467	575		2,232
利用率（稼働床）	82.4	90.3	81.3	88.4		84.7
予算達成率	95.8	106.0	100.2	101.5	97.9	99.2
紹介率 医療法	71.8	73.5	61.7	74.0	7.4	
” 保険法	71.9	68.8	61.7	74.1	2.2	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院（5病院）

（平成28年4月1日現在）

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構西 埼玉中央病院	成宮 学 (昭50)	小村 伸朗 (昭60)	48 (29)	325
2	富士市立中央病院	小野寺昭一 (昭47)	柏木 秀幸 (昭53) 鈴木 康之 (昭53・他学) 笠井 健司 (昭56) 諸岡 暁 (昭56)	90 (68)	520
3	厚木市立病院	山本 裕康 (昭60)	増淵 正隆 (昭59・他学) 鷺塚 朋子 (看護)	65 (60)	304
4	町田市民病院	近藤 直弥 (昭53)	羽生 信義 (昭53) 佐藤 裕 (昭53・他学) 金崎 章 (昭56) 櫻本千恵子 (昭59・他学)	89 (37)	447
5	東 急 病 院	徳留 悟朗 (昭56)		29 (23)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院 △印：専門修得コース関連病院) 平成28年4月現在

<b>※内科学講座（共通）</b>	町立津南病院 野村病院	国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 都立北療育医療センター 東京都立小児総合医療センター 国立成育医療研究センター 神奈川県立こども医療センター 狭山病院 総合母子保健センター愛育病院 総合母子保健センター愛育クリニック
○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 康心会汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 さいたま北部医療センター JCHO桜ヶ丘病院 国立病院機構東京医療センター 東京通信病院 新宿健診プラザ	<b>※腫瘍・血液内科</b> 川口市立医療センター がん研有明病院 佐々木病院 都立駒込病院 △国立がん研究センター中央病院	
<b>※総合診療部</b>	<b>※呼吸器内科</b> 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 国立がん研究センター中央病院 神奈川県立循環器呼吸器病センター さいたま赤十字病院 太田総合病院 太田睡眠障害センター △国立がんセンター中央病院	<b>※皮膚科</b> ○厚木市立病院 東京警察病院 NTT東日本関東病院 東京通信病院 国立国際医療研究センター病院 △虎の門病院 △自治医科大学病院
△東京都立多摩総合医療センター △川崎市立井田病院 △群馬大学医学部附属病院	<b>※精神医学</b> ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 栃木県精神保健福祉センター パナソニック東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療研究センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずのき病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院 小金井病院 大多喜病院 土浦厚生病院 八千代病院 大澤台病院	<b>※外科</b> ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 康心会汐見台病院 JCHO桜ヶ丘病院 がん研有明病院 埼玉慈恵病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 総合医療センター成田病院 金町中央病院 麻生総合病院 佐々木病院 第三北品川病院 安田病院 益子病院 川村病院 葛西昌医会病院 国際医療福祉大学附属病院 AOI国際病院 総合東京病院 新百合ヶ丘総合病院 いの町立国民健康保険仁淀病院 東京都立小児総合医療センター 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 三島中央病院 △仙台循環器病センター
<b>※消化器・肝臓内科</b> ○東急病院 パナソニック東京健康管理センター 松島病院大腸肛門病センター △国立がん研究センター中央病院		
<b>※神経内科</b> 東京都健康長寿医療センター △東京都立神経病院 △虎ノ門病院 △横浜労災病院 △国立病院機構東埼玉中央病院 △国立精神・神経医療研究センター △国立精神・神経医療研究センター病院		
<b>※腎臓・高血圧内科</b> ○東急病院 益子病院 川口市立医療センター 養生会かしま病院 足利赤十字病院 さいたま赤十字病院 日本鋼管病院 立川総合病院 国立病院機構千葉東病院		
<b>※リウマチ・膠原病内科</b> なし		
<b>※循環器内科</b> ○東急病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 湘南病院 大洗海岸病院 町立津南病院 古川橋病院 横須賀市立うわまち病院 太田総合病院	<b>※小児科</b> ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○町田市民病院 神奈川リハビリテーション病院 康心会汐見台病院	<b>※整形外科</b> ○国立病院機構西埼玉中央病院
<b>※糖尿病・代謝・内分泌内科</b> 衣笠病院 川口市立医療センター		

○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 国立病院機構宇都宮病院 豊島病院	医療法人恵愛会 恵愛病院 ※泌尿器科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 康心会汐見台病院 さいたま北部医療センター JR東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療研究センター 太田総合病院	化学療法研究所附属病院 北品川病院 梶原病院 国際医療福祉大学熱海病院 国際医療福祉大学三田病院 河北リハビリテーション病院 西広島リハビリテーション病院 九段坂病院 国立障害者リハビリテーションセンター病院 新天本病院
※脳神経外科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 東大宮総合病院 秋葉病院 麻生総合病院 宇都宮第一病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明德会佐藤第一病院 禎心会病院 国立病院機構東京医療センター 東横浜病院 横浜医療センター 川崎幸病院	※眼科 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 宇都宮記念病院	※放射線科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 康心会汐見台病院 日本赤十字社医療センター 那須赤十字病院 JR東京総合病院 星総合病院 荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院
※形成外科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 JCHO東京新宿メディカルセンター 都立駒込病院 埼玉県立小児医療センター がん研究会有明病院 埼玉成恵会病院	※耳鼻咽喉科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 康心会汐見台病院 がん研有明病院 湘南病院 聖路加国際病院 大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 JCHO東京新宿メディカルセンター 東京歯科大学市川総合病院 豊島病院 同愛記念病院 国立がん研究センター東病院 東部地域病院 国保旭中央病院 東京臨海病院 佐久総合病院	※麻酔科 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 ○東急病院 川口市立医療センター 国立病院機構宇都宮病院 康心会汐見台病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 国保旭中央病院
※心臓外科 ○富士市立中央病院 ○町田市民病院 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 佐久総合病院 国立病院機構埼玉病院 明理会中央総合病院	※内視鏡科 益子病院 松島クリニック 川村病院 医療法人社団青空会大町病院	※病理学 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院
※産婦人科 ○国立病院機構西埼玉中央病院 ○富士市立中央病院 ○厚木市立病院 ○町田市民病院 康心会汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療研究センター 立正佼成会附属佼成病院 こころとからだの元氣プラザ 谷津保健病院 東京都がん検診センター オーククリニック フォーミズ病院 東千葉メディカルセンター 恵愛生殖医療クリニック志木	※救急医学 △厚木市立病院	※救急医学 △厚木市立病院
	※リハビリテーション科 ○東急病院 神奈川リハビリテーション病院 東京通信病院 東京都立墨東病院 とちぎリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院 初台リハビリテーション病院 健貢会総合東京病院 牧リハビリテーション病院 京都大原記念病院 清水病院	※歯科 ○町田市民病院 さいたま北部医療センター
		※感染制御部 康心会汐見台病院 △国立国際医療センター △横浜州市立市民病院
		※法医学 東京都監察医務院
		※分子生理学 東京歯科大市川総合病院

## (3) 特殊派遣機関（7機関）

（平成28年4月1日現在）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日 本 航 空 イ ン タ ー ナ シ ョ ナ ル	内 科	衆 議 院 診 療 所	内 科
	精 神 医 学		皮 膚 科
	整 形 外 科		眼 科
	放 射 線 医 学		耳 鼻 咽 喉 科
	眼 科	出 版 健 康 保 険 組 合 診 療 所	内 科
	耳 鼻 咽 喉 科		眼 科
全 日 空	内 科	東 京 国 税 局 診 療 所	内 科
	整 形 外 科		精 神 医 学
	眼 科		外 科
	耳 鼻 咽 喉 科	国 土 交 通 省 航 空 局	内 科
	内 視 鏡 科		
航 空 医 学 研 究 セ ン タ ー	内 科		
	精 神 医 学		
	眼 科		
	耳 鼻 咽 喉 科		

## (4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

（平成28年4月1日現在）

病 院 名	科 名
英 国 ロ ン ド ン 日 本 人 ク ラ ブ	内 科
	小 児 科

## 6. 学術情報センター

学術情報センター長	南沢 享 (細胞生理学講座)	(平成28年4月から)
学術情報センター図書館国領分館長	香月 毅史 (精神看護学)	(平成28年4月から)
学術情報センター標本館委員会議長	橋本 尚詞 (解剖学講座)	(平成20年4月から)
学術情報センター国際交流センター長	福田 国彦 (放射線医学講座)	(平成27年4月から)

### 1) 平成28年度統計 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

#### (1) 図書館

① 蔵書冊数	264,083冊
② 現在受入雑誌数	704種 (和600種、洋104種)
③ 電子ジャーナル提供数	6,326種
④ 館外貸出冊数	8,819冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出2,245件 借受1,947件
⑥ 複写サービス	54,716枚 (代行複写、相互貸借 (他館への提供)、 附属病院へのFAX送信、セルフコピーの合計)
⑦ 情報検索サービス	88,390件 (代行とセルフサービスの合計)

#### (2) 国領分館

① 蔵書冊数	91,375冊
② 現在受入雑誌数	354種 (和298種、洋56種)
③ 館外貸出冊数	9,217冊 (視聴覚資料含む)
④ 複写サービス	639件 (西新橋・葛飾・柏へのFAX送信)

#### (3) 標本館

① 所蔵標本数	マクロ標本 1,568点
	顕微鏡標本 2,549点
② 所蔵視聴覚資料	ビデオ・プログラム 1,894セット
	スライド・プログラム 601セット
	16mmフィルム 37セット
	コンピュータ・ソフトウェア 71セット
	語学プログラム 206セット
	その他 79セット

③ 見学者数	1,005名 (学内94名、学外911名)
--------	-----------------------

#### (4) 史料室

① 所蔵史料	3,131点
② 見学者数	181名 (学内47名、学外134名)
③ 調査・回答	233件 (学内162件、学外71件)

#### (5) 写真室

① 撮影・スライド作成	92件 (3,435枚)
② レントゲンフィルム複製	1件 (2枚)
③ ビデオ編集	52件 (274時間)
④ カラープリント出力 (ポスター作成含む)	691件 (12,935枚)
⑤ 35mmスライドのデジタル化	17件 (820枚)

#### (6) 国際交流センター

① 海外選抜実習	派遣14名 (男子6名、女子8名) ※協定校への派遣のみ (米国5、英国、台湾各4、ドイツ2) ※1名は米国と英国 受入102名 (男子44名、女子58名)
----------	--

(英国23、ニュージーランド10、台湾、香港、フィリピン、オーストラリア各8、ドイツ7、タイ、マレーシア各5、インドネシア4、中国3、ジンバブエ2、他10)

(消化器外科17、救急科15、放射線科13、産婦人科11、麻酔科9、小児・血管外科、脳神経外科各7、皮膚科、小児科、呼吸器・乳腺・内分泌外科各6、腎臓・高血圧内科、消化器・肝臓内科、形成外科各5、整形外科4、糖尿病・代謝・内分泌内科3、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、内視鏡科、第三病院看護部各2、他4)

② International Cafe (海外からの選択実習生と本学学生、教職員との交流会)

開催：52回、参加者：のべ844名

③ 医学科学生の英語 OSCE

開催：1年生 2回、4・5年生 4回

2) 主な事項

(1) 医学部学生および大学院生の演習の担当

医学科1年生の「情報検索演習」、2年生の「医学総論」、医学科3年生「医学統計学Ⅱ演習」、看護学科1年生の「総合演習」、看護学科3年生の「研究方法論：文献検索実習」での情報検索演習、看護学科1年生の図書館オリエンテーション、大学院医学研究科看護学専攻修士課程1年生への演習を担当した。

(2) 教職員等を対象とした情報検索演習

教育センターによる附属4病院の在職看護師を対象とした「エデュケーションナース研修」(9月5日)と「看護監督者研修」(12月6日)、東京慈恵会による学外の看護教育関係者を対象とした「教務主任養成講習会」(6月23日)で情報検索演習を担当した。また、教職員を対象としたデータベース講習会を2回実施し、延べ39名の参加があった。

(3) ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス(Auto Alertサービス)を引き続き実施している。また、新聞4紙から医療および大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービス(平成16年12月開始)も継続した。

(4) 学術リポジトリの構築

学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開するためのシステムである学術リポジトリの運用を担当している。『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『Research Activities』の最新の内容を登録し、インターネット経由で参照できるようにした。また、学事課との協力により学位論文要旨に加え、主論文についても学術リポジトリによるインターネット公開を開始した。なお、学位規則変更にもともなう学位論文の電子公開に関して、転載許諾手続きについての問い合わせ先として編集室が指定された。平成28年度の来館・電話・メール等での対応は17件であった。

平成28年度の学術リポジトリへの登録件数は367件で、利用状況は閲覧1,134,787件であった。

(5) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2015(第35号)』および『Research Activities 2015』の編集

両年報の編集作業を担当した(両年報とも3月1日発行)。

(6) 教員評価システム管理委員会に関する取り組み

教員評価システムがリプレースされることとなったため、教員・医師人事室、システム課と協力して業者との打合せを進め、業績データの管理に関する部分のシステム仕様をまとめた。基本部分のリプレースは終了したが、本学での使用の事情に応じた調整が必要となり、実運用は次年度の課題となった。

(7) 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による

以下の講習会の開催を担当した。これらの講習会は大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねている。

- ・「How to get acceptance.-Corresponding author と Associate Editor の立場から」（5月17日）（参加95名）  
小嶋聡一客員教授（臨床検査医学講座）
- ・「医学英語論文の書き方ー自験例を中心に解説するー」（5月19日）（参加77名）  
浦島充佳教授（総合医科学研究センター分子疫学研究部）
- ・「How to write abstracts」（5月26日）（参加71名）  
岡崎真雄教授（学術情報センター医学英語研究室）
- ・「外国特許出願を意識した論文作成」（5月31日）（参加64名）  
小原平教授、染谷悦男非常勤講師（英語研究室）  
（開催時間は、いずれも18時～19時30分）

(8) 総合展示の開催

以下4テーマの展示の提供をいただき、1月23日（月）～2月3日（金）に大学1号館ロビー、高木会館ロビーにて開催した。

「私のがん研究のあゆみ」

山田尚教授（基盤研究施設（分子遺伝学））

「全人的医学・医療におけるCPC（clinicopathological conference）の意義」

酒田昭彦教授（病理学講座・葛飾医療センター 病院病理部）

「生活習慣病発症要因としてのマグネシウム不足の重要性～2型糖尿病・メタボリックシンドロームを中心に～」

横田邦信教授（医療保険指導室）

「私の研究人生 DSS腸炎からピロリ菌、腸内細菌学へ」

大草敏史教授（内科学講座（消化器・肝臓内科）・柏病院 消化器・肝臓内科）

(9) 教材・研究資料の作成支援

学内教職員・学生、同窓生を対象に、静止画・動画の撮影、画像データのデジタル編集、ポスター作成、ビデオ編集、35mmスライドのデジタル化の各サービスを実施した。

(10) レントゲンフィルムの複製

教育・研究用、病院保管用の資料作成、他病院・関連機関への情報提供のためのレントゲンフィルム複製の業務を担当した。なお、本業務は使用機器のサポート及び消耗品販売の中止に伴い、平成28年度末をもって終了となった。

(11) 広報活動支援業務

学内行事および広報用の写真撮影、画像データの保管・提供を担当した。

(12) リモートアクセスサービスの提供

大学ネットワーク上で利用可能となっている電子ジャーナルおよびデータベースを学外（自宅や派遣先）からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」（平成21年度開始）の利用者登録とサポート作業を行った。平成28年度の新規登録者は352名で、平成28年度末までに利用登録者は2,525名となった。

(13) 「東京慈恵会医科大学130年史（平成23年度発行）」関連の業務

掲載内容に関する問い合わせへの対応、130年記念事業寄付者へ送付確認作業を担当した。

(14) 西新橋再整備計画「図書・講堂スモールワーキンググループ（SWG）」への参加

平成26年度から引き続き図書・講堂SWGに参加し、図書館移転計画案の作成に取り組んだ（再整備統括会議にて、高木会館は耐震対策と減築を行い存続することが決まり、図書館は移転せず、標本館はF棟へ移転することになった）。

(15) 史料室の展示資料の燻蒸・修理、展示ケースの清拭

史料室の展示資料にカビの発生が確認され、専門業者による燻蒸処理と修理、展示ケースの清拭作業を行った。

- (16) 海外からの選択実習生の受入れ  
海外医科大学からの選択実習生の受入れは、平成28年4月～平成29年3月の期間で102名(男子学生44名、女子学生58名)であった。なお、毎週月曜日に選択実習生と本学学生、教職員との交流会(International Café)を開催した。
- (17) 医学科学生の英語OSCEの実施  
医学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語OSCEを実施した。
- ・オープンキャンパス英語OSCE  
8月12日(1年生8名参加) ※講義・練習: 8月8日・8月10日
  - ・海外臨床実習へ向けての英語OSCEー第1回セッション  
11月5日(4年生3名、5年生11名参加) ※講義・練習: 10月29日  
11月26日(4年生2名、5年生12名参加)
  - ・海外臨床実習へ向けての英語OSCEー第2回セッション  
12月10日(4年生5名、5年生14名参加) ※講義・練習: 12月3日  
12月17日(4年生4名、5年生11名参加)
- (18) 海外実習・留学支援セミナーの開催  
平成28年6月10日(金)に第2回海外実習・留学支援セミナーを開催した。
- (19) 選択実習(国外)報告会、医学科海外選択実習報告会の開催  
平成28年9月17日に平成28年度選択実習(国外)報告会を開催した。また、10月8日に平成28年度医学科海外選択実習報告会を行った。
- (20) 慈恵-Mayo Clinic ジョイントシンポジウムの開催  
学祖高木兼寛先生が1906年に米国ミネソタ州ロチェスターのMayo Clinicを訪問してから110周年を迎えたことを記念して、平成28年9月30日にMayo Clinicから3名の講演者をお迎えしてシンポジウムを開催した。(学内外からの参加101名)
- (21) Dr. Mark H. Swartz 特別講演会の開催  
米国の医学教育(問診・身体診察)の分野で著名なDr. Mark H. Swartzの来日を機会として、救急医学講座と国際交流センターの共催により平成29年3月15日に特別講演会"The Art of Interviewing"を開催した。(学内外からの参加56名)
- (22) 協定校の増加  
ハワイ大学(University of Hawai'i)とソウル大学(Seoul National University)との間で新たに協定を結んだ。
- (23) 奨学金、助成金の支給  
海外での学習、発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。
- ・宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成 前期8名100万円 後期4名50万円  
申込者から国際交流センター運営委員会が選考し、教授会議に報告の上、学長が決定した。
  - ・学外研究員 平成26年度選考者1名153万円(3年目)、平成27年度選考者1名365万円(2年目)、平成28年度選考者1名212万円(1年目)  
推薦された候補者から国際交流センター運営委員会が選考し、教授会議に報告の上、学長が決定した。
  - ・慈恵医師会海外選択実習奨学金 8名160万円  
希望者から国際交流センター運営委員会が選考し、教学委員会に推薦した。教学委員会は支給者を決定し、教授会議に報告した。
  - ・独立行政法人日本学生支援機構 平成28年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)  
11名94万円(派遣) 9名72万円(受入)  
協定校での選択実習希望学生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した(協定派遣)。また、協定校からの選択実習生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した(協定受入)。

## 7. 教育センター

教育センターは、本学医学・看護学の卒前ならびに卒後教育の支援組織として、教育を推進する。これらの活動を通して、東京慈恵会医科大学の発展に寄与し、国民のための医療者教育の向上に貢献することを目的とする。卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動について、教育センターは支援する。教育センター長、部門組織は次の通り。

教育センター長 福島 統 教授

- (1) 医師キャリアサポート部門
  - ① 医学教育研究室
  - ② 教育開発室
- (2) 看護キャリアサポート部門
- (3) シミュレーション教育部門
- (4) 地域医療支援部門
- (5) 教育IR部門
- (6) アドミッション部門

### 1) 公開講座

#### (1) 大学主催公開講座

教育センターが公開講座推進委員会（委員長：福島統教授）を主管し、大学主催（大学および4附属病院が企画・実施）の公開講座を取り纏めた。平成28年度は全機関で25回開催した。本公開講座は一般市民および地域医療者を対象とし、大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業としている。公開講座の継続的な推進を図るため、各機関による主体的な運営形態としている。

平成28年度の開催内容は下記のとおり。

- ・附属病院：計10回（新みんなの健康教室（6回）、市民公開講座（4回））
- ・慈恵医大葛飾医療センター公開セミナー 3回
- ・慈恵医大第三病院公開健康セミナー 2回
- ・柏病院市民公開講座 3回
- ・大学：計7回（地域医療者向け公開講座2回（教育センター主管）、ひらめき☆ときめきサイエンス2回（教育センター主管）、市民公開講座3回

#### 2) 教育に関する公的補助金にかかる事業

##### A. 平成24年度文部科学省「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」事業

内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）宇都宮一典教授が事業推進責任者となり、取組「参加型臨床実習のための系統的教育の構築」を推進した。平成28年度の活動は次の通り。

- (1) 診療参加型臨床実習実施
- (2) ログブック改良
- (3) PostCC-OSCEの検討
- (4) 第61回医学教育セミナー

本学が平成27年度より、新カリキュラムが施行し、平成28年9月にはクリニカルクラークシップを大幅に拡充する。この実習は、本学附属4病院とともに学外9施設の教育病院にご協力いただいて実施する。本セミナーでは、教育病院の院長、実習指導者、事務関係者をお招きし、附属4病院の指導者とともに本学が目指すクリニカルクラークシップについて、ご紹介するとともに、意見交換の機会とし、平成28年7月6日（水）に実施した。参加者は152名（教育病院24名、学内128名）。

#### (5) 成果報告会（第62回医学教育セミナー）

文部科学省「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革におけるグローバルな医師養成事業」成果報告として、全国医学部、教育病院、学内の教職員に案内し、平成29年3月3日に第

63回医学教育セミナーを開催した。教育センター長 福島 統教授による基調講演、医学科長・教学委員長 宇都宮一典教授による成果発表、川村哲也教授・岡崎史子講師の司会によるパネルディスカッション「本学における診療参加型臨床実習」などを実施した。参加者：109名（他大学27名、教育病院12名、学内70名うち学生4名）。

B. 平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成」事業

内科学講座（総合診療内科）大野岩男教授が事業推進責任者となり、取組「卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発ー地域における臨床研究の推進を目指してー」を申請し、採択を受けた。

事業期間は平成25年度～29年度。本補助事業平成28年度の主な活動は次の通り。

(1) 教育プログラムの開発

次の8つの教育プログラムの開発を行った。

- ① 高齢者医療体験実習（医学科3年次）
- ② へき地医療プログラム（初期臨床研修 2年目研修医）
- ③ 総合診療コース（レジデント）
- ④ 大学院医学研究科博士課程授業細目「地域医療プライマリケア医学」
- ⑤ 授業細目「地域医療プライマリケア医学」・レジデントのコンバインドコース
- ⑥ EBMと臨床研究セミナー（大学院インテンシブコース）
- ⑦ 総合診療・家庭医療ブラッシュアッププログラム（医師インテンシブコース）
- ⑧ 復職支援スタートアッププログラム（医師インテンシブコース）

(2) 第60回医学教育セミナー

キングス大学の医学教育学部長であるStuart Carney教授をお迎えし、テーマを変革する医学教育：患者と人口の変化に対応したKCLの取り組みとして開催した。講演タイトルは「Transforming Medical Education」。平成28年5月16日（月）に大学1号館6階講堂にて実施し、参加者は51名であった。

(3) 外部評価

角田 徹 先生（角田外科消化器科医院・院長）、中原 正雄 先生（中原医院・院長）による外部評価を、平成29年2月2日（木）に受審した。

C. 平成24年度文部科学省「医学・歯学教育認証制度等の実施」事業

東京医科歯科大学を代表校とし千葉大学、東京大学、新潟大学、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学の6大学が連携して、取組「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」を申請し、採択を受けた。本学の事業責任者は福島統教授が担当した。事業期間は平成24年度～28年度。

D. 経常費補助金「情報の公表」

教育補助金検討委員会（委員長：福島統教授）が主導し、教育情報の公表について、関係部署からデータ提供の協力を得て、平成28年9月に本学ホームページに掲載し、教育情報の公表を行った。これに伴い経常費補助金「情報の公表」の申請を行った。事業期間は平成28年度の単年度。

3) 看護学教育プログラム

看護学教育部門（看護キャリアサポートセンター）の奈良京子部門長を担当として、以下の教育プログラムを実施した。

(1) エデュケーションナース研修

- ・開催趣旨：新人看護師やプリセプターに対して意図的に適切な指導を行うために必要な知識・技術・態度を修得し、教育担当者としての役割を担う看護師の育成をねらいとした。
- ・開催期間：28年8月2日（火）～11月19日（土）の内20日間、受講者数：47名

(2) 看護監督者研修

- ・開催趣旨：中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度

を修得し、大学病院・看護部の理念の基、担当部署の看護管理過程が展開できる人材を育成することをねらいとした。

- ・開催期間：平成28年11月24日（木）～平成29年2月25日（土）の内11日間、受講者数：26名

### (3) 看護管理者研修

- ・開催趣旨：臨床および教育の看護管理者が一堂に集まり、各々の立場から本学の看護の現状と課題について情報交換を行い、【目指す慈恵の看護】を共有し、連携強化を目指した。

- ・開催期間：平成29年1月28日（土）～1月29日（日）1泊2日、受講者数：12名

### 4) シミュレーション教育支援

シミュレーション教育施設委員会（委員長：福島統教授）が中心となり、シミュレータ機器の選定、購入などの機器整備を行い各機関のシミュレーション教育施設の充実を図るとともに、シミュレーション教育施設の管理運営を行った。

各機関の利用状況は、西新橋校475件、国領校63件、葛飾医療センター144件、柏病院154件、合計836件の利用であった。

### 5) ICT活用教育支援

#### (1) eラーニング

卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングのサーバ等のシステムを管理し、利用支援を行うとともに、教材作成を支援した。eラーニングの実績は年間34コース382回であった。内訳は次の通り。

- ・医学科学生 13コース、98回（3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など）
- ・看護学科学生 12コース、62回（2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など）
- ・大学院博士課程 1コース、9回（疫学臨床研究、生物統計学など）
- ・卒後教育（研修医、看護師、地域医療者など） 8コース、213回（鏡視下手術トレーニングなど）

#### (2) コンピュータ試験の支援

医学教育研究室木村直史教授を責任者として、医学科5年生「総括試験」、医学科2年生「総合試験」、など医学科で14回、看護学科科目横断試験で1回、計15回のコンピュータ試験実施の支援を行った。

#### (3) クリッカーを活用した授業等の支援

クリッカーの運用・管理、利用者への支援を行った。学生、大学院の授業や医師、看護師の勉強会等で計40回利用され、利用者数は計7452名であった。

### 6) 教育IR部門

医学科コース「医学総論」のユニット、オリエンテーションにおける学生のリアクションペーパーの情報収集整理を行った。

また、平成29年度に実施予定の医学教育分野別評価の改善報告書作成の準備を行った。

### 7) 地域医療者教育プログラム

#### (1) プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム

地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人教授（臨床疫学研究部・教育センター）を責任者として実施した。

平成26年度生・受講生13名、平成27年度生・受講9名、平成28年度生・受講10名を受講生として、講義（eラーニング）を6コース、ワークショップを4回実施した。

#### (2) 慈恵医大地域医療教育者のための研修・交流会

本学は平成27年度～平成29年度にわたり医学科カリキュラムを大きく改編しているところである。そこで、本研修会は、地域社会で活躍する地域医療者に、本学カリキュラム編成全般について、意見を伺い、さらにグループ討論いただき、客観的な視点を取り入れる機会とした。また、本学カリキュラムでは多様な学外実習が行われているが、学外実習指導者より、医師、看護師、コメディカルスタッフ、教員、介護スタッフなどの方々同士の

交流の要望を頂き、本研修会を学外実習指導者の交流とともに教育能力の向上を目的に、平成28年6月26日（日）に実施した。教育担当者は福島 統教育センター長、中村真理子教授、岡崎史子講師、参加者は地域医療教育者32名。

#### 8) 市民ボランティア「あけぼの会」の活動

平成24年度より、学生、医師、看護師等への本学らしい医療者教育の拡充を目的に、一般市民ボランティア「あけぼの会」を組織し活動を開始した。この組織は、現在、医学科・看護学科の授業（演習、実習）で実践している市民参加型コミュニケーション教育や、医療面接教育への支援を主としている。平成29年3月31日現在の会員数は31名で、平成28年度の活動は次の通りである。

##### (1) 例会（SP勉強会含む）

第1回例会	平成28年4月23日（土）	9：30～12：00（SP、例会）
第2回例会	平成28年5月14日（土）	9：30～12：00（SP、例会）
第3回例会	平成28年6月25日（土）	9：30～12：00（SP、例会）
第4回例会	平成28年9月10日（土）	9：30～12：00（SP、例会）
第5回例会	平成28年11月5日（土）	9：30～12：00（SP、例会）
第6回例会	平成29年1月14日（土）	10：00～12：00（SP）
第7回例会	平成29年2月25日（土）	9：30～12：00（SP、例会）
第8回例会	平成29年3月25日（土）	9：30～12：00（SP、例会）

##### (2) 授業への参加

医学総論Ⅳ演習（西新橋校）医学科4年	4月8日（金）	14：00～16：10
医学総論Ⅳ演習（西新橋校）医学科4年	5月13日（金）	13：40～16：10
医学総論Ⅲ演習（西新橋校）医学科3年	7月4日（月）	13：00～16：10
医学総論Ⅴ演習（西新橋校）医学科3年	11月17日（木）	13：00～14：30
医療総論Ⅰ演習（国領校キャンパス）		

医学科・看護学科1年5月24日（火）13：00～14：30

医療総論Ⅰ演習（国領校キャンパス）

医学科・看護学科1年6月7日（火）13：00～14：30

#### 9) テレビ会議システムの利用支援

4機関合同の教育・研修活動の支援として、テレビ会議運営委員会を主管し、4機関を接続したテレビ会議システムの使用を支援し、年間13回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は学長就任式、4病院合同セーフティーマネジメント、成医会などであった。

#### 10) アウトリーチ活動

アウトリーチ活動推進委員会（委員長：南沢享教授）が主体となり、大学の社会貢献の一環として、教育研究成果の中高校への還元を目的に次の活動を行った。

##### (1) ひらめきときめきサイエンス

- ・「働き者の心臓を見て、触って、聴いて、知りつくそう」南沢享教授（細胞生理学講座）  
平成28年7月29日（金）大学17階カンファレンスCD、中学生16名
- ・「がん細胞の大暴走！ ～細胞増殖のアクセルとブレーキ～」  
吉田 清嗣教授（生化学講座）  
平成28年7月22日（金）大学1号館7階実習室、高校生10名

##### (2) オープンキャンパスにおけるアウトリーチ活動（3回）

教育・研究および学生のポスター展示、学生クラブ紹介ビデオの上映を行い、次の講義を行った。

- ・8月12日（金）16：10～16：40 岡野ジェイムス洋尚 教授（再生医学研究部）  
「iPS細胞が切り開く未来の医療」  
参加者 約68名
- ・8月12日（金）16：10～16：40 村山雄一 教授（脳神経外科学講座）

「近未来の脳神経疾患治療」

参加者 約92名

- ・ 8月13日（土）16：10～16：40 川村将仁 講師（薬理学講座）  
「虚血に対する低体温療法における、アデノシン受容体の関与  
－医学部3年研究室配属実習における学生の研究成果の紹介－」

参加者 約48名

- ・ 8月13日（土）16：10～16：40 坂東 興 教授（心臓外科学講座）  
「心臓外科医の喜び」

参加者 約104名

- ・ 9月24日（土）16：10～16：40 宮田市郎 准教授（小児科学講座）  
「子どもの成長を科学する」

参加者 約65名)

#### 11) 教育質的転換プロジェクト

平成27年度開始の医学科・看護学科及び大学院における教育の質的転換に向けたプロジェクトを平成28年度も学内公募し、プロジェクトを支援することとした。学長裁量経費から支給する。選定されたプロジェクトは次の通り。

プロジェクト：医療の国際化に対応する実践的医学英語教育

所 属：国際交流センター

企画責任者名：福田 国彦 教授

メンバー：芦田ルリ教授、南沢 享教授、菊池麻由美准教授、嘉山智大助教

## 8. 臨床研究支援センター

臨床研究支援センターは、本学における臨床研究を支援することにより臨床研究の進捗と質の維持を図ることを目的に、平成26年4月に開設された。本センターは、以下の各機能を有し、臨床研究の計画、実施から研究結果の報告までを支援する。

臨床研究支援センターの機能

- (1) 臨床研究の教育
- (2) 臨床研究（統計解析等）の相談・支援
- (3) 臨床研究実施支援
- (4) モニタリング
- (5) 事務局

### 平成28年度報告

- ・臨床研究支援センターは治験センターと合同ミーティングを定期的に開催し、一体的な運営を図り上記(1)から(5)の各機能とあり方を検討している。
- 平成28年度 合同ミーティング開催回数：14回
- ・3分院（葛飾医療センター、第三病院、柏病院）の電子カルテシステムからSS-MIX (Standardized Structured Medical Information eXchange) 標準化ストレージを利用して糖尿病の疾患レジストリーの構築計画に着手した。
- ・首都圏AR (Academic Research) コンソーシアム（代表校：慶應大学）が平成29年1月に発足し、本学は連携協定を締結して本コンソーシアムに参加した。
- ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針が平成28年2月28日に改訂された。5月30日に施行されるため学内の手順書等の見直を行っている。

#### 1. 主な活動

##### (1) 臨床研究の教育

- ① 臨床試験セミナーを中心に、研究者等に対し、臨床研究の科学性および倫理性に関する教育研修を以下のとおり実施した。

開催日	タイトル	講師	参加者
平成28年4月26日	臨床研究の進め方	景山 茂	222名
平成28年5月27日	臨床試験の質の維持・向上のためのシステムの構築	坂口 慶貴	75名
平成28年7月7日	GCPについて,利益相反について	景山 茂	78名
平成29年3月29日	医療研究者に必要な知財の基礎知識	加藤 良平	42名

- ② 「臨床研究連絡委員」(③参照) を優先的に少人数を対象とした演習形式の2日間の教育研修プログラム「明日から活かせる生物統計学の教育研修プログラム」を以下のとおり実施した。

開催日	タイトル	講師	参加者
平成28年6月4日	明日から活かせる生物統計学の教育研修プログラム	西川 正子	8名
平成28年6月11日	(基礎編)	景山 茂	
平成28年9月24日	明日から活かせる生物統計学の教育研修プログラム	西川 正子	7名
平成28年10月8日	(基礎編)	景山 茂	
平成28年11月26日	明日から活かせる生物統計学の教育研修プログラム	西川 正子	2名
平成28年12月10日	(応用編)	景山 茂	

- ③ 臨床研究のスキルの高い研究者を各教室に養成するために「臨床研究連絡委員」の選出依頼をモニタリングの対象となる研究を行っている教室から逐次開始した。臨床研究連絡委員は、臨床研究を円滑に実施するため、臨床研究を実施する講座と臨床研究支援センターとの間の橋渡しの役を担い、侵襲を伴う介入研究を行う講座から選出された。また、「明日から活かせる生物統計学 教育・研修プログラム」へ優先案内をしている。

(2) 臨床研究（統計解析等）の相談・支援

臨床研究の相談

平成28年度の臨床研究に関する相談・支援は40課題であった。

その内訳は以下の通りである。

プロトコール相談	9件
プロトコール相談および統計解析	9件
統計解析相談	5件
統計解析実施	9件
論文査読対応	8件
論文作成	1件
AMED研究費申請書作成	4件

(3) 臨床研究実施支援

治験以外の研究者主導の臨床研究について、当センターを兼務している治験センターのCRCが支援を行っている。平成28年度は4課題の支援を実施した。

(4) モニタリング

平成27年10月から「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、侵襲を伴う介入研究においてモニタリングが義務付けられ、研究責任者がそのモニタリング担当者を指名する。倫理委員会および附属病院で承認された研究のモニタリング担当者に対し、臨床研究支援センター兼務の治験センターCRCが、6課題の支援を実施した。またモニタリング内容や方法についての説明会を2回開催した。

(5) 事務局について

倫理委員会事務局

倫理委員会事務局を担当し、倫理委員会（第1、2倫理委員会）の運営とともに、提出された申請全てに対して、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」で必要とされている項目が網羅されているか確認し、不備があるものは申請者に修正を依頼している。

また、当該指針の施行に伴い、研究者等は少なくとも1年に1回以上倫理・科学に関する教育研修を受講することになった。最終の受講日から1年近く経過した研究者等に教育研修の受講を促すよう倫理審査申請システムに教育研修に関する機能を強化させ、受講履歴管理を行うとともに受講期限の3ヶ月前と1ヶ月前に研究者宛てにメールを配信する機能を設けた。

認定再生医療等委員会事務局

再生医療等法に基づく認定再生医療等委員会事務局を設置し、事務局業務を株式会社あすも臨床薬理研究所に委託した。

事務局は、委員会運営と申請者から提出された書類が「再生医療等安全性確保法」で求められている条件に合致しているか確認し、修正依頼をしている。

平成28年度は7月4日に1回目の認定再生医療等委員会を開催した。以下の課題が承認され、関東信越地方厚生局へ届出した。

課題名

「悪性神経膠腫に対する腫瘍細胞並びに腫瘍形成細胞と樹状細胞との融合細胞を用いた免疫療法」

## 9. その他

### 1) 成医会

(1) 第133回成医会総会は、平成28年10月6日(木)、7日(金)の2日間にわたって開催された。

#### ① 特別講演

吉村 道博 教授(循環器内科)

「循環器疾患における神経体液性因子の検討」

安保 雅博 教授(リハビリテーション医学講座)

「経頭蓋磁気刺激の効果」

#### ② 宿題報告

伊藤 洋 教授(精神医学講座)

「不眠症の診断と治療」

石渡 賢治 准教授(熱帯医学講座)

「免疫応答によって誘導される腸管粘膜バリアー機能～寄生虫感染による解析～」

関 晋吾 准教授(循環器内科)

「人を診る高血圧診療」

内山 眞幸 准教授(放射線医学講座)

「脳血流シンチグラフィ123I-iomazenilベンゾジアゼピン受容体シンチグラフィを用いた小児発達的变化」

#### ③ 学外研究員の成果報告

香山 洋介 助教(循環器内科)

「動脈瘤形成におけるマイクロRNAの制御」

#### ④ シンポジウム

「医療におけるグローバリゼーションー「守り」から「攻め」に転じる国際医療ー」

司会 松浦 知和(臨床検査医学講座)

南沢 享(細胞生理学講座)

1. オリンピックにおける公衆衛生：病院は何に備えるべきか

越智 小枝(相馬中央病院 内科 診療科長)

2. トラベルメディスンのススメ

濱田 篤郎(東京医科大学病院 渡航者医療センター 教授)

3. 内視鏡先進国日本における、国産技術機器開発の海外展開へ向けた現況と展望

炭山 和毅(東京慈恵会医科大学 内視鏡科 教授)

4. 医療の国際化に伴う国内医療機関の課題と対応について

遠藤 弘良(聖路加国際大学 臨床疫学センター 教授)

5. 総合討論

#### ⑤ パネルディスカッション

「どうなる新専門医制度ーその概要と慈恵医大におけるプログラムー」

司会 橋本 和弘(心臓外科学講座)

井田 博幸(小児科学講座)

1. 専門医制度の歴史と現状

井田 博幸(小児科学講座)

2. 内科プログラムについて

宇都宮一典(内科学講座総括責任者)

3. 外科プログラムについて

矢野 文章(外科学講座)

4. 第三病院総合診療専門研修プログラム

平本 淳(附属第三病院 総合診療研修センター)

5. サブスペシャリティ専門医の概要  
橋本 和弘（心臓外科学講座）
  6. 研修医からの提言  
正古 悠一（臨床研修医 2 年目）
  7. 総合討論
- (2) 第1262回成医会例会は、平成29年 2 月14日（火）に行われ「男女で考えるワークライフバランスin慈恵—管理者としてのイクボスの役割も含めて—」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、中川秀己教授（成医会運営委員長）が務め、NPO 法人ファザリングジャパンファンダー／代表理事である安藤哲也氏が講演を行った。
- (3) 第134回成医会総会については、平成29年10月12日（木）、13日（金）の 2 日間にわたって開催の予定。

## 2) 各種行事

- (1) 平成28年 4 月 7 日（木）、平成28年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成28年 5 月 7 日（土）、阿部正和先生を偲ぶ会が執り行われた。
- (3) 平成28年 8 月 1 日（月）～ 3 日（水）、宮崎県穆佐小学校学童 2 名、教諭 2 名の本学招待旅行が行われた。本行事は、昭和50年より開始され、今回で42回目となる。
- (4) 平成28年10月 1 日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (5) 平成28年10月 8 日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (6) 平成28年10月22日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭41年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (7) 平成28年10月28日（金）、第112回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (8) 平成29年 1 月31日（火）、平成29年 3 月末日をもって定年を迎えた常岡寛教授、中山和彦教授、福田国彦教授、相羽恵介教授、山田尚教授、酒田昭彦教授、横田邦信教授、落合和彦教授、大草敏史教授の退任記念パーティーが行われた。
- (9) 平成29年 2 月 9 日（木）、感謝状伝達式を行い、献体者遺族に対して文部科学大臣からの感謝状を手渡した。
- (10) 平成29年 3 月 4 日（土）、第92回医学科、第22回看護学科卒業式を挙行了した。

## 3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」  
今年度も 2 回発行し、同窓、医学部父兄、記念事業募金寄付者、医療連携病院、教職員などに送付し、本学の活動をPRした。
  - 1) 第27号  
平成28年 7 月に特集 1 「阿部正和先生のご逝去を悼む」、特集 2 「1 枚の写真が残した慈恵と Mayo Clinic の絆」を掲載し発刊した。
  - 2) 第28号  
慈恵大学の“今”を伝えることをコンセプトに全面カラー版にてリニューアルした。本学の主力事業である、教育、研究、診療の事業計画の取り組みをインタビュー形式で掲載すると共に「医師と看護師は車の両輪の如し」に基づく看護の特集を掲載した。文字数を少なくし、写真をダイナミックに使用して動きのある誌面構成とし、平成28年 2 月に発刊した。
- (2) 慈恵ニュース
  - 1) 平成28年 7 月に199号、平成29年 1 月に200号を発行した。200号は記念号として全面カラー版にてリニューアルし、200号までの歴史を振り返る特集と教職員に「いいね！」と共感を得られるような 5 つの新企画を掲載した。
  - 2) 平成28年 6 月に「春季労使協議会結果」、平成28年 7 月に「学校法人慈恵大学 中期目標・

中期計画・平成28年度事業計画」を号外として教職員に配布した。

- (3) 大学ガイドブック  
平成28年5月に受験生向けの学校案内「大学ガイドブック2017」を発行した。本学の医学教育の特色である「診療参加型臨床実習」や「国際交流」の紹介やカリキュラム概要やサークル活動をはじめとするキャンパスライフについて幅広く掲載した。
- (4) 大学入試ポスター  
平成28年5月にオープンキャンパス並びに入試日程に関わる「大学入試ポスター」を医学科、看護学科別に発行し、高等学校、予備校、同窓会長、支部長、学術連絡委員などに送付した。
- (5) 大学公報  
学事、教職員人事、公示、行事、東京慈恵会公報などを取りまとめ、毎月定期的に発行した。
- (6) 大学案内  
平成28年4月に大学案内の別冊を発行した。
- (7) 慈恵大学新体制  
大学執行部、附属4病院の執行部の交代に伴う「慈恵大学新体制」を作成し周知した。
- (8) 大学公式ホームページ
  - 1) 平成28年6月、阿部正和先生を偲ぶ会を掲載した。
  - 2) 平成28年6月、臨床研修医募集のプロモーションビデオを掲載した。
  - 3) 平成28年9月、西新橋キャンパス再整備計画の進捗状況、基本戦略と重点分野を掲載した。
  - 4) 平成28年9月、看護学科フェアブル祭、ミニオープンキャンパスを掲載した。
  - 5) 平成28年9月、公開講座をリニューアルした。
  - 6) 平成28年10月、第三病院総合診療研修センターを新設した。
  - 7) 平成28年11月、看護学科受験生応援サイトを新設した。
  - 8) 平成28年12月、留学制度・国際交流センターをリニューアルした。
  - 9) 平成29年1月、本院特別個室ページを新設した。
  - 10) 平成29年2月、看護専門学校ページをスマートフォン対応として全面リニューアルした。  
大学公式ホームページへの総訪問者数及び訪問回数は前年度比およそ70万件減少し、1,585万件となった。ホームページ新規作成及び更新依頼は620件であった。依頼部署や関連委員会と連携して掲載内容の充実を図るとともに、本学の特色ある取り組みやステークホルダーである患者、医療機関、学生、受験生などに対し、常に最新情報を遅滞なく掲載するよう努めた。
- (9) イントラネット  
「理事長・学長室」、「行事予定」、「大学公示」、「理事会・教授会議抄録」、「事業計画・事業報告書」、「教職員アンケート」、「学内使用の各種書式」等の更新業務を担当した。  
今年度は、「理事長・学長室」からの情報発信を積極的に掲載し、教職員に周知した。また、トップページのアイコンの配列を見直し、重要かつ周知が必要なものを上位に掲載すると共に、what's newへの掲載と更新頻度を高め、最新情報を入手しやすくするよう努めた。  
広報課のページを整理し、ホームページメンテナンスやオールユーザーメールの送信依頼時に必要な事項やホームページアクセス数を掲載した。西新橋キャンパス再整備計画の周知を目的に専用ページを設置した。
- (10) オールユーザーメール  
講演会、研修会等の開催通知のほか、教職員のテレビ、ラジオ、講演会等への出演や新聞、雑誌等への掲載情報を中心に662件配信した。配信内容の均一化を図ることを目的にオールユーザーメール運用内規を改訂した。

# 〔付〕 1. 平成28年度 事業計画に対する実施結果一覧

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果	
<b>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</b> <b>1. 教育に関する目標</b> <b>(1) 教育に関する目標</b> <b>(医学科・看護学科)</b>  <b>○卒前教育</b> <b>①初年次教育を改善する。</b>	<b>・教育内容公開数</b> H25: 1 H26: 1 H27: 1 H28: 1 H29: 1	(医学科) 1. スタートアップ宿泊研修について評価と実施形態を検討する。	(医学科) 1. 従前のスタートアップ研修を評価し、次年度の改革案をまとめた。授業ユニットを変更し、宿泊を改め学内で1日で行うこととした。	
		2. 初年次教育に関するFDを開催する。 (看護学科) 1. 効果的なスタートアップ研修のあり方を検討、実施する。	2. 初年次教育に関するワークショップとして、「発達障害が疑われる学生への支援の方法」と題したFDを実施した。	
	<b>・連携大学数</b> H25: 11 H26: 14 H27: 21 H28: 23 H29: 24	2. 看護総合演習Ⅰ～Ⅳの内容、つながりの点検評価を行う。	(看護学科) 1. 効果的なスタートアップ研修のあり方について、医学科とともに検討し実施した。その結果、最初の共修としてよい機会であることが確認できた。	2. 看護総合演習Ⅰ～Ⅳの内容を振り返り、新カリキュラムのディプロマポリシーを踏まえて、カリキュラムマップの中に位置づけた。
		<b>・留学生の受入数</b> H25: 43 H26: 44 H27: 65	(医学科) 外部評価において指摘された部分的適合の項目の改善に向けてWGを組織し取り組み、マイルストーンを作成する。	(医学科) 教育理念、到達目標、医学科達成指針を踏まえてディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを7月に改定した。また、マイルストーン作成に向けて、カリキュラム委員会内にワーキンググループを発足させた。
	<b>②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。</b>	H28: 102 H29: 70	(医学科) 1. ログブックを改善する。	(医学科) 1. 蓄積したログブックの集計データに基づき、各診療科のログブックの内容をブラッシュアップした。
<b>③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切替える。</b>	<b>・臨床実習(週・時間)数</b> (医学科) H25: 60週 H26: 62週 H27: 75週 H28: 75週 H29: 75週 (看護学科) H25: 1,260時間 H26: 1,260時間 H27: 1,260時間 H28: 1,260時間 H29: 1,260時間	2. e-ポートフォリオシステムを分析、活用する。 (看護学科) 1. 学生との合同会議、区分会議を実施し評価を行う。	2. e-ポートフォリオシステムのデータを分析し、今年度の4・5年生の臨床実習中間報告会にて学生にフィードバックした。 (看護学科) 1. 7月13日に学生との合同会議の結果をうけて、看護学科の校舎の閉館時間を1時間延長、ラウンジ、各教室に紙媒体のシラバスの配置を行った。従来の区分会議に代わるディプロマポリシーモニタリング会議では、各ディプロマポリシーのねらいや効果的な運用を検討した。また、講師会を開催し、非常勤講師も含めて新カリキュラムの理解を深めた。	
<b>④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。</b>	<b>・医学科志願者数</b> H25: 2,574名 H26: 2,400名 H27: 2,276名 H28: 2,035名 H29: 2,200名	2. 基礎科目と看護専門科目との情報共有、連携を深める。	2. 基礎科目の教員から、授業中の学生の様子などを情報収集した。情報科学においては、学生の到達レベルが高いことが確認された。	
<b>⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。</b>	<b>・看護学科志願者数</b> H25: 574名 H26: 610名 H27: 570名 H28: 520名 H29: 570名	3. 新カリキュラムプロジェクトで提案されたDPを基に科目の全体評価を行い、新カリキュラムにつなげる。	3. 各科目でディプロマポリシーに基づく科目の全体評価を行い、シラバスを作成した。	
		(医学科) 診療参加型臨床実習のコンピテンシー並びに卒業時OSCEの評価項目を踏まえた診療参加型臨床実習のFDを実施する。	(医学科) クリニカルクラークシップ指導医養成ワークショップのFDを実施した。また、臨床実習に係わる委員会組織を改編し、附属4病院の教育機能を強化した。具体的には、診療参加型臨床実習教育委員会を各附属病院に設置し、それらを統括する臨床実習統括委員会を設置した。	
		(医学科) ログブックを活用した予習・復習を促進する。	(医学科) ログブックの内容をあらかじめ学生に周知できるよう、全科臨床実習ガイドブックを作成し配布した。また、学事課・教育センターが連携し、指導医が学生を評価したログブックをe-ポートフォリオ内にアップロードした。学生は自身の評価結果を閲覧することができ、学修の到達度を確認できるようになった。	

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。	<b>・医師国家試験合格格率</b> (医学科総計) H25：95.3% H26：97.1% H27：98.2% H28：92.9% H29：100% (医学科新卒) H25：97.1% H26：99.0% H27：100% H28：94.8% H29：100%	(看護学科) 新しいDP、各科目の到達度とe-ポートフォリオシステムを連動させ、学生が主体的に活用できるよう改良する。	(看護学科) 新カリキュラムとe-ポートフォリオとの連動にはプログラミングの費用が発生するため、今年度は見送り次年度の予算に計上した。
⑦学習記録と連携させた評価システムを構築する。	<b>・看護師国家試験合格格率</b> (看護学科) H25：100% H26：97.4% H27：100% H28：100% H29：100%	(医学科) WEBEXAMシステムとEX-AMBASEシステムを円滑に導入する。  (看護学科) 2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオシステムでのリフレクションの精度を更に高める。	(医学科) 各学年の総合試験全てとコンピューター試験の使用を希望する一部のユニット試験(生体調節の仕組み、病理学総論実習、病理学各論実習、医学実用英語、予防医学)において、WEBEXAMシステムとEXAMBASEシステムを導入した。  (看護学科) 2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオシステムでのリフレクションの精度を更に高めることができた。今年度から、e-ポートフォリオ賞を授与し、学生の動機づけにつなげる機会をつくることができた。
⑧医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の外国留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受入れる。	<b>・保健師国家試験合格格率</b> (看護学科) H25：97.6% H26：100% H27：100% H28：100% H29：100%	(医学科) 1. 国際交流センター運営委員会と連携し、外国人SPを招聘したネイティブOSCEの開催回数を増やす。 2. 学生の留学を支援する。  (看護学科) 英国キングスコレッジから1名、本学から1名の交換留学を実施する。	(医学科) 1. 希望する1年生に対して1回、海外実習を選択する5年生に対して6回、ネイティブOSCEを実施した。また、将来的な必修または選択のカリキュラム化に向けて、1年生のコース外国語I一般英語においてネイティブOSCEを実施した。 2. 6年生選択実習と5年生診療参加型臨床実習にて海外留学する学生を支援した。  (看護学科) 英国キングスコレッジから1名、本学から1名の交換留学を実施した。次年度は、英国キングスコレッジとの交換留学は2名ずつに拡大することで、大学間の合意が得られた。また、国際的視野を得るための教育として、関連する科目内容の充実を図る。
⑨学生の国家試験準備への支援体制を整備する。		(医学科) 自己主導型学習システム(SeDLES)が多くの学生に利用されるようさらに継続して周知を図り、3年生以下に対してもSeDLESを用いた形成評価を導入する。  (看護学科) 1. 学生の国家試験委員を中心として、主体的に模擬試験、補講を実施する。 2. 模擬試験が思わしくない学生に、個人面談、指導を繰り返し実施する。 3. 科目横断総合試験を効果的に活用する。	(医学科) 3年生以下にSeDLESを用いた形成評価は導入していないが、ユニット「医学総論」の授業を利用して、SeDLESの利用方法などを周知した。  (看護学科) 1. 学生の国家試験委員を中心として、主体的に模擬試験6回、補講2回を実施した。 2. 模擬試験が思わしくない学生に、個人面談、指導を繰り返し実施した。 3. 2年生以上の学生に対し、科目横断総合試験を効果的に活用し、得点率の低い科目を重点的に学習するように意識付けを行った。
⑩入学試験方法を継続的に改善する。		(医学科) 改革総合支援事業の高大連携につながる入学時の課題の導入を検討する。  (看護学科) 入試分析会などでの情報収集、学生アンケートによる効果的な入試対策とICT活用を継続検討する。	(医学科) 多様な能力人材を選抜する目的にて、アドミッション・ポリシーを改定し、平成29年度入学試験二次試験方法を変更した。具体的には集団面接をMMIに変更し、小論文を復活させた。  (看護学科) 予備校2校の協力を得て、入試動向や入試問題について分析結果説明会を開催した。また、質問内容を見直し、充実させたアンケートの実施、学生座談会の開催により、学生からの直接的な意見収集を行い、対策を検討した。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
⑪医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。		(医学科) 医学科達成指針達成のためのマイルストーンを作成すると共に、教養教育の拡充を行う。 (看護学科) 医学科のカリキュラム進度に合わせて、4年次前期に実施する。	(医学科) マイルストーン作成に向けてカリキュラム委員会内にワーキンググループを発足させた。また、倫理観を養うことを目的に、医学科5年生に看護学科と共修で医療倫理演習を行った。 (看護学科) 医学科・看護学科の教学委員長、カリキュラム委員長との会議を開催し、病棟実習での実践的な共修科目について検討した。
⑫臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。		(医学科) 研究医養成コースの卒前教育部分を評価し拡充を検討する。 (看護学科) 継続的に選択科目を開講し選択の幅、内容の充実を図る。	(医学科) 前年度にコース「医学総論」にユニット「医学研究」を開設し、医学総論の授業を通じて積極的に周知した。今年度の申請者は、目標7名に対し6名であった。 (看護学科) 看護師コースの学生が幅広く学べるよう、多様な選択科目を設定した。また、学習進度に応じた開講時期の変更を行ったカリキュラムが認可され、次年度からの実施に向けて準備を行った。
⑬広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。		(看護学科) 1. 大学ガイド作成、オープンキャンパス、高校での模擬授業、予備校の大学説明会などの広報活動を継続する。 2. オープンキャンパスにおける、より効果的な大学のPR方法を検討し実行する。	(看護学科) 1. 広報活動を計画通りに実施し、入試検討委員会と協働して受験生応援サイトを開設し、高い評価を得ることができた。 2. プロモーションビデオを作成し、オープンキャンパスなど受験生対象の広報活動で活用した。
⑭国際基準に基づく医学教育のIR活動を充実させる。		(教育センター) 医学教育分野別外部評価の改善のためのIR作業を進めてデータ分析し、その結果を教学委員会に1回報告する。	(教育センター) IRに関する教育情報の項目を整理し、学事課と連携し情報収集の円滑化を図った。
<b>○大学院教育</b>			
①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	・改訂プログラム数 H25: 2件 H26: 10件 H27: 2件 H28: 1件 H29: 1件  ・大学院生数 H25: 133名 H26: 135名 H27: 130名 H28: 144名 H29: 149名	(博士課程・修士課程) 4大学院連携事業(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)として継続してがん医療人WSを開催する。 (博士課程) Team STEPPSの授業を廃止して、CITI-Japanによるe-ラーニング授業を導入する。 (修士課程) 1. 研究倫理特論の講義を設ける。 2. 研究倫理特論にCITI-Japanによるe-ラーニングを組み入れる。	(博士課程・修士課程) 4大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を実施し、本学では3回開催した。 (博士課程) Team STEPPSの授業を廃止してCITI-Japanによるe-ラーニング授業を導入した。 (修士課程) 1. 研究倫理特論の講義を設け、公開講義とした。 2. 研究倫理特論にCITI-Japanによるe-ラーニングを組み入れた。
②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	・学位授与数 H25: 62名 H26: 49名 H27: 53名 H28: 69名 H29: 60名  ・学位論文のインパクトファクター(平均)	(博士課程) 1. がん治療医療人コースを開始し、4大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を継続実施する。 2. 萌芽的共同研究推進費採択者の外部競争的資金応募状況追跡調査資料を継続して作成する。	(博士課程) 1. 4大学間(昭和大学、星薬科大学、上智大学、本学)で連携を図り、がん医療人コースの公開講義を実施し、本学では3回開催した。 2. 萌芽的共同研究推進費採択者の外部競争的資金応募状況追跡調査を継続して行った。3月時点では、平成27年度に2件、平成28年度に4件の採択を確認した。
③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	H25: 3.55 H26: 2.73 H27: 3.09 H28: 2.47 H29: 3.00	(博士課程) 医学教育学の修士との共修授業を行う。	(博士課程) 医学教育学について、修士課程との共修授業を行った。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
④社会人入学の推進を図る。		(博士課程) 1. インターネット上に社会人大学院生向けのサイトを新たに作成する。 2. 国立がん研究センターとの連携大学院協定に向けた準備を行う。	(博士課程) 1. 社会人大学院生向けのホームページを新設し、円滑に情報収集できる環境を提供した。 2. 国立がん研究センターとの連携大学院協定を締結し、連携大学院教授7名を委嘱した。また、国立がん研究センターに新規授業細目を開講し、平成29年度入学に向けて公募を行い、4名が入学した。
⑤看護学専攻の大学院における「教育・研究」を改善し質を高める。		(修士課程) 1. 院生の学会参加の支援を行う。 2. 看護学科共催の看護研究と教育FDに院生の参加を図る。 3. 特別講義、公開講義を実施する。	(修士課程) 1. 大学院生の学会参加については、主として研究指導費にて支援した。 2. 看護学科共催の看護研究と教育FDに大学院生が参加した。 3. 授業の一部(研究倫理特論など)と特別講義を公開講義とした。
○卒業教育			
①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。	・レジデント応募者数 H25:172名 H26:156名 H27:159名 H28:152名 H29:160名  ・レジデント採用数 H25:153名 H26:149名 H27:143名 H28:143名 H29:140名	(臨床研修センター) 1. 研修管理委員会による附属4病院の研修プログラムの充実と、研修医マッチングの充足を図るため委員会を開催する。 2. 指導医講習会を開催し、附属4病院より臨床研修指導教員を合計40名の受講を目指す。 3. 地域医療研修の協力施設の拡充を図る。 4. 採用時OSCE、集合シミュレーション教育、医療安全e-ラーニングを各1回実施する。	(臨床研修センター) 1. 研修管理委員会による研修プログラム、マッチングの説明会などを開催した。 2. 指導医講習会を開催し、45名が参加した。 3. 地域医療研修セミナーを開催した。 4. 採用時OSCE、集合シミュレーション教育、医療安全e-ラーニングを実施した。
②専門修得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。	・医師臨床研修マッチングにおける定員充足率 H25:78% H26:86% H27:86% H28:95% H29:90%	(臨床研修センター) 1. 新専門医制度に対応する19領域の診療科別専門研修プログラムを整理する。 2. 専攻医募集のホームページや冊子における19領域の掲載内容を刷新する。 3. レジデント1年目を対象に医療安全・屋根瓦教育FDを実施する。	(臨床研修センター) 1. 19領域の専門研修プログラムを収集した。 2. 新専門医制度実施が1年延期されたことに伴い、ホームページ、冊子の掲載内容の刷新を延期した。 3. レジデント1年目を対象に、医療安全・屋根瓦教育FDを2回開催した。
③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。		(教育センター) 1. e-ラーニングを活用し、継続的なスキル向上教育を8部署に行う。 2. 指導者養成および看護マネジメント力向上のため、段階的研修を行う。 3. 外部医療機関からの研修生受入れの検討を実施する。	(教育センター) 1. e-ラーニングを活用して、新人看護師技術研修を行った。 2. 指導者養成研修、監督者研修、管理職研修を実施した。 3. 指導者養成研修、監督者研修、管理職研修において外部医療機関からの研修生を受入れた。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果	
(2) 教育の実施体制等に関する目標  ①臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニング実施数 H25: 279件 H26: 335件 H27: 359件 H28: 382件 H29: 390件</li> <li>・シミュレーション教育施設利用数 H25: 659回 H26: 637回 H27: 917回 H28: 836回 H29: 840回</li> <li>・医学教育セミナーの開催数 H25: 1回 H26: 3回 H27: 2回 H28: 4回 H29: 4回</li> </ul>	<p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習教育連絡会を開催する。</li> <li>2. 学外の協力病院からも多数参加できるように開催日時を調整し、実習指導教育に関する講演会も開催し、活発な意見交換ができる会を企画運営する。</li> </ol> <p>(学事課・教育センター)</p> <p>臨床実習協力病院に診療参加型臨床実習の説明会を1回実施する。</p> <p>(教育センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学外協力病院の4施設との臨床実習に関する協定書の締結を行う。</li> <li>2. クリニカル・クラークシップを支援する12診療科のICT環境を整備する。</li> </ol>	<p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨地実習教育連絡会を開催した。</li> <li>2. 開催日時を調整した結果、教員35名、実習施設関係者は46名と多数の参加者が得られ、活発な意見交換が行われた。</li> </ol> <p>(学事課・教育センター)</p> <p>診療参加型臨床実習の協力病院である9ヶ所の教育病院に対して出張説明会を実施した。また、7月に9ヶ所の教育病院の病院長、指導医、事務担当者を本学に招聘し、医学教育セミナーを開催した。3月に臨床実習GPの総括として、医学教育セミナーを開催した。</p> <p>(教育センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育病院の9施設と協定書を締結した。</li> <li>2. 診療参加型臨床実習において、全診療科のe-ポートフォリオシステムを整備した。</li> </ol>	
	②教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。	<p>(教員・医師人事室)</p> <p>研究業績を把握しリアルタイムの評価ができるよう教員評価システムを改修する。</p>	<p>(教員・医師人事室)</p> <p>教員の業績を一括管理できるシステム(業績研究プロ)を導入した。今年度よりレジデントに対して、評価制度を導入した。</p>	
(3) 看護専門学校に関する目標  ①看護実践を重視した看護教育を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師国家試験合格率 (慈恵) H25: 100% H26: 99.0% H27: 99.0% (既卒1名含) H28: 96.0% (既卒1名含) H29: 100%</li> </ul>	<p>(看護専門学校)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践能力向上に向けた技術習得にあたり、慈恵における技術到達基準を3校で検討する。</li> <li>2. 自己点検評価の3校共通フォーマットを継続検討する。</li> </ol>	<p>(看護専門学校)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慈恵、第三、柏3校の看護技術到達基準の検討は概ね進んだが、各校および臨床の現状を再度確認し、次年度実施できるように検討した。</li> <li>2. 自己点検評価の3校共通フォーマットは、各校の現状を考慮し、継続検討することとした。</li> </ol> <p>(看護部)</p> <p>本院では、慈恵看護専門学校教員と臨床指導者の指導課程検討会を4回実施し、指導の質向上に努めた。</p>	
	②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(第三) H25: 100% H26: 100% H27: 100% H28: 100% H29: 100%</li> </ul>	<p>(看護専門学校)</p> <p>附属4病院をフルに活用しつつ、在宅看護に関する学びが可能となる実習場所を開拓し、実習環境の整備に努める。</p>	<p>(看護専門学校)</p> <p>附属4病院の協力を得て学生配置ができ、看護学実習を行った。慈恵、第三では、近隣市・区の協力のもと、地域包括支援センター実習を行った。</p>
	③学生生活を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>(柏) H25: 96.3% (既卒1名含) H26: 100% (既卒3名含) H27: 100% H28: 99.0% H29: 100%</li> <li>(3校平均) H25: 98.7% H26: 99.6% H27: 99.6% H28: 98.3% H29: 100%</li> </ul>	<p>(看護専門学校)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験合格、就職100%を堅持する。</li> <li>2. 修学資金の受給対象、支給額などの条件緩和に向けて検討を継続する。</li> <li>3. 休学者、退学者数、未履修者数を減少させる。</li> </ol>	<p>(看護専門学校)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験全員合格に向けて指導を行い、慈恵96%、第三100%、柏99%で平均98.2%の結果であった。国家試験合格者のうち、就職希望者の就職率は100%であった。</li> <li>2. 経済的理由などの突発的事情で学業遂行が困難となった学生を対象に、藤田順子看護教育奨励基金の受給申請ができるよう臨時審議の機会が設けられた。</li> <li>3. 休学者、退学者、未履修者を出さないよう継続的に指導を行った。</li> </ol>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
④学生確保のための活動を行う。	<b>・附属4病院への就職者率</b> (慈恵) H25：97.8% H26：92.0% H27：99.0% H28：86.5% H29：90.0% (第三) H25：90.9% H26：91.3% H27：92.9% H28：90.4% H29：90.0% (柏) H25：84.0% H26：87.0% H27：92.3% H28：100% H29：90.0% (3校平均) H25：91.5% H26：90.1% H27：94.7% H28：92.3% H29：90.0%	(看護専門学校) 1. ホームページの利便性を向上し、学校の広報活動が効果的に行われるようにする。 2. 指定校訪問先の精選を行い、連携先を拡大する。	(看護専門学校) 1. 看護専門学校ホームページをリニューアルし、12月中に新たな内容で公開した。慈恵看護専門学校は、3月中旬にホームページに学校紹介動画をアップし、広報活動を充実させた。 2. 3校において推薦指定校の継続訪問を実施した。柏では、推薦指定校1校と看護師育成に向けた連携教育に関する協定書を締結した。
⑤看護教員の確保に努める。		(看護専門学校) 慈恵4機関看護部内から教員養成受講者を推薦、派遣できるようにする。	(看護専門学校) 附属病院(本院)看護部より、看護教員養成研修派遣者1名が決定した。今年度、本院、葛飾医療センター、第三病院看護部から計3名を東京都看護教員養成研修に派遣し、修了した。次年度、慈恵、第三、柏各校にそれぞれ1名ずつ、また外部採用として慈恵、第三各校に1名の看護教員を配属することとなった。
<b>2. 研究に関する目標</b> <b>(1) 研究水準および研究成果に関する目標</b> ①本学にとって特色ある研究領域を識別し、重点的に推進していく。	<b>・文部科学省科学研究費補助金 採択件数</b> H25：146件 H26：151件 H27：160件 H28：154件 H29：170件  <b>・論文発表数</b> H25：1,291稿 H26：1,233稿 H27：1,380稿 H28：1,551稿	(学事課) 1. 特色ある研究として、再生医学、ICT、神経科学、国際感染症領域を推進する。 2. ゲノム医療、先制医療、がん研究の推進に注力する。 3. 学長ヒアリングを実施し、新たに特色ある研究領域を探索する。 (研究支援課) 本学の歩みと今後の社会動向を踏まえ、研究ブランディング事業推進を通じて、最重要となる研究領域を模索する。	(学事課) 1. 前年度に続き、総合医科学研究センター再生医学研究部に戦略的重点配分研究費を配分した。 2. マスタープラン懇談会で新外来棟におけるゲノム医療について検討した。 3. 学長ヒアリングを実施し、研究者が必要とする研究環境の把握と研究アドミニストレーション部門の開設につなげることができた。 (研究支援課) 今年度は文部科学省私立大学研究ブランディング事業への申請を見送ることとし、次年度の申請に向けた検討を開始した。
②本学の強みを活かし、研究領域の社会還元を実践する。		(学事課) 「慈恵らしい研究」、すなわち研究を通じた患者貢献・社会貢献の価値観の共有を推進する。 (教育センター) 次年度の専門医制度施行に向けて、総合診療医のための研究体制を構築する。 (臨床検査医学講座) 研究ハブ機能の重点化を検査領域から開始する。	(学事課) 今年度は文部科学省私立大学研究ブランディング事業への申請を見送ることとし、次年度の申請に向けた検討を開始した。 (教育センター) 総合診療部、臨床疫学研究部が連携し、学生、研修医、医師のワークショップを開催した。 (臨床検査医学講座) 臨床データの収集・統合を行う方策について、情報収集を行った。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
③学内研究費を活用し、それぞれの研究層に応じた競争的資金の獲得を支援する。		<p>(学事課・研究支援課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学長主導により特色ある研究課題を戦略的・重点的に推進するために、戦略的重点配分研究費に基づく支援を行う。</li> <li>2. 大学院での研究を活性化させ外部資金の獲得を促進するため、医学研究科研究推進費に基づく支援を行う。</li> <li>3. 臨床講座に対し科研費採択を促進するため、基礎講座との連携を図り、萌芽的共同研究推進費に基づく支援を行う。</li> <li>4. 研究奨励費、医学研究科研究推進費および萌芽的共同研究推進費に係わる効果を点検・評価し、本システムの改善および当該教員の指導、アドバイスを行う。</li> </ol> <p>(研究支援課) 科研費採択を促進するために、研究奨励費に基づく支援を行う。</p>	<p>(学事課・研究支援課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大型研究の獲得を目指して、特色ある研究課題を公募の上、「ヒトiPS細胞と小型霊長類を用いた前臨床研究プラットフォームの構築」を選考して、研究費の執行管理を実施した。</li> <li>2. 学事課にて選考した医学研究科研究推進費採択者に対して、適正な執行管理を行うため、ルールに基づいた会計帳票類および根拠資料の確認を行い、会計処理を実施した。</li> <li>3. 学事課にて選考した萌芽的共同研究推進費採択者に対して、適正な執行管理を行うため、ルールに基づいた会計帳票類および根拠資料の確認を行い、会計処理を実施した。</li> <li>4. 学内研究費採択者を対象とした文部科学省科学研究費の応募・採択状況に関して調査を実施し、結果報告を行った。各研究費が適正に執行されるよう、経費使用説明会を開催してルールの周知を徹底した。</li> </ol> <p>(研究支援課) 研究奨励費の公募を行い、科研費申請状況などを踏まえて関係委員会で選考を行った。採択者34名(33,800千円)に対する研究費執行ルールの説明を実施した。</p>
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <p>①研究者としての高い倫理観を涵養するために必要な体制整備と本体制による対策の実施、状況のモニタリングを行う。</p>	<p>・大型プロジェクト研究事業の採択数 H25：1件 H26：0件 H27：0件 H28：2件 H29：1件</p> <p>・寄付講座設置数 H25：2講座 H26：2講座 H27：2講座 H28：0講座 H29：1講座</p>	<p>(研究支援課) 研究倫理推進センターが主体となり、研究費を適正かつ公正に管理・運用するための啓発活動を実施する。</p> <p>(監査室) 研究適正化特別委員会が主体となり、監査室と連携しながら研究費管理・運用の実態を把握し、適宜課題を指摘する。</p>	<p>(研究支援課) 「平成28年度公的研究費の適正な申請・使用に係るFD」(受講者数724名)を開催した。あわせて、「納品検取担当者研修会」(受講者数114名)においては、新日本監査法人による「コンプライアンス研修」のDVD研修を実施し、両会で「研究費使用ガイド」の周知を含めた倫理教育を実施し、研究費の適正な管理・運営を実施した。</p> <p>(監査室) 研究適正化特別委員会を4回開催し、規程の作成・改定、学長への提言などを行った。</p>
②学長直下の研究マネジメント部門を構築し、研究支援の強化を図る。		<p>(研究支援課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究IR機能を構築し、研究業績を分析した上で研究戦略を立案する。</li> <li>2. 研究費マッチングや産学連携マッチングなどを通じて、外部の大型研究費獲得支援を開始する。</li> <li>3. 知的財産を管理し、研究成果の社会への還元を開始する。</li> <li>4. 個々の研究者が求める研究支援を吸い上げる機会を設ける。</li> </ol>	<p>(研究支援課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究マネジメント部門の構築に向け、研究支援系URAおよび産学間連携・知財系URAの募集を行い、候補者を決定した。産学間連携・知財系URAは2月に着任、研究支援系URAは4月に着任予定である。</li> <li>2. 第1回慈恵クラスター研究会を開催した。</li> <li>3. 産学間連携・知財系URAは、2月1日より勤務を開始し、3月30日に第13回 慈恵医大臨床試験セミナーにおいて「医療研究者に必要な知財の基礎知識」をテーマとして講演を行った。</li> <li>4. 学長アドバイザーによる研究者へのヒアリングを実施して、研究者が求める研究支援に関する要望を調査した。</li> </ol>
③国際競争力のある研究を奨励、支援する。		<p>(学術情報センター) 論文執筆のためのFDを実施し、よりレベルの高い国際誌への投稿を推進する。</p>	<p>(学術情報センター) 「医学論文書きかた講習会」(大学院共通カリキュラム)を企画・開催した(J. M. J./慈大誌編集委員会主催)。論文執筆の際に利用するデータベース・文献管理システムの利用説明会を開催した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
④学内学外の研究連携を促進する。		(学事課・研究支援課) 1. 萌芽的奨励研究費の支援、大学院における基礎講座への再派遣制度、先端医学推進拠点群の実質化を通じて、学内共同研究の推進を行う。 2. 国立がん研究センター、東京理科大学、上智大学、首都大学東京などと連携を強化し、学外共同研究を推進する。 (看護学科・看護専門学校・看護部・看護学専攻修士課程) 連携して看護学研究を実施する。	(学事課・研究支援課) 1. 萌芽的共同研究推進費の適正な管理運営を支援することで、5件の学内共同研究の支援を行った。 2. 東京理科大学、上智大学との合同シンポジウムの開催、国立がん研究センター連携推進協議会における大学院・研究に関するワーキンググループ活動を通じて学外共同研究の推進を行った。 (看護学科) 国領キャンパス(看護学科、第三病院看護部、慈恵第三看護専門学校)による共同研究を推進し、研究発表会を開催した。 (看護専門学校) 教育担当師長・主任と教員間における定例会議や指導力強化研修にて検討を継続したが、実施には至らなかった。 (看護部) 研究結果について、慈恵看護研究会・各学会にて発表を行った。 (看護学専攻修士課程) 看護研究学習会を慈恵看護研究会と共催した。また、授業の一部(研究倫理特論など)を公開講義とし、看護部、教員、事務員など多くの参加者を得た。
⑤臨床研究支援体制を強化し、臨床研究の活性化を支援する。		(臨床研究支援センター) 1. 附属4病院の研究機能を促進するために、疾患レジストリを構築する。 2. 臨床研究支援センターは学内各部門の臨床研究支援を行う。 (薬物治療学・臨床疫学・分子疫学・環境保健医学) 薬物治療学、臨床疫学、分子疫学および環境保健医学が有機的に結びつきながら臨床研究を支援する。	(臨床研究支援センター) 1. 次年度から葛飾医療センター、第三病院、柏病院のデータ取得を開始すべく、SS-MIX導入に向けた準備を行った。 2. CRC(臨床研究コーディネーター)などが、臨床研究実施支援とモニタリング支援を行った。 (薬物治療学・臨床疫学・分子疫学・環境保健医学) 各講座が支援を行ったが、4部門が有機的に結びつきながら支援することはできなかった。
⑥寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。		(学事課・研究支援課) 寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。	(学事課・研究支援課) 先端医療情報技術研究講座による公的研究費の獲得支援を行った。当講座は設置期限が今年度末までであったが、寄付講座の期間延長について関係者と協議し、1年間の延長を認めた。
<b>(3) 総合医科学研究センターに関する目標</b>			
①各部署(研究所・研究部)の活動を点検・評価し、必要に応じて組織の再編を検討していく。	・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数 H25: 0回 H26: 1回 H27: 1回 H28: 2回 H29: 1回	(総合医科学研究センター・研究支援課) 各部署で設定した目標に基づき、自己点検評価報告書(含む平成28年度までの3年間の実績報告)を取りまとめる。	(総合医科学研究センター・研究支援課) 各部署で設定した目標に基づき、自己点検評価報告書を作成するためのフォーマットを作成・配布し、記載を依頼した。
②総合医科学研究センター研究部門が主導し、学内の各講座と連携しながら特徴ある研究を推進する。	・学内共同研究数 H25: 35件 H26: 42件 H27: 35件 H28: 33件 H29: 40件	(総合医科学研究センター・研究支援課) 1. 各講座を支援し、共同研究を企画推進する。 2. 各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。	(総合医科学研究センター・研究支援課) 1. 研究成果を東京理科大学との合同シンポジウム、センター内リトリート、学内再生医学・iPS細胞研究会で発表し、学内外の共同研究の推進を図った。 2. 総合医科学研究センターにおける競争的資金獲得状況について、文部科学省科学研究費では総合医科学研究センターとして13件採択された。
③総合医科学研究センター研究支援部門として、大学が戦略的に推進していく研究領域の支援を強化する。		(総合医科学研究センター・研究支援課) がん、再生医学研究を支援するためのGMP対応施設およびゲノミクスに関連した解析の支援と環境の充実を図る。	(総合医科学研究センター・研究支援課) GMP対応施設を使用した1例目の症例について認定再生医療等委員会審査の上、治療を行った。また、次世代シークエンサーを使用した解析の受託件数が増加した。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
(4) その他 知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	・公開講座開催数 (一般市民および地域医療者を対象) H25: 37回 H26: 36回 H27: 32回 H28: 25回 H29: 26回	(教育センター) 4機関で公開講座を30回開催する。	(教育センター) 4機関で25回の公開講座を開催した。
3. 診療に関する目標 ●本院に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。 ①特定機能病院としての機能を充実させる。	・先進医療の承認件数 H25: 7件 H26: 6件 H27: 8件 H28: 7件 H29: 9件	(管理課) 1. 集中立入検査後の厚生労働省タスクフォース検討結果による「監査委員会の設置」や「特定機能病院間の相互チェック」の体制を構築する。 2. 各診療科への支援策強化や実施申請方法の簡素化を検討する。	(管理課) 1. 厚生労働省の指示による平成29年度以降の「監査委員会の設置」に向けて、委員と規程を整備した。また、「特定機能病院間の相互チェック」については、私立医科大学相互ラウンドを活用することにより、機能を強化した。 2. 従前から課題となっていた各種申請問合せ窓口を明確化することにより、各診療科の申請手続きを効率化し支援強化を図った。
②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。	DPC病院I群としての各機能評価の充実 ・効率性指数 H25: 0.00565 H26: 0.00857 H27: 0.00970 H28: 0.00955 ・複雑性指数 H25: 0.00000 H26: 0.00000 H27: 0.00010 H28: 0.00000 H29: 0.00010 ・カバー率指数 H25: 0.00476 H26: 0.00932 H27: 0.00968 H28: 0.00963 ・救急医療指数 H25: 0.00226 H26: 0.00464 H27: 0.00473 H28: 0.00459 ・地域医療指数 H25: 0.00189 H26: 0.00459 H27: 0.00504 H28: 0.00497 ・DPC地域医療指数・体制評価指数 H25: 9.1P H26: 9.6P H27: 9.6P H28: 8.85P H29: 8.85P	(管理課) 1. 3,300件以上のがん登録を目標とし、がん登録関連情報を学内外に周知する。 2. がん相談および腫瘍センターサロンを患者に更に周知し、より質の高い患者相談に応じる。 3. 緩和ケア研修会の受講人数増加および緩和ケアチーム会議を定期開催し、緩和ケア体制を拡充、充実する。 4. がん診療連携パスの運用件数の増加と運用拡大を目指す。 5. 国立がん研究センターと連携を推進し、「地域がん診療連携拠点病院」の機能向上を図る。 6. キャンサーボードを定例開催し、腫瘍センター機能の更なる向上を目指す。	(管理課) 1. 今年度の目標値である3,300件を超える3,445件の登録を行った。 2. 就労支援、妊孕性に関するがん相談を検討し、フロー作成や院内医療従事者向けの研修会を開催した。 3. 緩和ケアチーム会議の定期開催を実施し、依頼件数は対前年度比50件増加であった。 4. がん診療連携パスは、前年度運用実績と比較し、今年度は20件増加の76件であった。 5. 国立がん研究センターと包括連携協議会を定期的に開催し連携強化を図り、地域がん診療連携拠点病院としての機能向上に努めた。 6. キャンサーボードを定期的に開催し、各職種にて検討、情報の共有を行うことにより、腫瘍センター機能の更なる向上を図った。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
③人材育成 (スキルアップ) を行う。	がん診療連携拠点病院 ・5大がん+前立腺がんのバス運用数 H25: 51件 H26: 87件 H27: 57件 H28: 77件 H29: 80件	(臨床研修センター) 1. 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討を推進する。 2. 鏡視下手術トレーニングコースによる評価を実施する。	(臨床研修センター) 1. 医療安全カンファレンス、CPCを実施した。研修医のCPC出席率は、96.9%と目標100%には至らなかった。 2. 鏡視下手術トレーニングコースによる評価を実施した。
④看護専門職を充実させる。	・公開講座数 H25: 3回 H26: 3回 H27: 2回 H28: 2回 H29: 2回	(看護部) 1. 認定看護師を増加させる。 2. 院内認定制度を導入する。	(看護部) 1. 増員した専門・認定看護師が、活動を開始した。また、新たに放射線看護認定看護師研修学校に1名の就学が決定した。 2. 家族看護2名、ストーマケア2名、感染看護2名の計6名が院内認定制度研修を修了した。
⑤チーム医療を強化・推進する。	・研修医のCPC出席率 H25: 95.8% H26: 97.9% H27: 97.5% H28: 96.9% H29: 100%	(医療安全管理部) TeamSTEPPS研修会を継続開催し、新採用者をはじめとする未受講者への研修を実施する。	(医療安全管理部) TeamSTEPPS研修会 (エッセンシャルコース、アドバンスコース) を継続開催した。研修については、医療安全部門は全員が受講した。感染対策部門の未受講者13名全員にDVDを配布し、レポートを提出させた。
⑥救命救急体制の強化を図る。	・新規認定看護師資格取得者数 H25: 0名 H26: 5名 H27: 9名 H28: 4名 H29: 1名	(業務課) 1. 救急部責任医師の権限により原則として全診療科の救急車を積極的に受入れるために「救急患者受入判断基準」を見直し救急搬送件数を増加させる。 2. 急性大動脈スーパーネットワークに参画し特定機能病院の機能強化を図る。	(業務課) 1. 「救急患者受入判断基準」を見直したが、救急搬送件数は減少した。 2. 急性大動脈スーパーネットワークに協力病院としての認定を受けた。
(2) 先進 (高度) 医療を開発し、施行する。 特定機能病院の要件を満たす。	・先進医療新規認定数 H25: 0件 H26: 1件 H27: 2件 H28: 1件 H29: 2件	(管理課) 1. 診療科からの相談に対応できるよう常に最新の情報を収集し、申請支援を行う。 2. 医療の質・技術向上に取り組み、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。 3. 他施設共同試験への参画に対する事務的支援を行う。	(管理課) 1. 毎月、厚生労働省の審査会資料を確認し、新たな先進医療の情報を把握するとともに、医療技術ごとに必要な情報を収集し、申請に向けた支援を行った。 2. 今年度、新たに1件の医療技術を申請し承認された。 3. 他施設共同試験への参画に対し、事務手続きの支援を行った。
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。 医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	・院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 309 H28: 435 H29: 435 ・院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 91件 H28: 100件 H29: 100件	(医療安全管理部) 1. 「管理者のための医療安全・感染対策研修会」を継続開催し各病院へ拡大する。 2. 医療安全・感染対策に関する教職員のレベルアップを図る。 (医療安全推進室) ハイリスク症例カンファレンスの更なる活用を浸透させる。 (感染対策室) 病棟ICT活動の推進により、アウトブレイクレベル3事例の減少を目指す。	(医療安全管理部) 「管理者のための医療安全・感染対策研修会」は、診療副部長、診療医長、看護主任、7等級以上のコメディカル職員などに対象者を広げ継続開催した。(平成28年:2回 87名/延べ9回開催/405名参加) (医療安全推進室) ハイリスクカンファレンスを67回開催した。 (感染対策室) 病棟ICT部署と年2回以上カンファレンスを実施した。アウトブレイクレベル3事例は16事例(前年度:14事例)であった。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
(4) 適正な保険診療の徹底 「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。		(病院事務部) 保険診療適正化委員会において適正な保険診療の推進に取り組む。 1. 保険診療講習会にポイント制(20p/1回)を導入し、年2回の受講(40p取得)を義務付ける。 2. 診療医長、診療副部長、診療部長昇格時の条件としてアドバンスコースの受講を必須条件とする。 3. 適正保険診療推進週間を12月の第三週に計画し、保険診療に係わる全教職員に「適正な保険請求」を周知徹底する。	(病院事務部) 1. 保険診療講習会を開催し、年2回受講するよう啓発した。 2. アドバンスコースは開催したが、昇格時の必須条件とすることを見送ることとした。 3. 適正保険診療推進週間を設定し、適正な保険診療の周知徹底を図った。他に、保険診療の視点も加えた定期的な診療録監査、および、抜き打ち監査を実施して診療部へフィードバックすることで診療録記載強化を図った。
(5) 患者・家族の満足度の向上を図る。 ①インフォームド・コンセントを徹底する。	・苦情・クレーム件数 (管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 383件 H28: 367件 H29: 350件 (患者相談室) H25: 104件 H26: 113件 H27: 147件 H28: 98件 H29: 70件  ・説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 H28: 15件 H29: 50件	(病院事務部) 現場から収集した事例を該当部署へフィードバックし、改善策の検討と再発防止を図り、患者、家族の満足度向上につなげる。 (病院事務部・業務課) 「特定機能病院の承認要件等の見直し」に則したインフォームド・コンセントに係わる体制並びに規程を整備する。 (看護部) 1. 入院計画書提出率100%を維持する。 2. 退院支援計画書1週間以内の着手率70%を目指す。 (患者相談室) 説明に関する苦情、クレームを当該部署にフィードバックし共に改善策を講じる。	(病院事務部) ご意見箱の内容をデータベース化し、四半期ごとに病院運営会議に報告した。  (病院事務部・業務課) 「特定機能病院の承認要件等の見直し」に則したインフォームド・コンセントに係わる規程を整備し、体制を強化した。  (看護部) 1. 看護師による入院計画書の記載は、100%を維持しているが、他部門との協体制にまだ不備があることから、継続検討を要する。 2. 退院支援計画書1週間以内の着手率70%を達成した。  (患者相談室) 看護師が対応したクレームは98件で、うち診療内容に関するクレームは25件であった。一方、病棟医師への謝辞の件数が増加しており、次年度は、苦情・クレームのみでなく、感謝の言葉も取り上げて、評価を行うこととしたい。
②教職員マナーの向上を図る。		(看護部・病院事務部) 患者サービス向上WGの活動を推進しマナー向上に取り組む。	(看護部・病院事務部) あいさつ週間を年4回、スキルアップ研修を1回行った。スキルアップ研修については、ディスカッション形式で実施し、133名の教職員が参加した。また、マナーモデルへ役割を明示し、各部署のマナー向上につなげた結果、苦情は減少し一定の成果を上げることができた。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<p>(6) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。</p> <p>紹介・受診しやすい外来システム改善と広域医療連携を構築する。</p>	<p>・紹介率 (保険法) H25: 46.8% H26: 67.5% H27: 71.9% H28: 71.9% H29: 70.0%</p> <p>・逆紹介率 (保険法) H25: 30.5% H26: 52.5% H27: 52.7% H28: 52.2% H29: 50.0%</p>	<p>(患者支援・医療連携センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予約システムのデジタル化を推進し、同窓医、産業医、大病院を中心とした広域連携を構築する。</li> <li>2. 各科のローカルルールを撤廃し、スムーズな外来予約システムを確立する。</li> <li>3. 紹介率・逆紹介率共に50%以上を維持できるように循環型医療連携の推進、web予約の拡大を図る。</li> </ol>	<p>(患者支援・医療連携センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予約システムのデジタル化を推進し、同窓医、産業医、大病院を中心とした広域連携を構築すべく、検討を行った。</li> <li>2. 各診療科の予約枠の整理と医師個人・専門外来枠を新設したことで、紹介件数およびFAX予約件数は前年度よりも増加した。</li> <li>3. web予約システムは、80施設拡大の140施設となり、紹介率、逆紹介率ともに50%以上を維持した。</li> </ol>
<p>(7) 臨床研究を促進する。</p> <p>薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。</p>		<p>(治験センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研究支援センターと連携し、新たな倫理指針に則った倫理委員会事務局の機能を強化する。</li> <li>2. 臨床研究の適正な実施とデータの信頼性確保に向けて、効果的なモニタリングへの支援体制を整える。</li> <li>3. 臨床試験・治験に係わる病院および大学の各部門と連携し、試験の審査申請からCRCによる実施サポートなど臨床研究の実施体制を強化する。</li> </ol>	<p>(治験センター)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研究支援センターと連携し、倫理委員会の開催に協力した。倫理審査申請システム上で、臨床研究の実施状況報告の受理作業、倫理委員会講習会の開催補助など、業務支援を拡大した。</li> <li>2. CRC(臨床研究コーディネーター)が直接モニタリングを担当する研究は3件だったが、各研究者のモニタリング担当医師への実施手順の確認や、作業用ファイルの配布などを通して支援手順を確立した。</li> <li>3. 研究内容により、臨床研究審査委員会や研究支援課などと連携しながら、研究者をサポートした。</li> </ol>
<p>(8) 効率的医療を推進する。</p> <p>①効率的な診療体制の構築を図る。</p>	<p>・中央棟手術室利用率 (日勤帯) H25: 70.6% H26: 69.6% H27: 70.6% H28: 69.6% H29: 70.0%</p> <p>・外来棟手術室利用率 (日勤帯) H25: 44.0% H26: 34.6% H27: 36.9% H28: 35.6% H29: 40.0%</p>	<p>(病院事務部)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来ポリペクトミーの導入、EMR/ESD症例の増加などにより外来棟手術室利用件数を増やす。</li> <li>2. 長期連休(ゴールデンウィーク、年末年始休日)時の低侵襲定時手術の実施体制を整備する。</li> <li>3. ゆるやかなセンター化構想を推進し消化器センターの具現化を目指す。</li> </ol>	<p>(病院事務部)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外来ポリペクトミー導入によりEMR(内視鏡的粘膜切除術)/ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)症例は増加した。</li> <li>2. ゴールデンウィークにおいては、整形外科の予定手術を実施した。年末年始は、連休前の週末までで予定入院数が前年度を上回ったため、連休中の予定手術は実施しなかった。</li> <li>3. 消化器センター開設に向けて、ワーキンググループ内で検討を行った。</li> </ol>
<p>②手術室の安全で効率的な運用を図る。</p>		<p>(手術部)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性大動脈スーパーネットワークなどの血管治療系の緊急手術の受入体制を充実する。</li> <li>2. 医療機器認証システムの導入により、複雑な手術症例に対して安全で効率的な運用を確立する。</li> <li>3. 現在までの手術データ像から将来の手術室のあり方を構築する。</li> </ol>	<p>(手術部)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血管治療系の緊急手術の受入体制を充実すべく関係部署との連携体制を構築し、運用を開始した。</li> <li>2. 本院では刻印作業を開始し、葛飾医療センター、第三病院、柏病院についても導入準備作業を進めた。</li> <li>3. 西新橋キャンパス再整備計画の一環として、新外来棟手術室の基本設計を行った。</li> </ol>
<p>③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。</p>		<p>(業務課)</p> <p>救急患者責任医師の権限強化により救急搬送受入れを推進する。</p>	<p>(業務課)</p> <p>救急患者責任医師の権限強化により救急搬送受入れを推進したものの、救急搬送件数の増加には至らなかった。</p>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<p>(9) 適正な収支構造の確立</p> <p>毎期設定される医業利益目標を達成する。</p>		<p>(病院事務部)</p> <p>1. 毎月の各科の損益分岐点を示し進捗状況を管理する。</p> <p>2. DPC機能評価係数の向上に取り組む。</p> <p>3. 診療報酬改定内容に基づき、厚生労働省の示す病院実績報告「病院指標の作成と公表」を上半期中に公表することを目指し、DPC評価係数を獲得する。</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>1. 損益分岐点での管理は行わなかった。</p> <p>2. 診療録管理体制加算1および医師事務作業補助体制加算75対1取得、急性期看護補助体制加算25対1を2ヶ月間取得した。</p> <p>3. 厚生労働省の示す病院実績報告「病院指標の作成と公表」を9月までに公表した。</p>
<p>(10) ICTを充実し、有効活用する。</p> <p>ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。</p>		<p>(システム課)</p> <p>1. 本院電子カルテ導入に向けたシステムベンダを選定する。</p> <p>2. 附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。</p>	<p>(システム課)</p> <p>1. システムベンダを決定し、導入に向けた検討を開始した。</p> <p>2. 第三病院で稼働を開始した「患者モバイル呼出システム」は待ち時間の有効活用に寄与しており、今後は本院への導入を検討する。</p>
<p>(11) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。</p> <p>① 月次医療収支額を把握し活用する。</p>	<p>・特殊材料費・消耗品費経費率</p> <p>・特殊材料費</p> <p>H25: 9.17%</p> <p>H26: 9.40%</p> <p>H27: 9.46%</p> <p>H28: 8.33%</p> <p>H29: 7.98%以下</p> <p>・消耗品費</p> <p>H25: 4.74%</p> <p>H26: 4.91%</p> <p>H27: 5.05%</p> <p>H28: 5.61%</p> <p>H29: 5.17%以下</p> <p>・原価率</p> <p>H25: 92.9%</p> <p>H26: 95.2%</p> <p>H27: 96.2%</p> <p>・後発医薬品の数量シェア</p> <p>H25: 24.5%</p> <p>H26: 41.3%</p> <p>H27: 76.3%</p> <p>H28: 79.7%</p> <p>H29: 80.0%</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>各診療部長の患者数、手術件数などの目標値および増収項目を設定し、診療科積み上げ式の予算編成を行う。</p> <p>(病院事務部)</p> <p>各診療部の患者数などの目標値を予算に反映し、各診療部QI(クオリティーインディケータ)を公表し経営意識を醸成させる。</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>院長・診療部長面談を通して、目標値・増収項目を予算に反映させた。なお、第1四半期で目標値と実績差異の大きい診療科については臨時で面談を実施するとともに、上半期実績を基に全診療科の面談を実施したが、年度予算は達成できなかった。</p> <p>(病院事務部)</p> <p>各診療部QIの目標値と実績値を診療部へフィードバックすることで、経営意識の醸成につなげた。</p>
<p>② 大学間ベンチマークを実施し、経営改善に活用する。</p>		<p>(経営企画部)</p> <p>1. 経営上有益なデータを提供し、経営改善や医療の質の向上に貢献するためのベンチマークを継続する。</p> <p>2. 診療報酬改定による影響分析および改善策を提案する。</p> <p>3. 時事問題に関連した調査、報告を実践する。</p>	<p>(経営企画部)</p> <p>1. 大学間ベンチマークにより、患者数の動向などあらゆる視点における情報を分析し、教職員に開示することで病院経営に役立たせることができた。</p> <p>2. 診療報酬改定による附属4病院の影響度調査・分析を実施し、4病院院長会議において報告することで、各附属病院の今後の指標の一助として活用することができた。</p> <p>3. 港区在住者の分娩件数の増加対策など、幅広く情報を収集し、経営改善に寄与できるよう適宜報告した。</p>
<p>③ 新外来棟建築計画も含めて、医療材料のSPD業務の再編を行う。</p>		<p>(病院事務部)</p> <p>医療安全に配慮しつつ後発医薬品への切替えを進め、早期に数量シェア80%を達成する。</p> <p>(施設課)</p> <p>1. 医材・物流WGによる附属4病院共同購入の推進と病院効果額を検証する。</p> <p>2. コストマネジメント・プロジェクトを中心とした経費削減活動を実践する。</p> <p>(経営企画部)</p> <p>附属4病院のSPD統一化に向けて、現状分析と検討を行う。本院においては、新外来棟建築計画と調整し、SPD業務の再編を行う。</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>医療安全に配慮しつつ後発医薬品への切替えを進め、平成29年3月時点で79.7%に達した。</p> <p>(施設課)</p> <p>1. 附属4病院共同購入を推進し、体温維持装置など計8項目の削減効果額は、附属4病院で年間約1,802万円であった。</p> <p>2. コストマネジメント・プロジェクトにおいて、外部組織との共同購入(本院のみ)により、経費削減の効果があつた。</p> <p>(経営企画部)</p> <p>附属4病院SPD業者の統一を決定し、次年度から段階的に業者統一を行い、10月に完全統一となる。従って次年度は下半期で約1億円の経費削減効果となる。</p>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<p>(12) 情報公開の条件を整備する。</p> <p>診療情報を評価するシステムを構築する。</p>	<p>・情報公開項目数 (手術、合併症率、再入院率、再手術率等)</p> <p>H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 4件 H29: 0件</p>	<p>(管理課)</p> <p>1. 7大学ベンチマーク会議などにおける情報交換を継続する。 2. 診療報酬改定に則した臨床指標および本学独自の指標の実績を公表する。</p>	<p>(管理課)</p> <p>1. 7大学ベンチマーク会議にて情報交換を行い、病院運営会議にて報告し、院内の運営に活用した。 2. ホームページに診療報酬改定に則した当院の実績を掲載した。その結果、次年度よりDPC機能評価係数が0.05上昇することとなった。</p>
<p>(13) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想</p> <p>①晴海トリトンクリニックの機能 (組織・診療体制・健診体制) を点検・評価する。</p> <p>②医療機器の計画的な更新を図る。</p>		<p>(晴海トリトンクリニック)</p> <p>マスタープランの策定において、今後の晴海トリトンクリニックのあり方、将来構想を検討する。</p>	<p>(晴海トリトンクリニック)</p> <p>晴海トリトンクリニックのあり方委員会は開催されず、医師派遣について、附属病院として明確な方針は示されなかったが、今後も継続して検討することとなった。</p> <p>(晴海トリトンクリニック)</p> <p>永年使用の医療機器は、故障・修理不能などで結果的にほぼ更新された。</p>
<p>(14) 総合健診・予防医学センターの充実</p> <p>①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。</p> <p>②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。</p> <p>③女性検診の充実化を図る。</p>	<p>・がん早期発見率 (平成24年度実績ベース)</p> <p>H25: 0.1% H26: 0.1% H27: 0.1% H28: 0.1% H29: 0.1%</p> <p>・メタボリックシンドローム該当者率 (平成24年度実績ベース)</p> <p>H25: 14% H26: 7% H27: 5% H28: 5% H29: 6%</p> <p>・女性検診での早期異常状態発見率 (平成24年度実績ベース)</p> <p>H25: 3.4% H26: 3.0% H27: 3.0% H28: 3.1% H29: 3.0%</p>	<p>(総合健診・予防医学センター)</p> <p>1. 新病院に向けて消化器内視鏡検査の充実を図るため検査人数の増加、がん早期発見に努める。 2. 消化管内視鏡および大腸内視鏡のオーダーリングシステムを導入し病院との連携を図る。</p> <p>(総合健診・予防医学センター)</p> <p>予防医学を推進するために保健師による健康指導を行い企業健診枠を拡大させる。</p> <p>(総合健診・予防医学センター)</p> <p>新病院に向けてニーズの高い女性検診の乳腺超音波検査の導入を検討する。</p>	<p>(総合健診・予防医学センター)</p> <p>1. 月曜日のみ婦人科検診と内視鏡検査の同一日実施を試験的に開始した。また、午後に内視鏡検査を実施することで、内視鏡検査人数を増加させた。 2. 大腸内視鏡のオーダーリングについては、関係部署と検討したが実施には至らなかった。</p> <p>(総合健診・予防医学センター)</p> <p>健診者がメタボリックシンドロームに該当した場合は、当日に保健指導する運用を試験的に開始した。これにより、企業健診枠の拡大と予防医学の推進につなげた。</p> <p>(総合健診・予防医学センター)</p> <p>乳腺超音波検査の導入を検討したが、実施には至らなかった。また、子宮体がん検査の高いニーズに応えるために、経膈超音波検査を積極的に実施し、女性検診を充実させた。</p>
<p>(15) 予防医学の推進</p> <p>健康増進に関する新たな診療体制を検討する。</p>		<p>(病院事務部)</p> <p>検討推進会議において基本構想を策定する。</p>	<p>(病院事務部)</p> <p>西新橋キャンパス再整備計画統括会議において健康増進施設「メディカルコンディショニングラボ」の設置に関する提案を行い、経営形態や関連法令の確認を含めて検討した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<b>●葛飾医療センターに関する目標</b> <b>(1) コンプライアンスとガバナンスを強化する。</b> 病院機能評価を受審し認定病院となる。		プロジェクトチームを中心に準備を進め、病院機能評価を受審し、認定を受ける。	病院機能評価準備委員会を発足させ、問題点の改善に取り組み、2月に病院機能評価を受審した。3月に送付された中間報告書では、認定保留となる項目（C評価）はなかった。
<b>(2) 健全財政を維持する。</b> <b>① 医療の効率化、透明化、標準化を推進する。</b>		DPC分析とクリニカルパスの拡充を図り、医療の効率化、透明化、標準化を推進する。	DPCデータの分析結果に基づき、クリニカルパスのバリエーションや使用状況をモニタリングし、内容の改善と拡充を図った。
<b>② コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。</b>		医療収入と医療材料費の相関チェックを行いコスト管理を徹底する。	医療収支状況を基に、医療収入と医療材料費の相関関係を確認し、医療材料費の増加要因を分析するなどコスト管理を徹底した。
<b>③ データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。</b>		1. 収益性・機能性分析を行い管理会計を強化する。 2. 患者圏の地域分析などのマーケティングに着手する。	1. DWH(データウェアハウス)の抽出データから経営指標のモニタリングを行い、管理会計に基づいた対策を随時講じた。 2. 初診患者数や入外患者の患者圏分析をもとに対策を講じた。
<b>(3) オープン・システムを拡大する。</b> <b>① 附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。</b>	<b>・紹介率（保険法）</b> H25：49.4% H26：59.9% H27：63.4% H28：68.8% H29：70.0%	登録医の拡大を図り「顔の見える」医療連携を推進する。	医療機関訪問などの活動推進により、新規に11名が連携登録医となった。
<b>② 地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図る。</b>	<b>・逆紹介率（保険法）</b> H25：17.9% H26：30.4% H27：26.3% H28：26.2% H29：30.0%	1. 訪問看護ステーションとの相互研修と地域との合同勉強会を開催する。 2. 地域に向けたスキルアップ研修(オープン講座)を開催する。 3. 認定看護師による在宅同行訪問、電話相談を実施する。	1. 訪問看護ステーションとの相互研修を実施し、受入れ12名、出向20名であった。また、地域の訪問看護ステーション所長による講習会を開催し、97名が参加した。 2. オープン講座を4回実施し、188名(院外83名)が参加した。 3. 認定看護師への電話相談は、がん看護(がん性疼痛)1件、WOC(皮膚・排泄ケア)20件であった。
<b>③ 地域の健康管理・健康増進に貢献する。</b>	<b>・公開講座平均参加者数</b> H25：112名 H26：97名 H27：156名 H28：112名 H29：120名	地域の患者ニーズを反映させて、公開セミナーの充実を図る。	公開セミナーを3回実施し、6月63名、9月119名、2月153名の参加者数を得た。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
(4) 診療重点機能を強化する。			
①プライマリーケア・ユニット (救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送数 H25: 3,532件 H26: 3,771件 H27: 3,737件 H28: 3,484件 H29: 3,600件</li> <li>・手術件数 H25: 4,494件 H26: 4,519件 H27: 4,450件 H28: 4,855件 H29: 4,700件</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携強化および救急受入体制を強化する。</li> <li>2. 救急車応需率および救急患者数を増加させる。</li> <li>3. 総合内科体制を再構築する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急ストップ管理を救急部にて行い、平日日中帯における専門外来との連携強化を図った。また、救急入院受入れ強化のため、2日前退院オーダーを徹底し、実施率目標65%を達成した。</li> <li>2. 救急受入れ体制の強化により、救急車応需率は0.2ポイント増加した。救急患者数はベッド満床による救急ストップの増加などから減少した。</li> <li>3. 病院運営会議および内科診療部長会議を中心に総合内科体制のあり方について継続検討した。</li> </ol>
②当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液透析室の増床および透析患者を増加させる。</li> <li>2. 計30床の運用により13,000件の透析を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液透析室は、5月から8月の期間に計画通り30床に増床した。</li> <li>2. 透析件数は増床にあわせて経年で増加し、おおむね目標を達成した。</li> </ol>
③がん治療を重点化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液透析件数 (1ベッドあたり) H25: 1.38回転 H26: 1.60回転 H27: 1.54回転 H28: 1.40回転 H29: 1.45回転</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東京都がん診療連携協力病院(大腸がん)事業を推進する。</li> <li>2. 放射線治療の稼働を推進する。</li> <li>3. がん診療連携拠点病院に向けた検討を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東京都がん診療連携協力病院指定の申請を行ったが、常勤の放射線治療医不在により見送られた。がん診療体制は維持し、引き続き東京都がん診療連携協力病院の指定を目指している。</li> <li>2. 放射線治療は、予測患者数を上回って稼働した。</li> <li>3. 常勤の放射線治療医の配置が難しい状況の中、がん診療体制の整備を推進した。</li> </ol>
(5) 大規模災害に備える。			
①BCP (事業継続計画) を策定する。		BCPの実効性の検証を継続する。	BCPを改定し見直しを図った。また、BCPの教育訓練として、東京都、葛飾区、墨田区合同総合防災訓練に参加し、衛星電話の機器操作、感度、利便性などを検証した。
②被災地支援体制を構築する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DMAT隊員の増員を検討する。</li> <li>2. 被災地への支援体制について中長期的視野で検討する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業務調整員の対象者を選出し、活動を開始した。なお、構成員の増員申請に必要な講習会への参加申請を行ったが、定員の関係で受講できなかった。</li> <li>2. 大規模地震時医療活動訓練にDMATチームが参加した。また、東京都、葛飾区、墨田区合同総合防災訓練に参加し、衛星電話の通信訓練を実施した。備蓄品についても、継続的に拡充を行った。</li> </ol>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成 28 年 度 実 施 結 果
<b>●第三病院に関する目標</b> <b>(1) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。</b>			
①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。	<b>・救急搬送数</b> H25：4,596件 H26：3,984件 H27：3,264件 H28：3,589件 H29：3,600件	1. 救急隊の環境整備の一環として救急隊待機所を設置する。 2. 救急応需率80%を維持しつつ年間3,600件(月300件)の救急車を受入れる。	1. 救急隊控室を設置した。狛江市救急連絡協議会に参画し連携を強化した。 2. 救急応需率は月平均70.3%、救急車搬送数は3,589件(対前年度比272件増)、月平均299件(対前年度比27件増)であった。
②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。	<b>・手術件数</b> H25：5,757件 H26：5,654件 H27：6,121件 H28：5,868件 H29：6,000件  <b>・病床稼働率(一般)</b> H25：84.0% H26：83.6% H27：83.8% H28：83.6% H29：88.0%	1. オペラマスター分析にて手術枠の見直しによる稼働率の改善と効率的かつ安全な手術室運用を実施する。 2. 手術申込時の実績差異およびインターバルの改善と緊急手術の受入体制を確立する。 3. 更なるSSI改善に向け、閉創セット採用範囲の拡大と安全な手術を実施する。	1. 手術枠利用率、稼働率を分析し、1月より新手術枠で運用を開始した。手術件数は5,868件(対前年度比253件減、目標値132件減)であった。 2. 術間インターバル削減に向けた分析・検討を重ね、正確な手術予定時間の把握を徹底し、徐々に緊急手術などに対応可能となった。 3. SSI(手術部位感染)改善については、追加器具未購入であった。手洗い後細菌検査の結果については、陽性者およびコロニー数などが減少した。
③東京都がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんの集学的治療を充実させる。		がん診療専門職者を育成するとともに、がん診療センターの機能を拡充し、東京都がん診療連携拠点病院の指定を受ける。	東京都がん診療連携拠点病院として、緩和ケア研修会や講演会、患者向けサロンなど実施した。
④東京都地域連携型認知症疾患医療センターの機能を拡充する。	<b>・紹介率(保険法)</b> H25：38.2% H26：53.9% H27：56.7% H28：61.7% H29：60.0%	認知症の医療相談、鑑別診断、身体合併症と行動・心理症状への対応、地域連携の推進などを実施する。	第2回認知症研究会を脳神経外科医師および看護学科教員を講師として開催した。狛江市による認知症サポーター養成講座を実施(参加人数：50名)した。認知症ケアチームを発足し、院内ラウンドを毎週行うとともに、院内看護師向けに認知症看護能力研修会などを開催した。
⑤病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。	<b>・逆紹介率(保険法)</b> H25：18.6% H26：34.1% H27：42.4% H28：44.3% H29：40.0%	病床配分の見直しや個室料金などのあり方を検討する。	救急患者を円滑に受入れるための救急支援床を設置(6床)とセンター化を視野に入れた病床再編を行った。また、個室料金の見直しについて検討し、1C病棟4人床2室を改修し個室2室とした。
⑥医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。		1. 医療連携システムweb予約の活用により増患を図る。 2. 従来の近隣クリニックだけでなく健診センターなどにも積極的にアプローチし増患を図る。	1. web予約数は468件(月平均予約数の対前年度比7件増)であった。 2. 健診センター・前方後方連携・新規開業医療機関19施設を診療部長も交え訪問した。
⑦患者満足度の高い病院への改善を図る。	<b>・外来患者満足度「次回も当院をご利用いただけますか」</b> H25：91% H26：92% H27：99% H28：92% H29：93%  <b>・入院患者満足度「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」</b> H25：84% H26：98% H27：98% H28：97% H29：98%	1. 整備未実施の病棟の補修工事を行う。 2. ホスピタリティー向上にむけ、患者サービスWGを活用する。 3. 患者満足度調査の充実を図り、さらなる患者サービスの向上を目指す。	1. 入院加療環境の向上を図るため、適宜病棟整備工事を実施した。経費抑制のため、一部の病棟の壁面改修を自営工事とした。 2. 1月より患者モバイル呼出システムの運用を開始した。 3. 患者満足度調査結果などから診療待ち時間、病棟設備以外の満足度向上が見受けられた。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
(2) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。  ①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。		リニューアルタスクフォースでの新病院に向けた基本構想、基本計画を策定する。	リニューアルタスクフォース会議を9回開催した。2月に2日間の集中検討会を実施し、新病院の基本構想を構築した。
		薬剤師会、災害薬事コーディネータとの協力体制を調布市、狛江市と協議して決定する。	狛江市・調布市合同緊急医療救護所訓練時に薬剤師会と共同で災害時処方箋発行訓練を実施した。狛江市保管の災害用備蓄薬剤の当院への移動・保管を検討し、院内の保管場所を確保した。
(3) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。  電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。		1. DWH(データウェアハウス)を活用し経営分析、臨床指標の作成を検討する。 2. 新たに画像取込システム・患者呼出システムを導入し、更なる医療の効率化・情報化を進める。	1. DWHに関してはクリスタサポートセンターと連携して、臨床指標を作成し、経営分析などに活用した。 2. 画像取り込みシステムについては、10月より、患者モバイル呼出システムについては、1月に各々運用を開始した。
(4) 大規模災害に備える。  ①BCP(事業継続計画)を策定する。		災害対策本部の業務をより詳細に規定し、人員の参集、物資の供給に係わる仕組みを立案する。	「災害対策マニュアル」、「BCPマニュアル」の更新を実施した。院内50部署に配布し、常時閲覧可能な体制を構築した。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)の機能維持に努める。	1. 訓練に参加し、隊員の技能維持に努める。 2. 第2チーム募集状況を確認し、欠員が生じた際の対応について検討を進める。
(5) 教育・研修の推進  新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療専門医」の基幹病院として、総合診療研修センターを運営する。		1. 新専門研修プログラムの「総合診療科」領域に基幹病院として申請する。 2. 総合診療専攻医の公募および採用試験を実施する。	1. 新専門研修プログラムの「総合診療科」領域に基幹病院としての申請をしたものの、専門医制度は平成30年度開始へと延期になった。 2. 専門医制度延期のため、例年通り内科レジデント採用試験を行った。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<b>●柏病院に関する目標</b> <b>(1) 医療の標準化・効率化を推進する。</b>			
①医療の質の向上と安全を確保する。	<b>・レジメン登録件数</b> H25：430件 H26：470件 H27：501件 H28：581件 H29：550件  <b>・手術件数</b> H25：7,839件 H26：7,628件 H27：7,673件 H28：7,642件 H29：7,600件	安全な薬剤投与に向けたシステムを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>処方カレンダー機能は予定通り稼働、糖尿病患者診療支援は運用上の問題から稼働を延期した。</li> <li>PFMの院内フローが可視化され、外来トリアージナース・薬剤師の連携が円滑に進んだ。医師診察前介入率の向上につながった。周術期中止薬のスクリーニングは内容を充実して10月より運用を開始した。</li> <li>新規抗がん剤オブジーボの副作用早期発見のための院内整備を行った。</li> </ul>
②手術室の安全性の向上と効率化を図る。		手術枠の更なる有効活用を図る。	手術件数は目標に届かなかったものの、外来手術センターを有効活用した結果、中央手術室での全身麻酔手術件数が増加した。全身麻酔件数は対前年度比203件増である。
③DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。	<b>・クリニカルパス数(種類)</b> H25：14件 H26：31件 H27：62件 H28：63件 H29：68件	DPCに対応したクリニカルパスの見直しおよび新規クリニカルパスの登録を拡充する。	使用件数については、前年度と比較し増加した。クリニカルパスの見直しおよび新規登録については、各診療科よりクリニカルパス登録担当医を選出するなど、見直しと拡充に向けた体制作りの検討を行った。
④患者のためのチーム医療を推進する。		各医療チームの充実を図る。	褥瘡・栄養サポート・緩和ケア・臨床倫理コンサルテーション・家族支援チームがそれぞれの分野で患者中心の医療を実践し効果を上げた。
⑤患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。	<b>・院内褥瘡発生率</b> H25：1.11% H26：0.80% H27：0.75% H28：0.65% H29：0.60%  <b>・NST介入件数</b> H25：443件 H26：443件 H27：444件 H28：482件 H29：490件	1. PFM機能強化による病床の効率的な運用を推進する。 2. 平均在院日数を14日台とする。	1. PFM機能を有効に活用し、年間病床稼働率は88.4%で前年度(86.4%)を上回った。 2. 平均在院日数は14.1日であった。
<b>(2) 地域中核病院として十分に機能する。</b>			
①周産期センター化を検討する。	<b>・先進医療の承認および実施件数</b> H25：3件24症例、新規承認0件 H26：2件10症例、新規承認1件 H27：2件5症例、新規承認0件 H28：2件3症例、新規承認0件 H29：2件5症例、新規承認1件	周産期センター化に向けたNICU、GCUの設置について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>周産期センター検討ワーキンググループを開催し、具体的な検討に入った。</li> <li>夏季常任理事会にて、周産期センター開設を視野に4C病棟へのNICU(3床)およびGCU(9床)の設置計画を提案した。</li> <li>周産期医療に向けた推進策の一環として、未熟児室と重症室の電源改修工事を3月に実施し、安全性を高める環境整備を図った。</li> </ul>
②東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。		1. 千葉県保健医療計画の見直しによる地域医療構想に応じた体制整備を行う。 2. 先進医療を推進する。	1. 千葉県保健医療計画を踏まえ、東葛北部地域における医師会・医療機関関係者等などと打ち合わせを行った。1月に全病床を高度急性期として病床機能報告をした。 2. 先進医療について、具体的な対策を講じることはできなかった。
③地域包括医療を推進する。	<b>・紹介率(保険法)</b> H25：55.0% H26：63.3% H27：68.1% H28：74.1% H29：70.0%  <b>・逆紹介率(保険法)</b> H25：36.7% H26：48.5% H27：49.7% H28：54.9% H29：50.0%	1. 連携医療機関を拡充する。 2. 前後方連携医療機関の開拓と推進を図る。 3. 逆紹介率を向上させる。 4. web予約システムの機能拡大とシステム向上を図る。	1. 連携登録医療機関は、対前年度比15件増加した。 2. 医療機関訪問は119件実施し、連携推進を図った。 3. 逆紹介率は54.9%で、前年度49.7%を上回った。 4. 紹介医に対するweb予約システム機能を利用した画像参照システムの稼働については、ワーキンググループで継続検討し、実施に向けた方向性を定めた。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<p>(3) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。</p> <p>がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。</p>	<p>・外来がん延患者数 H25：75,000名 H26：74,368名 H27：72,047名 H28：66,786名 H29：72,000名</p> <p>・入院がん延患者数 H25：3,286名 H26：3,611名 H27：3,524名 H28：3,263名 H29：3,500名</p> <p>・外来化学療法室延患者数（月平均） H25：409名 H26：455名 H27：482名 H28：545名 H29：545名</p> <p>・緩和ケアチーム介入数 H25：95件 H26：116件 H27：139件 H28：124件 H29：140件</p> <p>・がん地域連携パス数（種類） H25：5 H26：8 H27：7 H28：7 H29：7</p>	<p>1. 国立がん研究センター東病院との協力体制により登録精度の向上を図る。</p> <p>2. 緩和ケア新規介入件数の向上を図る。</p> <p>3. がん地域連携パスの拡充と医療機関を拡大する。</p>	<p>1. 国立がん研究センター東病院と情報を共有し、がん登録業務の精度を向上した。5年生存率データの登録率を高めた。</p> <p>2. 緩和ケアの件数は横ばいであるが、『痛みスクリーニング』を実施し、介入のニーズを掘り起こす仕組みを構築した。</p> <p>3. がん地域連携パスの拡充および医療機関の拡大ともに実施できていないが、対象となる患者の抽出方法の構築を検討している。</p>
<p>(4) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。</p> <p>①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受入れる。</p> <p>②救急医療の臨床教育を充実させる。</p>	<p>・救急搬送数 H25：3,034件 H26：4,246件 H27：4,587件 H28：4,808件 H29：4,900件</p> <p>・3次救急搬送件数 H25：755件 H26：881件 H27：823件 H28：942件 H29：950件</p> <p>・救急車で来院し、入院となった患者数（救急医療入院のみ） H25：1,514名 H26：1,907名 H27：2,413名 H28：2,489名 H29：2,500名</p>	<p>重症患者を救急部で受入れ、各科との連携を強化する。</p> <p>慈恵柏BLSコース、慈恵ICLSコースの他、救命救急センター主催の勉強会を定期的に開催する。</p>	<p>各科との連携を強化し、救急搬送件数は対前年度比221件増加、3次救急搬送件数は対前年度比119件増加となっており、救急受入れ件数は大幅に増加した。</p> <p>救命救急センター、救急部、麻酔部、柏病院CPR教育ワーキンググループが中心となって救急医療の研修会を行った。BLSコース（9回実施）、ICLSコース（5回実施）の他、「救急画像診断勉強会」を5回開催した。</p>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<b>(5) 収益の向上を図る。</b> 収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 ・医療経費（特殊材料費、消耗品費等）の削減 ・原価率 ・診療単価と手術単価		1. 共同購入を推進する。 2. 配置在庫の適正化および不動態在庫を削減する。 3. 後発医薬品の数量シェア80%を達成する。	1. 附属4病院医材・物流ワーキンググループ提案の共同購入品はサンプル評価も良く、切替えた。 2. 定数回転率についても1.09へ更に改善し、適正在庫に向け活動することができた。不動態在庫(期末540万円)についても、他機関への使用依頼を行い、不要品の返却に努めた。 3. 今年度は、38品目を後発医薬品に切替えた。平成28年10月からの数量シェアは80%を越えた。
<b>(6) 災害拠点病院としての体制を整備する。</b> ①DMAT(災害派遣医療チーム)の体制を強化する。		1. 日本DMATの業務調整員(ロジ)を増員する。 2. インストラクター資格取得支援を行い体制強化を図る。	1. DMAT業務調整員1名の増員を達成した。 2. インストラクター資格取得については、2月に医師が所定の試験に合格し、資格を取得した。業務調整員は受験資格を取得し、平成29年度上半期中に受験予定である。
②災害拠点病院としてBCP(事業継続計画)を策定する。		BCPを策定し、災害拠点病院としての体制を整備する。	BCPの改訂については、内容の充実化のみならず、有事により実効性の高いBCPとなるよう慎重に検証を行うこととし、今年度における改訂版の制定は保留とした。
<b>Ⅱ. 法人運営の改善および効率化に関する目標</b> <b>1. 運営体制の改善に関する目標</b> ①法令遵守と内部統制を強化するため、内部監査の充実を図る。	・申請過誤件数 H25：0件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件  ・科学研究費不適切使用 H25：5件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件	(監査室) 1. 組織の運営状況の点検、フォローアップ監査の導入などの改善行動を促進する。 2. 研究適正化特別委員会の事務局として、研究活動の適正化および研究費使用適正化に取り組む。	(監査室) 1. 平成27年度担当業務年間報告書の監査、前年度実施した規程監査指摘事項のフォローアップを行った。 2. 委員会開催準備、問題の調査、規程改定作業を行った。
②法令遵守の徹底を図る。		(総務課) 1. 規程表記の統一に向け、点検および提言を継続する。 2. 文書管理方法について検討する。  (人事課) 教授会、所属長会議で周知する。	(総務課) 1. 各部署での規程管理の簡便化を図ることを目的に、規程管理システムを1月より導入し運用を開始した。 2. 各部署で文書管理を推進するための基準となる文書管理規程を策定した。  (人事課) 各階層別研修において、行動憲章と行動規範に関する研修項目を新たに設け、その理解と実践に向けて指導している。
③個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。		(総務課) 1. 附属4病院合同の講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールで年2回注意喚起する。	(総務課) 1. 個人情報保護研修会「医療現場における個人情報の取扱い」を実施した。 2. 個人情報保護に関する注意喚起のオールユーザーメールを4月と10月に配信した。
④本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。		(広報課) 主要メディア掲載数を750件を目標とし、学外広報をより強化する。  (学術情報センター) 1. 各教員の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)のデータ入力の促進を図るために、教員評価システムの使用法の説明会を開催する。 2. 情報公開のため教育評価システムの今後のあり方について案をまとめる。	(広報課) 主要メディア掲載数は、1,098件となり、目標750件を達成した。  (学術情報センター) 1. 教員評価システムの改修に伴い、研究成果データの入力項目について本学用のカスタマイズを設計、発注したが、旧システムのデータ出力機能を反映させるまでには至らなかった。 2. 教員情報の公開の方法について、関連委員会での審議を通して案をまとめた。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
2. 人材確保・育成・活用に関する目標			
①職員の人材育成制度を強化する。	<b>・教職員アンケートにおける満足度</b> H25：53.9% H26：51.3% H27：54.6% H28：51.1% H29：55.0%	(人事課) 内定者の入職前および新人研修を強化する。	(人事課) 大卒事務員の内定者研修を4回実施し、社会人としての基礎知識やマナーについて指導した。また、業務課の業務手順書を附属4病院業務課と人事課で情報共有するとともに、一部改定し内容の充実を図った。メンタルケアに関しては、個別アンケートを実施して指導体制を強化した。
②人材の有効活用のための評価方法を検証する。	<b>・教員・医師の退職者数</b> H25：115名 H26：119名 H27：147名 H28：134名 H29：130名	(人事課) 人事考課者訓練および人事考課のスキルアップを図る。	(人事課) 7等級以上(看護部は6等級も含む)の未受講者を対象として、人事考課者研修を開催した。これにより、7等級以上の役職者は全員が受講済みとなった。受講者には、研修内容を職場内で情報共有するよう指導した。
③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	<b>・看護要員確保率</b> H25：100% H26：100% H27：103% H28：100% H29：100%  <b>・看護師離職率(附属4病院)</b> H25：12.2% H26：11.8% H27：10.8% H28：11.3% H29：11.0%	(人事課) 人事考課における「適正な評価」を実践する。  (給与厚生課) 教職員の精神的不安を把握するためにストレスチェックを実践する。  (教員・医師人事室) 育児による離職数を削減するため医師の短時間勤務規程を改定する。	(人事課) 面接の実施について徹底を図った結果、目標面接と中間面接の実施率は100%となった。また、面接の精度を高めるべく、育成面接にて人事考課の結果をフィードバックするよう所属長会議を通じて周知した。  (給与厚生課) 10月にストレスチェックを実施し、受検率は80.1%であった。  (教員・医師人事室) 育児による離職数を削減するため、医師の短時間勤務規程を改定した。また、復職支援を推進するため「教員(医師)の短時間復職支援に関する内規」を制定した。
④看護師の安定確保を図る。		(人事課・ナース就職支援室) 1. 良質な人材を確保するために看護学科の就職率向上と採用基準の見直しを図る。 2. 適正な看護師数を確保する。  3. 西新橋再整備計画を想定した看護要員確保を推進する。  (看護部) 1. 外来・病棟の効果的人員配置システムを確立する。 2. 病棟と外来の人事交流、部署間の協力支援体制を強化する。 3. 附属4病院間のトレーディング・プレイスを推進する。	(人事課・ナース就職支援室) 1. 看護学科就職率は、71.4%と目標70%を上回った。採用基準の見直しを図り、良質な人材が確保できた。 2. 退職者の早期把握に努め計画的に採用を進めた結果、適正な看護師数を確保できた。 3. 年次計画に沿い、看護要員確保を進めた。  (看護部) 1. 退職調査の締め切りを早めたことにより、過剰な採用を抑えられたものの、その後の退職希望者が増え、附属病院においてはやや少ない人員配置となった。 2. 年度の途中でも細やかな人事交流を行い、附属4病院間の業務応援体制を強化した。 3. トレーディング・プレイスにより人材の活用ができたケースが多数あった。
⑤労働生産性を向上させる。		(人事課) 労働生産性の事務局の体制強化を推進する。  (教員・医師人事室) 医療従事者勤務適正化委員会を通じて、医師の業務軽減策を新たに実施し医師の配置を効率化する。	(人事課) 事務局に看護師・医療技術職の計3名が加わり啓発活動を強化した。その一環として、新事務局による各部署へのラウンドを実施し、活動報告会に向けたアドバイスを行った。報告内容は、各部署とも着実に充実しつつある。  (教員・医師人事室) 医師の業務軽減策を検討するにあたり、まずは医師の勤務実態を把握するため、外勤日(外勤先)、土曜日の勤務状況を調査した。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<b>3. 事務の効率化・合理化に関する目標</b> ①適正なICTの活用により事務の効率化を図る。 ②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。 ③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。		(システム課) 1. DWH(データウェアハウス)導入病院間のベンチマークを行う。 2. 研究・経営支援に必要な指標を整理する。	(システム課) 1. 特定指標について葛飾医療センター、第三病院、柏病院間でのベンチマークを行い、関連委員会に報告した。 2. 今年度当課に申し込まれた約150件の依頼内容を基に必要指標を整理した。
		(経営企画部) 1. 月別および診療科別原価計算の迅速な報告と経営改善の提案を行う。 2. 新コックピットの活用状況の検証と掲載内容の充実を図る。	(経営企画部) 1. 月別の医療収支報告は、作成手法を効率化することで関連部署の業務軽減につながった。一方、診療科別原価情報の提供は実施できなかった。 2. 現行コックピットの活用状況を検証し、新コックピットの提供について提案した。
		(人事課) 各部門間の連携構築のため事務組織改編を検討する。  (経営企画部) 各病院と共に経営収支分析を実施する。	(人事課) 事務組織改編については、事務組織改編ワーキンググループからの答申に基づき、平成29年度より教員・医師人事室と臨床研修センターの事務所を同一にし、関連業務を効率的にできる体制を整備することとした。  (経営企画部) 附属4病院における疾病構造に対応した入院収入の特徴を明らかにすることで、今後の予算編成のあり方の指標を構築した。
<b>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</b> <b>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</b> ①効率的かつ適切な予算管理の仕組みを策定し、予算実績管理体制を強化する。 ②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。 ③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。 ④補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。	<b>・経常費補助金の獲得額</b> H25: 35.3億円 H26: 33.0億円 H27: 33.5億円 H28: 33.1億円 H29: 32.7億円  <b>・収支差額予算達成率</b> H25: 148.6% H26: 98.1% H27: 114.8% H28: 108.8% H29: 100%  <b>・大型プロジェクト研究事件数</b> H25: 5 H26: 5 H27: 4 H28: 3 H29: 1	(経理課) 予算申請の適正化を推進する。	(経理課) 予算部署別で前年度予算執行状況の点検を行った。一般経費で予算額と実績額の乖離額の多かった部署に対し、次年度予算申請時に指導を行った。
		(経営企画部) 1. 経費削減対策を実践する。 2. 収入増に向けた横断的組織を設置する。	(経営企画部) 1. コストマネジメント・プロジェクトなどにおいて、附属4病院SPD業者の統一を決定し、経費削減効果が見込まれる。 2. 収入増に向けた横断的組織は設置しなかったが、企業が保有する技術力を医療市場に開拓するための産学連携を締結した。また、増収・増息対策として、中央棟20・21階のリニューアル工事を提案し、実施した。
		(研究支援課) 1. 大型研究事業に応募する。 2. 経常費補助金根拠資料の充実を図る。 3. 改革総合支援事業を継続して選定する。	(研究支援課) 1. 日本医療研究開発機構(AMED)の「未来医療を実現する医療機器・システム研究開発事業」、「再生医療実用化研究事業」に採択された。 2. 経常費補助金については、学事課、教育センター、給与厚生課などの関係課と連携して根拠資料の整備に努めた。 3. 私立大学改革総合支援事業については、前年度同様タイプ1、タイプ2の2つに選定された。
		(研究支援課) 1. チェックリストによる経常費補助金の管理体制を強化し補助金の獲得を図る。 2. 私学事業団に適宜相談し申請項目の根拠資料を充実させる。  (経理課) 大学収入と支出の適切な管理を推進する。	(研究支援課) 1. 各課と調整を行い、チェックリスト活用による管理体制を強化して適正な申請を実施した。 2. 疑義が生じた場合は、自己解釈せずに必要に応じて私学事業団へ相談して適正な解釈に基づく根拠資料の充実を図った。  (経理課) 経常費補助金の適正な交付申請のため、複数名で申請書の点検を行った。また、計算書においても、適正な機関、勘定科目で計上するため、3ヶ月毎に仕訳の見直しを行った。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
2. 経費の抑制に関する目標			
①医療経費の抑制を図る。	<p>・医療経費率 H25：34.7% H26：35.2% H27：36.0% H28：36.6% H29(予算)：36.0%</p> <p>・東京都温室効果ガス排出総量削減率 (東京都削減目標) H25～H26年度 平均8%削減 H27～H31年度 平均13%削減 (本院) H25：9.3%削減 H26：9.5%削減 H27：10.7%削減 H28：9.3%削減 H29：10.0%削減 (葛飾医療センター) H25：21.7%削減 H26：25.5%削減 H27：23.9%削減 H28：21.3%削減 H29：20.0%削減 (第三病院) H25：22.0%削減 H26：20.0%削減 H27：23.6%削減 H28：30.4%削減 H29：19.0%削減 (柏病院) H25：8.9%削減 H26：2.1%増加 H27：1.0%削減 H28：0.8%削減 H29：1.0%削減</p>	<p>(施設課・経営企画部・薬剤部) コストマネージメント・プロジェクトを中心に経費の抑制に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物流・購入組織の見直し</li> <li>・共同購入</li> <li>・ベンチマークシステムの導入</li> <li>・大型診療機器管理方法の効率的運用</li> </ul> <p>・医療器械保守料金の抑制</p> <p>・光熱水費の削減</p> <p>・各診療科医局会での説明</p> <p>・後発医薬品の数量シェア80%</p>	<p>(施設課・経営企画部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物流・購入組織の見直し</li> <li>・共同購入</li> <li>・ベンチマークシステムの導入</li> <li>・大型診療機器管理方法の効率的運用</li> </ul> <p>コストマネージメント・プロジェクトにおいて附属4病院SPD業者統一化、材料共同購入、ベンチマークシステム導入の可否、大型診療機器の効率的な管理手法など活発な活動を行った。附属4病院SPD業者統一化による経費削減効果は次年度から反映される。コミット金額は、2年間で約5億円を試算している。</p> <p>(施設課)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療器械保守料金の抑制</li> </ul> <p>メーカーと包括契約交渉を行い、附属病院において年間2,600万円の経費を削減した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費の削減</li> </ul> <p>急激に進んだ原燃料価格の変動により、光熱水費は対前年度比2.63億円削減となった。</p> <p>(経営企画部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各診療科医局会での説明</li> </ul> <p>各診療科医局会での説明は行わなかった。</p> <p>(薬剤部)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後発医薬品の数量シェア80%</li> </ul> <p>本院は、平成29年3月時点で79.7%と対前年度比3.4ポイント増加した。葛飾医療センター、第三病院、柏病院では、後発医薬品の数量シェア80%を超えた。その結果、附属4病院において平成29年度機能評価係数Ⅱの後発医薬品係数は、上限の係数を獲得することができた。</p>
②ICTの適正導入と評価を行う。		<p>(システム課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 葛飾医療センターの病院情報システム更新に向け経費の適正化を図る。</li> <li>2. 本院の電子カルテシステム導入に伴い、9月末までにシステムベンダを選定する。</li> </ol>	<p>(システム課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回導入時および第三病院・柏病院導入時の経費と比較し、適正化を図った。</li> <li>2. 9月の理事会において導入ベンダが承認された。</li> </ol>
3. 資産の運用管理の改善に関する目標			
①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西新橋キャンパス再整備計画に伴う既存建物のローリング計画を推進する。</li> <li>2. 維持補修などに係わる経費の将来計画を策定する。</li> </ol>	<p>(施設課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西新橋再整備準備室と連携し、フェーズ2(新大学2号館使用開始時期)までのローリング計画に参画し、具体的な計画案につなげた。ローリング計画を円滑に実行するため、F棟耐震改修工事を開始した。</li> <li>2. 西新橋キャンパス再整備ローリング計画をもとに解体建物の修繕および保守点検は実行せず、最低限の支出に努めた。</li> </ol>
②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高額放射線機器の更新計画を策定する。</li> <li>2. 中央管理機器の更新計画を検討する。</li> </ol>	<p>(施設課)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線部と病院建て替えまでの装置更新計画について検討を行い、次年度の予算申請品目を決定した。</li> <li>2. 中央管理機器の長期更新計画を臨床工学部にて立案し、財務担当理事、診療機器選定委員長と検討した結果、次年度経常外予算申請品目を決定した。</li> </ol>

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<b>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</b> ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。 ②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。		(大学事務部) 1. 大学基準協会の「認証評価」受審にて、「適合」の評価を受ける。 2. 学校法人慈恵大学、東京慈恵会医科大学の情報公開を進める。	(大学事務部) 1. 大学基準協会の「認証評価」受審にて、「適合」の評価を受けた。 2. 認証評価の受審結果について、情報公開を進めた。
<b>V. その他事業運営に関する重要目標</b> <b>1. 本院新外来棟建築に関する目標</b> ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。		(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館、新病院の施工を遅滞なく進める。  2. 新外来棟の基本設計発注、既存棟の改修工事発注を行い、実施設計を進める。  3. 学術情報センター(図書館含む)の移転計画を策定する。	(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館(仮称)の計画は予定通り進捗している。新病院(仮称)は、予定通り平成29年3月に着工した。移転委託業者、廃棄委託業者を決定した。年度内に対象部署の現場(物量)調査を終え、次年度早々に対象部署の移転スケジュールが具体化する。廃棄については、引越前から順次廃棄が行なえるよう手配した。 2. 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事は、新外来棟地下駐車場を設置、6階にリハビリテーション科を配置するなど、基本設計から変更となった。F棟は平成29年1月から耐震補強工事を開始、その他解体する建物部分に必要な遺跡調査・アスベスト調査・土壌汚染調査を終え、対策を講じている。 3. 高木会館は減築・耐震工事を行った上で継続して使用することとなったため、図書館の移転計画は中止となった。
②西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟を含むハード計画を実現する。		(西新橋再整備準備室) 1. 西新橋キャンパスの全体的な運用計画を検討し、新外来棟実施設計に反映する。 2. 改修・移転・ローリング計画を検証し推進する。	(西新橋再整備準備室) 1. 新外来棟は、地下駐車場の設置、6階にリハビリテーション科を配置することとなった。また、各階フロアの構成が概ね決定した。 2. 移転委託業者が決定し、移転対象部署への現場(物量)調査を終え、具体的な移転スケジュールの策定に入った。
③本院の再整備計画を策定する。		(病院事務部) 基本設計に基づき、医療機器の選定、開院時の業務フローの確定、各部門の必要人員を試算する。	(病院事務部) 基本設計に基づき、開院時の業務フローおよび各部門の必要人数の検討を行った。
<b>2. 大学マスタープランの策定に関する目標</b> 教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。		(経営企画部) 1. 慈恵大学100年記念事業委員会答申に基づく検証を推進する。 2. 次期中期目標・中期計画を見据えた、教育機能、研究機能、診療機能および附属4病院機能分化、法人・財務機能に係わるマスタープランを検討する。 3. 次世代医療を中心とした診療機能マスタープランを検討する。	(経営企画部) 1. 慈恵大学100年記念事業委員会答申の検証作業は継続的に行っている。 2. マスタープラン懇談会において、教育・研究・診療機能および附属病院の今後について検討を行った。  3. 次世代医療を中心とした差別化戦略として、医療コンシェルジュ機能の構築をマスタープラン懇談会で提案、新外来棟開院時までに実現できるよう関連部門と取り組んだ。

中 期 計 画	指標 (平成29年度は目標値)	平成28年度事業計画	平成28年度 実施結果
<b>3. 創立130年記念事業に関する目標</b> ①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	<b>・記念事業募金額</b> H25：11.0億円 H26：12.4億円 H27：13.8億円 H28：15.1億円 H29：18.0億円	(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館、新病院の施工を遅滞なく進める。  2. 新外来棟の基本設計発注、既存棟の改修工事発注を行い、実施設計を進める。  3. 学術情報センター(図書館含む)の移転計画を策定する。	(西新橋再整備準備室) 1. 新大学2号館(仮称)の計画は予定通り進捗している。新病院(仮称)は、予定通り平成29年3月に着工した。移転委託業者、廃棄委託業者を決定した。年度内に対象部署の現場(物量)調査を終え、次年度早々に対象部署の移転スケジュールが具体化する。廃棄については、引越前から順次廃棄が行なえるよう手配した。 2. 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事は、新外来棟地下駐車場を設置、6階にリハビリテーション科を配置するなど、基本設計から変更となった。F棟は平成29年1月から耐震補強工事を開始、その他解体する建物部分に必要な遺跡調査・アスペスト調査・土壌汚染調査を終え、対策を講じている。 3. 高木会館は減築・耐震工事を行った上で継続して使用することとなったため、図書館の移転計画は中止となった。
②記念事業に必要な寄付金を募集する。		(財務部(募金事務局)) 記念事業募金目標は累計16億円(80%)とする。	(財務部(募金事務局)) 累計実績は15.1億円で、16.0億円の目標を若干下回り、達成率は94%であった。
<b>4. 大規模災害時の対応に関する目標</b> ①大規模災害時の体制を強化する。	<b>・本学全建物の耐震基準充足率</b> H25：85% H26：95% H27：95% H28：95% H29：95%	(総務課・管理課・大学事務部) 附属病院および大学のBCPを改定する。  (総務課) 地域と協力して災害対策訓練を実施する。  (施設課) 大規模災害に対応する学内計画を立案する。	(総務課) 地域大規模災害対策訓練を芝消防署、みなと保健所、近隣町内会などと協力して実施した。BCPの改定については、主管部署との調整に至らず実施できなかった。  (管理課) 一部の部署において、BCPの作成を実施しなかった。  (大学事務部) 学生版災害対策マニュアルを整備した。  (施設課) ・BCP策定のため資料、「自家発電機稼働時における本学の設備状況」の一覧表の見直しを行った。 ・発災時の設備監視員の緊急連絡先、参集対応策を作成した。 ・病院部門にシステム網を整備し、災害時の連絡体制を図った。 ・E棟および中央棟、大学1号館の外壁工事が完了し、落下対策などの危険予防措置を講じた。また、中央棟20・21階の通路部における天井耐震化工事も完了し、入院患者への安全対策を講じた。
②被災地への支援体制を構築する。		(管理課) DMAT隊員の育成と支援を行う。	(管理課) 関東ブロック訓練に5名が参加したほか、技能維持研修に2名が参加し、技能向上・維持に取り組んだ。
<b>5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標</b> 新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。		(葛飾医療センター) 今期中に総合的な評価を行う。	(葛飾医療センター) 次年度プロジェクトを発足させ、全体評価を行うことを病院運営会議で決定した。

## 〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学中期目標・中期計画・平成29年度事業計画

### 中期目標・中期計画・平成29年度事業計画 目次

目標関連マップ	121
本学の理念・目的・使命	122
本学が目指す将来像（ビジョン）	122
平成29年度 重点施策	123
<b>I 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</b>	133
1. 教育に関する目標	133
(1) 教育に関する目標（医学科・看護学科）	133
(2) 教育の実施体制等に関する目標	136
(3) 自己点検・評価の充実に関する目標	136
(4) 看護専門学校に関する目標	137
2. 研究に関する目標	138
(1) 研究水準および研究成果に関する目標	138
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	139
(3) 総合医科学研究センターに関する目標	140
(4) その他	140
3. 診療に関する目標	140
●本院に関する目標	140
●葛飾医療センターに関する目標	145
●第三病院に関する目標	147
●柏病院に関する目標	150
<b>II 法人運営の改善および効率化に関する目標</b>	153
1. 運営体制の改善に関する目標	153
2. 人材確保・育成・活用に関する目標	153
3. 事務の効率化・合理化に関する目標	154
<b>III 財務の改善に関する目標</b>	154
1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標	154
2. 経費の抑制に関する目標	155
3. 資産の運用管理の改善に関する目標	155
<b>IV その他事業運営に関する重要目標</b>	156
1. 本院新外来棟建築に関する目標	156
2. 大学マスタープランの策定に関する目標	156
3. 創立130年記念事業に関する目標	156
4. 大規模災害時の対応に関する目標	157
5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標	157

**建学の精神 病気を診ずして病人を診よ**

本学の

**理念** 医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。

**目的** “病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。

**使命** 社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

詳細は122ページ

**本学が目指す将来像**

建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。



**平成25年～30年度 中期目標・中期計画**

**教育**

質の高い医学・看護学教育

**研究**

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

**診療**

質の高い医療の提供

**法人運営**

教育・研究・診療活動を支える安定した財政基盤の構築  
大学の地域社会への貢献  
創立130年記念事業

**平成29年度 事業計画**

「教育」  
重点施策  
123ページ

「教育」は、  
133～137ページへ



「研究」  
重点施策  
123ページ

「研究」は、  
138～140ページへ



「医療」  
重点施策  
124～127ページ

「診療」  
本院は140～145ページ  
葛飾は145～147ページ  
第三は147～149ページ  
柏は150～152ページ



「法人」  
重点施策  
128ページ

「法人運営」は、  
153～157ページへ



**各病院・各部門 B S C**

**個人の目標管理・成果評価シート**

### [本学の理念・目的・使命]

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：“病気を診ずして病人を診よ”という建学の精神に基づく質の高い医師と看護専門職者を育成し、臨床を支える医学・看護学研究を推進して、国民に適切な医療を提供する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

### [本学が目指す将来像（ビジョン）]

- 建学の精神を継承し、社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

#### 質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性と倫理観を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するため、卒前・卒後の連携を視野に入れた特色ある教育システムを構築する。
- (2) 附属4病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師の育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発点となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院（博士課程と修士課程）教育の充実と改善を推進する。
- (5) 高い倫理観に基づいて研究を推進する。

#### 本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

#### 質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 疾病の予防・健康の増進を視野に入れた取り組みを推進する。
- (5) 医師、看護師および医療職者の技術を向上させるための取り組みを行う。
- (6) 各附属病院の特色を活かして、それぞれの活性化と機能分化を図る。

#### 教育・研究活動を支える安定した財政基盤の構築

#### 大学の地域社会への貢献

#### 創立130年記念事業

- (1) 130年記念事業を継続して行う。

**■教育に関する重点施策**

- 1) 医学科・看護学科および臨床研修において、社会の信頼に応えられるよう、高い責任感、使命感、倫理観を備え、教養豊かな人材を育成する。
- 2) 医学科ディプロマポリシーに沿ったマイルストーンを作成する。
- 3) 医学科診療参加型臨床実習後の総合的臨床能力試験としてPost-CC OSCE（卒業時における客観的臨床能力試験）を実施する。
- 4) 医学科における実践的医療英語能力を向上するためのカリキュラムやプログラムを検討する。
- 5) 大学院医学研究科博士課程における学位審査基準の明確化を図る。
- 6) 新専門医制度に対応する専門研修プログラムを整備する。
- 7) 看護学科の課題解決能力・地域医療連携能力強化型新カリキュラムの科目内容に反映させる。
- 8) 看護学科の交換留学を継続し、国際的に活躍できる人材を育成できるよう新カリキュラムの内容に反映させる。
- 9) 看護学専攻修士課程において高度実践看護師教育課程・在宅看護専攻の申請を行う。
- 10) 看護学系専攻博士課程設置に向けた準備を行う。
- 11) 3看護専門学校の教育内容・方法についてカリキュラム改正を見越して検討する。
- 12) 看護教員と臨地実習指導者の定期的な事例検討を継続して行う。

**■研究に関する重点施策**

- 1) 私立大学研究ブランディング事業へ申請する。
- 2) 学内・学外共同研究を強化して研究の活性化を推進する。
- 3) 附属4病院の研究機能を促進するために、本院を含めた疾患レジストリ構築を準備する。
- 4) 総合医科学研究センターの各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。
- 5) URAの研究支援活動とともに、学内研究費を活用し競争的資金を獲得する。
- 6) 大学が行う公開講座をホームページで発信する。
- 7) 研究成果の社会還元を努めアウトリーチ活動を継続する。
- 8) 平成30年度の専門医制度施行に向けて、総合診療医のための研究体制を構築する。

## ■医療に関する重点施策 本院

- 1) 医療安全・感染対策の推進
  - ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。
- 2) 救急体制の充実
  - ・断らない救急医療体制を確立する。
  - ・急性大動脈スーパーネットワークを積極的に活用する。
- 3) 医療連携の推進
  - ・患者支援医療連携センターの体制を整備する。
  - ・主治医と産業医の間をつなぐ両立支援チームを立ち上げる。
  - ・港区在宅緩和ケアセンターを開設する。
  - ・返書管理、web予約システム構築などにより紹介患者を積極的に受入れる。
  - ・アウトリーチ活動に着手する。
- 4) 患者サービスの向上
  - ・EBM (Etiquette-Based Medicine) の活動を向上させるとともに患者中心意識を浸透させ、「患者とのパートナーシップを高める」取り組みを行う。
  - ・患者ファーストの意識を徹底し、診療のあらゆる現場に浸透させる。
- 5) ゆるやかなセンター化構想の推進
  - ・新外来棟における消化器センター機能を具体的に検討する。
- 6) 診療連携、医師教育、看護教育、大学院、研究の5つのテーマについて、国立がん研究センターとの更なる連携強化に努める。
- 7) 適正な保険診療の推進のため、保険診療適正化プロジェクトを立ち上げる。
- 8) 職種間の協力体制の強化・推進
  - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
  - ・院内連携・情報共有を強化する。
  - ・周術期センター設立を検討し、術前の効率的な診療体制を整備する。
- 9) ICT技術を活用し、医療の効率化とモバイル環境の整備を推進する。
- 10) 予防医学に携わる専門職の修得および人材を育成する。
  - ・予防医学に携わる専門資格の習得および人材を育成する。
  - ・健康増進（運動・栄養・メンタル）に関する事業計画について、引き続き検討する。
- 11) 港区総合災害訓練の実施
- 12) 経営の質の改善
  - ・各診療部の数値目標を設定し達成する。
  - ・財政基盤を確立する。
  - ・医業利益目標を達成する。
  - ・医薬品、医療材料の適正使用、ならびに後発医薬品の数量シェア目標を達成する。
  - ・効率的な病床運用により稼働率を向上させる。
  - ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、附属4病院における医療材料の物流を効率的に運用する。

## ■医療に関する重点施策 葛飾医療センター

- 1) **医療安全・感染対策の推進**
  - ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。
- 2) **総合内科体制の再構築**
  - ・総合内科体制の再構築に向け、関連部署との協議を推進する。
- 3) **救急体制の充実**
  - ・断らない救急受入れ体制を強化する。
  - ・救急病床を再編し患者受入れの効率化を図る。
- 4) **がん医療の推進**
  - ・がん診療に関する専門職の育成、ならびにがん診療体制の維持・向上を図る。
  - ・乳がん看護ならびに緩和ケアの認定看護師により質的向上を図る。
- 5) **病院機能評価受審結果の検証**
  - ・病院機能評価の受審結果を検証し、継続的に改善に取り組む。
- 6) **患者サービスの推進**
  - ・患者のニーズに適応したサービスを提供し情報発信する。
  - ・全教職員に対し病院コンセプトを継続的に周知する。
- 7) **地域貢献（医療連携の推進）**
  - ・看護体制を整備し、各フロアに退院調整に係わる看護師を一人配置し、退院調整に関する精度を上げる。
  - ・関連する訪問看護ステーションとの定期的な意見交換のための会を開催し、関係を深め患者の退院支援につなげる。
  - ・訪問看護ステーションとの相互研修を継続する。
  - ・小児領域の在宅調整について精度の向上を図る。
- 8) **災害拠点病院としての地域支援と連携強化**
  - ・葛飾区との総合防災訓練ならびに地元自治会との合同防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。
- 9) **職種間の協力体制の構築**
  - ・チーム医療を実践するための人材育成を推進する。
  - ・透析看護ならびに集中ケアの認定看護師を配置し、チーム医療の質的向上を図る。
- 10) **適正な保険診療の推進**
  - ・DPC算定を含めた適正な保険診療の推進について、教育・研修により周知徹底する。
- 11) **適正な収支構造の確立**
  - ・每期設定される医療収支・医業利益目標を達成する。
  - ・医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。
  - ・SPD委託会社の附属4病院統一化およびベンチマークなどにより医療経費率を低減する。

## ■医療に関する重点施策 第三病院

### 1) 医療安全・感染対策の推進

- ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。

### 2) 救急医療体制の充実

- ・救急応需の連絡体制を点検し搬送連絡時間短縮策を講ずる。
- ・救急隊との連携を密に、断らない救急応需の体制を整備する。

### 3) がん診療の推進

- ・国指定の「地域がん診療連携拠点病院」認可に向けて、北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果を創出する。

### 4) 認知症疾患医療センターの強化

- ・認知症に係わる相談体制をより強化する。
- ・狛江市の認知症初期集中支援チームをサポートする。

### 5) 地域医療連携の推進

- ・新規開業医療機関を訪問し、初診紹介患者増加を目的とした地域医療連携拡大を図る。
- ・健診施設を訪問し、初診紹介患者増加を目的とした連携関係を構築する。
- ・診療データ開示承諾書を整備し、web予約医療機関にデータ開示のメリットを提示することにより、web予約医療機関の拡大を図り病診連携を強化する。
- ・地域包括ケアシステム構築に向けて、行政と連携しながら地域医療に貢献する。

### 6) 新しい専門医制度に対応した総合診療研修センターの整備

- ・平成30年度開始予定の総合診療研修プログラムを完成させる。
- ・総合診療専門医採用に向けた説明会の実施、採用活動を行う。

### 7) 共感と思いやりに基づく医療（Empathy Based Medicine）の実践

- ・前年度未受講者を対象にしたセミナーを実施し、教職員の実践力拡大に努める。
- ・患者満足度調査の附属4病院様式統一に向けた内容を見直す。
- ・附属4病院との運用連携を図り、ベンチマークを実施する。
- ・教職員の患者への声掛け等の対応力向上を目指して、スローガンを掲げるなど具体策を検討する。

### 8) 医療経費率の適正化を図る

- ・後発医薬品の導入、高額薬の効果を予測するコンパニオン診断薬やバイオ後続品などを活用する。また、医薬品の適正価格での購入により無駄のない在庫管理を実施する。
- ・SPDによる共同購入を行うことにより、適正な購入と在庫管理を行う。また、手術室などにおける在庫管理を徹底し、材料が無駄にならないよう努める。

### 9) 新病院の基本計画・基本構想策定

- ・ワーキンググループの設置、他病院見学などリニューアルに向けて具体的に取り組む。

## ■医療に関する重点施策 柏病院

- 1) **医療安全・感染対策の推進**
  - ・医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。
- 2) **救急体制の充実**
  - ・救急患者を積極的に受入れるためにER診療体制を充実する。
  - ・救命救急センターとしての機能を強化し、地域医療に貢献する。
- 3) **がん医療の推進**
  - ・がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。
  - ・国立がん研究センター東病院との連携を強化し、がん診療、研究、人材育成の充実を図る。
- 4) **周産期医療の整備と推進**
  - ・改修した4B病棟を活用し、産科医療の充実を図る。
  - ・東葛北部地域における周産期医療の現状を鑑み、妊娠、出産から新生児に至る高度専門的な「周産期医療」が提供できる診療体制を積極的に検討する。
- 5) **患者サービスの推進**
  - ・医療者のモラルと接遇マナーの向上を図る。
- 6) **地域貢献（医療連携の推進）**
  - ・先駆的に実践しているPFMシステムを更に推進する。
  - ・地域医療ニーズに応えられるように医療連携および診療体制の改善充実を図る。
  - ・地域包括医療を推進する。
  - ・前年度実施した医療機関訪問の結果を職員に周知し、連携を推進するためのシステムを構築する。
  - ・地域の多職種を交えた交流の場（勉強会など）を設け継続して開催する。
- 7) **災害拠点病院として行政や医療機関と連携し地域を支援する。**
- 8) **職種間の協力体制の構築**
  - ・チーム医療を構築するための人材育成を推進する。
- 9) **適正な保険医療の推進**
  - ・適正な保険診療を推進するため、保険診療の基本ルールを教育・研修により周知・徹底する。
- 10) **経営の質の改善**
  - ・每期設定される医業利益目標を達成する。
- 11) **医療経費の削減の推進**
  - ・医薬品の適正使用、ならびに後発医薬品の採用を推進する。
  - ・特殊材料の使用状況と保険請求状況のチェック機能を強化する。
  - ・SPD業者の統一に合わせ、共同購入の推進、購入価格の見直し、不動在庫の削減、配置在庫の適正化を行い経費削減を図る。
  - ・コストマネージメント・プロジェクトで取り組んでいる計画を実行し、教職員へのコスト意識醸成と附属4病院医材・物流ワーキンググループを活用し、医療材料・物流の効率的運用を強化する。
- 12) **第二次柏病院将来構想計画を推進**
  - ・持続的に医療収入増加が可能な体制整備と施設改修計画を策定する。
- 13) **手術室の効率的運用**
  - ・安全を確保しつつ外来手術センターの有効利用を推進する。
  - ・土曜日の手術実施を検討する。
- 14) **施設、設備の整備・拡充**
  - ・効率的な病床運用、患者アメニティの向上、室料差額床の増床など、病棟の改修計画を策定する。
  - ・画像診断機器の効率的な運用を推進する。

## ■法人運営に関する重点施策

### 1) 内部統制の強化

- ・法人・大学・病院のガバナンス体制の強化を目指し、寄附行為、関連規程の見直しを行う。
- ・研究倫理教育の充実と情報セキュリティの強化を継続的に進める。

### 2) 安定した財政基盤の構築

- ・法人における収支構造の点検を行う。
- ・機関別の事業計画に基づく長期資金計画を策定する。
- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図り、堅調な財政基盤を維持する。
- ・ICT関連経費の適正化を図る。

### 3) 西新橋キャンパス再整備計画の実行

- ・医局、臨床ラボ、理事室、講堂などの移転作業を行い、新大学2号館（仮称）の供用を計画通り開始する。
- ・新病院（小児・周産期医療センター）（仮称）の施工を遅滞なく進める。
- ・新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事の実施設計を進め、大学本館（解剖学棟を除く）、旧図書館、大学2号館を解体し、平成30年1月より新外来棟建設に計画通り着工する。

### 4) 大学マスタープランの策定

- ・新外来棟における次世代医療の具現化に向けて検討する。

### 5) 教職員の満足度向上

- ・雇用形態ごとに処遇を検証し、改善を図る。

### 6) 人材育成制度の強化

- ・階層別研修内容の充実を図る。
- ・患者等の期待値を常に意識し、サービスに反映するために接遇に関する研修会を開催する。

### 7) 業務改善の推進

- ・各部署での業務効率化を目指し、業務改善の風土が醸成されるよう労働生産性向上活動を継続する。

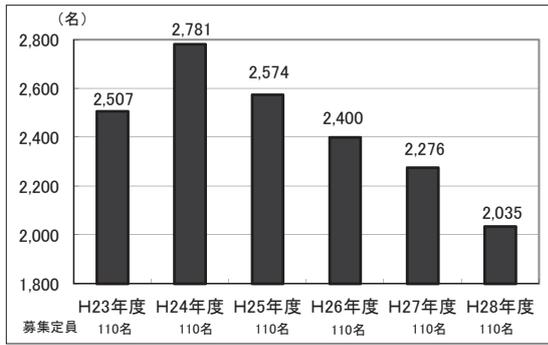
### 8) 戦略的広報の推進

- ・医療機関向けの「医療連携」、患者向けの「診療内容」、受験生向けの「学部案内、受験情報」、研究者向けの「URA構想」など、事業計画と連動した戦略的な情報を発信する。
- ・現行のホームページを見直す。

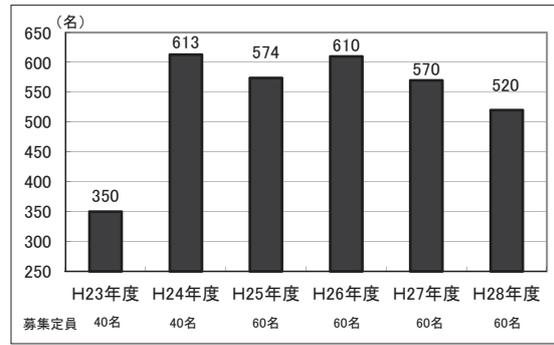
### 9) 西新橋再整備計画の進行に伴う大規模災害対策の確立とBCP（事業継続計画）の保守・点検

■ 教育に関する重点施策：参考指標

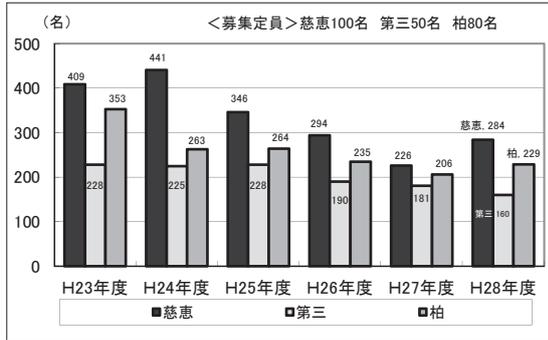
医学科志願者数（実施年度）



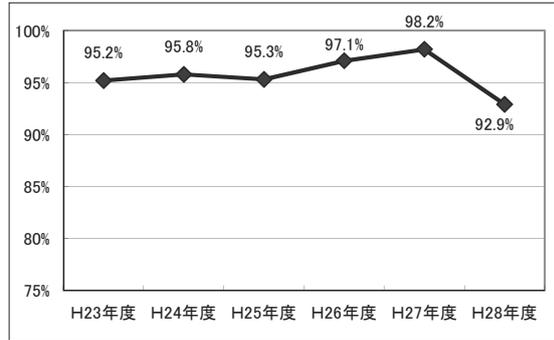
看護学科志願者数（実施年度）



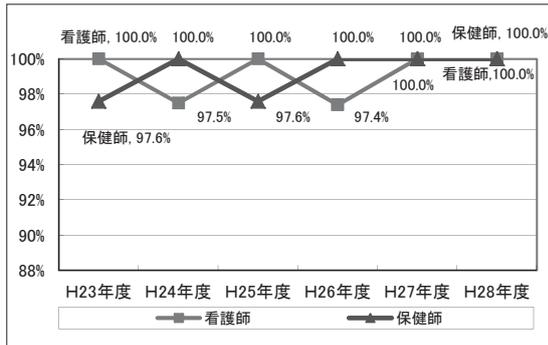
看護専門学校志願者数（実施年度）



医師国家試験合格率（医学科）（実施年度）

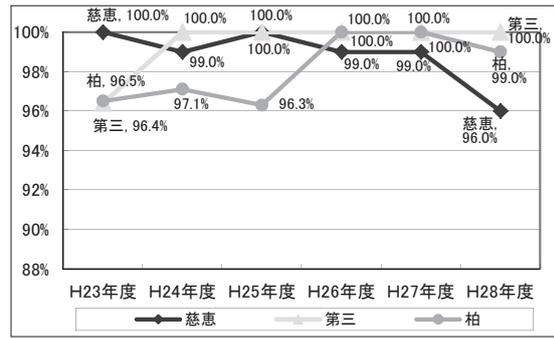


看護師・保健師国家試験合格率（看護学科）（実施年度）



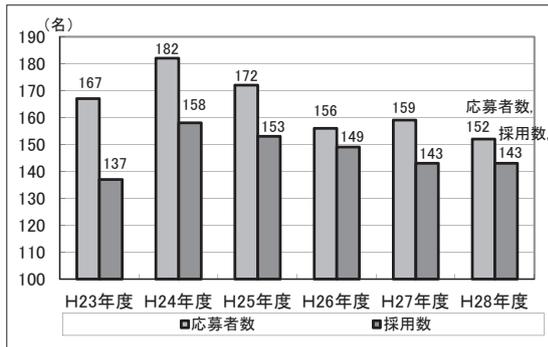
※H28年度 国家試験全国平均 88.7%

看護師国家試験合格率（看護専門学校）（実施年度）

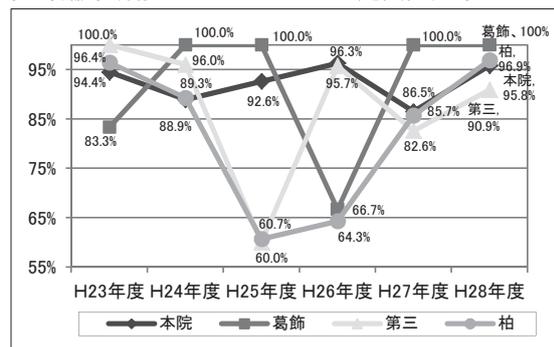


※H28年度 国家試験全国平均 看護師88.5% 保健師90.8%

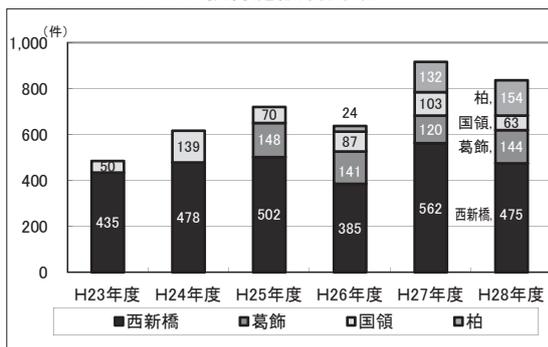
レジデント応募者数、採用数



医師臨床研修マッチングによる定員充足率



シミュレーション教育施設利用数



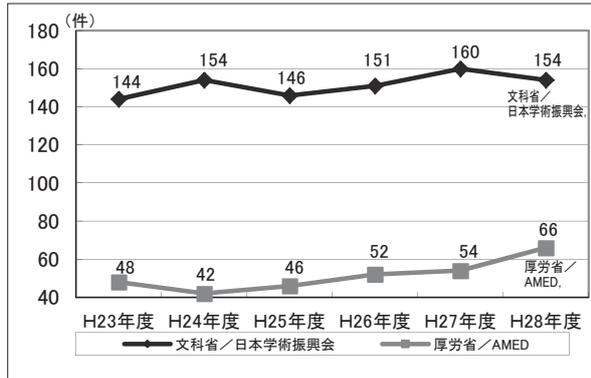
定員	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
本院	54	54	54	54	52	48
葛飾	6	6	6	6	6	8
第三	25	25	25	23	23	22
柏	28	28	28	28	28	32

※各機関の年度の定員数を表示

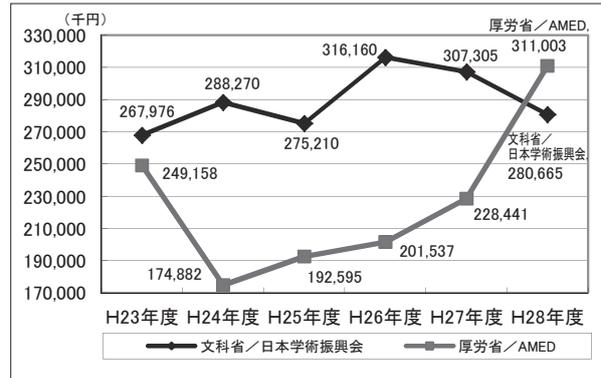
※葛飾医療センターはH25年度、柏キャンパスはH26年10月より稼働

■研究に関する重点施策：参考指標

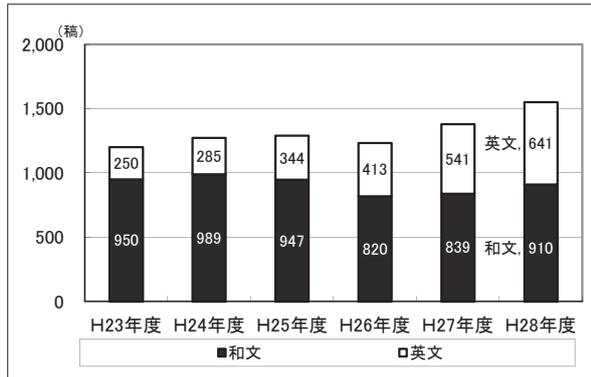
科学研究費補助金 採択件数



科学研究費補助金 採択金額

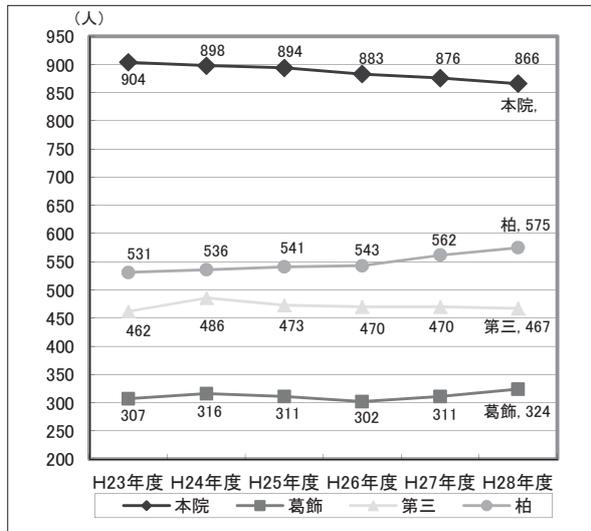


論文発表数

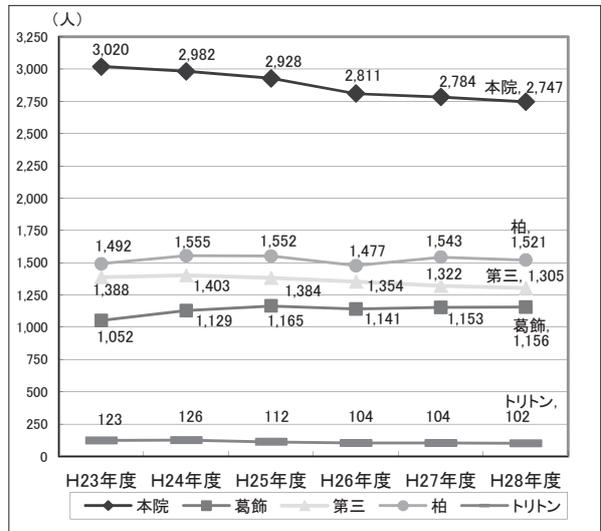


■医療に関する重点施策：参考指標

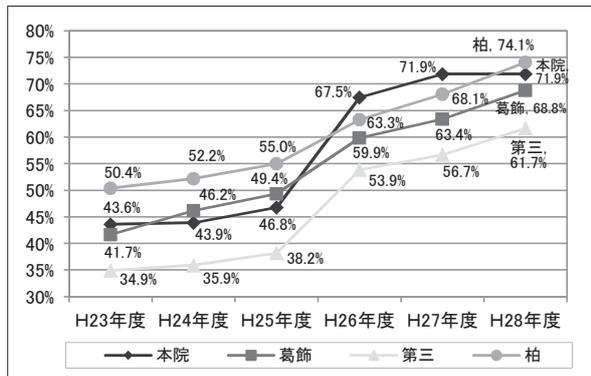
【入院】 1日平均患者数



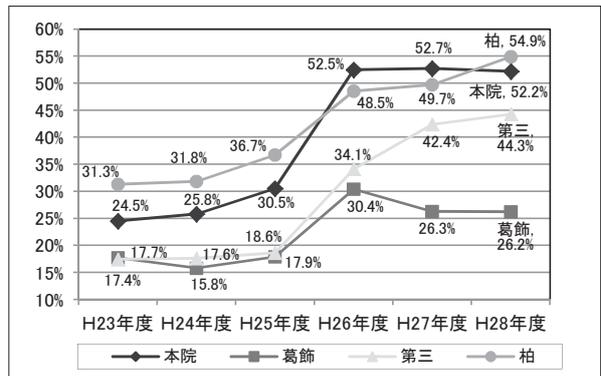
【外来】 1日平均患者数



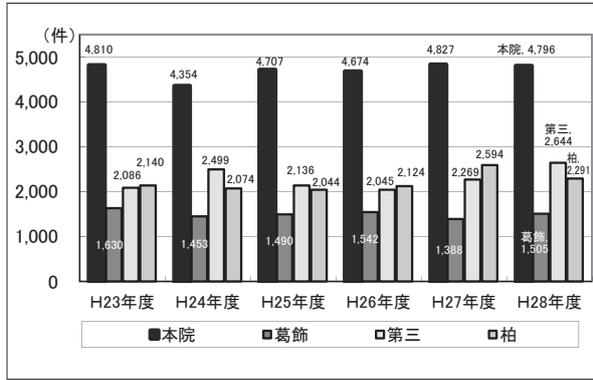
紹介率（保険法）



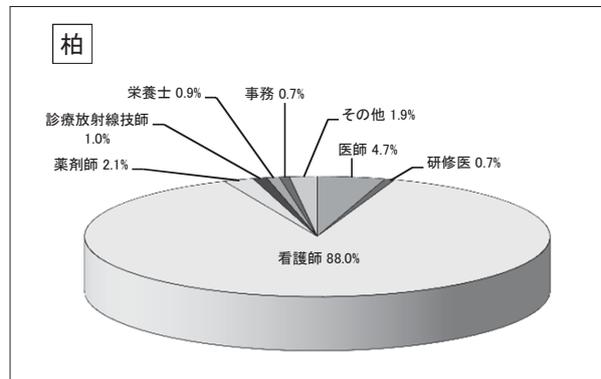
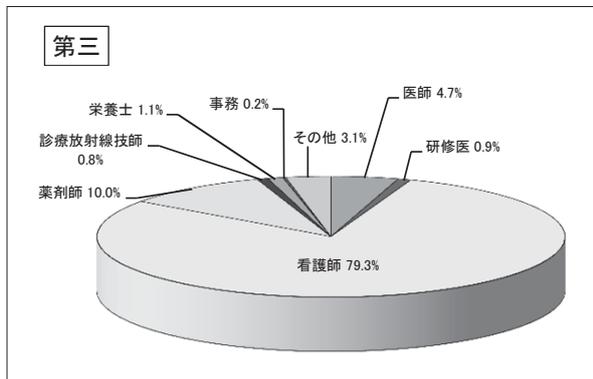
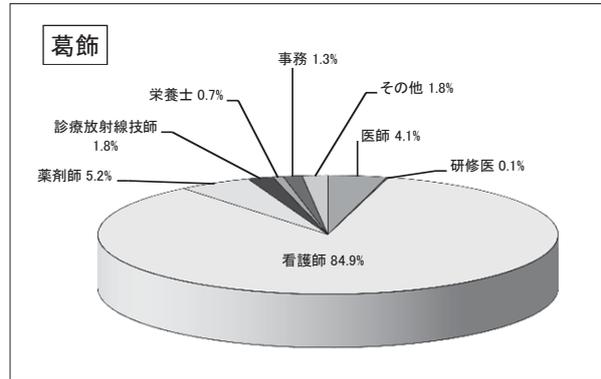
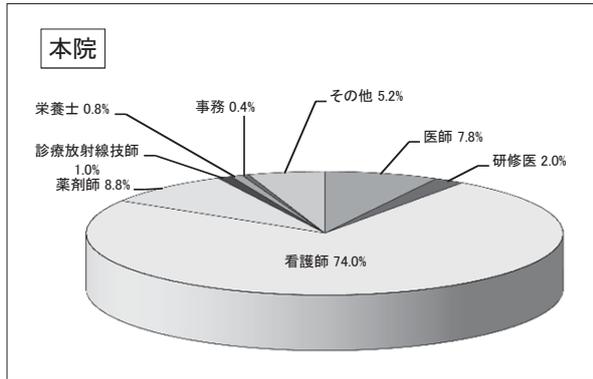
逆紹介率（保険法）



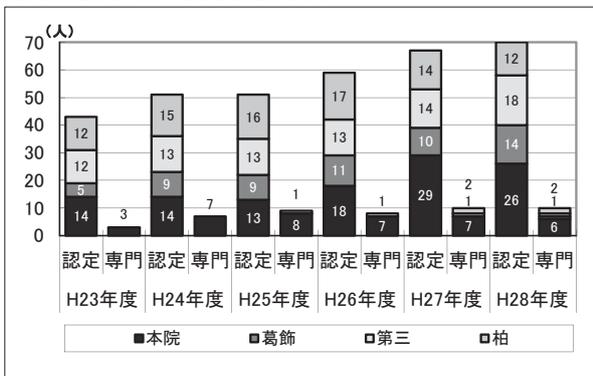
### インシデント・アクシデント報告件数



### インシデント・アクシデント報告職種別報告件数

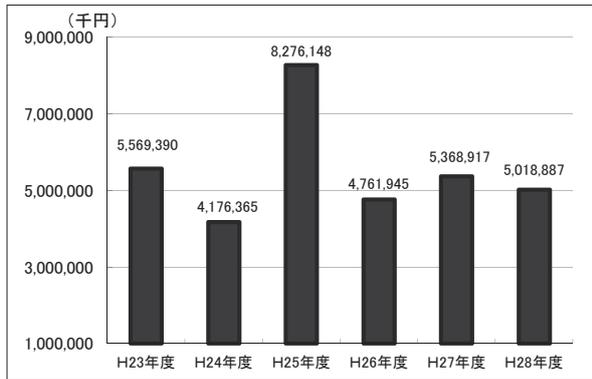


### 認定看護師数、専門看護師数

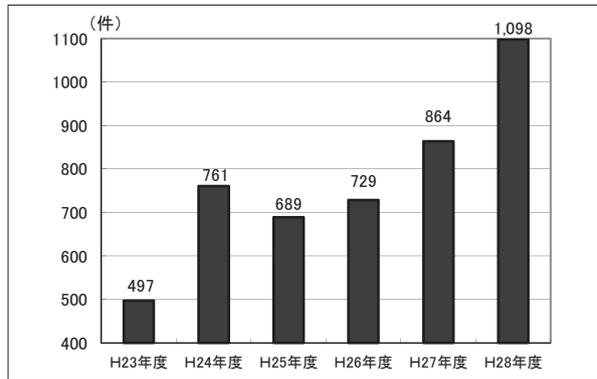


■法人運営に関する重点施策：参考指標

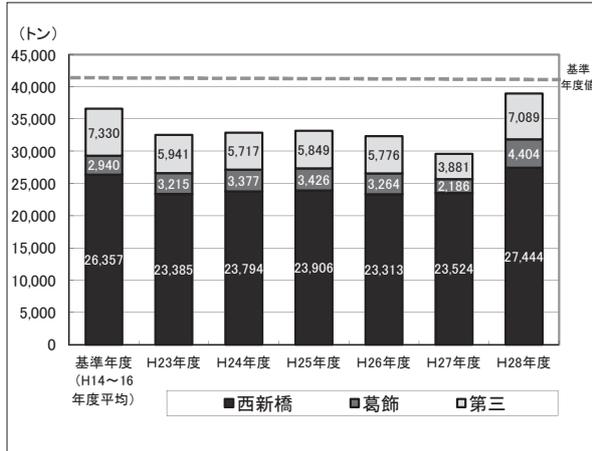
基本金組入前当年度収支差額



メディア掲出件数

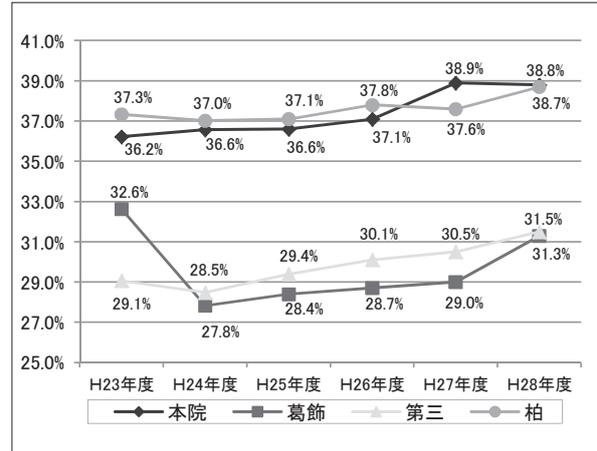


CO<sub>2</sub>排出量 (東京都環境確保条例対応)



※H28年度はCO<sub>2</sub>基準排出量の計算方法が変更となった

医療経費率

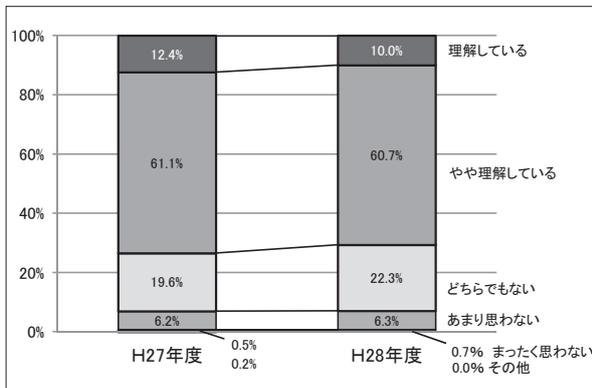


※文部科学省への届出計算書より算出  
※衛生管理収入を含む

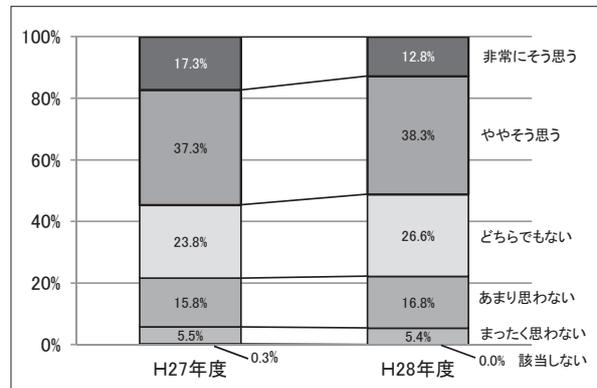
教職員アンケート結果

※回答率 H27年度 71.8% H28年度 73.5%

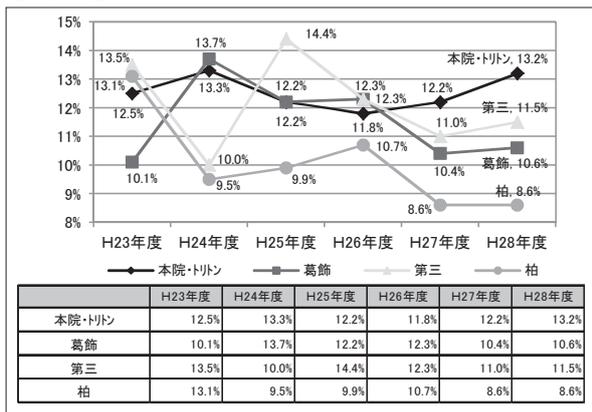
あなたは大学(病院)の理念・使命・目標などを理解していますか？



あなたは、今の部署でこれからも働きたいと思いませんか？



看護師離職率



中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標(平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</b> <b>1. 教育に関する目標</b> <b>(1) 教育に関する目標(医学科・看護学科)</b> <b>○卒前教育</b> ・将来を見据えて教育理念・教育目標を再構築し、教育の質の向上を図る。 ・問題解決能力を涵養する。 ・高い臨床能力を涵養する。 ・自ら学ぶ態度を涵養する。 ・大学間連携を推進する。 ・厳正で適切な評価システムを構築する。 ・国際基準に適合した医師・看護師教育を実施する。 ・医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。 ・優れた人材の獲得に向けて医学科・看護学科の入学試験方法を改善する。 ・医療人に相応しい人格と社会性を涵養する。 ・多様な進路に対応したカリキュラムを提供する。(研究医・国際貢献など) ・知性と社会性を身につけた医師・看護師を育成するための方策を策定する。	<b>・教育内容公開数</b> H25:1 H26:1 H27:1 H28:1 H29:1 <b>・連携大学数</b> H25:11 H26:14 H27:21 H28:23 H29:24 <b>・留学生の受入数</b> H25:43 H26:44 H27:65 H28:102 H29:70 <b>・臨床実習(週・時間)数</b> (医学科) H25:60週 H26:62週 H27:75週 H28:75週 H29:75週 (看護学科) H25:1,260時間 H26:1,260時間 H27:1,260時間 H28:1,260時間 H29:1,260時間 <b>・医学科志願者数</b> H25:2,574名 H26:2,400名 H27:2,276名 H28:2,035名 H29:2,200名 <b>・看護学科志願者数</b> H25:574名 H26:610名 H27:570名 H28:520名 H29:570名 <b>・医師国家試験合格率</b> (医学科総計) H25:95.3% H26:97.1% H27:98.2% H28:92.9% H29:100% (医学科新卒) H25:97.1% H26:99.0% H27:100% H28:94.8% H29:100%	<b>①初年次教育を改善する。</b>	学事課  学事課	教学委員会  教学委員会	(医学科・看護学科) スタートアップ研修の改正点について、成果を検証し評価する。  (医学科) 実践的英語教育のための授業改善を行う。  (看護学科) 新カリキュラムに対応した内容が継続して評価する。
		<b>②将来を見据えた大学の理念に沿って教育理念・教育目標を再構築する。</b>	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会	(医学科) ディプロマポリシーに沿ったマイルストーンを作成する。
		<b>③知識偏重から知識の展開力を重視した教育に切替える。</b>	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会 教育センター	(医学科) 1. ログブック、e-ポートフォリオシステムを改善する。 2. e-ポートフォリオシステムの分析結果を指導教員にフィードバックする。 3. 臨床実習におけるEBM活用FDを開催し、指導医の知識展開指導能力を養成する。  (看護学科) 1. 学生との合同会議、ディプロマポリシーモニタリング会議を行い、評価する。 2. 新カリキュラムで変更が予定されている疾病治療論の履修状況を確認し、看護専門科目との連動を円滑にする。 3. 新カリキュラムへの移行を円滑に行うため、シラバス内容に基づく評価を実施し、新カリキュラムにおけるディプロマポリシー保証状況を確認、改善する。
		<b>④診療参加型臨床実習を中心に臨床実習を拡充する。附属病院の教育機能を充実させる。</b>	学事課	教学委員会 カリキュラム委員会 教育センター	(医学科) 1. 診療参加型臨床実習後の総合的臨床能力試験として、Post-CC OSCE(卒業時OSCE)を実施する。 2. 診療参加型臨床実習における包括同意書の運用を導入する。 3. 4年次9月から6年次7月までの約2年間に亘る臨床実習e-ポートフォリオシステムを完成させ、蓄積情報を分析、活用する。
		<b>⑤自己学習を促進する教育手法を導入する。</b>	学事課	教育センター 教学委員会	(医学科) 1. e-ラーニングシステムを活用した事前学修や反転授業を促進する。 2. 学生カルテシステムを活用し臨床実習における主体的学修を推進する。
		<b>⑥学生の主体性および個性を尊重した教育を実施する。</b>	学事課	教育センター 教学委員会	(看護学科) 新しいディプロマポリシー、各科目の到達度とe-ポートフォリオシステムを連動させ、学生が主体的に活用できるよう改良する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<p>・看護師国家試験合格率 (看護学科) H25:100% H26:97.4% H27:100% H28:100% H29:100%</p> <p>・保健師国家試験合格率 (看護学科) H25:97.6% H26:100% H27:100% H28:100% H29:100%</p>	⑦学習記録と連携させた評価システムを構築する。	学事課	教育センター 教学委員会 科目横断評価 プロジェクト	<p>(医学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>EXAMBASEシステムを利用し、問題作成者に試験後の問題分析結果をフィードバックする運用を確立する。</li> <li>新大学2号館講堂でもコンピュータ試験を導入し、新カリキュラムの総合試験評価システムを完成させる。</li> </ol> <p>(看護学科)</p> <p>2年生から4年生を対象とした科目横断総合試験、e-ポートフォリオシステムでのリフレクション時に、学習成果物のエビデンスを活かせるように、教員ならびに学生への周知を強化する。</p>
		⑧医学教育と連携した外国語教育の改善を図る。医学生・看護学生の国外留学を支援すると共に、外国の留学生を積極的に受入れる。	学事課	教学委員会 国際交流センター 運営委員会	<p>(医学科)</p> <p>ネイティブ英語模擬患者によるOSCEのカリキュラム化(選択科目化)を検討する。</p> <p>(看護学科)</p> <p>英国キングスコレッジロンドンから1名、本学から1名の交換留学を実施する。</p>
		⑨学生の国家試験準備への支援体制を整備する。	学事課	教育センター 教学委員会 学生委員会	<p>(医学科)</p> <p>コース「医学総論VI」の新ユニット「国家試験ガイダンス」を開設する。</p> <p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学生の国家試験委員を中心として、主体的に模擬試験、補講を実施する。</li> <li>模擬試験の結果が芳しくない学生に、個人面談などの指導を繰り返し実施する。</li> <li>科目横断総合試験を低学年から効果的に活用する。</li> </ol>
		⑩入学試験方法を継続的に改善する。	学事課	入試検討委員会	<p>(医学科)</p> <p>入学試験二次試験方法の変更について、評価分析を行う。</p> <p>(看護学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>看護系大学の前年度入試および当該年度全国統一模擬試験の動向における本学の位置付けや状況について、予備校に分析を依頼し、説明会を開催するとともに、その結果を次の入学試験に反映させる。</li> <li>学生アンケート、座談会による情報収集を継続し、入試広報、入試科目の検討を継続する。</li> </ol>
		⑪医師のプロフェッショナルリズムを意識した人格教育・社会教育を充実させる。	学事課	教学委員会 カリキュラム 委員会	<p>(医学科)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ディプロマポリシーの基準に沿ったマイルストーンを作成する。</li> <li>教養教育および医療倫理演習のあり方を検討する。</li> </ol> <p>(看護学科)</p> <p>医学科のカリキュラム進度に合わせて、医療倫理実習を4年次前期に実施する。</p>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画	
中 期 目 標	指 標 (平成29年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等		
		⑫臨床実習の拡充に併せ研究医養成コース・グローバルヘルスコースなどの選択の幅を広げる。	学事課	カリキュラム委員会	(医学科) 診療参加型臨床実習期間中における基礎系講座の選択について、運用を確立するとともに学生へ周知する。  (看護学科) 1. 継続的に選択科目を開講し選択の幅、内容の充実を図る。 2. 開講時期を変更した科目の学習効果を評価し、必要に応じて改善を試みる。	
		⑬広報活動に努め、看護学科の受験倍率の確保を図る。	学事課	広報課 広報委員会	(看護学科) 効果的な大学PRとすべく、オープンキャンパスの企画、ならびに受験生応援サイトの管理運営のシステムを作る。	
		⑭国際基準に基づく医学教育のIR活動を充実させる。	教育センター		医学科教育情報と卒業生アンケート情報を整理し、教学委員会に情報提供する。	
○大学院教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床を支える研究を推進する。</li> <li>高い倫理観と判断力、基礎研究、臨床研究に優れた研究者を育成する。</li> <li>研究者育成のための実効ある方策を立てる。</li> <li>社会に開かれた大学院として、生涯学習の場を提供する。</li> <li>大学院教育のカリキュラム評価システムを構築する。</li> <li>看護実践を支える看護研究を推進する。</li> <li>大学院間連携を図り、幅広い研究を可能とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改訂プログラム数 H25：2件 H26：10件 H27：2件 H28：1件 H29：1件</li> <li>大学院生数 H25：133名 H26：135名 H27：130名 H28：144名 H29：149名</li> <li>学位授与数 H25：62名 H26：49名 H27：53名 H28：69名 H29：60名</li> <li>学位論文のインパクトファクター(平均) H25：3.55 H26：2.73 H27：3.09 H28：2.47 H29：3.00</li> </ul>	①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。トランスレーショナル研究を推進する環境を整備する。	教育センター	大学院委員会	がんプロフェッショナル養成の教育プログラムを検討する。
			②研究者として必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムの充実を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. CITI-Japanを活用して倫理教育を推進する。 2. 大学院特別講義を充実させ、研究者として必要な倫理観や判断力を養成する。 3. 研究者養成のため、MD-PhDコースを新設し、入学生募集を開始する。
			③共通カリキュラムの改善を図る。教職員を対象とした公開講義を積極的に行う。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 1. 大学院生の意見を参考に共通カリキュラムの授業開講時間を改善する。 2. 共通カリキュラムの選択科目として、英語論文作成方法のカリキュラムを新設する。 3. 倫理指針や実験指針の変更点を共通カリキュラムの内容に反映させ、公開講座を開講する。
			④社会人入学の推進を図る。	学事課	大学院委員会	(博士課程) 連携大学院生に対して、共通カリキュラムを提供する。
			⑤看護学の大学院における「教育・研究」を改善し質を高める。	学事課	大学院委員会	授業細目「地域プライマリケア医学」において、総合医療に関するリサーチマインドを向上させるプログラムを実施する。
			教育センター		がんチーム医療における倫理教育の見直しを図る。	
			学事課	大学院委員会	1. 看護学系専攻博士課程設置に向けた準備を行う。 2. 看護学専攻修士課程における高度実践看護師教育課程・在宅看護専攻の申請を行う。 3. 看護研究学習会を慈恵看護研究会と合同で開催する。 4. 看護学専攻修士課程における一部の授業科目を公開講義とする。	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画	
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等		
○卒業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業教育機関としての質の向上を目指す。</li> <li>・卒業教育カリキュラムを改善し公開する。</li> <li>・同窓および地域医療者に生涯学習の場を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジデント応募者数 H25:172名 H26:156名 H27:159名 H28:152名 H29:160名</li> <li>・レジデント採用数 H25:153名 H26:149名 H27:143名 H28:143名 H29:140名</li> <li>・医師臨床研修マッチングにおける定員充足率 H25:78% H26:86% H27:86% H28:95% H29:90%</li> </ul>	<p>①初期臨床研修プログラムならびに指導体制の更なる充実を図り学内外の医学生に公開する。</p> <p>②専門修得コース(レジデント)における各科プログラムの更なる充実を図り学内外の研修医等に公開する。</p> <p>③看護における臨床技能を高めるための研修を実施する。</p>	<p>臨床研修センター</p> <p>臨床研修センター</p> <p>教育センター</p>	<p>教育センター</p> <p>慈恵看護教育あり方会議</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修医に対し、新専門医制度説明の機会を設ける。</li> <li>2. 指導医講習会を開催し、附属4病院より臨床研修指導教員合計40名の受講を目指す。</li> <li>3. 地域医療研修における協力施設の拡充を図る。</li> <li>4. 採用時OSCE、集合シミュレーション教育、医療安全e-ラーニングを各1回実施する。</li> <li>5. 研修医にメンターを付けて指導する。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度実施の新専門医制度の研修プログラムを収集整理し、冊子、ホームページの掲載内容を刷新する。</li> <li>2. レジデント1年目を対象に医療安全・屋根瓦教育FDを開催する。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新人看護師技術研修プログラムの評価を行う。</li> <li>2. 指導者養成および看護マネジメント向上の段階的研修を行う。</li> <li>3. 認定看護管理者教育機関の認定申請を行う。</li> </ol>
(2) 教育の実施体制等に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-ラーニング実施数 H25:279件 H26:335件 H27:359件 H28:382件 H29:390件</li> <li>・シミュレーション教育施設利用数 H25:659回 H26:637回 H27:917回 H28:836回 H29:840回</li> <li>・医学教育セミナーの開催数 H25:1回 H26:3回 H27:2回 H28:4回 H29:4回</li> </ul>	<p>①臨床実習を行う学外の協力病院におけるFDを導入する。</p> <p>②教員評価制度の運用に基づく体系的人事制度を構築する。</p>	<p>学事課</p> <p>教育センター</p> <p>教員・医師人事室</p>	<p>教学委員会 臨地実習委員会 公開講座委員会</p> <p>教育センター</p>	<p>(学事課)</p> <p>協力病院と学生から診療参加型臨床実習のフィードバックをもらい、分析および評価を行う。</p> <p>(看護学科)</p> <p>学外の実習施設からも参加できるよう臨地実習教育連絡会を開催し、活発な情報交換を行う。</p> <p>診療参加型臨床実習の学生アンケート結果、担当症例、経験症候などの学習情報を教育病院にフィードバックし、出張FDを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初期臨床研修医・レジデント採用時の審査方法を見直す。</li> <li>2. レジデント1年目から3年目に対して評価を実施する。</li> </ol>	
(3) 自己点検・評価の充実に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価結果を公表し、改善につなげる。</li> </ul>	<p>①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p> <p>②平成28年度に大学基準協会の認証評価を受審する。</p>	<p>大学事務部</p>	<p>大学自己点検・評価委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学基準協会の認証評価受審結果を公表し、大学の情報公開を進める。</li> <li>2. 大学自己点検・評価委員会の機能強化を図るとともに、大学基準協会評価受審結果を参考にして改善を進める。</li> </ol>	

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(4) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の教育の向上を図る。 ・優秀な学生を確保する。	<b>・看護師国家試験合格率</b> (慈恵) H25：100% H26：99.0% H27：99.0% (既卒1名含) H28：96.0% (既卒1名含) H29：100% (第三) H25：100% H26：100% H27：100% H28：100% H29：100% (柏) H25：96.3% (既卒1名含) H26：100% (既卒3名含) H27：100% H28：99.0% H29：100% (3校平均) H25：98.7% H26：99.6% H27：99.6% H28：98.3% H29：100% <b>・附属4病院への就職者率</b> (慈恵) H25：97.8% H26：92.0% H27：99.0% H28：86.5% H29：90.0% (第三) H25：90.9% H26：91.3% H27：92.9% H28：90.4% H29：90.0% (柏) H25：84.0% H26：87.0% H27：92.3% H28：100% H29：90.0% (3校平均) H25：91.5% H26：90.1% H27：94.7% H28：92.3% H29：90.0%	①看護実践を重視した看護教育を行う。	看護専門学校		看護実践能力向上に向けて技術習得が行えるように、履修の場が学内に限定される技術と、臨地実習でも履修可能な技術について引き続き検討する。
		②附属4病院を活用した臨地実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校		附属4病院病棟実習に加え、外来、医療連携部門における実習機会を充実させる。
		③学生生活を支援する。	看護専門学校		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験合格、就職希望者内定取得率100%を堅持する。</li> <li>2. 休学者、退学者数、未履修者数を減少させる。</li> <li>3. 学習上の課題を持つ学生が、自己の目標をもって学習できるようきめ細かく支援する。</li> </ol>
		④学生確保のための活動を行う。	看護専門学校	広報課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受験生確保、質の高い学生確保の観点からインターネットを活用した学校広報活動の内容を充実させる。</li> <li>2. 推薦指定校との連携強化に努め、着実に学生を確保する。</li> </ol>
		⑤看護教員の確保に努める。	看護専門学校		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 附属4病院看護部内から教員養成受講者を推薦、派遣できるようにする。</li> <li>2. 看護専門学校における教員資質を向上させるため、研修機会を設ける。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>2. 研究に関する目標</b> <b>(1) 研究水準および研究成果に関する目標</b> ・国際的な視野に立った先進的研究を推進する。 ・質の高い基礎医学および臨床医学研究を振興する。 ・外部競争的資金の獲得を支援する。	・ <b>文部科学省科学研究費補助金 採択件数</b> H25:146件 H26:151件 H27:160件 H28:154件 H29:170件 ・ <b>論文発表数</b> H25:1,291稿 H26:1,233稿 H27:1,380稿 H28:1,551稿	①本学にとって特色ある研究領域を識別し、重点的に推進していく。	研究支援課 学事課	大学院委員会 大型プロジェクト対策委員会	1. 研究アドミニストレーション部門を円滑に稼働させ、研究費の獲得を推進する。 2. 関連部署と連携して私立大学研究ブランディング事業の採択を目指す。
		②本学の強みを活かし、研究領域の社会還元を实践する。	学事課 研究支援課	学長諮問会議 総合診療内科	1. 本学のブランドを活かした研究活動を検討する。 2. URAによる産学間連携・知的財産管理を開始して、研究成果の社会への還元を目指す。
			教育センター		平成30年度専門医制度施行に向けて、総合診療専門医のための研究体制を構築する。
			臨床検査 医学講座・ 病理学講座・放射線 医学講座	研究支援課	臨床データの収集管理によって研究を促進し、研究のハブ機能を果たす。
			臨床検査 医学講座		研究予算および中心となる研究要員を確保し、臨床検査データ、画像データの新規収集・統合システムを試す。
		③学内研究費を活用し、それぞれの研究層に応じた競争的資金の獲得を支援する。	学事課 研究支援課	学長諮問会議 研究奨励費委員会 大学院委員会	1. 大学院での研究を活性化させ、外部資金の獲得を促進するため、医学研究科研究推進費による支援を行う。 2. 臨床講座に対し科研費採択を促進するため、基礎講座との連携を図り、萌芽的共同研究推進費による支援を行う。 3. 医学研究科研究推進費、萌芽的共同研究推進費、戦略的重点配分研究費、研究奨励費による競争的研究費の獲得が適切に促進されたか検証を行う。
			研究支援課		1. 学長主導により特色ある研究課題を戦略的・重点的に推進するために、戦略的重点配分研究費による支援を行う。 2. 研究奨励費、医学研究科研究推進費および萌芽的共同研究推進費に係わる効果を点検・評価し、本システムの改善および当該教員の指導、アドバイスを行う。 3. 科研費採択を促進するために、研究奨励費による支援を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画	
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等		
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・透明性・公正性・中立性の高い研究を推進する。</li> <li>・研究環境を整備する。</li> <li>・先進的研究実施体制を構築する。</li> <li>・寄付講座制度を活用する。</li> <li>・医師の研究時間を確保するために効率的な人員配置をする。</li> <li>・学内横断的研究プロジェクトを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型プロジェクト研究事業の採択数 H25：1件 H26：0件 H27：0件 H28：2件 H29：1件</li> <li>・寄付講座設置数 H25：2講座 H26：2講座 H27：2講座 H28：0講座 H29：1講座</li> </ul>	①研究者としての高い倫理観を涵養するために必要な体制整備と本体制による対策の実施、状況のモニタリングを行う。	研究支援課	研究倫理推進センター 研究適正化特別委員会	研究倫理推進センターが主体となり、研究費を適正かつ公正に管理・運用するための啓発活動を継続する。
				監査室		研究倫理推進センターと研究適正化特別委員会が連携し、適正な研究を行うための体制整備と実施状況の点検を継続して行う。
				学術情報センター		論文の剽窃・盗用防止ソフトを活用し、研究倫理の教育・啓発活動を促進する。
			②研究アドミニストレーション部門を設置し、研究支援の強化を図る。	研究支援課		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究IR機能を構築し、研究業績を分析した上で研究戦略を立案する。</li> <li>2. URAによる研究費マッチングや産学連携マッチングなどを開始して、外部の大型研究費獲得支援を行う。</li> <li>3. URAによる研究計画調書や申請書の書き方についての支援を開始し、研究費の更なる獲得を目指す。</li> </ol>
			③国際競争力のある研究を奨励、支援する。	学術情報センター		論文執筆のためのFDを実施し、よりレベルの高い国際誌への投稿を推進する。
			④学内学外の研究連携を促進する。	学事課	大学院委員会	継続して国立がん研究センター、東京理科大学、上智大学、首都大学東京などと連携を強化し、学外共同研究を推進する。
				研究支援課		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 萌芽的共同研究推進費の支援、大学院における基礎講座への再派遣制度、先端医学推進拠点群の実質化を通じて、学内共同研究の推進を行う。</li> <li>2. 国立がん研究センター、東京理科大学、上智大学、首都大学東京などと連携を強化し、学外共同研究を推進する。</li> </ol>
				看護学科		国領キャンパスおよび各看護部との共同研究を継続する。
				看護専門学校		指導力強化研修の成果を研究として発表できるようにする。
				看護部		学内外と連携し合同研究を実施する。
	看護学専攻修士課程		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究学習会を慈恵看護研究会と合同で開催する。</li> <li>2. 一部の授業科目を公開講義とする。</li> </ol>			
⑤臨床研究支援体制を強化し、臨床研究の活性化を支援する。	臨床研究支援センター		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. SS-MIXが導入され次第、疾患レジストリの構築を開始する。</li> <li>2. 学内各部門の臨床研究支援を行う。</li> </ol>			
	薬物治療学・臨床疫学・分子疫学・環境保健医学	臨床研究支援センター	臨床研究支援センターと協力し、共同研究、コンサルテーション、大学院における人材育成を通じて臨床研究を支援する。			
⑥寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。	研究支援課		寄付講座を積極的に活用し、研究の活性化を支援する。			

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成29年度事業計画
(3) 総合医科学研究センターに関する目標  ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価し、特色ある研究を推進する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。	<b>・総合医科学研究センター研究成果報告会開催数</b> H25：0回 H26：1回 H27：1回 H28：2回 H29：1回 <b>・学内共同研究数</b> H25：35件 H26：42件 H27：35件 H28：33件 H29：40件	①各部署(研究所・研究部)の活動を点検・評価し、必要に応じて組織の再編を検討していく。	総合医科学研究センター 研究支援課		提出された自己評価報告書を基に改善すべき事項などを部門にフィードバックする。
		②総合医科学研究センター研究部門が主導し、学内の各講座と連携しながら特徴ある研究を推進する。	総合医科学研究センター 研究支援課	総合医科学研究センター(研究部門)	1. 各講座を支援し、共同研究を企画推進する。 2. 各部署が最先端研究を推進し、競争的資金の獲得を目指す。
		③総合医科学研究センター研究支援部門として、大学が戦略的に推進していく研究領域の支援を強化する。	総合医科学研究センター 研究支援課	総合医科学研究センター(支援部門)	1. GMP対応細胞・ベクター産生施設において、新たに細胞治療のプロトコルを開始する。 2. 次世代シーケンサーによる解析およびゲノミクス専門家による支援を強化する。
(4) その他  ・医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。	<b>・公開講座開催数(一般市民および地域医療者を対象)</b> H25：37回 H26：36回 H27：32回 H28：25回 H29：26回	知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	教育センター	公開講座推進委員会	附属4病院で公開講座を30回以上開催する。
3. 診療に関する目標  ●本院に関する目標  (1) 医療の質の向上を図る。	<b>・先進医療の承認件数</b> H25：7件 H26：6件 H27：8件 H28：7件 H29：9件  <b>DPC病院I群としての各機能評価の充実</b> <b>・効率性指数</b> H25：0.00565 H26：0.00857 H27：0.00970 H28：0.00955 <b>・複雑性指数</b> H25：0.00000 H26：0.00000 H27：0.00010 H28：0.00000 H29：0.00010 <b>・カバー率指数</b> H25：0.00476 H26：0.00932 H27：0.00968 H28：0.00963 <b>・救急医療指数</b> H25：0.00226 H26：0.00464 H27：0.00473 H28：0.00459	①特定機能病院としての機能を充実させる。  ②がん診療連携拠点病院としての機能を充実させる。	管理課		1. 新しい特定機能病院承認要件の各項目に対応して、安定運営を図る。 2. 先進医療、患者申出療養、再生医療など、関係法令の改正に対応し、新規申請・実施に向けた診療科への支援体制強化を検討する。  1. 3,600件以上のがん登録を目標とし、がん登録関連情報を学内外に周知する。 2. 就労支援、妊孕性に関するがん相談を軌道に乗せ、相談の質を向上させることにより患者のニーズに応える。 3. 緩和ケア研修会の受講人数増加および緩和ケアチーム会議を定期開催し、更なる緩和ケア体制の拡充、充実を目指す。 4. 情報共有の場を設け、運用について周知徹底することでがん診療連携パスの運用件数の増加と運用拡大を目指す。 5. 国立がん研究センターと更なる連携強化に努め、機能向上を図る。 6. キャンサーボードを定例開催、腫瘍センター機能の更なる向上に努める。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中 期 目 標	指 標 (平成29年度は目標値)	中 期 計 画	主体部署	関連部署・委員会等	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療指数 H25：0.00189 H26：0.00459 H27：0.00504 H28：0.00497</li> <li>・DPC地域医療指数・ 体制評価指数 H25：9.1P H26：9.6P H27：9.6P H28：8.85P H29：8.85P</li> <li>がん診療連携拠点病院 ・5大がん+前立腺がん のパス運用数 H25：51件 H26：87件 H27：57件 H28：77件 H29：80件</li> <li>・公開講座数 H25：3回 H26：3回 H27：2回 H28：2回 H29：2回</li> <li>・研修医のCPC出席率 H25：95.8% H26：97.9% H27：97.5% H28：96.9% H29：100%</li> <li>・新規認定看護師資格取 得者数 H25：0名 H26：5名 H27：9名 H28：4名 H29：1名</li> </ul>	③人材育成(スキルアップ)を行う。	臨床研修センター		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全カンファレンス、CPCによる症例検討を推進する。</li> <li>2. 鏡視下手術トレーニングコースSTEP1.2の試験とSTEP3の技術認定を実施する。</li> </ol>
		④看護専門職を充実させる。	看護部	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線看護認定看護師を育成する。</li> <li>2. 院内認定制度による認定看護師数を増加させる。</li> </ol>
		⑤チーム医療を強化・推進する。	医療安全管理部	病院運営会議	TeamSTEPPSを継続して実施し、研修内容の充実と強化を図る。
		⑥救命救急体制の強化を図る。	業務課	救急部委員会	救急医療の充実と病棟再編を行う。
(2) 先進(高度)医療を開発し、施行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進医療新規認定数 H25：0件 H26：1件 H27：2件 H28：1件 H29：2件</li> </ul>	特定機能病院の要件を満たす。	管理課	各診療科先進医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療科からの相談に対応できるよう常に最新の情報を収集し支援を行う。</li> <li>2. 医療の質・技術向上に取り組み、患者ニーズに対応した先進医療を提供する。</li> <li>3. 他施設共同試験への参画に対する事務的支援を行う。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内感染防止のためのラウンド数 H25: 391 H26: 309 H27: 309 H28: 435 H29: 435</li> <li>院内感染防止のためのカンファレンス数 H25: 63件 H26: 78件 H27: 91件 H28: 100件 H29: 100件</li> </ul>	医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部		<ol style="list-style-type: none"> <li>医療安全および感染対策研修会の未受講率を減少させる。</li> <li>CVC(中心静脈カテーテル)挿入認定制度の運用開始とCVC挿入認定医師の増加を図る。</li> <li>病棟ICT活動の推進により、アウトブレイク3事例の減少を目指す。</li> <li>耐性菌対策として、環境整備を強化実施する。</li> </ol>
(4) 適正な保険診療の徹底		「教育・研修改革」、「組織改革」、「意識改革」を実践する。	病院事務部		<ol style="list-style-type: none"> <li>保険診療適正化プロジェクトチームを設置して、診療科別個別指導、全学的啓蒙・個別啓蒙、診療録チェックなどを組織的に実行し、保険算定と診療記録の整合性の観点から保険診療がルールに基づいて行われるような組織風土を醸成する。</li> <li>関係部署の施設基準の届出状況について定期的に確認・検証する。</li> <li>医療現場のスタッフへ施設基準の教育を行い、理解させる。</li> </ol>
(5) 患者・家族の満足度の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦情・クレーム件数(管理課) H25: 283件 H26: 315件 H27: 383件 H28: 367件 H29: 350件</li> <li>(患者相談室) H25: 104件 H26: 113件 H27: 147件 H28: 98件 H29: 70件</li> <li>説明と同意書の整備件数 H25: 3件 H26: 3件 H27: 5件 H28: 15件 H29: 50件</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①インフォームド・コンセントを徹底する。</li> <li>②教職員マナーの向上を図る。</li> </ol>	病院事務部 看護部 患者相談室 看護部 病院事務部	病院運営会議 患者相談室	<ol style="list-style-type: none"> <li>電子カルテの導入に向けて、同意書・説明書を規程に則って統一し、適正なインフォームド・コンセントを行う。</li> <li>入院診療計画書について1週間以内の記述100%達成と記述内容における質の向上を図る。</li> <li>コミュニケーションスキル向上に向けて、教育システムを構築する。</li> <li>看護師対応クレームを80件以下に抑える。</li> <li>患者サービス向上のために強化点を分析し、研修を通じマナーの向上を図る。</li> <li>外来・病棟委員会の下部組織に「患者クレーム対応チーム」を新たに設置し、多職種間での情報共有、機動性をもった活動を行うことで、教職員の意識改革を図る。</li> <li>患者サービス向上ワーキンググループの活動を推進しマナー向上に取り組む。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(6) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率(保険法) H25:46.8% H26:67.5% H27:71.9% H28:71.9% H29:70.0%</li> <li>・逆紹介率(保険法) H25:30.5% H26:52.5% H27:52.7% H28:52.2% H29:50.0%</li> </ul>	紹介・受診しやすい外来システム改善と広域医療連携を構築する。	患者支援・医療連携センター		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慈恵、企業、地域(医師会・行政など含む)3者間連携を強化し、新規紹介患者の確保につなげる。また、新規開業医療機関へ訪問を実施し、慈恵の取り組みを広報する。</li> <li>2. 紹介元医療機関から紹介しやすい病院として認知してもらえるよう、院内受入れ体制を強化する。</li> <li>3. 主治医と産業医の間をつなぐ両立支援チームを立ち上げる。</li> <li>4. 医療連携フォーラムを継続する。</li> </ol>
(7) 臨床研究を促進する。		薬物治療学研究室、臨床疫学研究室、分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	治験センター	臨床研究支援センター 薬物・医療機器治験審査委員会 第1・第2倫理審査委員会 治験管理委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床研究法が施行された場合には、対象となる臨床試験が適切に実施されるよう臨床研究支援センターと連携して支援する。</li> <li>2. 臨床試験・治験に係わる病院および大学の各部門と連携し、臨床研究の申請手続きから実施、終了まで、進捗に合わせて適切に支援が提供できるよう、事務局およびCRC(治験コーディネーター)の体制を整備する。</li> <li>3. 電子カルテが導入されている各病院(葛飾、第三、柏)から、SS-MIXを用いた疾患レジストリを構築する。</li> </ol>
(8) 効率的医療を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央棟手術室利用率(日勤帯) H25:70.6% H26:69.6% H27:70.6% H28:69.6% H29:70.0%</li> <li>・外来棟手術室利用率(日勤帯) H25:44.0% H26:34.6% H27:36.9% H28:35.6% H29:40.0%</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①効率的な診療体制の構築を図る。</li> <li>②手術室の安全で効率的な運用を図る。</li> <li>③救急患者受入れの体制整備と推進を行う。</li> </ol>	病院事務部  手術部	手術・中材・ICU運営委員会  救急部委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土曜日の診療体制を見直し、患者数増加を図る。</li> <li>2. 長期連休においては引き続き低侵襲定時手術の実施体制を整備する。</li> <li>3. ゆるやかなセンター化構想を推進し、消化器センターの具現化を目指す。</li> <li>4. 病院コンシェルジュを配置し、患者満足度を上げるとともに円滑な診療体制を構築する。</li> <li>5. 国際医療への対応を検討する。</li> <li>1. 電子カルテ導入に向け手術室の新しい運用管理システムを構築する。</li> <li>2. 附属4病院のSPD統一により、手術室における医療材料物流システムの効率化を推進する。</li> <li>3. 周術期管理センターの設立に向け、業務効率と患者満足度の向上を目指した組織体制を構築する。</li> <li>4. 医療機器認証システムの導入により、複雑な手術症例に対して安全で効率的な運用を確立する。</li> </ol> <p>紹介元医療機関、救急隊からの急患受入要請は、「断らない」運用を確実に実行し、断り症例は理由を把握、病院全体で管理を徹底する。</p>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(9) 適正な収支構造の確立		毎期設定される医業利益目標を達成する。	病院事務部		<ol style="list-style-type: none"> <li>DPC 医療機関別係数の向上に取り組む。</li> <li>看護職員夜間配置加算、病棟薬剤業務実施加算を算定できるよう体制を整備する。</li> </ol>
(10) ICTを充実し、有効活用する。		ICT技術を活用し、医療の効率化を推進する。	システム課 業務課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成30年1月に本院電子カルテシステムを導入する。</li> <li>附属4病院でのモバイル環境の整備を図る。</li> </ol> 電子カルテシステムを円滑に導入する。
(11) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特殊材料費・消耗品費経費率</li> <li>特殊材料費 H25: 9.17% H26: 9.40% H27: 9.46% H28: 8.33% H29: 7.98%以下</li> <li>消耗品費 H25: 4.74% H26: 4.91% H27: 5.05% H28: 5.61% H29: 5.17%以下</li> <li>原価率 H25: 92.9% H26: 95.2% H27: 96.2%</li> <li>後発医薬品の数量シェア H25: 24.5% H26: 41.3% H27: 76.3% H28: 79.7% H29: 80.0%</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①月次医療収支額を把握し活用する。</li> <li>②大学間ベンチマークを実施し、経営改善に活用する。</li> <li>③新外来棟建築計画も含めて、医療材料のSPD業務の再編を行う。</li> </ol>	病院事務部 病院事務部 経営企画部 経営企画部 病院事務部 施設課 経営企画部	経営企画部 コストマネージメント・プロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> <li>各診療部で検討した目標値(患者数・手術件数)を基に病院運営会議で「予算目標値」を設定し、診療科積み上げ式の予算編成を行う。</li> <li>手術室5室のアンギオ装置を更新し、TAVIなどの高収益手術を行い、収益改善につなげる。</li> </ol> 各診療部の患者数などの目標値を予算に反映し、各診療部QI(クオリティインディケータ)を公表し経営意識を醸成させる。
					<ol style="list-style-type: none"> <li>7大学ベンチマークにおける現行指標に加え、医療経費に必要な情報(特殊材料や薬品費)の交換、診療行為別平均診療費などを比較し、経営に役立たせる。</li> </ol> 医療安全に配慮しつつ後発医薬品への切替えを進め、早期に数量シェア80%を達成する。
					<ol style="list-style-type: none"> <li>医材・物流ワーキンググループによる附属4病院共同購入を推進し効果を検証する。</li> <li>コストマネージメント・プロジェクトを中心とした経費削減活動を継続する。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>SPD業者の統一による更なるスケールメリットについて提案し、実施する。</li> <li>画像診断機器など同一メーカーによる附属4病院の複合保守契約ならびに複数年契約による経済的メリットを検証し提案する。</li> </ol>
(12) 情報公開の条件を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開項目数(手術、合併症率、再入院率、再手術率等) H25: 0件 H26: 0件 H27: 0件 H28: 4件 H29: 0件</li> </ul>	診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課		継続して臨床指標の実績公表を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(13) 晴海トリトンクリニックの現状評価と将来構想		①晴海トリトンクリニックの機能(組織・診療体制・健診体制)を点検・評価する。	晴海トリトンクリニック	教員・医師人事室 人事課	1. 安定した収支構造を構築するため、断らない診療を実践する。また、住友商事移転後の患者、健診者確保に向けての対策を策定する。 2. 地域医療へ貢献するため、本院が進める循環型医療連携推進の中央区における一翼を担う。また、女性検診の充実を図り、中央区の女性検診に参画する。 3. 必要な医師を確保する。
		②医療機器の計画的な更新を図る。	晴海トリトンクリニック		永年使用の医療機器は、故障・修理不能などで前年度に更新したため、今年度においては医療機器の更新計画はない。
(14) 総合健診・予防医学センターの充実	<p>・がん早期発見率 (平成24年度実績ベース) H25: 0.1% H26: 0.1% H27: 0.1% H28: 0.1% H29: 0.1%</p> <p>・メタボリックシンドローム該当者率 (平成24年度実績ベース) H25: 14% H26: 7% H27: 5% H28: 5% H29: 6%</p> <p>・女性検診での早期異常状態発見率 (平成24年度実績ベース) H25: 3.4% H26: 3.0% H27: 3.0% H28: 3.1% H29: 3.0%</p>	①がんを中心とした早期発見のため画像伝送システムをはじめ検査伝送システムの病院との連携強化を図る。	総合健診・予防医学センター		1. 試験運用している婦人科検診と内視鏡検査の同一実施を本格的に導入し、件数を増加させる。 2. 大腸内視鏡のオーダーリング導入を継続して検討する。
		②特定保健指導を充実させメタボリックシンドローム該当者を減らす。	総合健診・予防医学センター		1. 現行二企業で行っている試験運用結果を検証し、提携企業を増加させる。 2. 特定企業、健康保険組合との独自契約を結び健診当日に保健指導が可能な企業を増やす。
		③女性検診の充実化を図る。	総合健診・予防医学センター		新病院に向けて、乳腺超音波機器を導入できるように関係部署、医師、看護師と継続検討していく。
(15) 予防医学の推進		健康増進に関する新たな診療体制を検討する。	病院事務部	経営企画部	健康増進(運動・栄養・メンタル)に関する事業計画について、引き続き検討する。
●葛飾医療センターに関する目標					
(1) 医療安全・感染対策の管理体制を強化する。		医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	葛飾医療センター	医療安全推進室 感染対策室	1. 医療安全および感染対策研修会への未受講率を減少させる。 2. CVC(中心静脈カテーテル)挿入ライセンス制度の運用開始に向けて、認定試験を軌道にのせる。 3. 標準予防策の更なる浸透とPPE(防護用具)の適正使用を推進し、アウトブレイクレベル3事例の減少を目指す。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(2) コンプライアンスとガバナンスを強化する。		病院機能評価を受審し認定病院となる。	葛飾医療センター	病院運営会議	病院機能評価の受審結果を検証し、指摘事項などについて継続的に改善に取り組む。
(3) 健全財政を維持する。		①医療の効率化、透明化、標準化を推進する。	葛飾医療センター	業務課	1. DPCデータを活用し、当院の特性を分析する。 2. クリニカルパスの拡充と見直しを継続的に行い、医療の効率化、透明化、標準化を推進する。
		②コスト管理を徹底し収支差額を増大させる。	葛飾医療センター	管理課	1. 医薬品の適正使用ならびに後発医薬品の採用を推進する。 2. SPD委託会社の4病院統一化およびベンチマークなどにより医療経費率を低減する。
		③データウェアハウスを活用し管理会計を強化する。	葛飾医療センター	業務課	1. 収益性・機能性分析を行い管理会計を強化する。 2. 患者医療圏分析などのマーケティングを継続的に実施することにより、患者や紹介医療機関の特性を把握し、集患対策につなげる。
(4) オープン・システムを拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率（保険法） H25：49.4% H26：59.9% H27：63.4% H28：68.8% H29：70.0%</li> <li>・逆紹介率（保険法） H25：17.9% H26：30.4% H27：26.3% H28：26.2% H29：30.0%</li> <li>・公開講座平均参加者数 H25：112名 H26：97名 H27：156名 H28：112名 H29：120名</li> </ul>	①附属4病院、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワークを拡大する。	葛飾医療センター	入退院医療連携センター	1. 附属4病院間の連携を強化する。 2. 連携登録医の拡大を図り、「顔の見える」医療連携を更に推進する。
		②地域包括ケアシステム構築に向けた在宅療養支援と地域看看連携強化を図る。	葛飾医療センター	看護部	1. 訪問看護ステーションとの相互研修と地域との合同勉強会を開催する。 2. 地域に向けたスキルアップ研修（オープン講座）を開催する。 3. 認定看護師によるオープン講座を開催し、活動内容をアピールし、在宅同行訪問依頼、電話相談へとつなげる。 4. 地域での看取りケースに関する終末期医療カンファレンスを訪問看護ステーションで開催する。 5. 小児の在宅調整に向けた相互研修および症例カンファレンスを開催する。
		③地域の健康管理・健康増進に貢献する。	葛飾医療センター	医療連携メディカルカンファレンス委員会	公開セミナー時に回収したアンケートの検証結果から、より地域ニーズに適合したテーマを策定し、例年通り年3回の公開セミナーを開催する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 診療重点機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送数 H25: 3,532件 H26: 3,771件 H27: 3,737件 H28: 3,484件 H29: 3,600件</li> <li>・手術件数 H25: 4,494件 H26: 4,519件 H27: 4,450件 H28: 4,855件 H29: 4,700件</li> <li>・血液透析件数 (1ベッドあたり) H25: 1.38回転 H26: 1.60回転 H27: 1.54回転 H28: 1.40回転 H29: 1.45回転</li> </ul>	①プライマリーケア・ユニット(救急部・総合内科・小児科)の機能を強化する。	葛飾医療センター	救急部 総合内科 小児科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCU(プライマリー・ケアユニット)と専門外来の連携強化および救急受入れ体制を強化する。</li> <li>2. 救急病床の再編と円滑な運用を構築し、救急車応需率および救急患者数を増加させる。</li> <li>3. 総合内科体制の再構築に向け、関連部署との協議を推進する。</li> </ol>
		②当初の計画通り、血液透析ベッドを拡張する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液透析室の増床後の安定稼働を図り、年間13,500件の透析を行う。</li> <li>2. 認定看護師を配置し、透析看護の質的向上を図る。</li> </ol>
		③がん治療を重点化する。	葛飾医療センター	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん診療体制の維持、向上を図り、地域のがん診療に貢献する。</li> <li>2. 放射線治療の稼働を推進する。</li> <li>3. 乳がん看護ならびに緩和ケアの認定看護師により質的向上を図る。</li> </ol>
(6) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	葛飾医療センター	管理課	大規模災害訓練などを介して、BCPの実効性の検証を継続する。
		②被災地支援体制を構築する。	葛飾医療センター	管理課	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業務調整員の活動を継続し、DMAT隊員の増員を申請する。</li> <li>2. 葛飾区との総合防災訓練ならびに地元自治会との合同防災訓練に参加し、地域支援・連携体制を強化する。</li> </ol>
●第三病院に関する目標					
(1) 医療安全と感染対策の体制を強化する。		医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	第三病院	医療安全推進室・ 感染制御室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療現場のチームワークとノンテクニカルスキルの強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Team STEPPSの考え方を理解したスタッフの育成、現場での推進・定着を図り、チームで取り組み医療の質と安全を高める活動を強化していく。</li> </ul> </li> <li>2. 医療安全教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集したデータから現場での問題を共有し積極的予防活動につなげるための意識変革を行う。</li> <li>・ 決められた手順を守る文化の醸成につながる教育を実践する。</li> <li>・ 医療安全研修内容の再構築</li> </ul> </li> <li>3. 感染対策の基本技術向上の一環とし手指衛生指数15以上を維持する。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	平成29年度事業計画
(2) 総合医療サービスにより安心な医療と思いやりのある対応で地域に信頼される病院になる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急搬送数 H25: 4,596件 H26: 3,984件 H27: 3,264件 H28: 3,589件 H29: 3,600件</li> <li>手術件数 H25: 5,757件 H26: 5,654件 H27: 6,121件 H28: 5,868件 H29: 6,000件</li> <li>病床稼働率(一般) H25: 84.0% H26: 83.6% H27: 83.8% H28: 83.6% H29: 88.0%</li> <li>紹介率(保険法) H25: 38.2% H26: 53.9% H27: 56.7% H28: 61.7% H29: 60.0%</li> <li>逆紹介率(保険法) H25: 18.6% H26: 34.1% H27: 42.4% H28: 44.3% H29: 40.0%</li> <li>外来患者満足度「次回も当院をご利用いただけますか」 H25: 91% H26: 92% H27: 99% H28: 92% H29: 93%</li> <li>入院患者満足度「あなたは家族や友人に当院への入院を勧めますか」 H25: 84% H26: 98% H27: 98% H28: 97% H29: 98%</li> </ul>	<p>①救急搬送患者の受入れを強化し、断らない救急を実現する。</p>	第三病院	救急医療委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>救急応需の連絡体制を点検し搬送連絡時間短縮策を講ずる。</li> <li>救急応需率促進のため、ホットライン運用、救急ストップルールの再構築を行い、救急搬送数、救急患者数増加を図る。</li> </ol>
		<p>②手術室の運用改善により手術件数の増加と緊急手術に対応する。</p>	第三病院	手術中材委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成28年1月より変更した手術枠について、継続的な評価を行い、安全かつ効率的な手術室運用を行い、年間手術件数6,000件の達成と緊急手術を受入れる体制を整える。</li> <li>手術申し込みに対する実際の手術実施時間を開示し、効率的な手術室運用と術間インターバルの改善を行う。</li> <li>学会参加等の理由により、使用しない各科手術枠を事前に把握し、他科に有効利用を促し、無駄の無い手術枠利用を行い、稼働率60%以上の維持を目標とする。</li> </ol>
		<p>③東京都がん診療連携拠点病院の指定を受け、がんの集学的治療を充実させる。</p>	第三病院	がん診療センター	<p>国指定の「地域がん診療連携拠点病院」認可に向けて、北多摩南部医療圏における拠点病院との連携・相乗効果の創出を最優先課題実施のほか、社会保険労務士によるがん就労支援などの新規事業を実施していく。</p>
		<p>④東京都地域連携型認知症疾患医療センターの機能を拡充する。</p>	第三病院	認知症疾患医療センター	<ol style="list-style-type: none"> <li>認知症相談件数増加を考慮し、ホームページの充実ほか相談体制をより強化していく。また、認知症患者や認知症患者家族のため、教職員が認知症に関する理解を深められるように、認知症サポーター養成講座の定期開催を実施する。</li> <li>行政の取り組みとして狛江市が発足する認知症初期集中支援チームをサポートしていく。</li> </ol>
		<p>⑤病床の運用を改善し、入院の必要性に応える。</p>	第三病院	外来病棟委員会PFMタスク・フォース	<ol style="list-style-type: none"> <li>4月より病床配分の変更を行う。消化器疾患に特化した病棟や救急支援床(6床)の配置など新たな試みを行い、効率よい病床運用を図る。</li> <li>退院予定オーダ発行率の向上を図る。</li> </ol>
		<p>⑥医療連携を強化し、紹介患者の増加を図る。在宅医療を推進する。</p>	第三病院	総合医療支援センター運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>新規開業医療機関、健診施設への訪問を実施し、初診紹介患者増加を図る。</li> <li>web予約医療機関にデータ開示のメリットを提示することにより、web予約医療機関を拡大し初診紹介患者増加を図る。</li> </ol>
		<p>⑦患者満足度の高い病院への改善を図る。</p>	第三病院	患者サービス・ワーキング・グループ外来病棟委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>院長巡視を行い院内の改善を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>構内通路のバス利用者のため通路整備を行う。</li> <li>患者用有料駐車場出入り口の段差解消を実施する。</li> </ul> </li> <li>患者サービスワーキンググループにて患者の声を中心に検討し、ホスピタリティ向上に努める。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 新病院の基本構想、基本計画を策定する。		①第三病院の将来像を見据え、附属4病院の機能連携を考えた新病院構想・計画を策定する。	第三病院		1. 新病院構想を固める。 2. リニューアルに向けて、ワーキンググループの設置や他病院の見学など実施する。
		②大規模災害に備えた新病院構想を地域自治体と協力し策定する。	第三病院	防火防災委員会	1. 調布・狛江市と救護所設置訓練を実施する。前年度の訓練から災害対策本部のあり方、通信訓練内容を見直し、更に実践的な内容で実施する。 2. 狛江市が緊急医療救護所で使用する薬剤の保管場所を院内に移設し、緊急医療救護所への迅速な薬剤供給体制を構築する。
(4) ICT技術の活用により医療の効率化を実現する。		電子カルテを導入し、医療の効率化と医療データの有効利用を実現する。	第三病院	システム課 第三病院HIS委員会	1. データウェアハウスを活用し経営分析、臨床指標の作成を検討する。 2. 地域連携システムによる連携診療所への検査値などのカルテ情報の開示、カルテ監査システムの導入などによって、更なる医療の効率化・情報化を進める。
(5) 大規模災害に備える。		①BCP(事業継続計画)を策定する。	第三病院	防火防災委員会	前年度実施した緊急医療救護所設置訓練で抽出したBCPに係わる災害対策本部機能・場所・通信体制の見直しなどの課題を計画的に解決する。
		②DMAT(災害派遣医療チーム)の機能維持に努める。	第三病院	防火防災委員会	1. 新規隊員養成研修に申請する。 2. DMATと同形式の訓練(災害医療従事者研修)の募集があれば、同様に申請する。 3. DMAT隊の必要備品を点検し不足品を揃える。
(6) 教育・研修の推進		新しい専門医制度のもとで新設された「総合診療専門医」の基幹病院として、総合診療研修センターを運営する。	第三病院	総合診療研修センター 臨床研修センター	平成30年度開始予定の総合診療研修プログラムを完成させる。あわせてセンターとして総合診療専門医採用に向けた説明会の実施、採用活動を行う。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

平成29年度事業計画

中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
●柏病院に関する目標 (1) 医療安全・感染対策の推進を図る。		医療安全・感染対策を検証し、有効で効率的な取組みを構築し、実践する。	柏病院	医療安全推進室 感染対策室	(医療安全関連) 1. Team STEPPSの普及と有効な活用を図る。 2. 患者・家族への「説明と同意」の質を高める 3. 侵襲性のある医療行為の安全性を向上する。 4. 「中心静脈カテーテル挿入に係わる認定制度」に基づく柏病院における実施体制を整備する。 (感染対策関連) 1. 標準予防策、感染経路別予防策を徹底する。現場の自主的な持続的改善を推進する。 2. 医療関連感染防止対策を推進する。 3. 抗菌薬の適正使用を推進する。 4. 感染対策地域連携を強化する。地域の感染対策向上に貢献する。
(2) 医療の標準化・効率化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジメン登録件数 H25: 430件 H26: 470件 H27: 501件 H28: 581件 H29: 550件</li> <li>・手術件数 H25: 7,839件 H26: 7,628件 H27: 7,673件 H28: 7,642件 H29: 7,600件</li> <li>・クリニカルパス数(種類) H25: 14件 H26: 31件 H27: 62件 H28: 63件 H29: 68件</li> <li>・院内褥瘡発生率 H25: 1.11% H26: 0.80% H27: 0.75% H28: 0.65% H29: 0.60%</li> <li>・NST介入件数 H25: 443件 H26: 443件 H27: 444件 H28: 482件 H29: 490件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①医療の質の向上と安全を確保する。</li> <li>②手術室の安全性の向上と効率化を図る。</li> <li>③DPCに対応したクリニカルパスの見直しを行う。</li> <li>④患者のためのチーム医療を推進する。</li> <li>⑤患者支援・医療連携センターの機能強化と患者相談・支援窓口(PFM)の充実により、病床の効率的な運用と医療の質の向上を図る。</li> </ul>	柏病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤検討ワーキング・グループ</li> <li>手術室・中材運営委員会</li> <li>クリニカルパス委員会</li> <li>緩和ケア小委員会 NST委員会 感染対策委員会 褥瘡対策委員会</li> <li>患者支援・医療連携センター PFMワーキング・グループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な薬剤投与の体制整備を構築する。</li> <li>1. 臨時注射の個人セット病棟を拡大する。</li> <li>2. 病棟薬剤業務の充実を図る。</li> <li>全身麻酔手術件数の増加と緊急手術の受入体制を整備する。</li> <li>1. 外来手術センターの利用を更に推進し、中央手術室の有効活用を図る。</li> <li>2. 救急ストップを低減する。</li> <li>3. 土曜日の手術実施を検討する。</li> <li>既存クリニカルパスの見直し、および新規クリニカルパス作成を推進する。</li> <li>1. DPCに対応しているか検証する。</li> <li>2. クリニカルパスの登録件数・使用件数の増加を図る。</li> <li>各医療チームがそれぞれの指標において、前年度を上回る改善を図る。</li> <li>1. PFM機能強化により、病床の効率的運用を推進する。</li> <li>2. 平均在院日数を14台とする。</li> </ul>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(3) 地域中核病院として十分に機能する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進医療の承認および実施件数</li> <li>H25: 3件24症例、新規承認0件</li> <li>H26: 2件10症例、新規承認1件</li> <li>H27: 2件5症例、新規承認0件</li> <li>H28: 2件3症例、新規承認0件</li> <li>H29: 2件5症例、新規承認1件</li> <li>・紹介率(保険法)</li> <li>H25: 55.0%</li> <li>H26: 63.3%</li> <li>H27: 68.1%</li> <li>H28: 74.1%</li> <li>H29: 70.0%</li> <li>・逆紹介率(保険法)</li> <li>H25: 36.7%</li> <li>H26: 48.5%</li> <li>H27: 49.7%</li> <li>H28: 54.9%</li> <li>H29: 50.0%</li> </ul>	①周産期センター化を検討する。	柏病院	病院運営会議	<p>ワーキンググループを中心に、NICU・GCUの設置を始めとする周産期センター化に向けた検討を継続する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県保健医療計画の見直しによる地域医療構想に応じた体制整備を行う。</li> <li>2. 大学附属病院および地域中核病院として、先進医療を推進する。</li> </ol> <p>PFM機能強化により、地域包括ケアシステムの中で急性期病院として貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連携医療機関の新規開拓と連携強化を図る。</li> <li>2. 近隣の医師会、行政と連携し、地域包括医療を推進する。</li> <li>3. web予約システムの機能拡大とシステム向上を図る。</li> <li>4. 臨床倫理症例検討会への地域多職種参加を拡大する。</li> </ol>
		②東葛北部医療圏が求める外来および入院機能の拡充、先進医療を推進する。	柏病院	病院運営会議	
		③地域包括医療を推進する。	柏病院	医療連携委員会	
(4) がん診療連携拠点病院として必要な質の高い診療を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来がん延患者数</li> <li>H25: 75,000名</li> <li>H26: 74,368名</li> <li>H27: 72,047名</li> <li>H28: 66,786名</li> <li>H29: 72,000名</li> <li>・入院がん延患者数</li> <li>H25: 3,286名</li> <li>H26: 3,611名</li> <li>H27: 3,524名</li> <li>H28: 3,263名</li> <li>H29: 3,500名</li> <li>・外来化学療法室延患者数(月平均)</li> <li>H25: 409名</li> <li>H26: 455名</li> <li>H27: 482名</li> <li>H28: 545名</li> <li>H29: 545名</li> <li>・緩和ケアチーム介入数</li> <li>H25: 95件</li> <li>H26: 116件</li> <li>H27: 139件</li> <li>H28: 124件</li> <li>H29: 140件</li> <li>・がん地域連携パス数(種類)</li> <li>H25: 5</li> <li>H26: 8</li> <li>H27: 7</li> <li>H28: 7</li> <li>H29: 7</li> </ul>	がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備し、高度がん医療を提供する。	柏病院	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国立がん研究センター東病院との協体制により、地域がん診療連携拠点病院としての役割や要件を確認し、がん診療のレベルアップにつなげる。</li> <li>2. 緩和ケア研修会の受講率を向上させる。(がん診療を行う診療科医師90%、研修医・レジデント100%)</li> <li>3. がん地域連携パスについては、パスの拡充、医療機関の拡大、対象となる患者の抽出方法の構築を進める。</li> <li>4. がん患者に対する歯科診療の充実について検討を継続する。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
(5) 救命救急センターとしての診療体制および機能を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急搬送数 H25: 3,034件 H26: 4,246件 H27: 4,587件 H28: 4,808件 H29: 4,900件</li> <li>・3次救急搬送件数 H25: 755件 H26: 881件 H27: 823件 H28: 942件 H29: 950件</li> <li>・救急車で来院し、入院となった患者数(救急医療入院のみ) H25: 1,514名 H26: 1,907名 H27: 2,413名 H28: 2,489名 H29: 2,500名</li> </ul>	①重症および複数の診療科領域にわたる重篤な救急患者を24時間体制で受入れる。	柏病院	救命救急センター運営委員会	重症患者を救急部で受入れ、各科との連携を強化する。
		②救急医療の臨床教育を充実させる。	柏病院	救急委員会	慈恵柏BLSコース、慈恵ICLSコースの他、救命救急センター主催の勉強会を定期的に開催する。
(6) 収益の向上を図る。		収益月次報告により、予算に対する執行額および収支バランスを把握し、収益目標額を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療経費(特殊材料費、消耗品費等)の削減</li> <li>・原価率</li> <li>・診療単価と手術単価</li> </ul>	柏病院	病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. SPD業者の統一に合わせ、スケールメリットを活かした共同購入の推進と購入価格の見直しを行い経費削減を図る。</li> <li>2. SPD業者の統一による在庫一元管理を活用し、他機関との情報共有、不動態在庫の削減、配置在庫の適正化を実施する。</li> <li>3. 後発医薬品の数量シェア80%を今年度早期に達成し、更なるアップを目指す。</li> </ol>
(7) 災害拠点病院としての体制を整備する。		①DMAT(災害派遣医療チーム)の体制を強化する。	柏病院	DMAT創設ワーキンググループ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 千葉県限定DMAT隊員を含め、全職種の増員を目指す。</li> <li>2. 業務調整員と看護師のインストラクター資格取得支援を行う。</li> <li>3. 附属4病院および総務課との連携を強化し、合同研修会などを企画する。</li> </ol>
		②災害拠点病院としてBCP(事業継続計画)を策定する。	柏病院	防火災害対策委員会 病院運営会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害時のハード(物品、備品ほか)およびソフト面(人員ほか)など、より具体的で実効性のあるものとする。</li> <li>2. 災害訓練時にBCPに準拠した対応をシミュレーションし、実効性について検証を行う。</li> </ol>

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>II. 法人運営の改善および効率化に関する目標</b> <b>1. 運営体制の改善に関する目標</b> ・内部統制の強化を図る。 ・理事会機能の更なる充実を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・個人情報管理を徹底する。 ・広報活動を充実する。	<b>・申請過誤件数</b> H25：0件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件 <b>・科学研究費不適切使用</b> H25：5件 H26：0件 H27：0件 H28：0件 H29：0件	①寄附行為ならびに関連規程を検証する。	総務課		ガバナンスの観点から検証し、結果を関連規程に反映させる。
		②法令遵守と内部統制を強化するため、内部監査の充実を図る。	監査室		法人の活動を点検し、健全な運営を支援する。
		③法令遵守の徹底を図る。	総務課	監査室	1. 規程表記の統一に向け、点検および提言を継続する。 2. 文書管理方法について検討する。
		④個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。	人事課		各階層研修において行動規範などを継続的に周知する。
		⑤本学の情報(社会貢献、研究成果、医療貢献)を学内外に発信する。	総務課		1. 附属4病院合同の個人情報保護に関する講演会を年1回実施する。 2. オールユーザーメールで年2回以上、個人情報保護について注意喚起する。
<b>2. 人材確保・育成・活用に関する目標</b> ・人材育成のための教育制度を構築する。 ・職場環境を整備し、教職員の満足度を向上する。 ・業務の効率化を図り人件費を最適化する。	<b>・教職員アンケートにおける満足度</b> H25：53.9% H26：51.3% H27：54.6% H28：51.1% H29：55.0% <b>・教員・医師の退職者数</b> H25：115名 H26：119名 H27：147名 H28：134名 H29：130名 <b>・看護要員確保率</b> H25：100% H26：100% H27：103% H28：100% H29：100% <b>・看護師離職率(附属4病院)</b> H25：12.2% H26：11.8% H27：10.8% H28：11.3% H29：11.0%	①職員の人材育成制度を強化する。	広報課	広報課/大学広報委員会/広報課/大学ホームページ委員会	1. 主要メディア掲載数を750件以上を目標とし、学外広報をより強化する。 2. 病院のホームページをステークホルダーの観点で検証し、改定する。 3. 危機対応の一環としての広報を改善する。
		②個人情報保護の重要性を認識し、教育・指導を行う。	学術情報センター		教員評価システムの研究成果データの入力、公開の機能を本学の実情に対応とするため、カスタマイズを実施する。
		③教職員の満足度を向上させ教職員の定着率を高める。	人事課	職員研修委員会	内定者の入職前および新人の研修内容を強化する。
		④看護師の安定確保を図る。	人事課	経営企画部	人事考課者訓練および人事考課のスキルアップを図る。
			給与厚生課		雇用形態に応じた処遇を検証し、改善を図る。
	教員・医師人事室		ストレスチェック受検結果を精査して、職場環境の改善について検討し対策を講じる。		
	人事課	ナース就職支援室	医師の短時間勤務の適用要件を、従来の育児支援に加え、介護および病気からの復職時にも取得可能となるよう規程の見直しを実施する。		
	看護部		1. 良質な人材を確保する。 2. 適正な看護師数を確保する。 3. 西新橋キャンパス再整備計画を想定した看護要員確保を推進する。		
			1. 8月に行っている一次退職調査を継続して行う。 2. トレーディングプレイスを活用し、附属4病院間の適正配置を行う。		

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
		⑤労働生産性を向上させる。	人事課		1. 各部署にて業務改善を行うことを目的とし、労働生産性向上活動事務局の体制を強化する。 2. 電子カルテ導入、外来棟建築などの内部環境、外部環境の変化に対応した要員配置を策定する。
			教員・医師人事室		各診療科医師の勤務スケジュールを管理し、診療部間の勤務不均衡を是正する。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標  ・ICT導入による効率化を実現する。 ・各部門間が有機的に連携する。		①適正なICTの活用により事務の効率化を図る。	システム課	情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. データウェアハウスによるベンチマークを附属4病院間で行う。 2. 研究・経営支援に必要な指標を整理する。
		②経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行えるよう情報提供をする。	経営企画部		診療科別、疾病別、患者別原価システムを構築するためにDPC分析ソフトと原価システムを統合したシステム開発を検討する。
		③各部門間の連携と相互補完体制を検討する。	人事課		各部門間の連携構築のため事務組織改編について継続的に検討する。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標  1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標  ・安定した経営基盤を確立する。 ・経営改善が必要な重要項目について具体的な改善対策を推進する。 ・経常費補助金・科学研究費補助金の獲得・増加に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経常費補助金の獲得額 H25：35.3億円 H26：33.0億円 H27：33.5億円 H28：33.1億円 H29：32.7億円</li> <li>・収支差額予算達成率 H25：148.6% H26：98.1% H27：114.8% H28：108.8% H29：100%</li> <li>・大型プロジェクト研究事案件数 H25：5 H26：5 H27：4 H28：3 H29：1</li> </ul>	①効率的かつ適切な予算管理の仕組みを策定し、予算実績管理体制を強化する。	経理課		予算対実績比較を行い、乖離の大きい科目・部署については、要因を調査・分析し、適正な予算申請および執行となるよう該当部署に指導する。
		②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。	経営企画部	理事会 財務部	1. 産学連携を推進し、新たな事業開拓を構築する。 2. コスト・マネジメントプロジェクトなどを通じて引き続き経費削減対策を実施する。
		③本学の補助金獲得内容を分析し、増加のための対策を推進する。	研究支援課	大型プロジェクト対策委員会 教育研究助成委員会	1. 大型研究事業に応募する。 2. 継続して経常費補助金の根拠資料を充実させる。 3. 改革総合支援事業に応募し、1項目以上の採択を目指す。
		④補助金(公的研究費、私立大学等経常費補助金等)に係る管理体制を充実する。	研究支援課	教育研究助成委員会	1. チェックリストの有効利用による経常費補助金の管理体制を継続し、補助金獲得を推進する。 2. 自己解釈せずに疑問点は私学事業団に相談することで正確に理解し、必要な根拠資料を整備する。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>2. 経費の抑制に関する目標</b> ・経費削減と効率化を図り、堅調な財政基盤を構築する。 ・物流の効率化、一括購入等を推進する。 ・各種資源の消費を削減する。 ・ICT関連経費の適正化を図る。	・医療経費率 H25：34.7% H26：35.2% H27：36.0% H28：36.6% H29(予算)：36.0% ・東京都温室効果ガス排出総量削減率 (東京都削減目標) H25～H26年度 平均8%削減 H27～H31年度 平均13%削減 (本院) H25：9.3%削減 H26：9.5%削減 H27：10.7%削減 H28：9.3%削減 H29：10.0%削減 (葛飾医療センター) H25：21.7%削減 H26：25.5%削減 H27：23.9%削減 H28：21.3%削減 H29：20.0%削減 (第三病院) H25：22.0%削減 H26：20.0%削減 H27：23.6%削減 H28：30.4%削減 H29：19.0%削減 (柏病院) H25：8.9%削減 H26：2.1%増加 H27：1.0%削減 H28：0.8%削減 H29：1.0%削減	①医療経費の抑制を図る。	施設課	コストマネジメント・プロジェクト	1. SPD統一に伴い医療材料経費を削減する。 2. 医療材料等共同購入組織の加盟継続について検討するため、費用対効果を検証する。 3. ベンチマークシステムによる交渉を行い、材料の購入価格削減を目指す。
		②ICTの適正導入と評価を行う。	経営企画部	薬剤部	1. コストマネジメント・プロジェクトで、画像診断機器における同一メーカーの附属4病院統合保守契約や複数年契約における経済的メリットを検証する。 2. 業務委託契約における仕様書の見直しや、相見積による現行の委託契約額の適正化を図る。 後発医薬品の数量シェア80%を維持する。
<b>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</b> ・全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 ・適正な資金運用を促進する。		①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。	施設課		西新橋キャンパス再整備計画に伴い修繕計画を策定する。
		②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	施設課	システム課 情報システム統括委員会 情報システム運営会議	1. 本院の病院情報システム導入に向け経費の適正化を図る。 2. 平成30年1月に本院電子カルテシステムを導入する。
					高額な機器について西新橋再整備計画にて購入する機器と年度予算での更新が必要な機器の切り分けを行い、更新計画を策定をする。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>IV. その他事業運営に関する重要目標</b> <b>1. 本院新外来棟建築に関する目標</b> ・本院新外来棟の建築		①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	1. 医局、臨床ラボ、理事室、講堂等の移転計画を策定・実行し、新大学2号館(仮称)の供用を開始する。 2. 新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)の施工を計画通り進めるとともに、運用面の計画を策定する。 3. 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事の実施設計を進め、大学本館(解剖学棟を除く)、旧図書館、大学2号館を解体し、平成30年1月の新外来棟着工に向けて計画を策定する。
		②西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟を含むハード計画を実現する。	西新橋再整備準備室	西新橋建築準備委員会	西新橋キャンパス全体の有効利用に配慮した新外来棟・既存棟改修工事の着工および関連するローリング計画を実施する。
		③本院の再整備計画を策定する。	病院事務部	新外来棟基本計画に関する病院幹部検討会	開院時の業務フローの確定、各部門の必要人員を試算する。
<b>2. 大学マスタープランの策定に関する目標</b> ・明確な長期マスタープランを策定する。		教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	経営企画部	マスタープラン懇談会	1. 慈恵大学100年記念事業委員会答申について継続的に検証する。 2. 新外来棟における次世代医療の実現に向けて継続的に取り組み、差別化戦略としての事業を立案する。 3. マスタープラン懇談会において、地域医療構想における附属4病院のポジョニングを明確にする。
<b>3. 創立130年記念事業に関する目標</b> ・130年記念事業を実施する。 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。	<b>・記念事業募金額</b> H25：11.0億円 H26：12.4億円 H27：13.8億円 H28：15.1億円 H29：18.0億円	①記念事業「本院新外来棟建築を主とした西新橋キャンパス再整備」を実施する。	西新橋再整備準備室		1. 医局、臨床ラボ、理事室、講堂等の移転作業を行い、新大学2号館(仮称)の供用を開始する。 2. 新病院(小児・周産期医療センター)(仮称)の施工を遅滞なく進める。 3. 新外来棟・中央棟他機能拡充整備工事の実施設計を進め、大学本館(解剖学棟を除く)、旧図書館、大学2号館を解体し、平成30年1月より新外来棟を着工する。
		②記念事業に必要な寄付金を募集する。	財務部(募金事務局)		寄付金の累積目標を18億円とし、同窓、教職員、賛同企業に再度声掛けを行い、積上げを図る。

中期目標・中期計画(平成25年度～平成30年度)					平成29年度事業計画
中期目標	指標 (平成29年度は目標値)	中期計画	主体部署	関連部署・委員会等	
<b>4. 大規模災害時の対応に関する目標</b> ・大規模災害発生時の体制を構築する。 ・BCP(事業継続計画)を策定する。	<b>・本学全建物の耐震基準充足率</b> H25:85% H26:95% H27:95% H28:95% H29:95%	①大規模災害時の体制を強化する。	総務課	総務課 人事課 システム課 施設課	1. 新大学2号館竣工に伴う災害体制を整備し周知する。 2. 地域と協力して災害対策訓練を実施する。
		②被災地への支援体制を構築する。	管理課	管理課 他	再整備計画と連動させた附属病院BCPの作成を検討する。
			大学事務部		附属病院および大学のBCPを改定する。
			施設課		大規模災害に向けた設備計画を立案する。
			管理課	防火防災対策委員会	看護師のDMAT新規隊員を育成し、増員する。
<b>5. 葛飾医療センター開設後の評価に関する目標</b>		新病院建設後の投資効果や初期目標の達成度などの全体的な評価を行う。	葛飾医療センター	経営企画部	新病院開院から5年が経過した中で、投資効果や初期目標の達成度など、プロジェクトを発足させ全体評価を行う。